市町村別

神奈川県
文 化 財 目 録

（令和７年５月１日現在）

目　　次

横浜市・・・・・・・1
川崎市・・・・・・・19
相模原市・・・・・・・25
横須賀市・・・・・・・29
平塚市・・・・・・・33
鎌倉市・・・・・・・35
藤沢市・・・・・・・59
小田原市・・・・・・・65
茅ヶ崎市・・・・・・・71
逗子市・・・・・・・73
三浦市・・・・・・・75
秦野市・・・・・・・77
厚木市・・・・・・・81
大和市・・・・・・・83
伊勢原市・・・・・・・85
海老名市・・・・・・・89
座間市・・・・・・・91
南足柄市・・・・・・93
綾瀬市・・・・・・95
葉山町・・・・・・97
寒川町・・・・・・99
大磯町・・・・・・101
二宮町・・・・・・103
中井町・・・・・・105
大井町・・・・・・107
松田町・・・・・・109
山北町・・・・・・111
開成町・・・・・・113
箱根町・・・・・・・115
真鶴町・・・・・・121
湯河原町・・・・・・123
愛川町・・・・・・125
清川村・・・・・・127
県外・・・・・・129

横浜市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	建造物	旧燈明寺本堂	きゅうとうみょうじほんどう	1棟	T10.4.30	横浜市	三溪園（中区本牧三之谷58-1）	公益財団法人三溪園保勝会				室町時代初期。中世密教寺院本堂。五間仏堂の類例が少ない関東において、存在価値は高い。内部の厨子は蟇股が美しく、春日厨子としては国内最大。昭和62年に移築。
国	建造物	臨春閣	りんしゅんかく	3棟	S6.12.14	横浜市	三溪園（中区本牧三之谷58-1）	公益財団法人三溪園保勝会		第一屋・第二屋・第三屋		江戸時代初期。臨春閣は第一屋から第三屋まで雁行する形で池をめぐるように建てられている。臨春閣とは三棟の建物の総称で現在地へ移築されてからの名称である。数寄屋造の影響を受けた書院造の建物で、かつて聚楽第にあったという伝えがある。
国	建造物	月華殿	げっかでん	1棟	S6.12.14	横浜市	三溪園（中区本牧三之谷58-1）	公益財団法人三溪園保勝会				桃山時代。所伝では伏見城の遺構と伝えるが、現状では後世の数寄屋風の加味が大きく全体として江戸初期の書院である。
国	建造物	春草廬	しゅんそうろ	1棟	S6.12.14	横浜市	三溪園（中区本牧三之谷58-1）	公益財団法人三溪園保勝会				江戸時代。宇治金蔵院にあって九窓亭と呼ばれていた。織田有楽斎の作と伝えられている。
国	建造物	旧天瑞寺寿塔履堂	きゅうてんずいじじゅとうおおいどう	1棟	S6.12.14	横浜市	三溪園（中区本牧三之谷58-1）	公益財団法人三溪園保勝会				桃山時代。豊臣秀吉が母大政所の病気平癒を祈り、天正16年に大徳寺塔頭として創立した天瑞寺の建物である。
国	建造物	聴秋閣	ちょうしゅうかく	1棟	S6.12.14	横浜市	三溪園（中区本牧三之谷58-1）	公益財団法人三溪園保勝会				江戸時代初期。小規模ながら外観室内ともに軽妙洒脱な楼閣造りの建物。京都二条城内に建てられたと伝えられる。
国	建造物	旧東慶寺仏殿	きゅうとうけいじぶつでん	1棟	S6.12.14	横浜市	三溪園（中区本牧三之谷58-1）	公益財団法人三溪園保勝会				江戸時代（棟札に寛永11年の銘）。細部手法が簡素な禅宗様仏殿である。
国	建造物	旧燈明寺三重塔	きゅうとうみょうじさんじゅうのとう	1基	S6.12.14	横浜市	三溪園（中区本牧三之谷58-1）	公益財団法人三溪園保勝会				室町時代。大正3年に京都府相楽郡加茂町(現：木津川市）の燈明寺から移築された。各重の各面を三間にわった三間三重塔であり、洗練された和様の意匠をもつ優作。
国	建造物	旧矢箆原家住宅	きゅうやのはらけじゅうたく	1棟	S31.6.28	横浜市	三溪園（中区本牧三之谷58-1）	公益財団法人三溪園保勝会				江戸時代末期。旧所在岐阜県大野郡荘川村岩瀬、上級の合掌造り民家の代表的遺構である。
国	建造物	天授院	てんじゅいん	1棟	S35.6.9	横浜市	三溪園（中区本牧三之谷58-1）	公益財団法人三溪園保勝会				江戸時代（慶安4年の墨書あり）。鎌倉の旧心平寺地蔵堂であったと考えられている。
国	建造物	関家住宅	せきけじゅうたく	3棟	S41.6.11	横浜市	都筑区勝田町	個人		主屋・書院・表門	S53.5.31追加指定（書院・表門）	江戸時代初期。寄棟造茅葺。入口に長屋門を置き、広い敷地内には本屋、離れ座敷、倉を配し、後方の高見には鎮守や墓地もある堂々たる屋敷構えは、当時最上級の民家と思われる。
国	建造物	旧横浜正金銀行本店本館	きゅうよこはましょうきんぎんこうほんてんほんかん	1棟	S44.3.12	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県			S38.3.5 県指定	明治37年完成した本格的洋風建築の傑作である。外観は全体として手堅くまとめられている。
国	建造物	横浜市開港記念会館	よこはましかいこうきねんかいかん	1棟	H元.9.2	横浜市	中区本町1-6	横浜市		附）設計図（青写真）46枚		大正6年。横浜開港50周年を記念し、市民から寄付を募って建設された公会堂建築。大正期の建物として意匠が優れ、また、煉瓦造の建物に構造補強を施した早い例であり、復旧した内部も建物に調和していて価値が高い。
国	建造物	旧内田家住宅	きゅううちだけじゅうたく	1棟	H9.5.29	横浜市	中区山手町16	横浜市				旧所在地は東京都渋谷区南平台で、ガーディナー設計による外交官内田定槌の住宅。

横浜市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	建造物	旧横浜船渠株式会社第二号船渠（ドック）	きゅうよこはませんきょかぶしきがいしゃだいにごうせんきょ（どっく）	1基	H9.12.3	横浜市	西区みなとみらい2-2-2	三菱地所株式会社				現存する商船用石造ドックとして最古のもので、近代土木技術史上の成果として重要。現在は「ドックヤードガーデン」として活用。
国	建造物	旧横浜船渠株式会社第一号船渠（ドック）	きゅうよこはませんきょかぶしきがいしゃだいいちごうせんきょ（どっく）	1基	H12.12.4	横浜市	西区みなとみらい2-7-10	横浜市				建設当時、日本最大規模を有した明治期を代表する乾船渠のひとつ。現在は「日本丸メモリアルパーク」として活用。
国	建造物	神奈川県庁舎	かながわけんちょうしゃ	1棟	R1.12.27	横浜市	中区日本大通1	神奈川県		附）東自動車庫 1棟、西自動車庫 1棟、外塀 1基、建築図面 230枚、建築模型 1基	H8.12.20国登録	神奈川県庁舎は、横浜港の近く、日本大通りに面して建つ。公募による設計競技（コンペ）で一等となった小尾嘉郎案をもとに、県庁舎建築事務所が実施設計を行い、昭和3年に竣工した。先代の庁舎が関東大震災で大被害を受けたため、耐震・耐火に優れた鉄骨鉄筋コンクリート構造を採用した。官公庁舎として、その最初期の例である。象徴的な塔をもつ庁舎建築の先駆であり、内装には和風を基調とした優れた意匠を見せる。「キングの塔」の愛称で親しまれ、現役の庁舎として使用されている。
県	建造物	東漸寺釈迦堂	とうぜんじしゃかどう	1棟	S46.9.17	横浜市	東漸寺（磯子区杉田1-9-1）	東漸寺				梁牌に正安3年（1301）の年号がある。桁行5間1重入母屋造。創建当初の材を多数転用している。
県	建造物	東漸寺五輪塔	とうぜんじごりんとう	3基	S47.11.24	横浜市	東漸寺（磯子区杉田1-9-1）	東漸寺				鎌倉時代。鎌倉後期以降造られる安山岩製五輪塔に先行する凝灰岩製五輪塔である。
県	建造物	旧太田家住宅	きゅうおおたけじゅうたく	1棟	S48.12.21	横浜市	横浜市都筑区勝田町760	横浜市				江戸時代。書院造。もと松平不昧公の江戸中屋敷と伝え、材料はぜいたくに吟味された本格的な建物である。
県	建造物	称名寺金堂	しょうみょうじこんどう	1棟	H7.2.14	横浜市	称名寺（金沢区金沢町212-1）	称名寺		附）天和三年祈祷札（1枚）		江戸時代。桁行5間、梁間5間入母屋造、禅宗様。
県	建造物	旧横浜居留地48番館	きゅうよこはまきょりゅうち48ばんかん	1棟	H13.2.13	横浜市	中区山下町281	神奈川県				明治16年創建の横浜居留地建築唯一の遺構。石灰目地のフランス積み煉瓦造り。モリソン商会の建物として大正15年まで使用された。
県	建造物	神奈川県立図書館・音楽堂	かながわけんりつとしょかん・おんがくどう	2棟	R3.8.13	横浜市	西区紅葉ケ丘9-2	神奈川県				図書館・音楽堂ともに昭和29年（1954）10月竣工。近代建築の巨匠として知られるル・コルビュジエに学んだ前川國男が手掛けたモダニズム建築であり、戦後わが国に積極的に試みられ、普及していくモダニズム建築の最初期の代表作である。
国宝	絵画	絹本著色　北条実時像 絹本著色　北条顕時像 絹本著色　金沢貞顕像 絹本著色　金沢貞将像	けんぽんちゃくしょく　ほうじょうさねときぞう けんぽんちゃくしょく　ほうじょうあきときぞう けんぽんちゃくしょく　かなざわさだあきぞう けんぽんちゃくしょく　かなざわさだまさぞう	4幅	S41.6.11	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）		附）絹本著色　顕弁像1幅	M33.4.7指定、S30.6.22追加指定、S52.6.11名称変更	実時像:鎌倉時代後期作の法体坐像である。 顕時像:鎌倉時代後期作の法体坐像、下部に「前越前守顕時法名慧日」の墨書がある。 貞顕像:鎌倉時代後期作の俗体坐像、下方に「修理権大夫貞顕法名崇顕」の墨書がある。 貞将像:鎌倉時代後期作の俗体坐像、下方に「武蔵前司貞将」の墨書がある。 顕弁像:室町時代作の法体坐像、顕弁は顕時の長男と推定される。
国	絵画	紙本著色　提婆達多像	しほんちゃくしょく　だいばだったぞう	1幅	M33.4.7	横浜市	總持寺（鶴見区鶴見2-1-1）	總持寺				高麗時代。提婆達多が地獄より天上に復治する所を描いたものと云える珍しい作例である。
国	絵画	絹本著色　前田利家夫人像	けんぽんちゃくしょく　まえだとしいえふじんぞう	1幅	M38.4.4	横浜市	總持寺（鶴見区鶴見2-1-1）	總持寺		僧象山の賛がある		桃山時代。小袖の上に白衣を纏い、白の頭巾を頂き、手に数珠を執って上畳上にやや左斜向きに坐す婦人像である。

横浜市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	絵画	絹本著色　十二神将像	けんぽんちゃくしょく　じゅうにしんしょうぞう	12幅	M43.8.29	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）				鎌倉時代。十二神将は薬師如来の眷属である。本像は比較的濃彩を賦してあり保存状態は良好である。
国	絵画	絹本著色　紹瑾和尚像	けんぽんちゃくしょく　しょうきんおしょうぞう	1幅	S10.4.30	横浜市	總持寺（鶴見区鶴見2-1-1）	總持寺		元応元年九月八日の自賛がある		南北朝時代（元応元年の賛あり）。總持寺開山瑩山紹瑾の頂相で自賛もあり珍重される作品である。
国	絵画	板絵著色　弥勒来迎図・弥勒浄土図	いたえちゃくしょく　みろくらいごうず・みろくじょうどず	2面	S30.2.2	横浜市	称名寺（金沢区金沢町212-1）	称名寺		附）板絵著色弥勒浄土図断片1面（金堂来迎壁）	H22.6.29追加指定	鎌倉時代。称名寺本堂の来迎壁に、黄土と白土で下地を作り、表裏に弥勒来迎図と弥勒浄土図を描いたものである。
国	絵画	絹本著色　十王図	けんぽんちゃくしょく　じゅうおうず	10幅	S38.2.14	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県				宋時代。十王図の構成としては筆致もしっかりしており、特に平等王の幡を持った図柄はめずらしいものである。
国	絵画	絹本墨画淡彩　十六羅漢像	けんぽんぼくがたんさいじゅうろくらかんぞう	16幅	S48.6.6	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）				元時代。本像は禅月様のもので、描線にはあまり肥瘦がないが、時おり強まり筆の返しを見せるものである。
国	絵画	絹本著色　北条実泰像	けんぽんちゃくしょく　ほうじょうさねやすぞう	1幅	H元.6.12	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）		東明恵日の賛がある	S46.3.30県指定	鎌倉時代。上畳に坐す僧形の肖像画で、金沢文庫を創設した北条実時の父、実泰と考えられる。
国	絵画	絹本著色　審海像	けんぽんちゃくしょく　しんかいぞう	1幅	H7.6.15	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）			S46.3.30県指定	称名寺の開山、妙性房審海の画像。鎌倉時代の著名な律僧の肖像画として重要である。
国	絵画	絹本著色　忍性像	けんぽんちゃくしょく　にんしょうぞう	1幅	H11.6.7	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）			S42.2.3県指定	鎌倉時代末。大衣を着し、法被をかけた椅子に坐し、両手に払子をとる像容で描かれ、保存は良好である。
県	絵画	板絵著色　山桜図　安藤広重筆	いたえちゃくしょく　やまざくらず　あんどうひろしげひつ	8面	S33.1.14	横浜市	泉谷寺（港北区小机町256）	泉谷寺				江戸時代。広重の肉筆により八面の板戸に堂々と山桜を描いた大作で、「一立斉広重画」と款するものである。
県	絵画	絹本著色　千手観音二十八部衆像	けんぽんちゃくしょく　せんじゅかんのんにじゅうはちぶしゅうぞう	1幅	S34.3.6	横浜市	弘明寺（南区弘明寺町267）	弘明寺				鎌倉時代後期。十一画四十二臂の千手観音を中心にしてその左右に二十八部衆をあらわす画面構成のものである。
県	絵画	絹本著色　両界曼荼羅図	けんぽんちゃくしょく　りょうかいまんだらず	2幅	S36.4.18	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	宝生寺（南区堀ノ内1-68）				鎌倉時代末。この曼荼羅は素描画風な趣を具えているもので、所々に切金を使った痕跡があるものである。
県	絵画	絹本著色　僧形八幡神像	けんぽんちゃくしょく　そうぎょうはちまんしんぞう	1幅	S42.2.3	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）				鎌倉時代後期。衲衣をつけた老比丘の姿に描かれ、左手に水精念珠、右手には六輪錫杖を持つ。頭上の日輪は現在は欠失している。
県	絵画	絹本著色　伝南山和尚像	けんぽんちゃくしょく　でんなんざんおしょうぞう	1幅	S42.2.3	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）				鎌倉時代後期。袈裟を環でつり法被をかけた椅子に坐し、両手に払子をとり傍らには合掌する侍衛の天部一人を描くものである。
県	絵画	絹本著色　伝霊芝和尚像	けんぽんちゃくしょく　でんれいしおしょうぞう	1幅	S42.2.3	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）				鎌倉時代後期。茶褐色の法衣をまとう僧像で、右手に筆、左手に巻物をとる姿に描き傍らには硯をささげる侍童一人を描くものである。
県	絵画	絹本著色　種子愛染明王図	けんぽんちゃくしょく　しゅじあいぜんみょうおうず	1幅	S42.2.3	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）				鎌倉時代後期。二重框座に宝瓶を置き、その上に大月輪があり、月輪内に蓮華座を置きその上に愛染明王の種子を大書する。
県	絵画	絹本著色　焔魔天曼荼羅図	けんぽんちゃくしょく　えんまてんまんだらず	1幅	S42.2.3	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）				鎌倉時代後期。内院中央水牛に左脚を垂下し、右手肘を屈し仰裳し左手に檀努幢も執り、真正面を向いて坐す焔魔天を図するものである。

横浜市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	絵画	絹本著色　三千佛像	けんぽんちゃくしょく　さんぜんぶつぞう	1幅	S42.2.3	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）				南北朝時代。三千佛は一幅本と三幅本とがあり、称名寺本はもと三幅本だったと思われるが、現在は二幅となっている。二幅共に中央に一画区を設けて代表尊を大写するものである。
県	絵画	絹本著色　千体佛像	けんぽんちゃくしょく　せんたいぶつぞう	2幅	S42.2.3	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）				南北朝時代。中央区画の三体の本尊は、共に数段の框を重ねた蓮華座上に結跏し、何れも通肩で袈裟を着けて、描かれているものである。
県	絵画	絹本著色　石清水八幡宮図	けんぽんちゃくしょく　いわしみずはちまんぐうず	1幅	H7.2.14	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県				鎌倉時代の作。京都八幡町の石清水八幡宮の本殿での出来事を描いている。
県	絵画	紙本墨画淡彩　一遍上人像	しほんぼくがたんさい　いっぺんしょうにんぞう	1幅	H7.2.14	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県				南北朝時代の作。念仏札をさし出す図柄の古い例として優れた作品。
県	絵画	紙本著色　花鳥図　賢江祥啓筆	しほんちゃくしょく　かちょうずけんこうしょうけいひつ	1幅	H10.2.17	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県				室町時代。建長寺の僧賢江祥啓の作で中国南宋時代の画風、日本の花鳥図の最初期の作品。
県	絵画	絹本著色　高僧像	けんぽんちゃくしょく　こうそうぞう	1幅	H11.2.12	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）				南北朝時代。法被をかけた椅子に袈裟を着し、手に払手をもって座した僧の像で、傍らに角髪を結って袋を下げる童子が描かれている。
県	絵画	五姓田義松作品（五姓田義松旧蔵作品群を含む）	ごせだよしまつさくひん（ごせだよしまつきゅうぞうさくひんぐんをふくむ）	643点	R6.3.19	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県		附）五姓田義松史料72点		五姓田義松は横浜にゆかりが深く、明治前半期の最も優れた洋画家の一人として評価された。県立歴史博物館が所蔵する作品群は、様々な主題や技法といった義松の画業の全期間に渡る作例が網羅されている。同館が長年継続している義松研究に大きく寄与するもので、附指定の史料と併せて美術史的に高い価値を有する。
国	彫刻	厨子入金属製　愛染明王坐像	ずしいりきんぞくせい　あいぜんみょうおうざぞう	1躯	M43.8.29	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）		永仁五年二月廿七日の銘あり		鎌倉時代。極めて小型の金銅仏であるが、精緻な技巧を駆使しており、同時代金銅仏技法の一頂点を示す作例である。
国	彫刻	木造　十一面観音立像	もくぞう　じゅういちめんかんのんりゅうぞう	1躯	T4.8.10	横浜市	弘明寺（南区弘明寺町267）	弘明寺				平安時代。一木造。丸のみの彫痕を表面に残した鉈彫の典型的な作品である。
国	彫刻	木造　弥勒菩薩立像	もくぞう　みろくぼさつりゅうぞう	1躯	T14.4.24	横浜市	称名寺（金沢区金沢町212-1） 附）像内納入品については県立金沢文庫(金沢区金沢町142）	称名寺		像内に建治二年三月三十日の銘がある。 附）像内納入品 ［版本法華経8巻、紙本三劫三千仏擢仏3包（内包紙一紙に弘安元年十一月二日奉籠の記がある）、紙本墨書願文・消息等1括（建治三年四月十三日ゑんさい、弘安元年十月十五日及び十一月一日ふちわらの女、弘安元年十一月一日しんくわん、弘安元年十一月一日れん心等の記がある）、版本種子曼荼羅・真言等1巻、木製舎利塔残闕・竹筆等6点］	S36.6.30追加指定	鎌倉時代。寄木造。頭には華やかな宝冠をかむり、衣文は波状に刻んで、彩色の上に細かく截金の模様をほどこす装飾性の強い宋風彫刻の典型的な作品である。

横浜市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	彫刻	木造　釈迦如来立像（釈迦堂安置）	もくぞう　しゃかにょらいりゅうぞう（しゃかどうあんち）	1躯	T14.4.24	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）				鎌倉時代（胎内に徳治3年の造像銘）。寄木造。いわゆる清涼寺式釈迦如来の等身の模像である。
国	彫刻	木造　阿弥陀如来及両脇侍像	もくぞう　あみだにょらいおよびりょうきょうじぞう	3躯	T14.4.24	横浜市	證菩提寺（栄区上郷町1864）	證菩提寺				鎌倉時代。寄木造。定朝様の典型的な藤原末鎌倉初の三尊像である。
国	彫刻	木造　十一面観音立像 木造　不動明王毘沙門天立像	もくぞう　じゅういちめんかんのんりゅうぞう もくぞう　ふどうみょうおうびしゃもんてんりゅうぞう	1躯 2軀	S2.4.25	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）			H27.9.4 追加指定	鎌倉時代。寄木造。もと海岸寺の本尊で、明治40年にこの寺が称名寺に合併された時移座された。
国	彫刻	木造　釈迦如来立像	もくぞう　しゃかにょらいりゅうぞう	1躯	S8.1.23	横浜市	真福寺（青葉区荏田町432-8）	真福寺				鎌倉時代。寄木造。清涼寺式釈迦如来像。切れ長の眉や眼、固く結んだ唇などに個性的な表情が認められる。
国	彫刻	木造　舞楽面（陵王、抜頭）	もくぞう　ぶがくめん（りょうおう、ばっとう）	2面	H12.12.4	横浜市	瀬戸神社（金沢区瀬戸18-14）	瀬戸神社				鎌倉時代。舞楽の面だが、神楽や雨乞いにも使われたと考えられる。
国	彫刻	木造 大威徳明王像（運慶作）、像内納入品	もくぞう だいいとくみょうおうぞう（うんけいさく）、ぞうないのうにゅうひん	1躯、1口・1巻	H20.7.10	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	光明院（金沢区金沢町215）		像内納入品 一、蓮実製舎利容器1口 一、大威徳種子・梵字三身真言・梵字愛染真言・梵字千手陀羅尼　1巻　建保四年十一月、源氏大弐殿、法印運慶の奥書がある		数少ない運慶の真作として、さらに運慶最晩年の作として極めて重要。像内納入品は蓮実製舎利容器1口と文書1巻で、文書の奥書から本像が建保4年（1216）運慶作と判明し、運慶と鎌倉幕府との緊密な関係が裏付けられるなど、歴史的に見ても貴重。
県	彫刻	木造彩色　僧形八幡坐像	もくぞうさいしき　そうぎょうはちまんざぞう	1躯	S29.7.27	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）				鎌倉時代。寄木造。同寺境内の新宮社に伝わった。表現はかなり個性的で一見肖像彫刻にすら見える。
県	彫刻	木造　十大弟子立像	もくぞう　じゅうだいでしりゅうぞう	10躯	S29.7.27	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）				鎌倉時代。寄木造。十大弟子像一組がほぼ完存する貴重な例で、近年まで同寺釈迦堂でまつられていたものである。
県	彫刻	木造　十一面観音半跏像	もくぞう　じゅういちめんかんのんはんかぞう	1躯	S33.6.17	横浜市	慶珊寺（金沢区富岡東4-1-8）	慶珊寺				鎌倉時代。寄木造。宋風が強い造像。胎内に正慶元年院誉の朱銘がある。
県	彫刻	木造　大日如来坐像	もくぞう　だいにちにょらいざぞう	1躯	S34.3.6	横浜市	県立歴史博物館（横浜市中区南仲通5-60）	宝生寺（南区堀ノ内1-68）		附）像内納入品 寛永十四年快弁奉納目録1通、十三仏摺仏等6点、巻物1括（中に享保七年理海納入の記がある）、舎利2包、香包		鎌倉時代。寄木造。智拳印を結び結跏趺坐する通例の金剛界大日如来像で、納入文書等により慶長6年に覚園寺塔頭から移されたことが知られる。
県	彫刻	木造　阿弥陀如来坐像	もくぞう　あみだにょらいざぞう	1躯	S39.12.15	横浜市	證菩提寺（栄区上郷町1864）	證菩提寺				鎌倉時代。寄木造。慶派の流れをくむと思われる男性的な表現を持った像である。
県	彫刻	木造　地蔵菩薩立像	もくぞう　じぞうぼさつりゅうぞう	1躯	S41.7.19	横浜市	光傳寺（金沢区六浦3-2-11）	光傳寺				鎌倉時代。寄木造。胎内に永仁2年増慶の銘があり、その他各時代の修理銘札が多数納入されていた。衣文等により写実性を示す像である。
県	彫刻	木造　聖徳太子立像	もくぞう　しょうとくたいしりゅうぞう	1躯	S41.7.19	横浜市	永勝寺（戸塚区下倉田町1021）	永勝寺				南北朝時代。寄木造。太子16歳孝養像で、面部の表現に神経がゆきとどき、衣文部も巧みに構成されている。
県	彫刻	木造　千手観音立像	もくぞう　せんじゅかんのんりゅうぞう	1躯	S41.7.19	横浜市	真福寺（青葉区荏田町432-8）	真福寺				平安時代。一木造。十一面八臂の像。頬のまるみや衣文の浅い彫り口などに藤原様式を見ることが出来る。
県	彫刻	木造　阿弥陀如来坐像	もくぞう　あみだにょらいざぞう	1躯	S44.12.2	横浜市	西方寺（港北区新羽町2586）	西方寺				平安時代。寄木造。おだやかな表現の藤原仏で光背を欠くものの、7重の蓮華座も残されている。

横浜市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	彫刻	木造　薬師如来坐像	もくぞう　やくしにょらいざぞう	1躯	S53.11.17	横浜市	東漸寺（磯子区杉田1-9-1）	東漸寺				鎌倉時代。寄木造。作風からも、構造上からも鎌倉時代初期の本格的な運慶一派の作例と思われる像である。
県	彫刻	木造　金剛力士立像	もくぞう　こんごうりきしりゅうぞう	2躯	S53.11.17	横浜市	称名寺（金沢区金沢町212-1）	称名寺				鎌倉時代（胎内墨書銘に元享3年院興ら作）。関東における最大の金剛力士像であり、山門に安置されている。
県	彫刻	木造　薬師如来坐像	もくぞう　やくしにょらいざぞう	1躯	S58.2.8	横浜市	横浜市歴史博物館（都筑区中川中央1-18-1）	保木薬師信徒会（青葉区美しが丘西2-7-2）				鎌倉時代。寄木造。玉眼の欠落した穴から承久3年の造像銘、寛文10年の修理銘が判読できる。
県	彫刻	木造　方崖元圭坐像	もくぞう　ほうがいげんけいざぞう	1躯	S59.11.22	横浜市	金龍院（金沢区瀬戸10-12）	金龍院				南北朝時代。寄木造、玉眼嵌入、褐色漆塗。金龍院開山方崖元圭の肖像彫刻。
県	彫刻	木造　阿弥陀三尊像	もくぞう　あみださんぞんぞう	3躯	H4.11.20	横浜市	宝樹院（金沢区大道2-7-1）	宝樹院		附）頭部内納入品		平安時代。一木造。時代の特色が顕著。頭部内から称名寺開山審海の修理願文などを発見。
県	彫刻	木造　菩薩半跏像	もくぞう　ぼさつはんかぞう	1躯	H10.2.17	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県		附）胎内納入品（布製五臓六腑等）		南宋時代。日本では数少ない宋代の彫刻で女性的な風貌に特徴がある。
国	工芸	刺繍　獅子吼文大法被	ししゅう　ししくもんだいはっぴ	1枚	M33.4.7	横浜市	總持寺（鶴見区鶴見2-1-1）	總持寺			S43.2.2 名称変更	江戸時代。仏殿の須弥檀上方から垂帳して使用する大型（縦 715センチメートル、横 665センチメートル）の法被である。
国	工芸	銅鐘	どうしょう	1口	T10.4.30	横浜市	称名寺（金沢区金沢町212-1）	称名寺		文永己巳仲冬七日の旧銘並に正安辛丑仲和九日の改鋳銘あり		鎌倉時代。金沢八景のひとつ称名寺の晩鐘で名高い。形は典型的な鎌倉時代特有の姿をした名鐘である。
国	工芸	梵鐘	ぼんしょう	1口	S28.11.14	横浜市	東漸寺（磯子区杉田1-9-1）	東漸寺		東漸、鐘、永仁六年、孟春望日、大工大和権守物部国光在銘		鎌倉時代。鐘の上半身が細く見えるため、実際より丈高に見える鐘。国光は当時、関東一円で活躍した鋳工である。
国	工芸	二十八間四方白星兜鉢	にじゅうはっけんよほうしろほしかぶとはち	1頭	S31.6.28	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県				鎌倉時代。鉢は鉄板二十八枚を矧ぎ合わせた大円山形（だいえんざんなり）の星兜。
国	工芸	二十四間四方白星兜鉢	にじゅうよんけんよほうしろほしかぶとはち	1頭	S32.2.19	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県				鎌倉時代。大鎧に附属した兜の鉢で、鉢の周囲の鋲が外観の特徴。
国	工芸	太刀　銘　来国光	たち　めい　らいくにみつ	1口	S33.2.8	横浜市		個人		梨地金螺鈿蛭巻打刀拵		鎌倉時代。僅かに磨上。徳川家光より島津光久が拝領の品と伝わり、拵はこの折り製作されたと云われる。
国	工芸	金銅装宝篋印塔	こんどうそうほうきょういんとう	1基	S35.6.9	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）		（軸部相輪等を欠く）台座裏に永仁五年二月廿三日の紀年と又五郎藤原秀吉、藤原胤吉等の墨書がある		鎌倉時代。木心金銅張。現在は、基壇、座盤及び屋蓋の四層部を残すのみである。
国	工芸	色々威腹巻　壺袖付	いろいろおどしはらまき　つぼそでつき	1領	S37.2.2	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県				室町時代。複数の色使いが色々威と呼ばれるゆえんであり、かつては華やかな色合いであったことがしのばれる。
国	工芸	木製　多宝塔	もくせい　たほうとう	1基	S38.7.1	横浜市	三溪園（中区本牧三之谷58-1）	公益財団法人三溪園保勝会				室町時代。舎利塔として造られた為、中央間を広くし、基壇は引き出しにする。多宝小塔として古い例の一つである。
国	工芸	鈸子	ばっし	1双	S41.6.11	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）		金沢審海の刻銘がある		鎌倉時代。打楽器の一種。刻銘により称名寺開祖審海の所持したものと知られる。

横浜市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	工芸	玉華鬘	たまけまん	3面	S41.6.11	横浜市	県立金沢文庫(金沢区金沢町142)	称名寺(金沢区金沢町212-1)				鎌倉時代。なつめ形の水晶の玉を金銅線で差し連ね、これに金銅の瓔珞を垂らしている。
国	工芸	玉簾	たますだれ	1張	S41.6.11	横浜市	県立金沢文庫(金沢区金沢町142)	称名寺(金沢区金沢町212-1)				鎌倉時代。細長いガラス棒を横にならべた簾。楊貴妃の玉簾との伝説がある。
国	工芸	葛箱	つづらばこ	1合	S41.6.11	横浜市	県立金沢文庫(金沢区金沢町142)	称名寺(金沢区金沢町212-1)				鎌倉時代。被せ蓋造。葛を編んでつくった文箱である。
国	工芸	黒漆須弥壇 黒漆大壇 黒漆礼盤 黒漆机 黒漆磬架	くろうるししゅみだん くろうるしだいだん くろうるしらいばん くろうるしつくえ くろうるしけいか	1基 1基 1基 2基 1基	H元. 6.12	横浜市	称名寺(金沢区金沢町212-1)	称名寺		附)黒漆鉦架1基	県指定 S44.5.20 S44.12.2	黒漆須弥壇:壇鎌倉時代後期。禅宗様須弥檀。後補部もあるが、上下框の繰形や束の部分は創立当時のものと思われる。 黒漆大壇:鎌倉時代後期。方形で檀の四面に蓮弁を彫出する根本様大檀である。 黒漆礼盤:鎌倉時代後期。修法の際導師の牀座する台。前期大檀と一具のものである。 黒漆机:鎌倉時代。堂内具の一つで甲板全面を一枚板で作り脚四本を立て、各間に格狭間を設けるやや大型の前机である。 黒漆磬架:鎌倉時代。打楽器の磬を吊る台である。 附)黒漆鉦架:室町時代。堂内具の一つで、鉦を吊す台で丸面取りの柱を立て、基台は四方にのびた繰形の脚で支えられている。
国	工芸	張良図沈金鞍	ちょうりょうずちんきんぐら	1背	H8.6.27	横浜市	県立歴史博物館(中区南仲通5-60)	公益財団法人馬事文化財団				室町時代。木製黒漆塗り。中世鞍で唯一、沈金による装飾を施した作品として貴重である。
国	工芸	太刀　銘　秀近	たち　めい　ひでちか	1口	S25.8.29	横浜市		個人				平安時代。
県	工芸	刀　銘　肥前国佐賀住橋本新左衛門尉忠吉	かたな　めい　ひぜんのくにさがじゅうはしもとしんざえもんじょうただよし	1口	S29.12.3	横浜市		個人				江戸時代。反りの浅い刀姿で鼓中心である。
県	工芸	刀　銘　長曽禰興正	かたな　めい　ながそねおきまさ	1口	S30.5.10	横浜市		個人				江戸時代。金像嵌銘延宝三年十月十六日二ツ胴於眼前切断之山野勘十郎久英、身幅広い堂々とした寛文新刀である。
県	工芸	刀　銘　加卜	かたな　めい　かぼく	1口	S30.5.10	横浜市		個人				江戸時代。銘竜大森治郎左衛門入道大村加卜慰作之越後幕下士真十五用伏作。身幅広い反りの少ない豪壮な刀である。
県	工芸	太刀　銘　信国	たち　めい　のぶくに	1口	S31.8.17	横浜市		個人				南北朝時代。銘信国。京反りの優美な太刀。表に素剣、裏に腰樋が彫刻されている。生中心。
県	工芸	刀　無銘　伝元重	かたな　むめい　でんもとしげ	1口	S34.3.6	横浜市		個人				南北朝時代。磨上刀姿。表裏に棒樋を彫刻する。大磨上無銘である。
県	工芸	わきざし　銘　相模国住人広光康安二年八月日	わきざし　めい　さがみのくにじゅうにんひろみつ　こうあんにねんはちがつひ	1口	S34.12.4	横浜市		個人				南北朝時代。平造り身幅広い寸延び姿のわきざし。表に倶利伽羅、裏に素剣の彫刻がある。

横浜市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	工芸	太刀　銘　備前国長船住左近将監長光造　正応二年己丑六月日	たち　めい　びぜんのくにおさふねじゅうさこんのしょうげんながみつぞう　しょうおうにねんきちゅうろくがつひ	1口	S35.5.17	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県		附）足利時代墨革包太刀拵	S60.8.29　変更	鎌倉時代。小切先、腰反り長寸の太刀。太刀表鎬地に元より梵字、素剣二筋樋が彫ってあり、基上横手の近くまで神名が各種彫り付けてある。
県	工芸	わきざし　銘　肥前国忠吉	わきざし　めい　ひぜんのくにただよし	1口	S36.7.4	横浜市		個人		附）江戸時代合口拵	S55.5.21　変更	江戸時代。平造の寸延短刀姿の脇差。表に二筋樋、裏に棟樋に添樋が彫られる。
県	工芸	銅鐘（龍華寺）	どうしょう（りゅうげじ）	1口	S44.12.2	横浜市	龍華寺（金沢区洲崎町9-31）	龍華寺				室町時代。古様式の鐘で銘文にある天文より以前に鋳られたと思われる鋳ばなしのままである。
県	工芸	銅鐘（妙光寺）	どうしょう（みょうこうじ）	1口	S44.12.2	横浜市	妙光寺（瀬谷区上瀬谷町8-3）	妙光寺				鎌倉時代（銘文に正中二年、物部守光）。追刻銘により妙光寺に寄進された際の事情が知られる。
県	工芸	金銅装笈	こんどうそうおい	1基	H11.2.12	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県				室町時代。桐材製のやや裾開きの箱に短い四脚をつけ、正面の表側には薄手の金銅版を張る。（修験者などが持ち物を入れて背中に負う箱）。
県	工芸	椿彫木朱漆笈	つばきちょうぼくしゅしつおい	1基	H11.2.12	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県				室町時代。三脚をつけた箱笈で、正面の6枚の扉全体に渡って開花した椿と葉を一杯に埋めた図様であらわしている。
県	工芸	刀　銘　康継	かたな　めい　やすつぐ	1口	S28.12.22	不明（横浜市）	不明					江戸時代。銘於武州江戸越前康継南蛮鉄。生中心。表に素剣梵字、裏にゴマ箸に梵字の彫りものがある。
県	工芸	刀　無銘　伝兼光	かたな　むめい　でんかねみつ	1口	S41.7.19	不明（横浜市）	不明					南北朝時代。表裏に棒樋を彫刻する大磨上無銘である。
県	工芸	刀　無銘　伝則重	かたな　むめい　でんのりしげ	1口	S32.2.19	不明（横浜市）	不明					鎌倉時代末。正宗十哲に数えられる則重と極められる刀で、大磨上無銘である。
国宝	書跡・典籍・古文書	文選集注	もんぜんしっちゅう	19巻	S30.2.2	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）			M43.8.29指定	平安時代。周以来の有名な詩文などを梁の蕭統（しょうとう）が編集したものの写本である。
国宝	書跡・典籍・古文書	称名寺聖教 金沢文庫文書	しょうみょうじしょうぎょう かなざわぶんこもんじょ	16,692点 4,149通	H28.8.17	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）			称名寺聖教（H18.6.9重文指定）と金沢文庫文書（H2.6.29重文指定）を統合し、新たな聖教類を追加して国宝指定。	金沢氏の菩提寺であった称名寺と、北条実時の草創にかかる金沢文庫に伝来した史料群の一括で、称名寺聖教及び金沢文庫文書ともに、我が国における代表的な仏教・寺院史料及び武家文書として貴重である。称名寺聖教及び金沢文庫文書ともに重要文化財の指定を受けていたが、これらを統合し、新たに明らかになった聖教類を追加することで、史料群の全体像を把握することができる。鎌倉時代の浄土宗や禅宗などの鎌倉新仏教、真言宗をはじめとした旧仏教を問わず仏教史はもちろんのこと、政治史のみならず武家の文化を解明する上で欠かせない第一級の史料である。
国	書跡・典籍・古文書	称名寺絵図並結界記	しょうみょうじえずならびにけっかいき	2幅	M42.4.5	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）		元亨三年二月廿四日（旧裏書）	S52.6.11現変	鎌倉時代。図は金堂と講堂を中心に諸堂、施設を描き、周囲に朱線をめぐらせている。もと紙背に結界文が記されていたが、現在、二幅仕立てに改装されている。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　円覚経	しほんぼくしょ　えんがくきょう	2巻	T3.4.17	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）		正慶二年三月金沢貞顕筆		鎌倉時代。円覚の理＝仏の悟りを説いた経で、金沢貞顕が父顕時の三十三年忌の菩提を弔った宿紙供養経である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　明儒願文集	しほんぼくしょ　めいじゅがんもんしゅう	1冊	T11.4.13	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）		・紙に湛睿とある		鎌倉時代。明儒日野賢実と菅原為長の六種の願文を収めたものである。

横浜市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　観音堂縁起　紹瑾筆	しほんぼくしょ　かんのんどうえんぎ　しょうきんひつ	1巻	S10.4.30	横浜市	總持寺（鶴見区鶴見2-1-1）	總持寺		奥に元亨元年六月十七日とある		鎌倉時代。一般に総持寺中興縁起と呼ばれ、諸岳観音堂から禅院を開創するに至った由来を述べたもの。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　続古今集　巻下	しほんぼくしょ　ぞくこきんしゅう　かんげ	1帖	S10.4.30	横浜市		個人		正平六年十二月三日兼好感得の奥書がある		鎌倉時代。続古今集の巻下を書写した胡蝶装の本。兼好の自筆による奥書がある。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　建春門院中納言記	しほんぼくしょ　けんしゅんもんいんちゅうなごんき	1帖	S11.5.6	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	神奈川県				藤原俊成の娘・建寿御前（藤原定家の姉。高倉天皇の母である建春門院に使えた）の綴った宮廷生活等の回想録。後宮のしきたり・風俗を描写する。奥書に金沢貞顕の自署あり。
国	書跡・典籍・古文書	注大般涅槃経巻第十九	ちゅうだいはんねはんきょうまきだいじゅうきゅう	1巻	S24.2.18	横浜市	西方寺（港北区新羽町2586）	西方寺				奈良時代。大般涅槃経を唐の韋・（？）が注釈をしたもので全三十巻からなるものの一部である。
国	書跡・典籍・古文書	弘決外典鈔　巻第一、二、三	ぐけつげてんしょう　まきだいいち、に、さん	3帖	S34.6.27	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）		巻第二、弘安七年六月十五日円種奥書		鎌倉時代。「止観輔行伝弘決」の中の外典を鈔出し、注釈を加えたもの。首尾を通じ施された綿密な訓点は国語資料として貴重なもの。
国	書跡・典籍・古文書	連歌懐紙	れんがかいし	5帖	S36.2.17	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）		中二帖、正慶元年・元弘三年興行年記		鎌倉時代。仏書の紙背として伝存されたもの。称名寺で張行された連歌の懐紙である。
国	書跡・典籍・古文書	卜筮書巻第廿三断簡	ぼくぜいしょまきだいにじゅうさんだんかん	1巻	S36.2.17	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）		紙背授菩薩戒儀		唐時代。占卜の書。現在はわずかに式三の巻末部分二紙四十九行を残すのみである。
国	書跡・典籍・古文書	古今和歌集第一、二残闕（片仮名本）	こきんわかしゅうだいいち、にざんけつ（かたかなぼん）	1巻	S36.2.17	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）		紙背応永三年十月書写胎蔵法聞書		鎌倉時代。藤原清輔が校合した片仮名書きの「清輔本古今和歌集」である。
国	書跡・典籍・古文書	宋版一切経	そうはんいっさいきょう	3486帖	H9.6.30	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）		附）版本一切経目録一幅		南宋時代。北条実時が一門の菩提寺である金沢称名寺に寄進したまとまった宋版一切経遺品。
国	書跡・典籍・古文書	法曹類林断簡	ほっそうるいりんだんかん	1巻	H14.6.26	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）				平安時代末期に成立した律令格式に基づいた判例集であり、奥書から嘉元2年（1304）年に金沢貞顕が書写したことが知られる。
国	書跡・典籍・古文書	宋版南史　残巻（列伝巻第三十六、三十七、三十八）、断簡（目録、列伝巻第十六、三十五）（金沢文庫本）	そうはんなんし　ざんかん（れつでんまきだいさんじゅうろく、さんじゅうなな、さんじゅうはち）、だんかん（もくろく、れつでんまきだいじゅうろく、さんじゅうご）（かなざわぶんこぼん）	3帖、6紙	H18.6.9	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	称名寺（金沢区金沢町212-1）				中国の歴代王朝の正史の一つで、南北朝時代の南朝国家の歴史を記したものである。現存最古の南宋時代の版本として極めて貴重であり、北条実時が創建した金沢文庫に伝来したことが明らかなもの。
国	書跡・典籍・古文書	武蔵国鶴見寺尾郷絵図	むさしのくにつるみてらおごうえず	1幅	H17.6.9	横浜市	県立金沢文庫（金沢区金沢町142）	神奈川県				建長寺塔頭正統庵領であった鶴見・寺尾両郷に関する堺争論に際して、南北朝初期に作成された絵図である。
国	書跡・典籍・古文書	新古今和歌集竟宴和歌	しんこきんわかしゅうきょうえんわか	1巻	H27.9.4	横浜市	横浜市立大学（横浜市金沢区瀬戸22-2）	公立大学法人横浜市立大学				新古今和歌集の完成を祝って、元久二(1205)年に、後鳥羽院（1180～1239年）が催した歌会の和歌である。後鳥羽院が作った1首と、藤原良経らの各1首の計20首を収めている。勅撰集の完成に伴い、初めて催された竟宴における和歌であり、かつ、鎌倉時代中期にさかのぼる最古の写本として貴重である。

横浜市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	書跡・典籍・古文書	清拙正澄墨蹟	せいせつしょうちょうぼくせき	1幅	H11.2.12	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県				南北朝時代。日本の禅寺の規律を確立した清拙正澄の貴重な墨跡。建武五年(1338)に弟子鏡空が乗福寺住持に新任する時の祝辞。
県	書跡・典籍・古文書	石室善玖墨蹟	せきしつぜんくぼくせき	1幅	H11.2.12	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県				南北朝時代。建長寺の住持石室善玖の墨跡。応安二年(1369)智翁紹綱が京都長福寺へ帰る際、餞別として与え、併せて太政大臣久我通相に表敬したもの。
県	書跡・典籍・古文書	源頼朝袖判下文	みなもとのよりともそでは んくだしぶみ	1幅	H11.2.12	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県				鎌倉時代。鎌倉幕府初代将軍源頼朝が、北関東の御家人の小山朝政に宛てた下文。将軍家政所より発給された地頭職補任状を再度承認したもの。数少ない頼朝袖判下文。
県	書跡・典籍・古文書	源頼家袖判下文	みなもとのよりいえそではん くだしぶみ	1幅	H11.2.12	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県				鎌倉時代。鎌倉幕府二代将軍源頼家が、小山朝政を播磨国五箇庄の地頭職に補任した下文。頼家関係の数少ない極めて貴重な古文書。
国	考古資料	青磁壺	せいじつぼ	1合	S43.4.25	横浜市	県立金沢文庫(金沢区金沢町142)	称名寺（金沢区金沢町212-1）		武蔵称名寺境内石造五輪塔（伝金沢貞顕墓）納置		宋時代。俗に酒会壺とよばれる元口の壺。伝金沢貞顕墓から骨を収めた状態で発見された。
県	考古資料	人面付土器	じんめんつきどき	1箇	S59.3.30	横浜市	横浜市歴史博物館（都筑区中川中央1-18-1）	横浜市		横浜市鶴見区上末吉上台遺跡出土		弥生時代後期のひょうたん形をした人面付壺形土器。
県	考古資料	綾瀬市寺尾遺跡出土品	あやせしてらおいせきしゅつどひん	368点	H13.2.13	横浜市	県埋蔵文化財センター（南区中村町3-191-1）	神奈川県				後期旧石器時代及び縄文時代草創期。時期の異なる7層の文化層が重複して発見され、石器群の変遷が層位的に明らかにされた。
県	考古資料	海老名市上浜田遺跡出土玦状耳飾	えびなしかみはまだいせきしゅつどけつじょうみみかざり	6点	H13.2.13	横浜市	県埋蔵文化財センター（南区中村町3-191-1）	神奈川県				縄文時代早期。滑石製で墓穴と考えられる3基の土擴から2点一対で出土し、埋葬された人物の両耳に装着されていたことを推測させる良好な出土状態を示すとともに、玦状耳飾の初期の優品。
県	考古資料	山北町尾崎遺跡出土の石斧製作に関連する石器	やまきたまちおさきいせきしゅつどのせきふせいさくにかんれんするせっき	1,081点	H13.2.13	横浜市	県埋蔵文化財センター（南区中村町3-191-1）	神奈川県				縄文時代中期。良質な凝灰岩の石材産地に立地した石斧の生産遺跡で、縄文時代の石斧の生産と供給の状況を示し、この時代の社会・経済を知るうえで貴重な資料。
県	考古資料	秦野市砂田台遺跡出土の石器、鉄器及び弥生土器	はだのしすなだだいいせきしゅつどのせっき、てっきおよびやよいどき	42点	H13.2.13	横浜市	県埋蔵文化財センター（南区中村町3-191-1）	神奈川県				弥生時代中期。大陸系磨製石斧と鉄剣を再加工した鉄器は、東日本での本格的な農耕文化定着期の鉄器の普及を明らかにする貴重な資料。
県	考古資料	綾瀬市宮久保遺跡出土木簡	あやせしみやくぼいせきしゅつどもっかん	1点	H13.2.13	横浜市	県埋蔵文化財センター（南区中村町3-191-1）	神奈川県				奈良時代。「鎌倉郷」が記載された最古の資料であり、「田令」・「郡稲長」などの郡雑任や「軽部」という部姓氏族の資料であり、古代の地方行政に関する貴重な資料である。
県	考古資料	三浦市間口洞窟遺跡出土品	みうらしまくちどうくついせきしゅつどひん	450点	H13.2.13	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県				弥生時代中・後期及び古墳時代後期。三浦半島に特徴的に分布する海蝕洞窟遺跡特有の骨角貝製生活用具と墳墓副葬品。
県	考古資料	綾瀬市吉岡遺跡群B区と藤沢市用田鳥居前遺跡出土の旧石器時代の遺跡間接合石器	あやせしよしおかいせきぐんびーくとふじさわしようだとりいまえいせきしゅつどのきゅうせっきじだいのいせきかんせつごうせっき	455点	H16.2.10	横浜市	県埋蔵文化財センター（南区中村町3-191-1）	神奈川県		附)その他の剥片類		およそ2km離れたふたつの遺跡で出土した旧石器時代の石器群が接合。旧石器時代人の移動の実態や生活の様相を知る上で貴重な資料。

横浜市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	考古資料	鎌倉市下馬周辺遺跡出土の鎧	かまくらしげばしゅうへんいせきしゅつどのよろい	一括	H28.3.29	横浜市	県埋蔵文化財センター(南区中村町3-191-1)	神奈川県		附)銭貨1,896枚、古瀬戸　花瓶1口、古瀬戸　香炉1口		鎌倉時代。若宮大路に面して建てられた大型の竪穴建物から、平成23年に出土。部品単体ではなく鎧全体の形でまとまって出土した例は、平安時代後期から鎌倉時代では全国で2例目、鎌倉時代では全国初の貴重な事例。
国	歴史資料	日本図(遠江、越後以東欠)	にほんず(とおとうみ、えちごいとうけつ)	1枚	S62.6.6	横浜市	県立金沢文庫(金沢区金沢町142)	称名寺(金沢区金沢町212-1)				鎌倉時代。金沢文庫に伝存する中世文書中より発見された所謂行基式日本図。
国	歴史資料	銀板写真(遠藤又左衛門と従者像)ｴﾘﾌｧﾚｯﾄ･ﾌﾞﾗｳﾝ･ｼﾞｭﾆｱ撮影一八五四年	ぎんばんしゃしん(えんどうまたざえもんとじゅうしゃぞう)えりふぁれっと･ぶらうん･じゅにあさつえいせんはっぴゃくごじゅうよねん	1枚	H18.6.9	横浜市	横浜美術館(西区みなとみらい3-4-1)	横浜市		附)添状1通		幕末に来航したペリー配下の写真師が撮影した銀板写真。遠藤又左衛門は松前藩士で、箱館でペリーとの諸交渉にあたった。外国人が日本国内で日本人を撮影した現存最古の写真の一枚。
国	歴史資料	銀板写真(石塚官蔵と従者像)ｴﾘﾌｧﾚｯﾄ･ﾌﾞﾗｳﾝ･ｼﾞｭﾆｱ撮影一八五四年	ぎんばんしゃしん(いしづかかんぞうとじゅうしゃぞう)えりふぁれっと･ぶらうん･じゅにあさつえいせんはっぴゃくごじゅうよねん	1枚	H18.6.9	横浜市	市立函館博物館(北海道函館市青柳町17-1)	個人		附)添状2通、ｳｨﾘｱﾑｽ･羅森合筆扇面1幅		幕末に来航したペリー配下の写真師が撮影した銀板写真。石塚官蔵は松前藩士で、箱館でペリーとの諸交渉にあたった。外国人が日本国内で日本人を撮影した現存最古の写真の一枚。
国	歴史資料	氷川丸 昭和五年、横浜船渠株式会社製	ひかわまる しょうわごねん、よこはませんきょかぶしきがいしゃせい	1艘	H28.8.17	横浜市	横浜市中区山下町山下公園地先	日本郵船株式会社		附)航海日誌・諸記録類　8点 図面類　455点		昭和5(1930)年に日本郵船株式会社が発注し、横浜船渠株式会社にて竣工した貨客船である。昭和35(1960)年の引退まで主としてシアトル航路に就航し、戦前・戦後の貨客輸送に従事したが、昭和16(1941)年からは海軍特設病院船、終戦後は復員輸送船、のちに国内・国外航路貨客船の任を担った。本船は当時の先進の造船技術を導入して国内にて建造された貨客船であり、海外との輸送手段を貨客船が担っていた時代、戦中戦後の激動の時代において、社会・経済史上に大きな役割を果たした。戦前期に多数建造された外航船の現存唯一の遺存例として、近代交通史上、造船技術史上などにおいて貴重な資料である。
国	歴史資料	日本丸 昭和五年、株式会社川崎造船所製	にっぽんまる しょうわごねん、かぶしきがいしゃかわさきぞうせんしょせい	1艘	H29.9.15	横浜市	横浜市西区みなとみらい２－１－１　旧横浜船渠株式会社第一船渠内	横浜市				船員養成用の練習帆船として文部省が発注した船で、昭和5年(1930)に進水した。全長97.05メートル、総トン数2278.25トン、横肋骨方式リベット構造の鋼製補助機関付帆船であり、帆装は4本マストバーク型、主機関は国産初の大型ディーゼル機関である池貝鉄工所製造の無気噴油式四サイクルディーゼルエンジンを搭載している。 長い期間にわたり船員養成の任を担い、我が国の海運業の発展に貢献した。現存する希少な戦前期建造の船であり、建造当時の構造、艤装(ぎそう)をよく伝え、わが国の海運史、造船技術史等研究上において貴重である。
県	有形民俗文化財	舞楽面(陵王、抜頭)	ぶがくめん(りょうおう、ばっとう)	2面	H7.2.14	横浜市	瀬戸神社(金沢区瀬戸18-14)	瀬戸神社				鎌倉時代。舞楽の面だが、神楽や雨乞いにも使われたと考えられ、民俗的に貴重。 なお、この文化財は「木造　舞楽面(陵王、抜頭)」の名称で国指定重要文化財(彫刻)にも指定されている。(H12.12.4)

横浜市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	有形民俗文化財	「神奈川の職人の道具」コレクション	「かながわのしょくにんのどうぐ」これくしょん	1,982点	H11.2.12	横浜市	県立歴史博物館（中区南仲通5-60）	神奈川県				神奈川県立歴史博物館が長年収集してきた県内の工芸関係以外の職種の道具集。木地師、物差し職人等県内でも限られた地域で活躍していた職種のものも含まれ全国的にも貴重。多職種の道具がそれぞれ一式揃えられ、製作の工程や技術、職人の信仰習俗などをうかがい知ることができる。都市化により有形民俗文化財が消滅しつつある本県において、職人の様相を後世に伝える貴重なコレクション。
県	無形民俗文化財	お馬流し	おうまながし		S53.6.23	横浜市		本牧お馬流し保存会		8月第1又は第2日曜日	S52.2.9県選択	本牧神社に伝わる御霊信仰による厄霊放流行事。茅でつくった馬首亀体のお馬を御神船から海へ放流する。
県	無形民俗文化財	善部妙蓮寺の曲題目	ぜんぶみょうれんじのきょくだいもく		H3.2.8	横浜市		善部妙蓮寺曲題目保存会		10月第3土曜日	S53.9.1県選択	唄うように唱える題目に合わせ子供達が、バチや太鼓を可憐に操る。
県	無形民俗文化財	牛込の獅子舞	うしごめのししまい		H13.2.13	横浜市		牛込獅子保存会		10月上旬の土・日		一人立ち三頭獅子舞。前日には美しが丘の神明社にも奉納。元禄の悪疫流行期に伝習されたとの説も。締太鼓の枠打ちが多く、力強い所作が特徴。
県	無形民俗文化財	鉄の獅子舞	くろがねのししまい		H13.2.13	横浜市		鉄古典獅子舞保存会		10月第1日曜日		一人立ち三頭獅子舞。舞の名称が振りに起因している点は奥多摩方面と類似。舞手は大人。花や弓等の道具とじゃれたり、格闘を表す舞振りがあったりと、変化に富んでいるのが特徴。
国	無形文化財	芸能　能シテ方	げいのう　のうしてかた		R4.10.31	横浜市		大坪近司（芸名・雅号等：大坪喜美雄）				能シテ方は、ワキ方、囃子方、狂言方とともに能を成立させる技法で、曲中の人物に扮し、曲中に扱われていることを歌い舞いして演じる。氏は、昭和34年に宝生英雄（後の十八世宝生宗家）に師事し、着実に芸歴を重ね、現在に至っている。伝統的なシテ方宝生流の技法を高度に体現し 、 地謡や後見での力量も含め評価が高く 、 現在の宝生流を代表する能楽師の一人として重要な位置を占めている。
国	選定保存技術	甲冑修理	かっちゅうしゅうり		R4.10.31	横浜市		西岡文夫				甲冑の修理には、各材質に応じた高度な技術が求められるとともに、製作された当初の構造材を可能な限り活かすことが必要である。氏は、昭和53年より甲冑製作を独学で始め、昭和56年に甲冑師森田朝二郎氏に師事し、同技術を体得した。氏の甲冑修理は、平安・鎌倉期の大鎧から当世具足など中近世以降に至る幅広い時代の甲冑について、安定した技術と確かな見識の下に適切な保存処置を施すことにおいて、高い評価を得ている。
国	史跡	称名寺境内	しょうみょうじけいだい		T11.10.12	横浜市	金沢区金沢町、西柴町		横浜市	S47.1.31追加指定及び名称変更		関東では例の少ない苑池中心の庭園、指定地西側の隣接地に由緒ある金沢文庫の名を冠した県立の博物館施設がある。
国	史跡	三殿台遺跡	さんとのだいいせき		S41.4.2	横浜市	磯子区岡村			横浜市所管		調査により縄文、弥生、古墳、各時代にわたる250例の住居跡が発見され野外博物館として保存されている。
国	史跡	大塚・歳勝土遺跡	おおつかさいかちどいせき		S61.1.31	横浜市	都筑区大棚西			横浜市所管		鶴見川支流の早淵川左岸台地上に位置する弥生時代中期の環濠集落跡（大塚遺跡）と方形周溝墓群（歳勝土遺跡）である。
国	史跡	旧横浜正金銀行本店	きゅうよこはましょうきんぎんこうほんてん		H7.6.27	横浜市	中区南仲通			神奈川県所有		明治13年、貿易取引の決済業務と貿易金融とを主要目的として設立。近代の貿易金融機関の在り方を示す重要な遺跡。
国	史跡	朝夷奈切通	あさいなきりどおし		S44.6.5	横浜市・鎌倉市	横浜市金沢区朝比奈町、鎌倉市十二所			H15.8.27、H19.7.26、H20.7.28追加指定		13世紀中期に執権北条泰時によって開削された。鎌倉七口の一つで最も高く峻険である。鎌倉と外港・六浦津を結ぶ重要交通路であり、防禦施設の名残も残されている。
県	史跡	市ヶ尾横穴古墳群	いちがおおうけつこふんぐん		S32.2.19	横浜市	青葉区市ケ尾町			横浜市管理		七世紀頃。丘陵の西斜面に作られた横穴が並ぶ。入口の前方に墓前祭的行事が行われた前庭部が存在する。

横浜市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	史跡	品濃一里塚	しなのいちりづか		S41.7.19	横浜市	戸塚区品濃町、平戸町			横浜市管理		旧東海道は切り下げられたが、塚はほぼ東西に両相対し、原型に近い形で保存されている。
県	史跡	稲荷前古墳群	いなりまえこふんぐん		S45.3.24	横浜市	青葉区大場町字稲荷前			横浜市管理		前方後円墳・前方後方墳・円墳・方墳・横穴墓が発見された。今は前方後方墳一基と方墳二基が保存されている。
国	名勝	山手公園	やまてこうえん		H16.2.27	横浜市	中区山手町、中区妙香寺台					明治時代初頭に横浜の外国人居留地に設置された我が国最初の公園であり、開設当時から継承する多くの諸要素が一体となって、現状に見る優秀な風致景観を形成していることから、学術上、観賞上の高い価値を有する公園である。
国	名勝	三溪園	さんけいえん		H19.2.6	横浜市	中区本牧三之谷、同本牧間門					近代横浜を代表する実業家である原富太郎（三溪）が明治時代後期から造営した自邸の庭園。起伏に富む広大な敷地に古建築を移築し、池や渓流を築造した自然主義に基づく風景式庭園で、学術上・芸術上・鑑賞上の価値は極めて高い。
県	天然記念物	日野のシイ	ひののしい		S36.3.14	横浜市	港南区日野中央	個人				原家の庭に在るスダジイの大木。樹高約20メートル、目通しは4.3メートル。
県	天然記念物	旧城寺の寺林	きゅうじょうじのじりん		S55.2.15	横浜市	緑区三保町2029-1、2030～4、2038～9	旧城寺				県下の内陸台地に残された典型的な郷土林で、カヤ、アラカシ、シラカシ、ケヤキなどの大木が密閉した樹冠を形成している。
県	天然記念物	根岸八幡神社の社叢林	ねぎしはちまんじんじゃのしゃそうりん		S55.2.15	横浜市	磯子区西町171	八幡神社				急な崖上を発達した常緑広葉樹林でタブノキ、スダジイを中心とし、カクレミノ大木も混える。
県	天然記念物	宝生寺・弘誓院の寺林	ほうしょうじ・ぐぜいいんのじりん		S55.2.15	横浜市	南区堀ノ内1-68-1、南区睦町2-226、228、229	宝生寺、弘誓院				タブノキ、スダジイ、シラカシなど関東地方の常緑広葉樹林の主木による横浜市内でも有数のまとまった林相をもつ寺林。
県	天然記念物	師岡熊野神社の社叢林	もろおかくまのじんじゃのしゃそうりん		H3.2.8	横浜市	港北区師岡町字表谷戸1137-2	熊野神社				針葉樹の植栽もみられず、各階層に常緑広葉樹の種群がバランスよく育成している。
県	天然記念物	森浅間神社とその周辺の樹叢	もりせんげんじんじゃとそのしゅうへんのじゅそう		H6.2.15	横浜市	磯子区森2-463-1他	浅間神社、横浜市				スダジイが優占する常緑広葉樹林で、市街地内に残された貴重な自然林。
国	登録有形	横浜市西谷浄水場濾過池整水室上屋3号棟	よこはましにしやじょうすいじょうろかちせいすいしつうわやさんごうとう		H9.6.12	横浜市	横浜市保土ヶ谷区川島町522	横浜市		大正4年	煉瓦1	整水室上屋は、内法10フィート角の正方形で、花崗岩切石の土台に煉瓦一枚積みで外壁を造り、銅板葺の特異な宝形屋根をかける。浄水・排水井上屋は八角形の煉瓦造で規模が一回り大きいが、構造及び意匠は整水室上屋と共通である。
国	登録有形	横浜市西谷浄水場濾過池整水室上屋4号棟	よこはましにしやじょうすいじょうろかちせいすいしつうわやよんごうとう		H9.6.12	横浜市	横浜市保土ヶ谷区川島町522	横浜市		大正4年	煉瓦1	
国	登録有形	横浜市西谷浄水場濾過池整水室上屋7号棟	よこはましにしやじょうすいじょうろかちせいすいしつうわやななごうとう		H9.6.12	横浜市	横浜市保土ヶ谷区川島町522	横浜市		大正4年	煉瓦1	
国	登録有形	横浜市西谷浄水場濾過池整水室上屋8号棟	よこはましにしやじょうすいじょうろかちせいすいしつうわやはちごうとう		H9.6.12	横浜市	横浜市保土ヶ谷区川島町522	横浜市		大正4年	煉瓦1	
国	登録有形	横浜市西谷浄水場配水池浄水井上屋	よこはましにしやじょうすいじょうはいすいちじょうすいいうわや		H9.6.12	横浜市	横浜市保土ヶ谷区川島町522	横浜市		大正4年	煉瓦1	
国	登録有形	横浜市西谷浄水場配水池配水井上屋	よこはなしにしやじょうすいじょうはいすいちはいすいいうわや		H9.6.12	横浜市	横浜市保土ヶ谷区川島町522	横浜市		大正4年	煉瓦1	

横浜市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	旧横浜居留地煉瓦造下水道マンホール	きゅうよこはまきょりゅうちれんがづくりげすいどうまんほーる		H10.9.2	横浜市	横浜市中区日本大通	横浜市		明治14～16年	煉瓦	明治初年のブライトン設計の陶管下水道を煉瓦造に改造した際の施設。日本人の計画による最初の近代下水遺構。
国	登録有形	川島町旧配水計量室上屋	かわしまちょうきゅうはいすいけいりょうしつうわや		H10.9.2	横浜市	横浜市保土ヶ谷区川島町578-12	横浜市		大正3年	煉瓦1	同時期建設の西谷浄水場の下方に位置する。浄水場内の上屋と同様の造りであるが、外装には格別の仕様がとられている。
国	登録有形	市立港中学校門柱（旧花園橋親柱）	しりつみなとちゅうがっこうもんちゅう（きゅうはなぞのばしおやばしら）		H11.11.18	横浜市	横浜市中区山下町241	横浜市		昭和3年	石造	震災復旧事業の一環で大岡川に架けられた花園橋の親柱を移設したもの。石柱と鋳鉄製照明部から構成され、全体にアールデコ調の意匠が施される。
国	登録有形	横浜国立大学名教自然碑	よこはまこくりつだいがくめいきょうしぜんひ		H12.4.28	横浜市	横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5	国立大学法人横浜国立大学		昭和12年/昭和54年移築	石造	横浜高等工業学校初代校長である鈴木達治の功績を讃えて建てられた。端整な比例と素材を生かした造形に気品と記念性がうかがわれる。
国	登録有形	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校校舎（旧横浜高等工業学校本館）	よこはまこくりつだいがくきょういくにんげんかがくぶふぞくよこはまちゅうがっこうこうしゃ（きゅうよこはまこうとうこうぎょうがっこうほんかん）		H12.12.4	横浜市	横浜市南区大岡2-31-3	国立大学法人横浜国立大学		昭和13年	RC3	両翼を全面に突出させたルネッサンス様式的形態をとるが、外見は水平線を強調するとともに、正面中央に縦長の連続窓を配するなどモダニズム的意匠でまとめる。
国	登録有形	ジェラール水屋敷地下貯水槽	じぇらーるみずやしきちかちょすいそう		H13.4.24	横浜市	横浜市中区元町1-77	横浜市		明治10年代	煉瓦	幕末から横浜に居留したフランス人ジェラールが経営した船舶給水業施設で兼営したフランス瓦煉瓦製造工場に地下に築造され、谷戸の湧水を集めて貯水した。
国	登録有形	関戸家住宅主屋	せきどけじゅうたくおもや		H13.8.28	横浜市	横浜市青葉区美しが丘西2-40-8	個人		明治初期	木造1	久保木村の名主の住宅で、桁行14間と横浜市内では最大級の民家。寄棟造で、東側に土間を置いた六間取り形式で、土間に接して馬屋を内部に取り込む。
国	登録有形	関戸家住宅文庫蔵	せきどけじゅうたくぶんこぐら		H13.8.28	横浜市	横浜市青葉区美しが丘西2-40-15	個人		安政5年	土蔵2	桁行3間、梁行2間規模の2階建土蔵。主屋寄りに隠居と伝えられる床付8帖を備えるという特徴がある。
国	登録有形	関戸家住宅穀蔵	せきどけじゅうたくこくぐら		H13.8.28	横浜市	横浜市青葉区美しが丘西2-40-8	個人		江戸末期	土蔵2	桁行4間、梁行2間の丁寧な造りの2階建土蔵。
国	登録有形	金澤園	かなざわえん		H16.3.2	横浜市	横浜市金沢区柴町46	個人		昭和4年	木造2	海岸の近傍に建てられた割烹旅館。入母屋造、桟瓦葺の木造2階建で、客室は銘木を用いた凝ったつくりの座敷飾りや建具、欄間により、それぞれ趣向を凝らす。戦前の郊外行楽地における休泊施設の好例を示す。
国	登録有形	總持寺三松関	そうじじさんしょうかん		H17.7.12	横浜市	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大本山總持寺		大正9年	門　木造	総欅造の1間高麗門。
国	登録有形	總持寺香積台	そうじじこうしゃくだい		H17.7.12	横浜市	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大本山總持寺		大正9年	木造二階建	切妻造、妻入の大規模な2階建。
国	登録有形	總持寺待鳳館	そうじじたいほうかん		H17.7.12	横浜市	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大本山總持寺		大正４年／昭和32年移築改造	木造平屋建	迎賓館施設。主体部は尾張徳川家旧書院を移築したもの。
国	登録有形	總持寺紫雲台	そうじじしうんたい		H17.7.12	横浜市	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大本山總持寺		大正4年	木造平屋建	入母屋造、軒唐破風付の向拝をもつ壮大な構成。
国	登録有形	總持寺御霊殿	そうじじごれいでん		H17.7.12	横浜市	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大本山總持寺		昭和12年	木造平屋建	拝殿・幣殿・奥殿が連続した独特な権現造風。
国	登録有形	總持寺仏殿（大雄宝殿）	そうじじぶつでん（だいゆうほうでん）		H17.7.12	横浜市	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大本山總持寺		大正4年	木造平屋建	方3間もこし付で、創意工夫を凝らし、内外とも荘厳な構成。

横浜市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	總持寺虎嘯窟	そうじじこしょうくつ		H17.7.12	横浜市	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大本山總持寺		安政年間／明治44年移築	木造平屋建	貫首の居住施設で丁寧な書院造。
国	登録有形	總持寺放光堂	そうじじほうこうどう		H17.7.12	横浜市	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大本山總持寺		安政年間／明治44年移築	木造平屋建	桁行30mに及ぶ雄大な規模を持つ。
国	登録有形	總持寺鐘鼓楼	そうじじしょうくろう		H17.7.12	横浜市	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大本山總持寺		大正4年	木造二階建	古風な楼造。
国	登録有形	總持寺衆寮	そうじじしゅりょう		H17.7.12	横浜市	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大本山總持寺		大正4年	木造平屋建	簡明な住宅建築の形式になる。
国	登録有形	總持寺大僧堂	そうじじだいそうどう		H17.7.12	横浜市	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大本山總持寺		昭和12年	木造平屋建	内部に座禅用の畳敷の床を設け、中央2本の独立円柱上に独特な挿肘木を組む。
国	登録有形	總持寺百間廊下及び門	そうじじひゃっけんろうかおよびもん		H17.7.12	横浜市	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大本山總持寺		大正4年頃	木造平屋建	長大な廊下に3つの門を設けた形式。
国	登録有形	總持寺向唐門	そうじじむかいからもん		H17.7.12	横浜市	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大本山總持寺		大正14年	木造	前後に唐破風を付けた精緻なつくりの四脚門。
国	登録有形	總持寺鐘楼	そうじじしょうろう		H17.7.12	横浜市	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大本山總持寺		大正4年	木造	卓越した造形感覚の吹放し鐘楼。
国	登録有形	總持寺三宝殿	そうじじさんぽうでん		H17.7.12	横浜市	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大本山總持寺		昭和17年	木造平屋建	独特な構成になる社殿建築。
国	登録有形	總持寺放光観音台座	そうじじひかりかんのんだいざ		H17.7.12	横浜市	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大本山總持寺		大正12年	石造	花崗岩製台座で、細部まで行き届いた造形になる。
国	登録有形	光明寺書院	こうみょうじしょいん		H17.7.12	横浜市	横浜市南区庚台66	光明寺		明治33年／大正13年移築	木造平屋建	もと小田原御用邸の常宮御座所を移築したもので、近代和風の宮廷建築として貴重。
国	登録有形	山口家住宅主屋	やまぐちけじゅうたくしゅおく		H17.7.12	横浜市	横浜市港北区篠原台町12-21	個人		昭和13年頃	木造平屋一部二階建	私鉄（東急東横線）沿線住宅地に建つ1間洋館付の木造和風住宅。
国	登録有形	角田家住宅主屋	つのだけじゅうたくしゅおく		H18.11.29	横浜市	横浜市栄区公田町2306	個人		大正2年頃	木造平屋建	主屋はつし2階建で、瓦葺屋根の軒を出桁造とする農家系近代和風住宅の好例である。隣接する道具蔵は黒漆喰塗の2階建で、両開塗戸を備え、主屋とともに重厚な外観を構成する。敷地の東辺をなす石垣は切石積で延長は40m、上部は生垣とし良好な住宅景観を呈す。
国	登録有形	角田家住宅道具蔵	つのだけじゅうたくどうぐぐら		H18.11.29	横浜市	横浜市栄区公田町2306	個人		明治期	土蔵造二階建	
国	登録有形	角田家住宅石垣	つのだけじゅうたくいしがき		H18.11.29	横浜市	横浜市栄区公田町2306	個人		大正期	石造／延長40メートル	
国	登録有形	田畑家住宅主屋	たばたけじゅうたくしゅおく		H22.1.15	横浜市	横浜市神奈川区白幡上町93	個人		昭和7年/昭和中期・昭和後期改修	木造平屋建/桟瓦葺・スレート葺	和風住宅の玄関脇に急勾配の切妻屋根と出窓をもつ洋館部分を併設した、いわゆる「洋館付き住宅」の典型例である。
国	登録有形	旧長濱検疫所一号停留所（厚生労働省横浜検疫所検疫資料館）	きゅうながはまけんえきしょいちごうていりゅうじょ（こうせいろうどうしょうよこはまけんえきしょけんえきしりょうかん）		H30. 5. 10	横浜市	横浜市金沢区長浜107-8	国（厚生労働省）		明治中期／大正後期改修	木造平屋建、金属板葺	検疫対象者の旧宿泊施設。切妻造鉄板葺、コの字形平面で、外壁は下見板張、上下(あげさげ)窓を基調としながら突出部の先端にベイウィンドウを用いて変化を付ける。横浜最古級の洋風建築として貴重な存在。

横浜市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	總持寺仮真殿	そうじじかりしんでん		R5.8.7	横浜市	横浜市鶴見区	宗教法人大本山總持寺		明治44年	木造平屋建、瓦葺	能登から鶴見への本山移転に際し御真牌を祀った開山堂で、現在は位牌堂。入母屋造平入桟瓦葺、正面側に切妻造相の間を設け、疑宝珠高欄付階段とその両側の廊下で信徒位牌堂と繋がる独特な構成。内部は一室で格天井と位牌壇を備え、背面で納骨堂の常照殿と繋がる。
国	登録有形	總持寺虎嘯窟渡廊下	そうじじこしょうくつわたりろうか		R5.8.7	横浜市	横浜市鶴見区	宗教法人大本山總持寺		明治44年頃	木造平屋建、瓦葺	放光堂と虎嘯窟を矩折に繋ぐ渡廊下。切妻造桟瓦葺、組物舟肘木、真壁造格子窓腰板張とする。虎嘯窟側に玄関を屋根葺下ろしで設け、放光堂寄り二間を二重虹梁蟇股として屋根を切上げ、床組み太鼓橋状にして床下を通路とする。貫首が使用した造りの良い渡廊下。
国	登録有形	河合家住宅（旧横浜市営外国人住宅）主屋	かわいけじゅうたく（きゅうよこはましえいがいこくじんじゅうたく）おもや		R5.8.7	横浜市	横浜市中区山手町	個人		昭和４年／同39年頃・平成26年改修	木造平屋建、鉄板葺	旧山手居留地の南部丘陵に所在する洋風住宅で、関東大震災後に横浜市が建築した外国人住宅。切妻造平屋建、角屋部分半切妻造。柱頭飾り付円柱の玄関ポーチが特徴的。内部は居間中心の平面で、居間と食堂に暖炉を備える。震災復興の公営外国人住宅として貴重。
国	登録有形	中嶋家住宅（旧ピゴット邸）主屋	なかじまけじゅうたく（きゅうぴごっとてい）おもや		R5.8.7	横浜市	横浜市中区山手町	個人		大正14年／昭和55年・平成６年改修	木造二階建、鉄板葺	旧山手居留地に建つ大きな切妻屋根と太い円柱の玄関ポーチが特徴の洋館。内部はベイウィンドウ付食堂を中心に諸室を配置、応接間と食堂、居間に暖炉を置く。二階は屋根裏部屋の個室を設け、元は南面をサンルームとした。震災後の外国人住宅として貴重。
国	登録有形	旧川本家住宅主屋	きゅうかわもとけじゅうたくおもや		R6.8.15	横浜市	横浜市西区西戸部町	京浜急行電鉄株式会社		昭和８年	木造平屋一部二階建、瓦葺一部鉄板葺	横浜港北西の丘陵に位置する旧家。 京浜電気鉄道の隧道開削に伴い新築した平屋建。内部は廊下や部屋境の棚の配置などで各室の独立性を高めた近代的な平面。寄木張床の応接室を含め外観和風で統一し、繊細な意匠の建具や随所に銘木を用いた良質な近代和風住宅。
国	登録有形	旧川本家住宅内蔵	きゅうかわもとけじゅうたくうちくら		R6.8.15	横浜市	横浜市西区西戸部町	京浜急行電鉄株式会社		明治32年／昭和８年移築	土蔵造二階建、瓦葺	主屋北西に接続する家財蔵。二階建切妻造妻入桟瓦葺で南北棟の小規模な土蔵で、外壁は漆喰塗仕上とし、軒に鉢巻を廻す。北面に二箇所の窓を開け、庇持送には繰形を付す。各階一室の板敷。隧道開削以前から存在しつつ、外観重厚ながら主屋と良く調和した土蔵。
国	登録有形	旧川本家住宅表門及び石垣	きゅうかわもとけじゅうたくおもてもんおよびいしがき		R6.8.15	横浜市	横浜市西区西戸部町	京浜急行電鉄株式会社		昭和８年頃	表門　木造、瓦葺、左右袖塀及び石段付石垣　石造	主屋玄関東側に配した表門と、敷地東面及び北面を矩折れに区画する石垣。緩やかな石段上に建つ表門は、間口一間切妻造平入桟瓦葺袖塀付きで屋根に起りを付す。石垣は凝灰岩のブラフ積で上部に低い石塀を載せる。いずれも丁寧なつくりで屋敷の表構えを整える。
国	登録有形	宮下家住宅主屋	みやしたけじゅうたくおもや		R6.12.3	横浜市	横浜市磯子区森	個人		昭和８年頃／昭和中期増築、令和５年改修	木造二階建、瓦葺	国道16号沿いの敷地に東面して建つ、旧別荘。木造二階建、外壁黄土色モルタル塗仕上の洋館と平屋の和館をL字に配す。洋館はエンタシス付角柱を飾る玄関廻りが特徴的で、和館は筬欄間など繊細なつくりの和洋折衷住宅。根岸湾の近代別荘開発の歴史を伝える。
国	登録記念物	山下公園	やましたこうえん		H19.2.6	横浜市	横浜市中区山下町	横浜市				関東大震災後の復興事業の一環として、横浜港に臨んで造成された日本で最初の臨海都市公園。保健・休養の場として重要な機能を持ち、園内にはインド水塔、石積護岸、石造バルコニーなど当時の公園施設が多く遺存するなど景趣に富む。

横浜市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録記念物	日本大通り	にほんおおどおり		H19.2.6	横浜市	横浜市中区日本大通	横浜市				慶応2年（1866）の大火後に、東の外国人居留地と西の日本人街を隔てる防火道路として明治4年（1871）に設計され、明治10年（1877）までに完成した横浜市関内の並木街路で、公園史上の意義が深く、風致に富んだ優秀な景趣を持つ。
国	登録記念物	横浜公園	よこはまこうえん		H19.2.6	横浜市	横浜市中区横浜公園	横浜市				明治9年（1876）に居留外国人と日本人がともに使える「彼我公園」として開園し、日本大通りとともに横浜の中心市街地における重要な空間軸を成してきた都市公園。

川崎市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	建造物	旧伊藤家住宅	きゅういとうけじゅうたく	１棟	S39.5.29	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市				江戸時代。旧所在川崎市金程。入母屋造茅葺。ヒロマ型平面で、前面の格子窓は17世紀末にさかのぼるものである。
国	建造物	旧北村家住宅	きゅうきたむらけじゅうたく	１棟	S41.12.5	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市				江戸時代（貞享4年の墨書）。旧所在秦野市堀山下。寄棟造茅葺。ヒロマ型平面をもつ民家である。
国	建造物	旧佐々木家住宅	きゅうささきけじゅうたく	１棟	S42.12.11	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市		附）寛保三亥年家普請人足諸入用帳、延享四年座敷普請入用覚帳		江戸時代（享保17年）。旧所在長野県南佐久郡八千穂村。寄棟造茅葺。土間側をカブト造としてある。
国	建造物	旧太田家住宅	きゅうおおたけじゅうたく	２棟	S43.4.25	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市		主屋・土間		江戸時代中期。旧所在茨城県笠間市。両棟とも寄棟造茅葺、土間を別棟とした分棟型民家である。
国	建造物	旧江向家住宅	きゅうえむかいけじゅうたく	１棟	S44.6.20	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市				江戸時代中期。旧所在富山県東礪波郡平村。切妻造妻入茅葺。五箇山地方の典型的な合掌造民家である。
国	建造物	旧工藤家住宅	きゅうくどうけじゅうたく	１棟	S44.12.18	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市				江戸時代。旧所在岩手県紫波郡紫波町。寄棟造茅葺。
国	建造物	旧作田家住宅	きゅうさくたけじゅうたく	２棟	S45.6.17	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市		主屋・土間		江戸時代中期。旧所在千葉県山武郡九十九里町。主屋寄棟造茅葺。土間寄棟造妻入茅葺。別棟造民家の典型である。
県	建造物	旧清宮家住宅	きゅうきよみやけじゅうたく	１棟	S46.3.30	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市				江戸時代初期。一重寄棟造。南面一部庇付。旧所在川崎市登戸。ヒロマ後半に小室をもち、周囲の間取り等も古式の民家である。
県	建造物	旧野原家住宅	きゅうのはらけじゅうたく	１棟	S46.3.30	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市				江戸時代後期。合掌造平入。旧所在富山県東礪波郡利賀村。庄川支流利賀川筋の民家である。
県	建造物	旧広瀬家住宅	きゅうひろせけじゅうたく	１棟	S46.3.30	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市				江戸時代中期。切妻造。旧所在山梨県塩山市上萩原。甲州型切妻民家として最も古い遺構の一つである。
県	建造物	旧山下家住宅	きゅうやましたけじゅうたく	１棟	S47.11.24	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市				江戸時代。合掌造。旧所在岐阜県大野郡御母衣村。現存の合掌造としては、比較的古く、かつ整備されている重要な遺構である。
県	建造物	旧鈴木家住宅	きゅうすずきけじゅうたく	１棟	S47.11.24	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市				江戸時代後期。寄棟造。旧所在福島県松川町。奥州街道の馬宿で、奥行が長い典型的な宿場建築である。
県	建造物	旧三澤家住宅	きゅうみさわけじゅうたく	１棟	S47.11.24	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市				江戸時代。切妻造。旧所在長野県伊那市西町。幕末の整備された町屋建築である。
県	建造物	影向寺薬師堂	ようごうじやくしどう	１棟	S52.8.19	川崎市	影向寺（宮前区野川419）	影向寺		附）厨子（1基）、銅板屋根替銘札（2枚）、薬師堂前石燈籠（1基）、境内出土古瓦（15個）、塔心礎（通称影向石1個）		江戸時代（造営銘札に元禄7年）。桁行5間梁行5間、寄棟造、内陣、外陣で構成され内部は中世以来の伝統的な密教本堂の形式によるものである。なお、当堂に関係する文化財も一括指定した。

川崎市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	建造物	旧岩澤家住宅	きゅういわさわけじゅうたく	1棟	S61.11.28	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市			S62.4.1　変更	江戸時代中期。寄棟造。旧所在愛甲郡清川村煤ヶ谷。神奈川県近世民家の古い特徴を示す民家である。
県	建造物	旧井岡家住宅	きゅういおかけじゅうたく	1棟	S61.11.28	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市		附）旧柱等部材11丁		江戸時代中期。切妻造。旧所在奈良市高畑町。奈良市付近の近世町屋の典型である。
県	建造物	旧菅原家住宅	きゅうすがわらけじゅうたく	1棟	H元.2.10	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市		附）祈祷札1枚		江戸時代。茅葺寄棟造、二面破風付。旧所在山形県東田川郡朝日村。東北豪雪地帯の特色をあらわしたはっぽう造りによる近世民家。
県	建造物	旧山田家住宅	きゅうやまだけじゅうたく	1棟	H9.2.10	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市				18世紀前期、平入り、切妻の合掌造の古例。越中に所在しながら飛騨の特徴を有する。
県	絵画	紙本金地著色　鳥合わせ図屏風	しほんきんじちゃくしょく　とりあわせずびょうぶ	6曲1双	S59.11.22	川崎市	長念寺（多摩区登戸1416）	長念寺				江戸時代。伝承によれば、永徳筆というが不明。めずらしい主題である鳥の鳴きくらべを描いている。
国	彫刻	木造　薬師如来両脇士像	もくぞう　やくしにょらいりょうきょうじぞう	3躯	M33.4.7	川崎市	影向寺（宮前区野川419）	影向寺				平安時代。一木造。量感に富むが、全体に彫り口は浅く、地方的な一種荒い作風を示す。
県	彫刻	木造　聖観音立像	もくぞう　しょうかんのんりゅうぞう	1躯	S41.7.19	川崎市	広福寺（多摩区枡形6-7-1）	広福寺				鎌倉時代。寄木造。髪の毛を高く結い上げた宋風を思わせる像である。
県	彫刻	木造　地蔵菩薩立像	もくぞう　じぞうぼさつりゅうぞう	1躯	S41.7.19	川崎市	広福寺（多摩区枡形6-7-1）	広福寺				平安時代。寄木造。後世の修理による削り直しが目立つが、全体として平安後期の風が認められる。
県	彫刻	木造　虚空蔵菩薩立像	もくぞう　こくぞうぼさつりゅうぞう	1躯	H4.11.20	川崎市	能満寺（高津区千年354）	能満寺				南北朝時代。寄木造。高く結い上げた宝髻、女性的な顔立などに宋元風の特色が認められる。
国	工芸	銅　錫杖頭	どう　しゃくじょうがしら	1柄	S35.6.9	川崎市		個人				平安時代。鋳銅製。宝塔、十一面観音、脇侍二天、僧形などを鋳出した優作である。
国	工芸	葵梶葉文染分辻が花染小袖	あおいかじはもんそめわけつじがはなそめこそで	1領	S46.6.22	川崎市	明長寺（川崎区大師本町10-22）	明長寺				桃山時代。綿を薄く入れた袷仕立の小袖で、身幅を広く、袖幅を狭くして振りがなく短い袖の形態に桃山時代の作風があらわれている。
県	工芸	鰐口（春日神社）	わにぐち（かすがじんじゃ）	1口	S44.12.2	川崎市		春日神社（中原区宮内4-12-2）				室町時代。全体としてふくらみの極めて少ない扁平な鰐口で、釣環の目との間が広くあいている。
県	工芸	太刀（銘国宗）	たち（めいくにむね）	1口	S29.3.30	川崎市	川崎市	個人				鎌倉時代。やや細身の太刀姿で、中心は少磨上となっている。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書亀山天皇宸翰御消息（嘉元三年八月五日）	しほんぼくしょかめやまてんのうしんかんごしょうそく	1幅	S15.5.3	川崎市	川崎市	個人				鎌倉時代。差出書、宛所ともにないが、『恒明親王立坊事書案』に本書と同内容の記述がみられることから、恒明親王宛ての御消息であるとされている。
国	書跡・典籍・古文書	宋拓隋啓法寺碑	そうたくずいけいほうじひ	1帖	S37.2.2	不明（川崎市）	不明					宋時代。

川崎市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	書跡・典籍・古文書	清原良枝遺誡（徳治三年四月十日）一 清原家代々譲状（十二通）一	きよはらのよしえゆいかい（とくじさんねんしがつとおか） きよはらけだいだいゆずりじょう（じゅうにつう）	2巻	S34.6.27	川崎市	国文学研究資料館（東京都立川市緑町10-3）	個人				鎌倉時代の作品。
国	考古資料	鬼瓦　伝奈良市大安寺出土	おにがわら　でんならしだいあんじしゅつど	1箇	S35.6.9	川崎市	奈良国立博物館（奈良県奈良市登大路町50）	個人				奈良時代。大安寺出土と伝えられ、ほぼ完形を保つ優品である。
国	考古資料	片口土器	かたくちどき	1口	S35.6.9	川崎市	東京国立博物館（東京都台東区上野公園13―9）	個人		埼玉県入間郡福岡村上福岡出土		縄文時代。
国	有形民俗文化財	旧船越の舞台	きゅうふなこしのぶたい	1棟	S51.8.23	川崎市	日本民家園（多摩区枡形7-1-1）	川崎市				三重県志摩郡大王町船越から移築。建物全体は間口17.960メートル、奥行11.817メートル。舞台間口10.840メートル、 奥行8.570メートル。廻り舞台の直径5.470メートル。花道長さ9.696メートル。幅1.350メートル。前に出語りあり1.818メートル。楽屋は下手溜にあり、舞台後と二階に道具置場兼楽屋がある。瓦葺。出語りの造りの美しさも特徴の一つ。
県	無形民俗文化財	沖縄民俗芸能	おきなわみんぞくげいのう		S51.10.19	川崎市		川崎沖縄芸能研究会		不定期	S29.3.30県無形文化財指定	江戸時代に能、歌舞伎の技法を参酌して構成したといわれる独特の古典美をもつ旧尚王家の式楽。
県	無形民俗文化財	小向の獅子舞	こむかいのししまい		H13.2.13	川崎市		小向獅子舞保存委員会		8月第2日曜日		享保年間に顕妙院日義上人が修得し伝授。大きなささら、両側から二人で打つ大太鼓、竜頭型獅子舞、明確な緩急、すり足の所作等が特徴の一人立三頭獅子舞。舞手は青年、仲立ちは小学生が担当。
県	無形民俗文化財	初山の獅子舞	はつやまのししまい		H13.2.13	川崎市		初山獅子舞保存会		10月第1日曜日		江戸初期の獅子頭が現存。一人立三頭獅子舞。舞手は小中学生。低姿勢の舞振り、観客からのおひねりを使って博打を打つ場面、剣獅子が雌獅子隠し役となるなどが特徴。
県	無形民俗文化財	菅の獅子舞	すげのししまい		H13.2.13	川崎市		菅獅子舞保存会		9月12日頃の休日		明和8年以前から。一人立三頭獅子舞で舞手は共に20歳以下の青年。獅子の足支度が脚絆・わらじ履きであることから「旅獅子」とも呼ばれる。物語性も豊か。
県選択	無形民俗文化財	川崎山王祭りの宮座式	かわさきさんのうまつりのみやざしき		H3.2.8	川崎市		稲毛神社氏子総代会		8月1～3日		神社に、専任の神職が置かれていなかった中世の神事の執行方法を伝える。関東では珍しい。
国	史跡	橘樹官衙遺跡群	たちばなかんがいせきぐん		H27.3.10	川崎市	高津区千年、宮前区野川		川崎市	H30.10.15、H31.2.26、R3.3.26 R3.10.10、R4.3.15 追加指定		橘樹官衙遺跡群は、7世紀後半の地方行政組織である評の役所の成立の背景や構造、そこから郡衙へと発展する過程やその後の廃絶に至るまでの経過をたどることができる遺跡である。 7世紀から10世紀の地方官衙の実態とその推移を知る上で重要である。
県	史跡	子母口貝塚	しぼくちかいづか		S32.2.19	川崎市	高津区子母口富士見台			川崎市管理		縄文時代早期後半の子母口式土器の標準遺跡。多摩川の沖積地をのぞむ台地上に立地する。
県	史跡	東高根遺跡	ひがしたかねいせき		S46.12.21	川崎市	宮前区神木本町			（県立公園）		弥生時代後期から古墳時代後期までの保存状態のよい住居跡。県立東高根森林公園として整備されている。

川崎市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	史跡	馬絹古墳	まぎぬこふん		S46.12.21	川崎市	宮前区馬絹			川崎市管理		古墳時代後期。第1室・第2室・玄室からなる石室は、奥行約9メートル、幅約3メートルの堂々としたものである。
県	史跡	西福寺古墳	さいふくじこふん		S55.9.16	川崎市	高津区梶ヶ谷			川崎市管理		六世紀中～後半。径29メートル、高さ5メートルの円墳。円筒埴輪片が発見されている。
県	天然記念物	東高根のシラカシ林	ひがしたかねのしらかしりん		S46.12.21	川崎市	宮前区神木本町2-10-1	神奈川県				シラカシ群集を中心とした常緑広葉樹林であり、関東平野の内陸台地の本来の植生状態をよく示している。
県	天然記念物	春日神社、常楽寺及びその周辺の樹叢	かすがじんじゃ、じょうらくじおよびそのしゅうへんのじゅそう		H4.2.14	川崎市	中原区宮内字白田耕地614 他	春日神社、常楽寺				市街地内に残された貴重な郷土林。
国	登録有形	二ヶ領用水久地円筒分水	にかりょうようすいくじえんとうぶんすい		H10.4.21	川崎市	川崎市高津区久地341	川崎市		昭和16年	RC	サイフォンの原理の応用により湧き上がった水を、円筒の周囲に配された4つの水路に分水する。この形式の分水施設は数多く作られたが、その初期の事例である。
国	登録有形	川崎河港水門	かわさきかこうすいもん		H10.9.2	川崎市	川崎市川崎区港町66地先	川崎市		昭和3年	RC	鉄筋コンクリートと金森式鉄筋煉瓦が併用される。門構頂部に果物をあしらった飾りを載せるなど土木構造物としては極めて装飾的で異彩を放っている。
国	登録有形	昭和電工川崎工場本事務所	しょうわでんこうかわさきこうじょうほんじむしょ		H11.8.23	川崎市	川崎市川崎区扇町28番地1	株式会社レゾナック		昭和6年	RC2	RC造り2階建、陸屋根の事務所建築で、正面中央に車寄を低平に突き出し、縦長の窓を並べた簡潔な外観意匠。昭和初期京浜工業地帯における工場事務所建築の代表的事例のひとつ。
国	登録有形	旧原家住宅稲荷社	きゅうはらけじゅうたくいなりしゃ		R1.12.5	川崎市	川崎市中原区小杉陣屋町	個人		明治後期／平成27年移築	木造平屋建、銅板葺	中原街道に面する旧家の稲荷社。屋敷地南寄りの覆屋内に北面して建ち、一間社流造銅板葺で、正面に軒唐破風を付す。小規模ながら上質なつくりの社殿。主屋は川崎市立日本民家園に移築している。
国	登録有形	旧原家住宅表門	きゅうはらけじゅうたくおもてもん		R1.12.5	川崎市	川崎市中原区小杉陣屋町	個人		明治後期／平成４年移築	木造、瓦葺	敷地南面中央に立つ一間薬医門。切妻桟瓦葺で、五平の本柱に縦長の冠木を渡す。簡素ながら良質なケヤキ材を用いており、旧家の屋敷構の一端を伝える。主屋は川崎市立日本民家園に移築している。
国	登録有形	北條鉄工事務所	ほうじょうてっこうじむしょ		R6.12.3	川崎市	川崎市川崎区鋼管通	北條鉄工株式会社		昭和37年	鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造三階建、鉄板葺	京浜工業地帯の一角に建つ鉄工所。一階は鉄骨鉄筋コンクリート造、二・三階は鉄骨造とし、三階の門型ラーメンに戦後隆盛した丸鋼のラチス梁を用いる。躯体は鋼材を自在に組合せ、外壁はモルタル洗出仕上とする。高度経済成長期の工場事務所の好例。
国	登録有形	北條鉄工原寸工場	ほうじょうてっこうげんすんこうじょう		R6.12.3	川崎市	川崎市川崎区鋼管通	北條鉄工株式会社		昭和37年	鉄骨造三階建、セメントスレート葺	事務所奥に接続し、鉄骨の溶接及び原寸図を作成した作業棟。桁行35メートルの鉄骨造三階建で、一階は吹放ちの溶接工場、二・三階は四周に水平窓を廻らし、採光に優れた無柱空間で、チョークなどで描く原寸図用の床が残り、昭和期の鉄骨製図を今に伝える。

川崎市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	北條鉄工旧シャーリング・製缶及びロール工場	ほうじょうてっこうきゅうしゃーりんぐ・せいかんおよびろーるこうじょう		R6.12.3	川崎市	川崎市川崎区鋼管通	北條鉄工株式会社		昭和37年	鉄骨造平屋建、セメントスレート葺	敷地東面に建つ鉄骨造の作業棟。切妻造セメントスレート葺東西棟の北に南北棟を接続。外壁波板鉄板張。かつて南半西が鉄板を切断するシャーリング工場、東が溶接を行う製缶工場、北半が曲げ加工をするロール工場とした。巨大な両開扉を吊る大規模工場。
国	登録有形	北條鉄工クレーンヤード	ほうじょうてっこうくれーんやーど		R6.12.3	川崎市	川崎市川崎区鋼管通	北條鉄工株式会社		昭和43年	鉄骨造平屋建、セメントスレート葺	道路に面し、事務所及び工場群に囲まれた、重量鉄骨の製作組立などを行う工場。山形鋼をリベット接合した箱型ラチス梁及び柱を組合せ大空間をつくり、東・南面を波板鉄板張、内部に天井走行クレーンを三列収容する。工場景観の要をなす地域のランドマーク。
国	登録有形	北條鉄工材料置場	ほうじょうてっこうざいりょうおきば		R6.12.3	川崎市	川崎市川崎区鋼管通	北條鉄工株式会社		昭和46年	鉄骨造平屋建、セメントスレート葺	事務所の北に位置する材料保管所。鉄骨造平屋建切妻造大波セメントスレート葺。ビルトH形鋼と高力ボルト接合がつくり出す大空間を波板鉄板で囲い、吹放しの西妻面から天井走行クレーンの桁を張り出す独特の外観。事業の発展と工場建築の技術的変遷を物語る。
国	登録記念物	禅寺丸柿	ぜんじまるがき		H19.7.26	川崎市	川崎市麻生区王禅寺他	個人				禅寺丸柿は、鎌倉時代前期に現在の川崎市麻生区王禅寺地内、星宿山王禅寺（せいしゅくざんおうぜんじ）の山中で発見され、果実の甘さが記録されたことにより日本で最古の甘柿とされている。日本最古の甘柿として江戸時代から戦後まで多く生産された。明治時代に誕生した柿生村の由来となった、この地域では重要なものである。
国	登録記念物	二ヶ領用水	にかりょうようすい		R2.3.10	川崎市	多摩区・高津区・中原区・幸区	川崎市	川崎市			慶長16年（1611年）、多摩川右岸の低地（稲毛領・川崎領）の新田開発を目的として開削された用水である。近代以降、桃・梨畑にも利用され、昭和になると工業用水としても利用された。近世・近現代の川崎の歴史を理解するうえで意義深い。

相模原市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	建造物	石井家住宅	いしいけじゅうたく	1棟	S46.12.28	相模原市	緑区澤井	個人		附）古図1枚		江戸時代（宝永2年）の、式台を持つ格式の高い民家。大工銘まであるめずらしいものである。
県	建造物	旧青柳寺庫裡	きゅうせいりゅうじくり	1棟	S56.7.17	相模原市	緑区大島3853-8	相模原市			S56.7.28　変更	江戸時代。大型の広間型民家の間取りと、庫裡の特色を併せ持つ。
県	建造物	小原宿本陣	おばらじゅくほんじん	1棟	H8.2.13	相模原市	緑区小原698-1	相模原市				江戸時代後期。本陣特有の座敷を構え、全体は江戸後期の養蚕民家の形式を示している。
県	建造物	石楯尾神社本殿	いわだておじんじゃほんでん	1棟	H8.2.13	相模原市	石楯尾神社（緑区佐野川3448）	石楯尾神社				16世紀末。津久井郡旧佐野川村の鎮守。蛙股、組物などに顕著な地方色が見られる。
県	絵画	紙本淡彩　十六羅漢図　久隅守景筆	しほんたんさい　じゅうろくらかんず　くすみもりかげひつ	16幅	S33.1.14	相模原市	県立歴史博物館（横浜市中区南仲通5-60）	光明寺（緑区青山2591）				江戸時代。十六幅の中の一幅に「守景筆」の落款があり狩野探幽門下の久隅守景の作と知られている。
県	絵画	絹本著色　夢窓疎石像	けんぽんちゃくしょく　むそうそせきぞう	1幅	H19.2.9	相模原市	県立歴史博物館（横浜市中区南仲通5-60）	光明寺（緑区青山2591）				優れた画質を有する南北朝時代の絵画で、月江正印の筆跡を画上に持ち、留学僧による請賛の経緯が分かることなどの諸点において、夢窓の頂相のなかで極めて重要な作品。
県	絵画	絹本著色　熊野権現影向図	けんぽんちゃくしょく　くまのごんげんようごうず	1幅	S34.3.6	相模原市	県立歴史博物館（横浜市中区南仲通5-60）	正念寺（緑区名倉3967）				室町時代中期。熊野権現の本地仏である阿弥陀如来が来迎印を結び山上にわきあがる雲より来迎する図である。
国	工芸	太刀　銘　定吉	たち　めい　さだよし	1口	S24.2.18	不明（相模原市）	不明					鎌倉時代。猪首切先、生ぶ茎。山城綾小路一派の作である。
国	工芸	短刀　銘　賀州住真景　貞治六年月日	たんとう　めい　かしゅうじゅうさねかげ　ていじろくねんつきひ	1口	S30.6.22	不明（相模原市）	不明					室町時代。平造、生中心（うぶなかご）。平造三ツ棟の短刀で僅かに反りがある。
県	工芸	鰐口（普門寺）	わにぐち（ふもんじ）	1口	S44.12.2	相模原市	普門寺（緑区中沢200）	普門寺				室町時代（銘文に暦応二年）。全体としてやや繊細な感じのする整った鰐口で、本県で最も古い作例である。
県	考古資料	津久井郡三ケ木遺跡出土品	つくいぐんみかげいせきしゅつどひん	4箇ほか	S36.3.14	相模原市	県立津久井高校（緑区三ケ木272-1）	神奈川県		弥生式壺形土器2個、弥生式甕形土器2個、弥生式土器破片一括		弥生時代。関東地方の弥生式土器のなかで古い位置を占めるもので、一部に「三ケ木式」の名称がある。
県	考古資料	相模原市田名向原遺跡の住居状遺構出土の旧石器時代石器群	さがみはらしたなむかいはらいせきのじゅうきょじょういこうしゅつどのきゅうせっきじだいせっきぐん	403点	H22.2.5	相模原市	相模原市立博物館（中央区高根3-1-15） 相模原市立史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館（中央区田名塩田3-23-11）	相模原市		附）その他の剥片等		本石器群は、最終氷期最寒冷期の相模川河畔に構築された住居状遺構に、原産地が多地域にわたる黒曜石の素材剥片を主体とした原料が持ち込まれ、尖頭器を中心とした石器製作が繰り返し行われたことにより形成されたものであり、当該期を代表する石器群であることとともに、旧石器時代後半という我が国最古といわれる建物跡である住居状遺構から出土したという点で、そこで行われた旧石器時代の人々の活動や他地域との交流、生活の仕組み等を解き明かす上で欠くことのできない学術的に貴重な資料である。

相模原市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国選択	無形民俗文化財	関東の大凧揚げ習俗	かんとうのおおだこあげしゅうぞく		H3.2.2	相模原市・座間市		相模の大凧文化保存会・座間市大凧保存会		5月4日～5日	所在地は神奈川県、埼玉県、千葉県の三県にわたる	端午の節句に行われ、子どもの成長祈願と凧合戦と呼ばれる競技の2要素をもつ大凧揚げ習俗。埼玉県東北部の江戸川流域、千葉県上総地方、神奈川県相模川流域の3地域で現在も盛んに行われている。
県	無形民俗文化財	下九沢の獅子舞	しもくざわのししまい		S51.10.19	相模原市		下九沢御嶽神社獅子舞保存会		8月26日	S36.7.4県無形文化財指定	角兵衛流の一人立ち三頭獅子舞。優美な江戸情緒をもつ衣装に、太鼓をもって舞う。
県	無形民俗文化財	大島の獅子舞	おおしまのししまい		S51.10.19	相模原市		大島諏訪明神獅子舞保存会		8月下旬の土曜日又は日曜日	S36.7.4県無形文化財指定	下九沢と同型の角兵衛流一人立ち三頭獅子舞。剣獅子の内側に「文政十二年」の修理年号がある。
県	無形民俗文化財	鳥屋の獅子舞	とやのししまい		S51.10.19	相模原市		鳥屋獅子舞保存会		8月の第2土曜日	S29.12.3県無形文化財指定	一人立ち三頭獅子舞。十七世紀に八王子市高槻から伝えられたものといわれる。獅子頭は竜頭型で重箱獅子の異名もある。
国	史跡	勝坂遺跡	かつさかいせき		S49.7.2	相模原市	南区磯部字勝坂				S55.10.22、S59.1.11、H18.1.26、R元.10.16追加指定	縄文時代中期の拠点的な集落跡であり、立体的で豪華な文様で飾られた勝坂式土器の標準遺跡である。本遺跡で最初に調査が行われた現指定地の谷を挟んだ東側等が追加指定された。
国	史跡	田名向原遺跡	たなむかいはらいせき		H11.1.28	相模原市	中央区田名塩田			相模原市所有		約一万五千年前の旧石器時代末の遺跡で、我が国最古の竪穴住居址状の遺構を伴うことで注目される。
国	史跡	寸沢嵐石器時代遺跡	すあらしせっきじだいいせき		S5.11.19	相模原市	緑区寸沢嵐		相模原市			縄文時代後期初めの敷石住居跡、長径は4.3メートルのほぼ楕円形の範囲に河原石を敷きならべたものである。
国	史跡	川尻石器時代遺跡	かわしりせっきじだいいせき		S6.7.31	相模原市	緑区谷ヶ原、久保沢、向原		相模原市		H13.1.29追加指定及び一部解除 H16.9.30、18.7.28、R2.3.10追加指定	神奈川県北西部、相模川北側河岸段丘上に位置する縄文時代中期から後期にかけての大規模な集落跡。竪穴住居のほか、敷石住居、配石遺構、配石墓など礫を多用した遺構が多く確認されている学史的にも著名な遺跡。
県	天然記念物	諏訪神社の大杉	すわじんじゃのおおすぎ		S28.12.22	相模原市	緑区青根1304	諏訪神社				諏訪神社の御神木。雄大なスギの単木で樹高45.5メートル、目通し9メートル、根回り12.5メートルに達する。
県	天然記念物	石楯尾神社（名倉）の二本杉と社叢	いわたておのじんじゃ（なぐら）のにほんすぎとしゃそう		S47.2.25	相模原市	緑区名倉4523他	石楯尾神社				ウラジロガシの群落は、自然林のおもかげを残している。また境内地の中央に二本杉がある。
県	天然記念物	キマダラルリツバメとその生息地	きまだらるりつばめとそのせいそくち		S52.11.18	相模原市	緑区（旧藤野町全域）	相模原市				幼生時にシリアゲアリと完全な共存をする特別な生態をもつ蝶で、個体数も極めて少ない。

相模原市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	天然記念物	カタクリの自生地	かたくりのじせいち		S53.6.23	相模原市	緑区牧野	個人				県内の数か所のカタクリ自生地の中でも、もっとも自然に近い状態で現存している。
県	天然記念物	ギフチョウとその生息地	ぎふちょうとそのせいそくち		S57.12.28	相模原市	緑区（旧藤野町全域）	相模原市				春の女神と称される愛らしいチョウ。太平洋側での分布の東限域に当たるが、県内では絶滅に瀕している。
国	登録有形	横浜市水道局青山水源事務所旧青山取水口	よこはましすいどうきょくあおやますいげんじむしょきゅうあおやましゅすいぐち		H10.10.9	相模原市	相模原市緑区青山3482	横浜市		明治30年	土木	取水地を道志川上流右岸に移した際の遺構。流木除けの鉄柵の内側に玉石を詰め、英国グラスゴーのレイドロー・アンド・サンズの鉄管2本立て直接取水する構造をとる。
国	登録有形	横浜市水道局青山水源事務所旧青山沈殿池	よこはましすいどうきょくあおやますいげんじむしょきゅうあおやまちんでんち		H10.10.9	相模原市	相模原市緑区青山3482	横浜市		明治30年	土木	コンクリート造、約30m角の規模で、2池に分け、法面を玉石貼りとする（第2次拡張時に約半分に縮小）。
国	登録有形	中村家住宅主屋	なかむらけじゅうたくしゅおく		H18.3.2	相模原市	相模原市南区磯部1734	相模原市		江戸末期	木造二階建	鎌倉大工の石井甚五郎の手による初期の擬洋風建築。
国	登録有形	神原家住宅長屋門	かんばらけじゅうたくながやもん		H18.10.18	相模原市	相模原市緑区牧野4204	個人		江戸後期	木造平屋建	規模が大きく、軒や小屋組に当初の形式を良好にとどめ、豪壮な屋敷構えを伝える。
国	登録有形	遠藤家住宅主屋	えんどうけじゅうたくしゅおく		H18.10.18	相模原市	相模原市緑区澤井583	個人		江戸後期	木造二階一部三階建	林業と養蚕業を営んだ農家の住宅。主屋は2階正面軒を高くつくり、せがい造とした木造2階建で、衣装蔵と穀蔵は扉廻り等に入念な漆喰仕上げの高度な技術を見せる。
国	登録有形	遠藤家住宅衣装蔵	えんどうけじゅうたくいしょうぐら		H18.10.18	相模原市	相模原市緑区澤井583	個人		明治末期	土蔵造二階建	
国	登録有形	遠藤家住宅穀蔵	えんどうけじゅうたくこくぐら		H18.10.18	相模原市	相模原市緑区澤井583	個人		文化7年	土蔵造二階建	
国	登録有形	和智家住宅主屋	わちけじゅうたくしゅおく		H18.10.18	相模原市	相模原市緑区名倉3788	個人		江戸末期	木造平屋一部二階建	式台を備え、書院造風座敷のある大規模な民家建築。
国	登録有形	旧笹野家住宅主屋	きゅうささのけじゅうたくしゅおく		H27.11.17	相模原市	相模原市緑区上九沢	相模原市		江戸末期／明治2年移築	木造平屋建／瓦葺	旧笹野家住宅は、養蚕などを手掛けた旧名主の住宅である。近村から移築した主屋は養蚕農家の特徴を備え、規模形式とも充実した近世民家建築である。左右に土間を配する長屋門とともに旧家の歴史的景観を形成する住宅である。
国	登録有形	旧笹野家住宅長屋門	きゅうささのけじゅうたくながやもん		H27.11.17	相模原市	相模原市緑区上九沢	相模原市		江戸末期	木造平屋建／鉄板葺	

横須賀市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	彫刻	木造　阿弥陀如来及両脇侍像(運慶作)	もくぞう　あみだにょらいおよびりょうきょうじぞう(うんけいさく)	3躯	T15.4.19	横須賀市	浄楽寺(芦名2-30-5)	浄楽寺		各の像内に梵字宝篋印陀羅尼等の記がある。 附)木造月輪形銘札3枚	S50.6.12追加指定	鎌倉時代。寄木造。内刳部に毘沙門天像の胎内銘札と同筆で陀羅尼呪文が書かれており、運慶一派の手によってつくられたものと思われる。
国	彫刻	木造　菩薩立像	もくぞう　ぼさつりゅうぞう	1躯	S47.5.30	横須賀市	満願寺(岩戸1-4-9)	満願寺				鎌倉時代。寄木造。運慶様の堂々たる量感をもった像。宋風様式に先行する作品である。
国	彫刻	木造　地蔵菩薩立像	もくぞう　じぞうぼさつりゅうぞう	1躯	S47.5.30	横須賀市	満願寺(岩戸1-4-9)	満願寺				鎌倉時代。寄木造。像の表現は菩薩像とほとんど共通し、同一作家の手によるものと考えられる。
国	彫刻	木造　不動明王・毘沙門天立像(運慶作)	もくぞう　ふどうみょうおう・びしゃもんてんりゅうぞう(うんけいさく)	2躯	S50.6.12	横須賀市	浄楽寺(芦名2-30-5)	浄楽寺		附)木造月輪形銘札2枚(各に種子、梵字宝篋印陀羅尼及び文治五年三月廿日平義盛芳縁小野氏、大仏師興福寺内相応院勾当運慶、執筆尋西等の記がある)	S38.9.20県指定	鎌倉時代。寄木造。玉眼、ずんぐりとしたプロポーションの造形。胎内の銘札により和田義盛夫婦を願主として運慶により造られたことが判明。
国	彫刻	木造　三浦義明坐像(御霊明神社安置)	もくぞう　みうらよしあきざぞう(ごれいみょうじんじゃあんち)	1躯	H5.1.20	横須賀市	満昌寺(大矢部1-5-10)	満昌寺				鎌倉時代末期の作。神格化されたやや異質な武人俗体肖像彫刻の古例として注目される。
国	彫刻	木造　観音菩薩坐像	もくぞう　かんのんぼさつざぞう	1躯	H10.6.30	横須賀市	清雲寺(大矢部5-9-20)	清雲寺			H3.2.8　県指定	南宋時代。京都泉涌寺の木造観音菩薩坐像とともに、わが国に遺存する南宋彫刻の代表的作例。
国	彫刻	木造　十二神将立像	もくぞう　じゅうにしんしょうりゅうぞう	12躯	H24.9.6	横須賀市	神奈川県立金沢文庫(横浜市金沢区金沢町142)	曹源寺			S41.7.19 県指定	鎌倉時代。作風から運慶周辺の仏師によるものと考えられる。12躯が完存し保存状態がよいことや、図像的に東国の十二神将像の起点となる特徴を具えていることでも注目される。
県	彫刻	木造　毘沙門天立像	もくぞう　びしゃもんてんりゅうぞう	1躯	S35.5.17	横須賀市	清雲寺(大矢部5-9-20)	清雲寺				鎌倉時代。寄木造。小像ながら四肢に力がこもっている。兜を別に作り、頭部に地髪を彫む。彩色にも当初のものを残している。
県	彫刻	木造　薬師如来坐像	もくぞう　やくしにょらいざぞう	1躯	S41.7.19	横須賀市	最宝寺(野比1-51-1)	最宝寺				鎌倉時代。寄木造。膝前の衣文の複雑な表現が強く、宋風の影響を強く感ぜられる。
国	工芸	短刀〈銘来国光／元徳二年以下切〉	たんとう〈めいらいくにみつ／げんとくにんえんいかきれ〉	1口	S30.2.2	不明 (横須賀市)	不明			附)獅子造腰刀拵		来国光の健全で出来のよい作。拵は江戸時代。
県	考古資料	横須賀市吉井貝塚出土の縄文時代早期の骨角牙器・貝製品	よこすかしよしいかいづかしゅつどのじょうもんじだいそうきのこっかくがき・かいせいひん	396点	H14.2.12	横須賀市	横須賀市自然・人文博物館(深田台95)	横須賀市				縄文時代早期後半。多種・多量の骨角牙器から構成され、この時代の多様な生産活動や精神生活を明らかにするうえで貴重な資料である。
国	歴史資料	スチームハンマー	すちーむはんまー	2基	H10.6.30	横須賀市	ヴェルニー記念館(東逸見町1-1)	横須賀市			H15.5.29追加指定	1865年オランダ製。横須賀製鉄所の建設にともないオランダから購入した。蒸気力で金属を鍛造する機械。

横須賀市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	歴史資料	東京湾第三海堡構造物（兵舎・観測所・探照灯・砲側庫）	とうきょうわんだいさんかいほうこうぞうぶつ（へいしゃ・かんそくじょ・たんしょうとう・ほうそくこ）	４基	H30. 3. 16	横須賀市	兵舎：横須賀市平成町 観測所・探照灯・砲側庫：横須賀市夏島町	横須賀市				我が国が近代国家として発展する中、首都防衛という当時の国家プロジェクトによって、東京湾周辺に築かれた「東京湾要塞」の一部。 東京湾第一海堡～第三海堡は、我が国初の本格的な人工島で、特に第三海堡は最も深い場所での建設であり、埋め立てや防波護岸工事などに当時の様々な最先端の土木技術が導入された。残された構造物は、全体のごく一部ではあるが、そのような当時において高まってきた我が国の近代土木技術の貴重な物証として高い価値を有す。
国	有形民俗文化財	三浦半島の漁撈用具	みうらはんとうのぎょろうようぐ	2,603点	S49.2.18	横須賀市	横須賀市自然・人文博物館（深田台95）	横須賀市				網漁具、漁船等は日本でも有数な所蔵。その他釣鈎製作用具、餌取用具、生簀、蛸壺、蛸の曳釣用具、磯漁の覗突（みつき）用具、漁撈信仰用具など多岐にわたるコレクション。
県	有形民俗文化財	鴨居の漁撈用具コレクション	かもいのぎょろうようぐこれくしょん	1件（258	S46.9.17	横須賀市	横須賀市自然・人文博物館（深田台95）	横須賀市				生産・生業に用いられる漁具を中心に集められたコレクションである。
国選択	無形民俗文化財	横須賀の虎踊	よこすかのとらおどり		H16.2.6	横須賀市		浦賀虎踊り保存会・中村町内会虎踊り保存会		６月中旬	S51.10.19県指定（浦賀虎踊り保存会）	全国的に数少ない芸能であり、伊豆下田から伝えられたという。特に本県のものは、和藤内、大唐人、十人余の唐児の踊りがあるのが特色であり、他にはない。
県	無形民俗文化財	虎踊	とらおどり		S51.10.19	横須賀市		浦賀虎踊り保存会		６月中旬	S47.4.11県無形文化財指定 H16.2.6国選択	全国的に数少ない芸能であり、伊豆下田から伝えられたという。特に本県のものは、和藤内、大唐人、十人余の唐児の踊りがあるのが特色であり、他にはない。
国	史跡	三浦安針墓	みうらあんじんのはか		T12.3.7	横須賀市	西逸見町		横須賀市			江戸時代初期に幕府高官として重要な地位を占めたイギリス人航海士ウィリアム・アダムスは、三浦に領地を与えられ三浦安針と呼ばれたが、本人と妻の供養塔が建てられている。
国	史跡	夏島貝塚	なつしまかいづか		S47.1.27	横須賀市	夏島		横須賀市			縄文時代早期の貝塚で各時期の貝層が累積しており、最下部の貝層から「夏島式土器」が出土した。
国	史跡	東京湾要塞跡 猿島砲台跡 千代ヶ崎砲台跡	とうきょうわんようさいあと さるしまほうだいあと ちよがさきほうだいあと		H27.3.10	横須賀市	横須賀市猿島、西浦賀		横須賀市			東京湾要塞跡は、明治時代に首都防衛のため陸軍によって東京湾岸一帯に築かれた要塞の遺跡である。 猿島砲台は明治17年(1884)に，千代ヶ崎砲台は同28年(1895)にそれぞれ竣工した沿海砲台である。 我が国近代の軍事、土木・建築技術の歴史を知る上で重要である。
県	史跡	茅山貝塚	かやまかいづか		S29.12.3	横須賀市	佐原					縄文時代早期末の貝塚で、明治時代からすでに知られていた。茅山式土器の標準遺跡である。
県	史跡	吉井貝塚を中心とした遺跡	よしいかいづかをちゅうしんとしたいせき		S48.11.2	横須賀市	吉井			S55.9.16 追加指定 横須賀市管理		縄文時代早期の茅山式土器を含む貝層を主体とする貝塚。平安時代末に怒田城のあったところとされる。
県	天然記念物及び名勝	天神島、笠島及び周辺水域	てんじんじま、かさじまおよびしゅうへんすいいき		S40.8.10	横須賀市	佐島及び芦名地先の水域		横須賀市	S50.10.17追加指定		動植物、地質の海陸共に貴重な自然が豊富な資料として狭い地域に調和している貴重な地域である。当該物件は天然記念物としても、県の指定を受けている。

横須賀市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	天然記念物	はまおもと	はまおもと		S28.12.22	横須賀市	佐島水尻1457-1～5及び1458	横須賀市				ヒガンバナ科の常緑多年草。佐島は分布北限域の一つ。自生限界は年平均気温14度の等温線とほぼ一致する。
県	天然記念物	大松寺林	だいしょうじりん		S51.8.20	横須賀市	小矢部3-1082-1、1076	大松寺				三浦半島の郷土林として残り少ない貴重な歴史を経た常緑広葉樹の寺林。
県	天然記念物	叶神社の社叢林	かのうじんじゃのしゃそうりん		S51.12.17	横須賀市	東浦賀町2-59-1他	叶神社				常緑広葉樹林が、社叢林として保護され、安定した自然林として残されている。
県	天然記念物	白髭神社の社叢林	しらひげじんじゃのしゃそうりん		S51.12.17	横須賀市	野比字中村261	白髭神社				海岸に面した神社林は風衝作用により低くおさえられ、厳しい立地条件に対応して成立するスダジイ林の典型。
県	天然記念物	三島社の社叢林	みしましゃのしゃそうりん		H4.2.14	横須賀市	武1-2749-1他	三島社				アカガシ、スダジイ、モチノキが混生した常緑広葉樹林。
国	登録有形	横須賀市水道局走水水源地煉瓦造貯水池	よこすかしすいどうきょくはしりみずすいげんちれんがづくりちょすいち		H12.2.15	横須賀市	横須賀市走水1-1-26	横須賀市		明治35年	煉瓦	上屋付き煉瓦造貯水池。内部空間を扁平ヴォールトが、入口・丸窓を左右対称に配した壁面で覆われ、屋上は盛土される。
国	登録有形	横須賀市水道局走水水源地鉄筋コンクリート造浄水池	よこすかしすいどうきょくはしりみずすいげんちてっきんこんくりーとづくりじょうすいち		H12.2.15	横須賀市	横須賀市走水1-1-26	横須賀市		明治41年	RC	上屋付き浄水池。内部は鉄筋コンクリートの5連馬蹄形ヴォールトで構成され、外壁には石で縁取りされた丸窓を一列に配す。
国	登録有形	日本基督教団横須賀上町教会・付属めぐみ幼稚園	にほんきりすときょうだんよこすかうわまちきょうかい・ふぞくめぐみようちえん		H15.3.18	横須賀市	横須賀市上町2-43	宗教法人日本基督教団横須賀上町教会		昭和5年頃／昭和25年増築	木造1一部2階	外装下見張で、尖頭アーチ型の上げ下げ窓を礼拝堂の各側面に配する。切妻屋根の道路側に設けられた塔屋に十字架を掲げる。
国	登録有形	横須賀市上下水道局逸見浄水場緩速ろ過池調整室Ⅰ	よこすかしじょうげすいどうきょくへみじょうすいじょうかんそくろかちちょうせいしついち		H17.7.12	横須賀市	横須賀市西逸見町2-10	横須賀市上下水道局		大正8年	鉄筋コンクリート造平屋建	緩速ろ過池の各調整室は同形式のRC平屋建で、アングル材を用いて組み上げられた鉄骨を3基並べRC造スラブを支える珍しい構造形式。 配水池の各入口は同形式のRC造、直線を基調としたセセッション風の幾何学的デザインでランドマーク的な構造物。 ベンチュリーメーター室は近代水道の仕組を今に伝える貴重な施設。
国	登録有形	横須賀市上下水道局逸見浄水場緩速ろ過池調整室Ⅱ	よこすかしじょうげすいどうきょくへみじょうすいじょうかんそくろかちちょうせいしつに		H17.7.12	横須賀市	横須賀市西逸見町2-10	横須賀市上下水道局		大正8年	鉄筋コンクリート造平屋建	
国	登録有形	横須賀市上下水道局逸見浄水場緩速ろ過池調整室Ⅲ	よこすかしじょうげすいどうきょくへみじょうすいじょうかんそくろかちちょうせいしつさん		H17.7.12	横須賀市	横須賀市西逸見町2-10	横須賀市上下水道局		大正8年	鉄筋コンクリート造平屋建	
国	登録有形	横須賀市上下水道局逸見浄水場緩速ろ過池調整室Ⅳ	よこすかしじょうげすいどうきょくへみじょうすいじょうかんそくろかちちょうせいしつよん		H17.7.12	横須賀市	横須賀市西逸見町2-10	横須賀市上下水道局		大正8年	鉄筋コンクリート造平屋建	
国	登録有形	横須賀市上下水道局逸見浄水場配水池東入口	よこすかしじょうげすいどうきょくへみじょうすいじょうはいすいちひがしいりぐち		H17.7.12	横須賀市	横須賀市西逸見町2-10	横須賀市上下水道局		大正8年	鉄筋コンクリート造	
国	登録有形	横須賀市上下水道局逸見浄水場配水池西入口	よこすかしじょうげすいどうきょくへみじょうすいじょうはいすいちにしいりぐち		H17.7.12	横須賀市	横須賀市西逸見町2-10	横須賀市上下水道局		大正8年	鉄筋コンクリート造	
国	登録有形	横須賀市上下水道局逸見浄水場ベンチュリーメーター室	よこすかしじょうげすいどうきょくへみじょうすいじょうべんちゅりーめーたーしつ		H17.7.12	横須賀市	横須賀市西逸見町2-10	横須賀市上下水道局		大正8年	鉄筋コンクリート造平屋建	

横須賀市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	髙橋家住宅主屋	たかはしけじゅうたくおもや		R4.2.17	横須賀市	横須賀市本町	個人		昭和11年	木造平屋一部2階建、瓦葺	どぶ板通り南の丘陵に西面する米穀商の住宅。道に面して入母屋造の玄関を付す和館の北に、切妻造妻入フランス瓦葺の洋館を接続する。内部はL字形平面で玄関から東へ片廊下を延ばし、北に座敷など和室三室を並べる。和洋の意匠を並置し横須賀の歴史を物語る。
国	登録有形	西﨑家住宅(船越町洋館付き住宅)主屋	にしざきけじゅうたく(ふなこしちょうようかんつきじゅうたく)おもや		R4.2.17	横須賀市	横須賀市船越町	個人		昭和13年／昭和47年、令和元年改修	木造平屋建、瓦葺	長浦湾を見下ろす丘陵に南面する元御用商人の住宅。西半を洋館、東半を和館とし、正面中央に入母屋造の玄関を突出する。洋館はスティックスタイル風とし、屋根は半切妻とする。和館は続き座敷を配し、南西に縁を巡らす。高台にあって地域の景観を形成する住宅。
国	登録有形	穴澤家住宅座敷蔵	あなざわけじゅうたくざしきぐら		R6.12.3	横須賀市	横須賀市西浦賀	個人		大正５年／昭和63年頃・平成27年改修	木骨石造二階建、瓦葺	浦賀港西岸に位置し、通りに東面する、旧商家の座敷蔵。桁行8.6メートル、梁間5.8メートル、凝灰岩を馬乗り目地で積んだ木骨石造二階建切妻造平入で正面全幅に深い下屋を張出す。二階座敷は吟味した良材で造作。近代浦賀の繁栄を物語る貴重な座敷蔵。

平塚市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	建造物	光明寺本堂内厨子	こうみょうじほんどうないずし	1基	S45.6.17	平塚市	光明寺 （南金目896）	光明寺		附）木造聖観音立像	S38.9.20県指定	室町時代。一間厨子。入母屋造。本瓦形板葺。なお前立の木造聖観音像の胎内銘に明應7年とある。
県	建造物	妙覚寺四脚門	みょうかくじしきゃくもん	1棟	S48.12.21	平塚市	妙覚寺 （上吉沢388）	妙覚寺				室町時代、本県にはめずらしい室町様式の小規模な四脚門である。
県	建造物	光明寺観音堂	こうみょうじかんのんどう	1棟	S54.2.16	平塚市	光明寺 （南金目896）	光明寺				江戸時代（明應7年創建の前身堂の部材がある）。桁行5間梁行6間宝形造向拝附。内部は内陣、外陣を仕切る密教本堂の形式である。
国	彫刻	木造　不動明王立像	もくぞう　ふどうみょうおうりゅうぞう	1躯	S8.1.23	平塚市	八剣神社（下吉沢712）	八剣神社				平安時代。一木造。藤原様式の優美な像。製作は非常に優れ、中央から移入されたとの説もある。
県	彫刻	木造　金剛力士立像	もくぞう　こんごうりきしりゅうぞう	2躯	H3.2.8	平塚市	光明寺（南金目896）	光明寺				南北朝時代。一木造。量感があり力強い。県下はもちろん、関東においても屈指の作である。
県	彫刻	木造　大日如来坐像	もくぞう　だいにちにょらいざぞう	1躯	H3.2.8	平塚市	高林寺（四之宮342）	高林寺				鎌倉時代。寄木造。高く結い上げた宝髻、腰部の波状表現などに宋風の影響が認められる。
県	彫刻	木造阿弥陀如来立像	もくぞうあみだにょらいりゅうぞう	1躯	R7.3.18	平塚市	善福寺（平塚市広川691）	善福寺				鎌倉時代。寄木造、玉眼嵌入。表面の丹下地金泥塗りや着衣部の切金文様が良好な状態で残る。足裏に枘を作らず台座に固定し、手先が当初から銅製であるなどの特徴をもつ。
県	工芸	銅鐘（光明寺）	どうしょう（こうみょうじ）	1口	S38.9.20	平塚市	光明寺 （南金目896）	光明寺		正平七年清原国口作の銘がある		室町時代（銘に正平七年）。やや細まって見える鐘で、目立たぬが南北朝鐘の特徴をよく現している。
県	有形民俗文化財	正福寺の庚申塔	しょうふくじのこうしんとう	1基	H18.2.14	平塚市	正福寺 （大島813）	正福寺				刻像は四臂青面金剛と二猿。明暦二年霜月の紀年銘と「相州大島郷為寒念仏供口造立為浮図一基者也」の銘がある。石塔研究や民間信仰史を明らかにする上で貴重な石塔。
県	有形民俗文化財	長楽寺の庚申塔	ちょうらくじのこうしんとう	1基	H18.2.14	平塚市	長楽寺（札場町15-42）	長楽寺				紀年銘はなく、刻像は四臂青面金剛と二猿。刻銘は台部にあり、「片倉[ ]母　為妙口逆修也」など、人名や「逆修也」の刻銘が並んでいる。石塔研究や民間信仰史を明らかにする上で貴重な石塔。
県	無形民俗文化財	相模人形芝居	さがみにんぎょうしばい		S57.2.9	平塚市・南足柄市		前鳥座・足柄座		不定期		国指定の相模人形芝居三座と同じく三人遣い。鉄砲差し操法による古い伝統を持つ人形芝居である。
国	史跡	五領ヶ台貝塚	ごりょうがだいかいづか		S47.7.29	平塚市	広川字五領ヶ台			平塚市所有		縄文時代中期初頭の五領ヶ台式土器の標準遺跡。
国	登録有形	旧横浜ゴム平塚製造所記念館	きゅうよこはまごむひらつかせいぞうしょきねんかん		H16.7.23	平塚市	平塚市浅間町1-1	平塚市		明治39年頃	木造平屋	日英合弁の日本爆発物製造株式会社の支配人室として建設。木造平屋建で、ヴェランダやベイウィンドーなどが特徴。屋根は鉄板葺で、南東に塔屋を頂き、外壁はドイツ下見板張とする。創建当初の姿を良く残し、小規模ながら明治期の木造洋風建築の佳品といえる。

平塚市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	原家住宅主屋	はらけじゅうたくしゅおく		H31.3.29	平塚市	平塚市	原ビルディング株式会社		明治中期／昭和前期・平成元年改修	木造平屋建、金属板葺	原家住宅は主屋、茶室、土蔵及び旧長屋門等から構成される。主屋は、敷地中央に南面して建つ。入母屋造鉄板葺の平屋建で、県中部の伝統的な民家形式を踏襲した近代の和風住宅。
国	登録有形	原家住宅茶室	はらけじゅうたくちゃしつ		H31.3.29	平塚市	平塚市	原ビルディング株式会社		明治中期	木造平屋建、茅葺	原家住宅は主屋、茶室、土蔵及び旧長屋門等から構成される。茶室は、主屋の西側に建つ。寄棟造茅葺で、皮付材を多用した野趣に富む意匠でまとめる。近代における上層農家の暮らしの一端を伝えている。
国	登録有形	原家住宅土蔵	はらけじゅうたくどぞう		H31.3.29	平塚市	平塚市	原ビルディング株式会社		明治中期／平成元年改修	土蔵造２階建、金属板葺	原家住宅は主屋、茶室、土蔵及び旧長屋門等から構成される。土蔵は、主屋の東側に西面して建つ。土蔵造二階建、切妻造鋼板葺で、正面中央に扉口を設けて下屋を付す。外壁はモルタル塗の腰洗出し仕上。県中部の農家の伝統的な屋敷構えを伝える。
国	登録有形	原家住宅旧長屋門	はらけじゅうたくきゅうながやもん		H31.3.29	平塚市	平塚市	原ビルディング株式会社		江戸後期／昭和21年・平成２年移築	木造平屋建、銅板葺	原家住宅は主屋、茶室、土蔵及び旧長屋門等から構成される。旧長屋門は、敷地後方の高台に南面して建つ。埼玉県東松山市の寺院から移築したもの。寄棟造銅板葺の平屋建で、間口十三間の中央三間を門口とする。簡素ながら規模雄大なつくりで、近世における長屋門の一形式を伝える。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国宝	建造物	円覚寺舎利殿	えんがくじしゃりでん	1棟	S26.6.9	鎌倉市	円覚寺（山ノ内409）	円覚寺				室町時代前期。禅宗様建築の代表作。旧太平寺の仏殿を室町時代末に移築したものと考えられている。
国	建造物	鶴岡八幡宮大鳥居（一の鳥居）	つるがおかはちまんぐうおおとりい（いちのとりい）	1基	M37.8.29	鎌倉市	由比ガ浜2-1082	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）				江戸時代（寛文8年）。源頼朝の創建以来幾度かの造替を経て、現在のものは徳川秀忠夫人の遺願により建てられたものである。
国	建造物	建長寺仏殿	けんちょうじぶつでん	1棟	T11.4.13	鎌倉市	建長寺（山ノ内8）	建長寺				江戸時代、寛永創立の芝増上寺の崇源院霊牌所本殿を正保4年に移築したと思われ、禅宗様の内でも自由かっ達な処理が認められる。
国	建造物	建長寺昭堂	けんちょうじしょうどう	1棟	T11.4.13	鎌倉市	建長寺（山ノ内8）	建長寺				江戸時代。方5間の寄棟造に大きな茅葺屋根をあげた禅宗様式の簡素な建築。重要文化財の指定を受けた禅宗寺院昭堂の中では最大級。
国	建造物	建長寺唐門	けんちょうじからもん	1棟	T11.4.13	鎌倉市	建長寺（山ノ内8）	建長寺				江戸時代初期。正保4年幕府より賜った廟門である。全体の気分もよく、桃山時代の作風がある。
国	建造物	覚園寺開山塔	かくおんじかいさんとう	1基	S9.1.30	鎌倉市	覚園寺（二階堂421）	覚園寺				鎌倉時代。関東形宝篋印塔の代表作。修理の際開山骨蔵器、墨釉壺、銅製五輪塔、銘石が発見された。
国	建造物	覚園寺大燈塔	かくおんじだいとうとう	1基	S9.1.30	鎌倉市	覚園寺（二階堂421）	覚園寺				鎌倉時代。開山塔とほとんど同形同大の塔。塔内で古瀬戸壺、銅製台付の水晶五輪塔などが発見された。
国	建造物	建長寺大覚禅師塔	けんちょうじだいがくぜんじとう	1基	S9.1.30	鎌倉市	建長寺（山ノ内8）	建長寺				鎌倉時代末。鎌倉地方における石造無縫塔の代表例であり、保存状態がよく、後世補修のあとがない。
国	建造物	極楽寺忍性塔	ごくらくじにんしょうとう	1基	S9.1.30	鎌倉市	極楽寺（極楽寺3-6-7）	極楽寺				鎌倉時代末。銘文はないが忍性塔と伝わる花崗岩製の大五輪塔である。
国	建造物	浄光明寺五輪塔	じょうこうみょうじごりんとう	1基	S13.8.26	鎌倉市	浄光明寺（扇ガ谷2-12-1）	浄光明寺				鎌倉時代末。地輪の下方から「多宝寺覚賢長老遺骨也嘉元4年3月16日入滅」と刻んだ骨壺が発見された。
国	建造物	極楽寺五輪塔	ごくらくじごりんとう	1基	S28.8.29	鎌倉市	極楽寺（極楽寺3-6-7）	極楽寺				鎌倉時代。台座正面に刻銘があり、鎌倉地方の年代の明らかで形の整った五輪塔として貴重な塔である。
国	建造物	安養院宝篋印塔	あんよういんほうきょういんとう	1基	S29.3.20	鎌倉市	安養院（大町3-1-22）	安養院				鎌倉時代。相輪は後補。台座上部の蓮弁および側面の格狭間は、よく時代の特徴をあらわしている。
国	建造物	旧一条恵観山荘	きゅういちじょうえかんさんそう	1棟	S39.5.26	鎌倉市	浄明寺5-1-23	一般財団法人一条恵観山荘（浄明寺5-1-10）			S35.5.17県指定	江戸時代初期。旧所在京都府京都市北区西賀茂川上町。江戸時代初期の貴族の茶屋の傑出した遺構である。
国	建造物	鶴岡八幡宮末社丸山稲荷社本殿	つるがおかはちまんぐうまっしゃまるやまいなりしゃほんでん	1棟	S42.6.15	鎌倉市	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）	鶴岡八幡宮				室町時代。関東における純粋で本格的な和様中世神社本殿として重要な建物である。
国	建造物	旧石井家住宅	きゅういしいけじゅうたく	1棟	S44.6.20	鎌倉市	龍宝寺（植木128）	龍宝寺				江戸時代中期。旧所在鎌倉市関谷。神奈川県民家の主流をなす。ヒロマ型で四方下屋造の代表民家である。
国	建造物	鶴岡八幡宮上宮	つるがおかはちまんぐううえみや	3棟	H8.7.9	鎌倉市	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）	鶴岡八幡宮		附）普請文書3巻		文政再建時のもの。回廊が巡る一郭の内部中軸線上に本殿、幣殿、及び拝殿が工字型に接続。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	建造物	鶴岡八幡宮摂社若宮	つるがおかはちまんぐうせっしゃわかみや	1棟	H8.7.9	鎌倉市	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）	鶴岡八幡宮		附）棟札1枚	S30.8.30県指定	徳川秀忠による寛永造替時のもの。本殿、幣殿及び拝殿が工字型に接続する複合社殿。
国	建造物	光明寺本堂	こうみょうじほんどう	1棟	H11.12.1	鎌倉市	光明寺（材木座6-17-19）	光明寺				元禄11年建立。現存する鎌倉近世仏殿のうち最大。桁行9間、梁間11間、入母屋造銅板葺。
国	建造物	荏柄天神社本殿	えがらてんじんしゃほんでん	1棟	H17.7.22	鎌倉市	荏柄天神社（二階堂74）	荏柄天神社				鶴岡八幡宮の若宮本殿を移築したもので、鶴岡八幡宮の室町時代に遡る主要社殿を伝える唯一の例として重要である。内外ともに細部の意匠も優れ、中世鎌倉における社殿の様式を知る上で貴重な遺構である。
国	建造物	建長寺山門	けんちょうじさんもん	1棟	H17.7.22	鎌倉市	建長寺（山ノ内8）	建長寺			S29.12.3県指定	禅宗様を基調とした三間二階二重門。三間二重門として東日本最大の規模を誇り、建長寺の近世伽藍再興の集大成といえる重要な建築である。
国	建造物	建長寺法堂	けんちょうじはっとう	1棟	H17.7.22	鎌倉市	建長寺（山ノ内8）	建長寺			S29.12.3県指定	方三間もこし付の仏堂で、禅宗様を基調としている。組物や軒廻りも大建築に応じた量感をもたせており、大型禅宗様仏堂として高い価値がある。
国	建造物	英勝寺	えいしょうじ	5棟	H25.8.7	鎌倉市	英勝寺（扇ガ谷1-16-3）	英勝寺		・仏殿　附）棟札4枚、扁額1面、梁牌2枚 山門　附）棟札2枚、扁額2面 ・祠堂　附）英勝院墓1基石造笠塔婆 ・鐘楼 ・祠堂門	仏殿・鐘楼・祠堂・祠堂門S31.8.17県指定　山門H15.2.10県指定	英勝寺は徳川家康の側室の英勝院が創建した寺院。各建物は江戸時代前期に建てられた主要な堂宇で、墓所と一体となって良好に保存されている点が貴重である。禅宗様と和様を自由に組合わせた意匠を持ち、屋根の弛みも軒の反りもつけない直線的な形状で統一されている点が独創的な造りである。
国	建造物	旧神奈川県立近代美術館	きゅうかながわけんりつきんだいびじゅつかん	1棟	R2.12.23	鎌倉市	鶴岡八幡宮境内（雪ノ下2-1-53）	鶴岡八幡宮		H28.11.22県指定		昭和26年竣工。ル・コルビュジエに師事した坂倉準三の代表的作品で、戦後日本のモダニズム建築のモデルであり、ル・コルビュジエの国立西洋美術館などとの影響関係を有し、日本における最初の公立近代美術館であるなど、学術的、歴史的に高い価値をもつ。また、近代的な材料と技術を積極的に採用し、日本の技術史上貴重である。
県	建造物	覚園寺本堂（薬師堂）	かくおんじほんどう（やくしどう）	1棟	S29.12.3	鎌倉市	覚園寺（二階堂421）	覚園寺				江戸時代。桁行5間梁間5間寄棟造。梁牌に源朝臣尊氏の銘文が残されている。
県	建造物	長勝寺法華堂	ちょうしょうじほっけどう	1棟	S44.5.20	鎌倉市	長勝寺（材木座2-12-17）	長勝寺				室町時代末。桁行5間梁間6間一重寄棟造。本県唯一の中世五間堂である。
県	建造物	建長寺西来庵唐門	けんちょうじせいらいあんからもん	1棟	S46.3.30	鎌倉市	建長寺（山ノ内8）	建長寺				江戸時代。一間平唐門。正保4年に芝の崇源院霊牌所から移築したもので、巧みな意匠で造られている。
県	建造物	杉本寺観音堂	すぎもとでらかんのんどう	1棟	S52.11.18	鎌倉市	杉本寺（二階堂903）	杉本寺		附）棟札2枚		江戸時代（棟札に延宝6年）。桁行5間梁間5間寄棟茅葺。内・外陣に分かれる中世密教本堂形式のものである。
県	建造物	常楽寺仏殿	じょうらくじぶつでん	1棟	S53.2.21	鎌倉市	常楽寺（大船5-8-29）	常楽寺		附）牌2点、板榜1点		江戸時代（元禄4年）建立。桁行梁行とも3間、床を石敷の土間床とする。小形禅宗様仏殿である。
県	建造物	旧内海家住宅	きゅううつみけじゅうたく	1棟	S53.11.17	鎌倉市	覚園寺（二階堂421）	覚園寺			S53.12.1　変更	江戸時代（宝永3年の墨書）。茅葺寄棟屋根。旧所在鎌倉市手広。神奈川県内で最も早い時期の四間取りの大型民家である。
県	建造物	円覚寺山門	えんがくじさんもん	1棟	H7.2.14	鎌倉市	円覚寺（山ノ内409）	円覚寺		附)円覚寺山門棟札1枚（鎌倉国宝館寄託）		江戸時代。3間2階二重門の禅宗様で、上層は周囲に擬宝珠高欄のついた縁がある。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	建造物	光明寺山門	こうみょうじさんもん	1棟	H13.2.13	鎌倉市	光明寺 （材木座6-17-19）	光明寺				江戸時代（弘化4年）建立。県下唯一の五間二階二重門。
国宝	絵画	紙本淡彩　十便図　池野大雅筆 紙本淡彩　十宜図　与謝蕪村筆	しほんたんさい　じゅうべんず　いけのたいがひつ　しほんたんさい　じゅうぎず　よさぶそんひつ	2帖	S26.6.9	鎌倉市	川端康成記念館 （長谷1-12-5）	財団法人川端康成記念会		宜風図に明和八年八月の年記がある	S10.4.30指定	江戸時代（明和8年）。清初の李漁笠翁の伊園十便十二宜の詩に基づいて大雅、蕪村がそれぞれ十図を描いて二帖としたものである。
国宝	絵画	絹本淡彩　蘭溪道隆像	けんぽんたんさい　らんけいどうりゅうぞう	1幅	S27.3.29	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	建長寺 （山ノ内8）		文永八年の自賛がある	M38.4.4指定	鎌倉時代（文永8年）。曲彖に坐す道隆（大覚禅師）58歳の時の頂相の像である。
国宝	絵画	紙本著色　当麻曼荼羅縁起	しほんちゃくしょく　たいままんだらえんぎ	2巻	S30.6.22	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	光明寺 （材木座6-17-19）		附）寛政五年松平定信添書1巻	M41.4.23指定	鎌倉時代。奈良当麻寺に伝わる浄土変相図当麻曼荼羅の織成伝説を描く絵巻。大和絵の正統を伝えている点で当代絵巻屈指の名作である。
国宝	絵画	紙本墨画　凍雲篩雪図　浦上玉堂筆	しほんぼくが　とううんしせつず　うらがみぎょくどうひつ	1幅	S40.5.29	鎌倉市	川端康成記念館 （長谷1-12-5）	財団法人川端康成記念会			S27.7.19指定	江戸時代。画面全体に雪の降る静かで寒ざむとした山中の世界を細やかな筆法で描いたものである。
国	絵画	絹本著色　仏涅槃図	けんぽんちゃくしょく　ぶつねはんず	1幅	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺 （山ノ内409）				鎌倉時代。釈迦の臨終を描いた作品。涅槃図に見られる道具立てをすべて備えており、肥痩のある描線がうすい彩色をとおして画面全体を支配していることが特色。
国	絵画	絹本著色　虚空蔵菩薩像	けんぽんちゃくしょく　こくぞうぼさつぞう	1幀	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺 （山ノ内409）				鎌倉時代末期。月輪中宝蓮座上に跏趺する虚空蔵菩薩。大和絵の手法を基調に多分に宋元様式を加味する。
国	絵画	絹本著色　五百羅漢像	けんぽんちゃくしょく　ごひゃくらかんぞう	33幅	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺 （山ノ内409）			S43.2.2 名称変更	北宋時代。張思恭筆と伝えるが、詳細は不明である。背景にある樹石の表現は保守的な北宋山水画風である。
国	絵画	絹本著色　十六羅漢像	けんぽんちゃくしょく　じゅうろくらかんぞう	8幅	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	建長寺 （山ノ内8）			S43.2.2 名称変更	室町時代。各幅にそれぞれ羅漢二人を大きく描く。中国画風的画風を顕著にそなえている。
国	絵画	絹本著色　釈迦三尊像	けんぽんちゃくしょく　しゃかさんぞんぞう	1幅	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	建長寺 （山ノ内8）			S43.2.2 名称変更	宋時代。総体に細微に彩色を施した、13世紀頃の宋朝風の華麗な絵である。
国	絵画	紙本淡彩　頬焼阿弥陀縁起	しほんたんさい　ほほやきあみだえんぎ	2巻	M33.4.7	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	光触寺 （十二所793）				鎌倉時代。本尊の阿弥陀如来像に関する伝説の絵巻物。
国	絵画	絹本著色　大覚禅師像	けんぽんちゃくしょく　だいがくぜんじぞう	1幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	建長寺 （山ノ内8）		霊石如芝の賛がある		元時代。大まかな筆致でよく禅師の風貌を描出している。もと京都南禅寺金地院にあったといわれている。
国	絵画	絹本著色　夢窓国師像	けんぽんちゃくしょく　むそうこくしぞう	1幅	M39.4.14	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	黄梅院 （山ノ内428）		自賛がある		室町時代。夢窓疎石は南北朝時代きっての名僧で、全国的に活躍したが鎌倉においても多数の寺で一世を風靡した。
国	絵画	絹本墨画　観音像	けんぽんぼくが　かんのんぞう	32幅	M41.4.23	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	建長寺 （山ノ内8）				鎌倉時代。絵は全体に古風な印象がある。岩や水流、草木を水墨画法で描き、くつろいだ姿勢の観音を配する。
国	絵画	紙本墨画　喜江禅師像	しほんぼくが　きこうぜんじぞう	1幅	M41.4.23	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	建長寺 （山ノ内8）		玉隠叟英›の賛がある		室町時代。喜江禅師の伝記は不明だが、画面上部に玉隠英›明応9年の賛があり、その事蹟にふれている。
国	絵画	絹本著色　当麻曼荼羅図	けんぽんちゃくしょく　たいままんだらず	1幅	M41.4.23	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	光明寺（材木座6-17-19）				鎌倉時代後期。形状は通途の当麻曼荼羅と同じだが、その寸法は原本の9分の1で九分一曼荼羅とも言われる。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	絵画	紙本著色　浄土五祖絵伝	しほんちゃくしょく　じょうどごそえでん	1巻	M41.4.23	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	光明寺（材木座6-17-19）		嘉元第三暦伝々の奥書がある		鎌倉時代。中国浄土宗の祖師5人の伝歴を描いた絵巻。中国水墨画の筆致を学んだと思われる表現がある。
国	絵画	絹本著色　十八羅漢及僧像	けんぽんちゃくしょく　じゅうはちらかんおよびそうぞう	19幅	M41.4.23	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	光明寺（材木座6-17-19）				鎌倉時代。総体に剥落は少なく、比較的厚での彩色もよく残っている。
国	絵画	絹本著色　被帽地蔵菩薩像	けんぽんちゃくしょく　ひぼじぞうぼさつぞう	1幅	M41.4.23	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）			S37.2.2名称変更	元時代。頭に頭巾を被った半迦の地蔵の下に、宮人、比丘を対い合せ、その中間に獅子を配した構図の例。
国	絵画	絹本著色　仏光国師像	けんぽんちゃくしょく　ぶっこうこくしぞう	1幅	T2.4.14	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）		弘安七年九月の自賛がある		鎌倉時代。円覚寺開山無学祖元の頂相で図上の自賛の弘安7年は歿する2年前に当たる。
国	絵画	紙本淡彩　跋陀婆羅像（宗淵筆）	しほんたんさい　ばっだばらぞう（そうえんひつ）	1幅	T2.4.14	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）				室町時代。十六羅漢中第六番目の抜陀婆羅の画。
国	絵画	紙本淡彩　鍾馗図（山田道安筆）	しほんたんさい　しょうきず（やまだどうあんひつ）	1幅	T14.4.24	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）				室町時代。紙本淡彩、幞頭冠の鍾馗像。右方に方形重廓朱文「山田口道口」の印がある。
国	絵画	紙本著色　玉隠和尚像	しほんちゃくしょく　ぎょくいんおしょうぞう	1幅	T14.4.24	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	明月院（山ノ内189）		自賛がある		室町時代。頂相画として、豊富な色彩をした宋風の肖像。上部に玉隠の自賛文がある。
国	絵画	絹本著色　之庵和尚像	けんぽんちゃくしょく　しあんおしょうぞう	1幅	S11.5.6	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	帰源院（山ノ内416）		元弘三年の自賛がある		南北朝時代。曲彖に法被をかけて右手に中圭をもった肖像画。七言古詩のあとに自賛を入れてある。
国	絵画	絹本著色　大覚禅師像（経行像）	けんぽんちゃくしょく　だいがくぜんじぞう（きんひんぞう）	1幅	S48.6.6	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	建長寺（山ノ内8）				鎌倉時代。自賛像に比べ静寂で繊細な画境を示す。画面はかなり燻んでいる。
国	絵画	紙本著色　浄土五祖絵（善導巻）	しほんちゃくしょく　じょうどごそえ（ぜんどうかん）	1巻	S50.6.12	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	光明寺（材木座6-17-19）			S33.1.14県指定 S50.6.12名称変更	鎌倉時代。本絵巻はこの善導の言行を語り図示しているものである。
国	絵画	絹本著色　八字文殊曼荼羅図	けんぽんちゃくしょく　はちじもんじゅまんだらず	1幅	H7.6.15	鎌倉市		個人				鎌倉時代始めの八字文殊曼荼羅図として現在最古の遺品。
国	絵画	紙本著色　紫式部日記繪詩残闕	しほんちゃくしょくむらさきしきぶにっきえことばざんけつ	1幅	S27.7.19	不明（鎌倉市）		不明				紫式部が中宮彰子に仕えた期間のうち、寛弘五年七月から約一年半にわたる生活等を記した「紫式部日記」の絵詩の一部。
県	絵画	絹本著色　花鳥図	けんぽんちゃくしょく　かちょうず	2幅	S28.12.22	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	報国寺（浄明寺2-7-4）				明時代。花、鳥、虫の細部にいたるまで実に刻銘に描写され、写生画として立派になりたつものである。
県	絵画	絹本著色　五百羅漢図	けんぽんちゃくしょく　ごひゃくらかんず	16幅	S28.12.22	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）				室町時代。一幅に十羅漢ずつ描いたもので、構図的にもかなり堅実な手法で細部に至るまで丁寧に描かれている。
県	絵画	絹本著色　十六羅漢図	けんぽんちゃくしょく　じゅうろくらかんず	16幅	S28.12.22	鎌倉市	県立歴史博物館（横浜市中区南仲通5-60）	円覚寺（山ノ内409）				鎌倉時代末期。宋元の新様の混入が認められるもので、十六幅を完備して全図様を知り得る貴重なものである。
県	絵画	絹本著色　仏鑑禅師像図	けんぽんちゃくしょく　ぶつかんぜんじぞうず	1幅	S29.7.27	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）		東陵永璵の賛がある		鎌倉時代。「仏鑑禅師」は無準師範といい禅師号は皇帝からの徽号である。衲衣に袈裟をかけた姿で描かれている。
県	絵画	絹本著色　羅漢図	けんぽんちゃくしょく　らかんず	1幅	S29.7.27	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	報国寺（浄明寺2-7-4）				室町時代。羅漢像として様式的に特色はないが、背後の衝立に水墨をもって山水画を描いている。
県	絵画	絹本著色　仏涅槃図	けんぽんちゃくしょく　ぶつねはんず	1幅	S33.1.14	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	宝戒寺（小町3-5-22）				鎌倉時代。この図の描法は新様を交え、釈尊を囲繞する諸聖衆諸天禽獣等の悲歓慟咢の表現も目に余る誇張もなく佳作である。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	絵画	絹本著色　在中広衍像	けんぽんちゃくしょく　ざいちゅうこうえんぞう	1幅	S40.5.14	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	報国寺（浄明寺2-7-4）				南北朝時代（嘉慶2年）。当画像は頂相としては珍しく墨画で描かれている。日本墨画の先駆的な作例である。
県	絵画	絹本著色　十六羅漢図	けんぽんちゃくしょく　じゅうろくらかんず	16幅	S57.2.9	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	建長寺（山ノ内8）				南北朝～室町時代。背景は描かず尊者を大きく描く。元時代の一群の作品を学んだものと思われる。
県	絵画	紙本著色　長谷寺縁起絵巻	しほんちゃくしょく　はせでらえんぎえまき	2巻	S59.11.22	鎌倉市	長谷寺（長谷3-11-2）	長谷寺				室町時代。奈良長谷寺の草創と十一面観音造立の由来を描いたものである。上・中二巻のみで、下巻を欠いている。
国宝	彫刻	銅造　阿弥陀如来坐像	どうぞう　あみだにょらいざぞう	1躯	S33.2.8	鎌倉市	高徳院（長谷4-2-28）	高徳院			M30.12.28指定	鎌倉時代。像高12.38メートル。鎌倉彫刻の円熟期の傑作。室町時代以降露座。いわゆる「鎌倉大仏」。県内国指定第一号。
国	彫刻	木造　北条時頼坐像	もくぞう　ほうじょうときよりざぞう	1躯	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	建長寺（山ノ内8）				鎌倉時代。寄木造。五代執権で建長寺開基である時頼の俗体武人像。強装束の躰部は簡潔にまとめられる。
国	彫刻	木造　上杉重房坐像	もくぞう　うえすぎしげふさざぞう	1躯	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	明月院（山ノ内189）				鎌倉時代。寄木造。烏帽子狩衣姿の俗体武士姿の肖像彫刻である。
国	彫刻	木造　地蔵菩薩坐像	もくぞう　じぞうぼさつざぞう	1躯	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	浄智寺（山ノ内1402）				鎌倉時代。寄木造。運慶作品の影響が色濃く認められるが、全体に形式化された感じが強い。
国	彫刻	木造　十一面観音立像(伝僧円仁作)	もくぞう　じゅういちめんかんのんりゅうぞう（でんそうえんにんさく）	1躯	M32.8.1	鎌倉市	杉本寺（二階堂903）	杉本寺				鎌倉時代。寄木造。表現にかなり古様が認められ、神経の細かくゆきとどいた作品である。
国	彫刻	木造　十一面観音立像(伝僧源信作)	もくぞう　じゅういちめんかんのんりゅうぞう（でんそうげんしんさく）	1躯	M32.8.1	鎌倉市	杉本寺（二階堂903）	杉本寺				鎌倉時代。寄木造。前代藤原様式の名残が認められる堅実な作品である。
国	彫刻	木造　菩薩面	もくぞう　ぼさつめん	1面	M33.4.7	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）				鎌倉時代。檜材製。表は布貼りサビ下地に漆箔で造られ、自然味の強い目鼻だちのまとめ方は鎌倉時代の菩薩像をみる思いがする。
国	彫刻	木造　聖観音立像	もくぞう　しょうかんのんりゅうぞう	1躯	M33.4.7	鎌倉市	東慶寺（山ノ内1367）	東慶寺				鎌倉時代。寄木造。土紋附で高く結い上げた頭髪などに宋風が認められる。太平寺より移されたと伝えられる。
国	彫刻	木造　地蔵菩薩立像	もくぞう　じぞうぼさつりゅうぞう	1躯	M41.4.23	鎌倉市	覚園寺（二階堂421）	覚園寺				鎌倉時代。寄木造。像の全体が薫香のためか黒色にかわり、黒地蔵と呼ばれ広く信仰を集めている。
国	彫刻	木造　釈迦如来立像	もくぞう　しゃかにょらいりゅうぞう	1躯	M41.4.23	鎌倉市	極楽寺（極楽寺3-6-7）	極楽寺				鎌倉時代。寄木造。清涼寺式釈迦像の忠実な模造のひとつである。
国	彫刻	木造　釈迦如来坐像	もくぞう　しゃかにょらいざぞう	1躯	M41.4.23	鎌倉市	極楽寺（極楽寺3-6-7）	極楽寺				鎌倉時代。寄木造。全国でも珍しい転法輪の印を結ぶ。
国	彫刻	木造　不動明王坐像	もくぞう　ふどうみょうおうざぞう	1躯	T8.4.12	鎌倉市	極楽寺（極楽寺3-6-7）	極楽寺				平安時代。一木造。通例の不動明王像。大正年間に移入された。
国	彫刻	木造　阿弥陀如来及両脇侍立像	もくぞう　あみだにょらいおよびりょうきょうじりゅうぞう	3躯	T12.8.4	鎌倉市	光触寺（十二所793）	光触寺				鎌倉時代。寄木造。寺伝では同寺に伝わっている頬焼阿弥陀縁起絵巻に出てくるのは本像であるとする。
国	彫刻	木造　十大弟子立像	もくぞう　じゅうだいでしりゅうぞう	10躯	T14.4.24	鎌倉市	極楽寺（極楽寺3-6-7）	極楽寺				鎌倉時代。寄木造。鎌倉様式の特色を示す作。十大弟子像の最後を飾る貴重な一群である。
国	彫刻	木造　地蔵菩薩立像	もくぞう　じぞうぼさつりゅうぞう	1躯	T14.4.24	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	寿福寺(扇ガ谷1-17-7)				鎌倉時代。一木造。蓮華座まで一木から作り、内刳りもないこの時代には珍しい構造の像である。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	彫刻	木造　阿弥陀如来及両脇侍坐像	もくぞう　あみだにょらいおよびりょうきょうじざぞう	3躯	T14.4.24	鎌倉市	浄光明寺（扇ガ谷2-12-1）	浄光明寺				鎌倉時代。寄木造。典型的な土紋が多く残る。宋風の強い鎌倉様式の典型作の一つである。
国	彫刻	木造　歓喜天立像	もくぞう　かんぎてんりゅうぞう	1躯	T14.4.24	鎌倉市	宝戒寺（小町3-5-22）	宝戒寺				鎌倉時代。寄木造。象頭人身の抱擁する二天像。衣部には土紋が用いられる。
国	彫刻	木造　地蔵菩薩坐像	もくぞう　じぞうぼさつざぞう	1躯	T15.4.19	鎌倉市	宝戒寺（小町3-5-22）	宝戒寺		胎内に貞治四年五月造の銘がある		南北朝時代（貞治4年の朱書銘あり）。鎌倉地方には珍しい円派の作品である。
国	彫刻	木造　夢窓国師坐像	もくぞう　むそうこくしざぞう	1躯	T15.4.19	鎌倉市	瑞泉寺（二階堂710）	瑞泉寺				南北朝時代。寄木造。ほぼ等身大の像。卵形の頭部や撫で肩等、夢窓疎石の身体的特徴を的確に写す頂相彫刻の秀作。
国	彫刻	木造　弁才天坐像	もくぞう　べんざいてんざぞう	1躯	T15.4.19	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）		右足に文永三年九月廿九日造立の銘がある		鎌倉時代。寄木造。裸形であり、これに衣裳を着け安置する着装像。中原光次が舞楽院に安置した像。
国	彫刻	木造　舞楽面(陵王、散手、貴徳鯉口、貴徳番子、二ノ舞）	もくぞう　ぶがくめん（りょうおう、さんじゅ、きとくこいぐち、きとくばんず、にのまい）	5面	T15.4.19	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）				鎌倉時代。木造。二ノ舞以外は13世紀中葉を降らぬ作と思われ、当時の舞楽盛行ぶりがしのばれる。
国	彫刻	木造　仏光国師坐像（開山塔安置）	もくぞう　ぶっこうこくしざぞう（かいざんとうあんち）	1躯	S2.4.25	鎌倉市	円覚寺（山ノ内409）	円覚寺				鎌倉時代。寄木造。躰部は定型的であるが、鉢の張った頭や穏やかな中にも近寄りがたい禅像の威風を表す。
国	彫刻	銅造　阿弥陀如来及両脇侍立像	どうぞう　あみだにょらいおよびりょうきょうじりゅうぞう	3躯	S2.4.25	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）		中尊の台座に文永八年十月十九日鋳奉、鋳物師加茂延時の刻銘がある	S39.5.26名称変更	鎌倉時代（文永8年の刻銘）。銅造。いわゆる善光寺式三尊像である。
国	彫刻	木造　惟賢和尚坐像	もくぞう　ゆいけんおしょうざぞう	1躯	S2.4.25	鎌倉市	東京国立博物館（東京都台東区上野公園13-9）	宝戒寺（小町3-5-22）		附）紙本墨書惟賢筆応安五年造像記1通		南北朝時代。寄木造。宝戒寺二世となった惟賢の84歳の寿像。頭部内面に「ちょうけい」の朱書銘がある。
国	彫刻	木造　退耕禅師坐像	もくぞう　たいこうぜんじざぞう	1躯	S17.12.22	鎌倉市	浄妙寺（浄明寺3-8-31）	浄妙寺				鎌倉時代。寄木造。通常の頂相の形をとり、衣文はかなり簡略化しているが、面相は個性的である。
国	彫刻	木造　地蔵菩薩坐像（本堂安置）	もくぞう　じぞうぼさつざぞう（ほんどうあんち）	1躯	S17.12.22	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	伝宗庵（山ノ内483）				鎌倉時代。寄木造、土紋彩色。円覚寺の塔頭、伝宋庵の本尊である。
国	彫刻	木造　東明禅師坐像	もくぞう　とうみんぜんじざぞう	1躯	S17.12.22	鎌倉市	白雲庵（山ノ内462）	白雲庵				鎌倉時代。寄木造。通形の頂相彫刻。衣文はかなり簡略化されているが、面貌は老僧の個性をよくとらえている。
国	彫刻	木造　薬師如来及日光・月光菩薩坐像	もくぞう　やくしにょらいおよびにっこう・がっこうぼさつざぞう	3躯	S24.2.18	鎌倉市	覚園寺（二階堂421）	覚園寺		日光菩薩像頭部内に仏師法橋朝祐応永廿九年三月廿一日の銘がある		鎌倉時代。寄木造。中尊は古様を伝える鎌倉期の作。両脇侍は室町期の朝祐作。宋風の特色が目立つ作品である。
国	彫刻	木造　弘法大師坐像（本堂安置）	もくぞう　こうぼうだいしざぞう（ほんどうあんち）	1躯	S33.2.8	鎌倉市	青蓮寺（手広769）	青蓮寺			S31.8.17県指定	鎌倉時代。寄木造。着装像で、両膝頭が接ぎ手による特殊な工夫により屈伸でき、鎖大師と称されている。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	彫刻	木造初江王坐像(幸有作)・木造閻魔王坐像・木造俱生神坐像・木造奪衣婆坐像(弘円作)・木造鬼卒立像・木造檀拏幢	もくぞうしょこうおうざぞう(こうゆうさく)・もくぞうえんまおうざぞう・もくぞうぐしょうじんざぞう・もくぞうだつえばざぞう(こうえんさく)・もくぞうきそつりゅうぞう・もくぞうだんだとう	6躯及び1基	R2.9.30	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)(木造初江王坐像・木造閻魔王坐像・木造俱生神坐像・木造鬼卒立像・木造檀拏幢) 円応寺(山ノ内1543)(木造　奪衣婆坐像)	円応寺		初江王坐像は像内に建長三年幸有作の銘がある。 奪衣婆坐像は像内に永正十一年八月、仏所法眼弘円下野等の銘がある。	M33.4.7　初江王坐像・閻魔王坐像・俱生神坐像をそれぞれ国指定。 S40.5.14　奪衣婆坐像を県指定。 S47.5.30　初江王坐像・閻魔王坐像・俱生神坐像の国指定を統合、鬼卒立像・檀拏幢を国附指定。 R2.9.30　奪衣婆坐像を国追加指定、国附指定鬼卒立像・檀拏幢を本指定。	初江王坐像:鎌倉時代(墨書で建長三年の銘あり)。寄木造。東国に残る鎌倉彫刻中でも屈指の優品である。 閻魔王坐像:鎌倉時代。寄木造。頭部は鎌倉時代であるがその他は後補、頭部がやや大振りで、誇張された忿怒は力強い。 俱生神坐像:鎌倉時代。寄木造。俱生神とは閻魔王に人間の現世での所業を奏上する神で、動きは十王像に対してひかえ目ではあるが、作風は近い。 奪衣婆坐像:室町時代。寄木造。衣文の彫法に正確さがあるが、鎌倉地方仏師の佳作である。 鬼卒立像:鎌倉時代。寄木造、玉眼嵌入。 檀拏幢:江戸時代。両頭とも寄木造、玉眼嵌入。
国	彫刻	木造　天神坐像	もくぞう　てんじんざぞう	1躯	S52.6.11	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	荏柄天神社(二階堂74)		像内に弘長元年五月八日荏柄神主平政泰の造立銘がある。 附)木造　天神立像1躯		鎌倉時代。寄木造。等身の神体像。像内には脊椎骨や体毛の数などが書いてある珍しい遺例である。
国	彫刻	木造　高峰顕日坐像	もくぞう　こうほうけんにちざぞう	1躯	H3.6.21	鎌倉市	正統院(山ノ内92)	正統院		像内に正和四年九月、院恵等の銘がある	S53.11.17県指定	鎌倉時代。桧の寄木造、玉眼。像主の生前に製作される寿像の数少ない遺例として貴重。
国	彫刻	銅造　薬師如来坐像(鶴岡八幡宮伝来)	どうぞう　やくしにょらいざぞう(つるがおかはちまんぐうでんらい)	1躯	H5.6.10	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	寿福寺(扇ガ谷1-17-7)				鎌倉時代。本体を均等な厚さに鋳上げる鋳技はすばらしく、当時の一流仏師による製作。
国	彫刻	木造　十二神将立像	もくぞう　じゅうにしんしょうりゅうぞう	12躯	H17.6.9	鎌倉市	覚園寺(二階堂421)	覚園寺			S44.12.2県指定	室町時代。関東地方で活躍した仏師による基準的な作品である。
国	彫刻	木造　阿弥陀如来及両脇侍像龕	もくぞう　あみだにょらいおよびりょうきょうじぞうがん	1基	H19.6.8	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	英勝寺(扇ガ谷1-16-3)				木造素地。白檀(びゃくだん)の板状のブロックを穿って三尊像および光背・台座を彫残す巧緻な作品で、10世紀末～11世紀初め頃の作。日本製作の檀龕仏(だんがんぶつ)の初期の例であり、日本におけるこの時期の彫檀技術の成熟がうかがえる貴重な作品である。
国	彫刻	木造　伽藍神像	もくぞう　がらんじんぞう	5躯	H22.6.29	鎌倉市	建長寺(山ノ内8)	建長寺			S60.11.29県指定	禅宗寺院の伽藍を守護する伽藍神の一具揃った遺品として最古のものであり、伽藍神像の最も重要な遺品であるのに加え、南宋彫刻のかなり直接的な影響が認められ、鎌倉地方の宋風彫刻を考える上でも見逃せない作例。
国	彫刻	木造　不動明王坐像	もくぞう　ふどうみょうおうざぞう	1躯	H24.9.6	鎌倉市	明王院(十二所32)	明王院				鎌倉時代。鎌倉五大堂の本尊、五大明王像の中尊にあたるとみられる作例であり、その作者は当代の代表的な仏師の一人、肥後定慶であるとする説がある。
国	彫刻	木造　蘭溪道隆坐像(西来庵開山堂安置)	もくぞう　らんけいどうりゅうざぞう(せいらいあんかいざんどうあんち)	1躯	H24.9.6	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	建長寺			S56.7.17 県指定	鎌倉時代。建長寺開山の中国僧、蘭溪道隆(大覚禅師、1213年～1278年)の肖像で、没年前後の作であると考えられる。 深く変化に富んだ衣文など、力強い造形から慶派仏師の手になるとみられている。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	彫刻	木造明巌正因坐像	もくぞうみょうがんしょういんざぞう	1躯	R2.9.30	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	正伝庵（山ノ内439）		（院応作）像底に明岩老師尊像、貞治四年、仏師院応等の朱書銘、像内に貞治四年、作者院応等の墨書銘がある		円覚寺の塔頭に伝わる同寺第24世、明巌正因の肖像。銘文により貞治四年（1365）に院応により造られ、像主自ら開眼したことが知られる。迫真性に富んだ面貌の表出に当代肖像彫刻の特質をよく見せる。作者院応は鎌倉住と知られ、直線的な衣文構成には京都の院派とは明確に区別される特色がうかがえる。 当代肖像彫刻の優品であり、また近年知見が増している東国院派の作例としても代表的な一作といえ、肖像の造像作法を知る上でも貴重な作例である。
県	彫刻	木造彩色　阿閦如来坐像	もくぞうさいしき　あしゅくにょらいざぞう	1躯	S28.12.22	鎌倉市	覚園寺（二階堂421）	覚園寺		寺伝薬師如来		鎌倉時代。寄木造。頭部内面で「元享弐季壬戌十二月日法印院興作」「阿閦仏」の墨書銘が発見された。
県	彫刻	木造彩色　水月観音坐像	もくぞうさいしき　すいげつかんのんざぞう	1躯	S28.12.22	鎌倉市	東慶寺（山ノ内1367）	東慶寺				南北朝時代。寄木造。絵画的な趣致に富み、また木寄せも細かく巧みであり、女性的な穏やかさがある像である。
県	彫刻	石造　薬師如来像	せきぞう　やくしにょらいぞう	1躯	S29.3.30	鎌倉市	九品寺（材木座5-13-14）	九品寺				鎌倉時代。石造半肉彫。穏やかな写実性を見せる。光背に「永仁4年丙申」の陰刻銘がある。
県	彫刻	木造　栄西禅師坐像	もくぞう　えいさいぜんじざぞう	1躯	S29.3.30	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	寿福寺(扇ガ谷1-17-7)				鎌倉時代。一木割矧ぎ造。栄西禅師の特徴を大づかみにとらえながらも写実性を失っていない。
県	彫刻	木造彩色　如意輪観音半跏像	もくぞうさいしき　にょいりんかんのんはんかぞう	1躯	S29.7.27	鎌倉市	来迎寺（西御門1-11-1）	来迎寺				南北朝時代。寄木造。衣文の彫り口など少々鈍いが裳の部分には輪宝の文様の土紋が残されている。
県	彫刻	木造　地蔵菩薩坐像	もくぞう　じぞうぼさつざぞう	1躯	S29.7.27	鎌倉市	来迎寺（西御門1-11-1）	来迎寺				南北朝時代。寄木造。大振で力強い目鼻だちを示す。宅間浄宏の作と伝えられている。
県	彫刻	木造彩色　地蔵菩薩立像	もくぞうさいしき　じぞうぼさつりゅうぞう	1躯	S32.2.19	鎌倉市	浄光明寺（扇ガ谷2-12-1）	浄光明寺				南北朝時代。寄木造。目鼻立ちも整って洗練された美しさを持った像である。
県	彫刻	木造　薬師三尊像	もくぞう　やくしさんぞんぞう	3躯	S41.7.19	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	鎌倉市				平安時代。一木造。全体にどっしりとした大きさと明るさを具えた像。両脇侍は江戸時代の作と思われる。
県	彫刻	木造　十二神将立像	もくぞう　じゅうにしんしょうりゅうぞう	12躯	S41.7.19	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	鎌倉市				鎌倉時代。寄木造。後補と思われる4躯を除いて体躯のバランスと動きはしっかりとした像である。
県	彫刻	塑造　北条時頼坐像	そぞう　ほうじょうときよりざぞう	1躯	S41.7.19	鎌倉市	明月院（山ノ内189）	明月院				鎌倉時代。塑造。後世の補修があるが顔面はかなり元の姿をのこしている。
県	彫刻	鉄造　不動明王坐像	てつぞう　ふどうみょうおうざぞう	1躯	S44.12.2	鎌倉市	覚園寺（二階堂421）	覚園寺				鎌倉時代。鉄造。関東地方の鉄仏のなかではもっとも早い作例とされ、穏やかな忿怒相と全体の身のこなしに平安末の特色が強く残る像である。
県	彫刻	木造　阿弥陀如来及び両脇侍立像	もくぞう　あみだにょらいおよびりょうきょうじりゅうぞう	3躯	S53.11.17	鎌倉市	教恩寺（大町1-4-29）	教恩寺				鎌倉時代。寄木造。穏やかな衣文の刻出や目尻の吊り上がった厳しい表現に快慶風の作風を感ぜられる像である。
県	彫刻	木造　阿弥陀如来及び両脇侍立像	もくぞう　あみだにょらいおよびりょうきょうじりゅうぞう	3躯	S53.11.17	鎌倉市	光明寺（材木座6-17-19）	光明寺		附）銅造銘札1枚（天保十年修理銘）、仏説阿弥陀経2冊（天保十年行誉清吟書写奥書あり・妙雲書写の銘記あり）、紙本墨書文書1枚、木造舎利器1個、木造塔型舎利器（包紙添）1個		鎌倉時代。寄木造。中尊と脇侍とは作風を異にし、中尊は中央仏師の作風を示す一方、脇侍は宋風を示す像である。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	彫刻	木造　達磨大師坐像	もくぞう　だるまだいしざぞう	1躯	S56.7.17	鎌倉市	寿福寺（扇ガ谷1-17-7）	寿福寺				南北朝時代。寄木造。総体に量感が豊かで、彫りの深い面部は異国的雰囲気を巧みに表現している。
県	彫刻	脱活乾漆造(中尊)・木造(脇侍)釈迦三尊像	だつかつかんしつぞう(ちゅうそん)・もくぞう(きょうじ)しゃかさんぞんぞう	3躯	S57.2.9	鎌倉市	寿福寺（扇ガ谷1-17-7）	寿福寺				室町時代。中尊脱活乾漆造、脇侍寄木造。中世の乾漆像として極めて稀少な価値をもつものである。
県	彫刻	木造　阿弥陀如来坐像	もくぞう　あみだにょらいざぞう	1躯	S58.11.25	鎌倉市	覚園寺（二階堂421）	覚園寺				室町時代。寄木造、玉眼嵌入。旧理智光寺の本尊で、鎌倉地方独特の土紋をもつ像である。（鞘阿弥陀）
県	彫刻	木造　文殊菩薩坐像	もくぞう　もんじゅぼさつざぞう	1躯	S58.11.25	鎌倉市	常楽寺（大船5-8-29）	常楽寺				鎌倉時代。寄木造、彩色、玉眼嵌入。宋風彫刻の佳作のひとつである。
県	彫刻	木造　観音菩薩半跏像	もくぞう　かんのんぼさつはんかぞう	1躯	S58.11.25	鎌倉市	禅居院（山ノ内1534）	禅居院				鎌倉時代。漆塗り、玉眼嵌入。彫技は的確で、すぐれた写実性をそなえ、体躯の量感もゆたかな像である。
県	彫刻	木造　梵天・帝釈天立像	もくぞう　ぼんてん・たいしゃくてんりゅうぞう	2躯	S58.11.25	鎌倉市	宝戒寺（小町3-5-22）	宝戒寺				南北朝時代。寄木造、玉眼嵌入。唐風の服制になる通行の梵釈像である。
県	彫刻	木造　三世仏坐像	もくぞう　さんぜぶつざぞう	3躯	S60.11.29	鎌倉市	浄智寺（山ノ内1402）	浄智寺				南北朝時代。寄木造、玉眼、肉身部漆地漆箔、着衣部彩色。わが国に伝わる三世仏（釈迦、阿弥陀、弥勒如来）の中でも造立年代の早い佳作である。
県	彫刻	木造　千手観音菩薩坐像	もくぞう　せんじゅかんのんぼさつざぞう	1躯	H4.11.20	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	建長寺（山ノ内8）				鎌倉時代。寄木造。県下では珍しい当代千手観音菩薩像の遺例である。
県	彫刻	木造　毘沙門天立像	もくぞう　びしゃもんてんりゅうぞう	1躯	H10.2.17	鎌倉市	白山神社（今泉3-13-20）	白山神社				平安時代後期。鎌倉近辺で造立された作品とみられ県下の貴重な古代彫刻の遺例である。
県	彫刻	木造　阿弥陀如来立像	もくぞう　あみだにょらいりゅうぞう	1躯	H13.2.13	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	浄妙寺(浄明寺3-8-31)				鎌倉時代。ヒノキ材の割矧ぎ造、玉眼嵌入、金泥塗り仕上げの三尺阿弥陀。鎌倉地方彫刻の成立期の像。
国宝	工芸	籬菊螺鈿蒔絵硯箱	まがきにきくらでんまきえすずりばこ	1合	S26.6.9	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）			M32.8.1　指定	鎌倉時代。被せ蓋造、沃懸地（いかけじ）に螺鈿をあしらった蓋表、蒔絵の蓋裏等精巧な技術を示す。筆、黒柄なども附いている。
国宝	工芸	太刀　銘　正恒	たち　めい　まさつね	1口	S27.3.29	鎌倉市	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）	鶴岡八幡宮		附）糸巻太刀拵	S3.4.4指定	鎌倉時代。長さ78.3センチメートル。徳川吉宗より奉納された。備中古青江正恒。
国宝	工芸	梵鐘	ぼんしょう	1口	S28.11.14	鎌倉市	円覚寺（山ノ内409）	円覚寺		円覚寺鐘、正安三年八月、大檀那平貞時、住持宋西澗子曇、大工大和権守物部国光在銘	M42.4.5　指定	鎌倉時代（銘に正安３年８月）。全体に量感あふれた鐘で、やや長目の鐘身は力強く張る。鎌倉時代の特徴あふれる名鐘である。
国宝	工芸	梵鐘	ぼんしょう	1口	S28.11.14	鎌倉市	建長寺（山ノ内８）	建長寺		建長寺鐘、建長七年二月廿一日、大檀那平時頼、住持宋沙門道隆題、大工大和権守物部重光在銘	M42.4.5　指定	鎌倉時代（銘に建長７年２月２１日）。総体に平安時代の形式を受けた復古的な鐘。銘文の撰文は蘭渓道隆のものである。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国宝	工芸	古神宝類 一、袿白小葵地鳳凰文二重織 一、袿紫地向鶴三盛丸文唐織 一、袿紫地向鶴三盛丸文唐織 一、袿淡香地幸菱文綾織 一、袿黄地窠霰文二重織	こしんぽうるい うちきしらこあおいじほうおうもんふたえおり うちきむらさきじむかいづるみつもりまるもんからおり うちきむらさきじむかいづるみつもりまるもんからおり うちきたんこうじさいわいびしもんあやおり うちききじかにあられもんふたえおり	5領	S31.6.28	鎌倉市	東京国立博物館（東京都台東区上野公園13-9）	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）			統合　M32.8.1 M33.4.7	鎌倉時代。五領あるが、重ねて着用する「五襲の衣」と考えられる。文の様式などに藤原様式の名残が認められる。
国宝	工芸	古神宝類 一、朱漆弓 一、黒漆矢（内箆一筋欠） 一、沃懸地杏葉螺鈿平胡籙 一、沃懸地杏葉螺鈿太刀 一、沃懸地杏葉螺鈿平胡籙 一、沃懸地杏葉螺鈿太刀（鐔欠）	こしんぽうるい しゅうるしゆみ くろうるしや（うちへらひとすじけつ） いかけじぎょうようらでんひらやなぐい いかけじぎょうようらでんたち いかけじぎょうようらでんひらやなぐい いかけじぎょうようらでんたち（つばけつ）	1張 30隻 1腰 1口 1腰 1口	S31.6.28	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）			統合　M32.8.1 M33.4.7	鎌倉時代。社伝に源頼義が社を勧請の時、「石清水の神宝たりしを申し下して奉納す」と伝えられる。
国	工芸	黒漆　須弥壇	くろうるし　しゅみだん	1基	M35.4.17	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	建長寺（山ノ内8）			M43.2.2 名称変更	鎌倉時代。欄間にはめられた透彫の獅子牡丹文は雄壮で、鎌倉彫りの元祖といわれている。
国	工芸	銅造　十一面観音懸仏	どうぞう　じゅういちめんかんのんかけぼとけ	6面	M42.4.5	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	長谷寺（長谷3-11-2）		中に元徳嘉暦の銘文があるものがある		鎌倉時代。六面とも大型（70～80センチメートル位）で十一面観音像は丸彫に近い鋳像である。
国	工芸	青磁　袴腰香炉	せいじ　はかまごしこうろ	1口	T4.3.26	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）			S43.2.2 名称変更	宋時代。明るい青緑色の青磁釉が器体の全面をおおい、釉調は砧青磁（きぬたせいじ）のそれで浙江省の龍泉窯の製品である。
国	工芸	髹漆須弥壇1基・前机1脚	きゅうしつしゅみだんいっき・まえづくえいっきゃく	2点	T14.4.24	鎌倉市	円覚寺（山ノ内409）	円覚寺		前机は鎌倉国宝館に寄託		鎌倉時代。円覚寺開山堂に置かれ、共に全面朱漆で塗られている。禅宗様式が強く表れている。
国	工芸	銅鐘	どうしょう	1口	T14.4.24	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	常楽寺（大船5-8-29）		宝治二年三月廿一日の銘がある		鎌倉時代。全体に細身の鐘。竜頭は後補である。
国	工芸	太刀　金銘　国吉	たち　きんめい　くによし	1口	S3.4.4	鎌倉市	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）	鶴岡八幡宮		附）糸巻太刀拵		鎌倉時代。小切先。大磨上無銘の莖に国吉の金象嵌銘がある。明治天皇が寄進したものである。
国	工芸	太刀　銘　長光	たち　めい　ながみつ	1口	S3.4.4	鎌倉市	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）	鶴岡八幡宮		附）糸巻太刀拵		鎌倉時代。小切先、磨上げ。社伝によると、徳川家重奉納の太刀。総金具金菊花紋糸巻太刀拵が附属する。
国	工芸	太刀　銘　大和国尻懸住則長作	たち　めい　やまとのくにしっかけじゅうのりながさく	1口	S28.3.31	鎌倉市		個人				鎌倉時代。小切先、磨上げ。白銀太刀拵が属している。
国	工芸	梵鐘	ぼんしょう	1口	S28.11.14	鎌倉市	長谷寺（長谷3-11-2）	長谷寺		新長谷寺、文永元年七月十五日、大工物部季重在銘		鎌倉時代。全体に鋳型の型われのあとがみられるが、形姿などによく時代の特徴を示す優品である。
国	工芸	金銅密教法具	こんどうみっきょうほうぐ	3口	S30.6.22	鎌倉市	極楽寺（極楽寺3-6-7）	極楽寺		金銅五鈷杵1口、 金銅独鈷杵1口、 金銅五鈷鈴1口 銘文、極楽律寺建長七年九月日僧清賢大工橘宗近		鎌倉時代。鋳鋼製鍍金。鎌倉時代中期の典型的作例である。
国	工芸	初音蒔絵火取母	はつねまきえひとりも	1口	S35.6.9	鎌倉市	東慶寺（山ノ内1367）	東慶寺				室町時代。阿古陀形香爐。源氏物語、初音巻中の歌を意匠化したものを切金、研出蒔絵で表す。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	工芸	雲版	うんぱん	1面	S44.6.20	鎌倉市	妙本寺（大町1-15-1）	妙本寺		建武四年三月五日大工清原宗広の刻銘がある		室町時代。銅製鋳造。時を告げる合図などに使われた。形姿が雲形ゆえ雲版と呼ばれている。
国	工芸	葡萄蒔絵螺鈿聖餅箱	ぶどうまきえらでんせいべいばこ	1合	S51.6.5	鎌倉市	東慶寺（山ノ内1367）	東慶寺				桃山時代。黒漆の地に螺鈿と蒔絵で外装した円筒形の器で、南蛮漆芸の代表的遺品である。
国	工芸	円覚寺開山箪笥収納品	えんがくじかいざんたんすしゅうのうひん	27点	S54.6.6	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）		附）欝金地桐竹鳳凰文縫箔槌巾1枚、染付合子1合、黒角製香合1合		鎌倉時代～室町時代。開山無学祖元の所用具をはじめ、その後、開山信仰によって寄進されたものからなる。 収納品内訳：丹池霊芝形雲文金襴（大燈金襴）九条袈裟1領、黄地片輪車文綾九条袈裟坐具付1領、香色地平絹九条袈裟1領、紺地宝盡雲文銀襴九条袈裟坐具付（応永二十九年二月二十一日の墨書がある）1領、黄地牡丹文紗掛絡1領、黄地菱繋文綾直綴1領、黄地平絹直綴1領、白地平絹禅衣1領、萌黄地平絹頭陀袋1肩、石畳縫合地果蝶雲文刺繍袱子1枚、酔翁亭図堆黒盆1枚、椿梅竹文堆朱盆1枚、孔雀牡丹文堆朱香合1合、尾長鳥椿文堆黒香合1合、念珠3連、払子2握、団扇1握、竹箆1握、環4箇、組紐残闕2条
国	工芸	蓮唐草蒔絵箱形礼盤 黒漆華形大壇	はすからくさまきえはこがたらいばんくろうるしはながただいだん	2基	S54.6.6	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	青蓮寺（手広769）				礼盤は室町時代の作。蒔絵、銀象嵌の金具で飾られる。大檀は南北朝時代の作。鎌倉式の蓮弁表現がある。
国	工芸	太刀　各銘　相州住綱広作、綱家作、康国作・桐鳳凰蒔絵糸巻太刀拵	たち　かくめい　そうしゅうじゅうつなひろさく、つないえさく、やすくにさく・とうほうおうまきえいとまきたちこしらえ	3口	S59.6.6	鎌倉市	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）	鶴岡八幡宮			S30.8.30 県指定	室町時代。北条氏綱寄進の三口の太刀。三口とも長大な太刀姿で、元幅広く踏張りあって反高く切先延び心になり、鎬地に棒樋添樋が彫ってある。
国	工芸	伝法衣	でんぽうえ	5領	H23.6.27	鎌倉市	円覚寺（山ノ内409）	円覚寺		附）二十五条袈裟一領、坐具二枚、包裂一枚		円覚寺に伝来した袈裟5領でいずれも九条仕立て。南宋～元時代の絹織物の特徴を顕著に示しており、染織史上極めて重要な遺例。
国	工芸	紫宸殿蒔絵硯箱	ししんでんまきえすずりばこ	1合	S53.6.15	鎌倉市	鎌倉市	個人				紫宸殿庭前にある左近桜、右近橘を意匠とした硯箱。室町時代以来の伝統様式を受け継ぎ、さらに精緻さを加えたものである。本硯箱は江戸時代初期の精緻な技巧を示す代表作である。
国	工芸	太刀　無銘　伝光忠	たち　むめい　でんみつただ	1口	S27.7.19	不明（鎌倉市）	不明					鎌倉時代。
県	工芸	銅製亀甲花菱文象嵌擬宝珠	どうせいきっこうはなびしもんぞうがんぎぼし	1対	S30.8.30	鎌倉市	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）	鶴岡八幡宮		附）金具24個		鎌倉時代。全体の形姿が等辺三角形に近く安定感があり、缺首部をのぞいて全面に銀材による象嵌を施している。
県	工芸	堆黒箱	ついこくばこ	1合	S30.8.30	鎌倉市	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）	鶴岡八幡宮		裏に贈日本客僧栄西禅師明昌元侍郎周宏の朱漆銘がある		鎌倉時代。木胎に黒漆を厚く重ねて塗り、その上面に図様を彫刻した堆黒の箱で印籠蓋造りである。
県	工芸	刀　銘　肥後守橘吉次作	かたな　めい　ひごのかみたちばなよしつぐさく	1口	S37.3.27	鎌倉市		個人		延宝五年八月七日二ツ胴截断高屋甚太夫切		江戸時代。中切先身幅広く重ねしっかりとした反りの少ない新刀期姿で、生中心である。
県	工芸	大壇（長勝寺）	だいだん（ちょうしょうじ）	1基	S44.5.20	鎌倉市	長勝寺（材木座2-12-17）	長勝寺				鎌倉時代。華形檀と呼称される大檀。格狭間を設けた基台を下段にしている点が称名寺大檀と異なる。
県	工芸	鰐口（円覚寺）	わにぐち（えんがくじ）	1口	S44.12.2	鎌倉市	円覚寺（山ノ内409）	円覚寺				室町時代（銘に天文九年）。一般的に形式化し美しさに乏しくなる同時代の内で、極めて美しい上作の鰐口である。
県	工芸	銅鐘（浄智寺）	どうしょう（じょうちじ）	1口	S44.12.2	鎌倉市	浄智寺（山ノ内1402）	浄智寺				室町時代（銘に暦応三年）。龍頭が鐘全体にくらべて小さく、かつ繊細な感じのする鐘である。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	工芸	銅鐘（東慶寺）	どうしょう（とうけいじ）	1口	S44.12.2	鎌倉市	東慶寺（山ノ内1367）	東慶寺				室町時代（銘に観応元年）。鋳物師大工大和権守光連。比較的小鐘で目立たぬが時代の特徴をよく示している。
県	工芸	鰐口（長勝寺）	わにぐち（ちょうしょうじ）	1口	S44.12.2	鎌倉市	長勝寺（材木座2-12-17）	長勝寺				室町時代（銘に永正十二年）。胴がかなり丸くふくらみ、特に中心の撞座部分が丸く盛り上げる特色を見せている。
県	工芸	燭台（長勝寺）	しょくだい（ちょうしょうじ）	1対	S44.12.2	鎌倉市	長勝寺（材木座2-12-17）	長勝寺				鎌倉時代（朱銘に永享四年）。檜材の本地に黒漆塗。極楽寺講堂にあったことが銘文によって知られる。
県	工芸	鰐口（長谷寺）	わにぐち（はせでら）	1口	S44.12.2	鎌倉市	長谷寺（長谷3-11-2）	長谷寺				室町時代（銘に応永廿年）。径が89センチメートルもある大きい鰐口で、現状はいたみがひどいがりっぱな作である。
県	工芸	獅子牡丹彫木彩漆硯台	ししぼたんちょうぼくさいしつけんだい	1合	H11.11.26	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	鎌倉市				室町時代。大まかな刀法ながら豪快な図様と調和する。製法は伝統的な鎌倉彫を継承している。
県	工芸	屈輪文彫木朱漆大香合	ぐりもんちょうぼくしゅうるしだいこうごう	1合	H11.11.26	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）				室町時代。木地に屈輪（グリ）文を掘り、下地を黒漆でかため、上塗りに朱漆を施し、身の側面にも同様の屈輪文を配する。鎌倉彫。
県	工芸	刀　銘　備前国住長船源五郎清光	かたな　めい　びぜんのくにじゅうおさふねげんごろうきよみつ	1口	S41.7.19	鎌倉市		個人				室町時代（銘文に天文二年）。中切先重ね厚手で調和のとれた刀姿をもつ生中心である。
県	工芸	刀　銘　肥前国住近江大掾藤原忠広　慶安元年八月吉日	かたな　めい　ひぜんのくにじゅうおうみだいじょうふじわらただひろ　けいあんがんねんはちがつきちじつ	1口	S35.5.17	不明（鎌倉市）	不明					江戸時代。生中心。身幅重ね十分な刀である。
県	工芸	短刀　銘　国光	たんとう　めい　くにみつ	1口	S37.3.27	不明（鎌倉市）	不明			附）合口拵梨子地蒔絵紋散し鞘		鎌倉時代。平造り短刀。身幅狭く真の棟、反りなくいわゆる竹の子反り姿をした品の良い作例である。
国宝	書跡・典籍・古文書	大覚禅師墨蹟　法語規則	だいがくぜんじぼくせき　ほうごきそく	2幅	S27.3.29	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	建長寺（山ノ内8）				鎌倉時代。双幅で一幅には法語、もう一幅には規則が記してある。
国	書跡・典籍・古文書	定額寺官符	じょうがくじかんふ	1幅	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）				鎌倉時代。円覚寺が定額寺となった際下された太政官符である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本淡彩　円覚寺境内絵図	しほんたんさい　えんがくじけいだいえず	1幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）				南北朝時代。円覚寺伽藍の他、路をはさんで反対側の地域を含めて四周に朱線をめぐらせる。線上の五か所に上杉重能の花押がある。
国	書跡・典籍・古文書	紙本淡彩　富田庄図	しほんたんさい　とみたのしょうず	1幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）				鎌倉時代。北条時宗が無学祖元をむかえ円覚寺を創建した折、寄進した富田庄の絵図である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　北条時宗書状	しほんぼくしょ　ほうじょうときむねしょじょう	1幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）		弘安元年十二月廿三日とある		鎌倉時代。建長寺開山蘭渓道隆が示寂した後、その後継者を求めようとして、中国への使者にだした書状。これに対し無学祖元が来日した。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　祖元書状	しほんぼくしょ　そげんしょじょう	1幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）		七月十八日とある		鎌倉時代。前出弘安六年七月十八日の時宗書状をうけた無学祖元が認めた礼状である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　円覚寺年中用米注進状	しほんぼくしょ　えんがくじねんちゅうようまいちゅうしんじょう	1幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）		弘安六年九月廿七日とある		鎌倉時代。円覚寺の住持、無学祖元が円覚寺に於ける一年間の寺用米の予算を、檀那である北条時宗に報告したものである。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　北条時宗書状	しほんぼくしょ　ほうじょうときむねしょじょう	1幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）		七月十八日とある		鎌倉時代。円覚寺開基の時宗が、将軍家御願寺としたこと、寺領が確定したことなどを伝えた書状である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　華厳塔勧縁疏	しほんぼくしょ　けごんとうかんえんそ	1巻	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	黄梅院（山ノ内428）				南北朝時代。円覚寺に華厳塔を再建するにあたり、勧進のため義堂周信が至徳四年五月に書いた偈並びに序である。
国	書跡・典籍・古文書	大覚禅師墨蹟	だいがくぜんじぼくせき	3幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	建長寺（山ノ内8）			S38.2.8追加指定	鎌倉時代。本来は別物の断簡だが現在は一幅対にまとめられている。
国	書跡・典籍・古文書	紙本淡彩　明月院絵図	しほんたんさい　めいげついんえず	1幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	明月院（山ノ内189）		氏満の花押がある		室町時代。旧禅興寺の塔頭明月庵、宗猷庵の絵図である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　鶴岡社務記録	しほんぼくしょ　つるがおかしゃむきろく	2巻	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）				南北朝時代。建久二年から文和四年にいたる164年間にわたる編年記録である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　西来庵修造勧進状　玉隠筆	しほんぼくしょ　さいらいあんしゅうぞうかんじんじょう　ぎょくいんひつ	1巻	T14.4.24	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	建長寺（山ノ内8）		永正丙子四月廿四日とある		室町時代。浄智寺蔵の勧進状から一年後に書かれたほとんど同文の勧進状である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　和漢年代記	しほんぼくしょ　わかんねんだいき	2冊	T14.4.24	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	建長寺（山ノ内8）		附）元禄写本1冊		鎌倉時代。日本の記事を上段に、中国の記事を下段に対比させながら編んだ年表である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　西来庵修造勧進状　玉隠筆	しほんぼくしょ　さいらいあんしゅうぞうかんじんじょう　ぎょくいんひつ	1巻	T14.4.24	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	浄智寺（山ノ内1402）		永正乙亥七月廿四日とある		室町時代。建長寺前住の玉隠が荒廃した開山塔所西来庵の有様をなげき、これを再興しようと書いた勧進状である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　東帰集（伝仏乗禅師筆）	しほんぼくしょ　とうきしゅう（でんぶつじょうぜんじひつ）	1巻	T15.4.19	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	報国寺（浄明寺2-7-4）		附）絹本著色仏乗禅師像1幅、堆朱印櫃入木印2顆		鎌倉時代。報国寺開山天岸慧広の自筆といわれる漢詩および偈二百首余を収録したものである。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　仏乗禅師度牒1通 紙本墨書　仏乗禅師戒牒4幅	しほんぼくしょ　ぶつじょうぜんじどちょう しほんぼくしょ　ぶつじょうぜんじかいちょう	2点	T15.4.19	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	報国寺（浄明寺2-7-4）		仏乗禅師度牒：弘安九年十一月八日とある 仏乗禅師戒牒：弘安元年十一月八日とある		鎌倉時代。得度し、比丘になったことを政府が証明したものが度牒で、戒を受けたことを証明して出されるのが戒牒である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　円覚寺禁制	しほんぼくしょ　えんがくじきんぜい	1幅	S11.5.6	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）		永仁二年正月日		鎌倉時代。北条貞時が檀那として僧侶等の行動に対して、規律を正すべく禅律寺院に対し禁制を定めたものである。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　円覚寺制符	しほんぼくしょ　えんがくじせいふ	1幅	S11.5.6	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）		乾元二年二月十二日		鎌倉時代。北条貞時が円覚寺の寺僧の行動に掣肘を加えるため出した制符である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　仏日庵公物目録	しほんぼくしょ　ぶつにちあんこうもつもくろく	1巻	S11.5.6	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）		貞治二年同四年法清、崇珊、圭照の勘記がある		南北朝時代。北条時宗の塔所の仏日庵の什宝目録である。
国	書跡・典籍・古文書	印章　無學	いんしょう　むがく	2顆	S11.5.6	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）			H6.3考古資料から管理換え、H7.6.15名称変更	鎌倉時代。円覚寺開山仏光国師無学祖元所用の木印である。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　大休正念法語	しほんぼくしょ　だいきゅうしょうねんほうご	1巻	S11.5.6	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	蔵六庵（山ノ内419）		弘安元年五月		鎌倉時代。大休正念が泰定居士のために迦葉の偈をひいて、生死悟道の一大道を説いたものである。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　新編仏法大明録	しほんぼくしょ　しんぺんぶっぽうだいみんろく	8冊	S14.5.27	鎌倉市	松ヶ岡文庫（山ノ内1375）	財団法人松ケ岡文庫		自巻第一至第九、自第十三至第十七、第廿巻第一に正嘉元年閏三月廿二日書写の奥書あり「普門院」「光明院」の印記がある		鎌倉時代。京都東福寺開山聖一国師が将来した新編仏法大明録の写本である。
国	書跡・典籍・古文書	伏見天皇宸翰御消息	ふしみてんのうしんかんごしょうそく	1幅	S19.9.5	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	個人		九月廿六日		鎌倉時代。覚助法親王が紅葉の枝に付けて奉られた御文に対する返書である。
国	書跡・典籍・古文書	寒山詩（五山版）	かんざんし（ござんばん）	1冊	S34.6.27	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）		正中二年十月刊記		鎌倉時代。唐国清寺の僧侶寒山の詩集。親本はすでに残存せず、五山版の同版2点も関東大震災で焼失しているので、この「寒山詩」は特に価値が高い。
国	書跡・典籍・古文書	足利義満筆額字普現・宿竜・桂昌	あしかがよしみつひつがくじふげん、しゅくりゅう、けいしょう	3幅	S36.2.17	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）				室町時代。足利義満が書いた円覚寺正統院殿堂の額字である。
国	書跡・典籍・古文書	金剛般若経　蘭渓道隆筆	こんごうはんにゃきょう　らんけいどうりゅうひつ	1帖	S49.6.8	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	建長寺（山ノ内8）		附）玄津及元松添状2通		鎌倉時代。鋭い筆鋒を見せる大覚禅師の書写経。巻尾に「巨福建長」「蘭渓」二つの朱印がある。
国	書跡・典籍・古文書	喫茶養生記　上・下	きっさようじょうき　じょう・げ	1冊	S49.6.8	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	寿福寺（扇ガ谷1-17-7）				鎌倉時代。主として上巻は茶について、下巻は桑について、名称、効用、使用法、製法などについて述べたものである。
国	書跡・典籍・古文書	鶴岡八幡宮文書（二百二十四通）	つるがおかはちまんぐうもんじょ	15巻	S58.6.6	鎌倉市	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）	鶴岡八幡宮			S36.7.4県指定	鎌倉～江戸時代。鶴岡八幡宮文書（131通）を中心として、八幡宮供僧坊の一つ相承院に伝来した相承院文書（93通）を含む。これらの文書は、中世における八幡宮の変遷を明らかにし、鎌倉幕府、関東公方家、後北条氏などとの関係を伝えている。
国	書跡・典籍・古文書	円覚寺文書（386通）	えんがくじもんじょ	20巻、57幅1冊、279通	S60.6.6	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	円覚寺（山ノ内409）			H16.6.8追加指定	鎌倉時代～桃山時代。中世における禅宗寺院、経済を具体的に明らかにした文書である。
国	書跡・典籍・古文書	覚園寺文書（97通）	かくおんじもんじょ	8巻1幅	S60.6.6	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	覚園寺（二階堂421）			S42.2.3県指定	鎌倉時代～江戸時代。同寺開山心慧智海置文や後醍醐天皇綸旨、光厳上皇院宣などや、足利直義御教書等の御教書類及び戌神将像胎内より発見された荘園関係文書からなる文書類である。
国	書跡・典籍・古文書	黄梅院文書（101通）	おうばいいんもんじょ	27巻、1冊6幅、6通	S61.6.6	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	黄梅院（山ノ内428）				南北朝～江戸時代。室町幕府並びに関東公方と深い関係にあった禅宗塔頭寺院の具体的な変遷を明らかにするまとまった文書である。
国	書跡・典籍・古文書	東慶寺文書	とうけいじもんじょ	777通20冊	H13.6.22	鎌倉市	東慶寺（山ノ内1367）	東慶寺				東慶寺は、江戸時代に女性が寺に駆け込んで離婚する寺法が幕府に認められていた。駆け込み件数約260件を中心にしたもので、法制史・女性史研究上二重様な文章群。
国	書跡・典籍・古文書	浄光明寺敷地絵図	じょうこうみょうじしきちえず	1幅	H17.6.9	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	浄光明寺（扇ガ谷2-12-1）				鎌倉時代末から南北朝時代にかけての浄光明寺の境内の建物・寺域や、周辺の景観・屋地などを詳細に伝える史料として貴重であり、中世の敷地の安堵を示すものとして重要な絵図である。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	書跡・典籍・古文書	伝藤原佐理筆賀歌絹地切（うこきなき）	でんふじわらのすけまさひつがかきぬじぎれ	1幅	S29.3.20	不明（鎌倉市）	不明					平安時代。
国	書跡・典籍・古文書	紺紙金字仏舎利奉納願文〈九条兼実筆／文治五年九月廿八日〉	こんしきんじぶっしゃりほうのうがんもん　くじょうかねざねひつ　ぶんじごねんくがつにじゅうはちにち	1幅	S34.12.18	不明（鎌倉市）	不明					鎌倉時代。
県	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　明王院文書	しほんぼくしょ　みょうおういんもんじょ	4巻 19通	S50.2.7	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	明王院（十二所32）				鎌倉時代～江戸時代。鎌倉時代5通、南北朝時代11通、室町時代7通の文書からなり、鎌倉時代の文書には異国降伏祈祷記などが含まれている。
県	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　法華堂文書	しほんぼくしょ　ほっけどうもんじょ	1巻 27通	S50.2.7	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	明王院（十二所32）				鎌倉時代～江戸時代。源頼朝の持仏堂が、彼の死後廟所となったのが法華堂でここに伝来した一巻二十七通の中世文書が法華堂文書で、現在は明王院が所蔵する。
国	考古資料	銅造　仏応禅師骨壺	どうぞう　ぶつおうぜんじこつつぼ	1口	T2.4.14	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	続燈庵（山ノ内431）		嘉暦二年十一月疎石の銘がある		鎌倉時代。鋳銅製。関東大震災により焼損しているものの夢窓疎石の書による銘が刻まれている。
国	考古資料	鎌倉覚園寺開山塔納置品 一、黄釉草葉文壺 一、銅五輪塔 一、阿弥陀径笹塔婆 一、褐釉壺 鎌倉覚園寺大燈塔納置品 一、褐釉双耳壺 一、水晶五輪塔金銅蓮台共	かまくらかくおんじかいざんとうのうちひん おうゆうそうようもんつぼ どうごりんとう あみだきょうささとうば かつゆうつぼ かまくらかくおんじだいとうとうのうちひん かつゆうそうじつぼ すいしょうごりんとうこんどうれんだいとも	1合 1基 59葉 1口 1口 1基	S43.4.25	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	覚園寺（二階堂421）		銅五輪塔：元亨三年三月十九日光広在銘阿弥陀経笹塔婆：正慶元年十一月円信奥書		鎌倉時代。建造物として指定されている二基の塔の納置品。特に黄釉草文壺は古瀬戸の遺品としてまれにみる優品である。
国	考古資料	銅骨蔵器 金銅五輪塔 銅骨蔵器 褐釉小壺 黄釉小壺	どうこつぞうき こんどうごりんとう どうこつぞうき かつゆうこつぼ おうゆうこつぼ	1合 1基 1合 1口 1口	S43.4.25	鎌倉市	極楽寺（極楽寺3-6-7）	極楽寺		銅骨蔵器：極楽寺長老善願上人在銘、金銅五輪塔：比丘尼禅忍延慶四年二月八日他界在銘、黄釉小壺：鎌倉極楽寺境内石造五輪塔（寺伝忍公塔）納置		鎌倉時代。昭和三十六年の集中豪雨で埋没した伝北条重時墓から出土したもの。これにより同寺三代順忍善願上人の墓であることが明らかになった。
国	考古資料	鎌倉極楽寺忍性塔納置品 一、金銅骨臓器 一、銅骨臓器	かまくらごくらくじにんしょうとうのうちひん こんどうこつぞうき どうこつぞうき	1合 1合	S52.6.11	鎌倉市	極楽寺（極楽寺3-6-7）	極楽寺		金銅骨臓器　：嘉元元年十一月日良観上人舎利瓶記刻銘、銅骨臓器：嘉元元年十一月廿五日賢明上人入滅記刻銘		鎌倉時代。忍性塔に納置された忍性と慈済の舎利容器。いずれも嘉元元年の刻銘をもっている。
県	考古資料	鎌倉市国指定史跡永福寺跡内経塚出土品	かまくらしくにしていしせきようふくじあとないきょうづかしゅつどひん	89点	H15.2.10	鎌倉市	鎌倉歴史文化交流館（扇ガ谷1-5-1）	鎌倉市				鎌倉時代初期。源頼朝が創建した寺院跡から発見された経塚の出土品で、この時代の政治・文化を明らかにするうえで貴重な資料。
県	考古資料	鎌倉市今小路西遺跡北谷出土の輸入陶磁器	かまくらしいまこうじにしいせきただにしゅつどのゆにゅうとうじき	61点	H15.2.10	鎌倉市	鎌倉歴史文化交流館（扇ガ谷1-5-1）	鎌倉市				鎌倉時代。有力武家の屋敷跡から出土した、品質・形態の傑出した輸入陶磁器で、この時期の有力武家の権力や財力を知るうえで貴重な資料。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	歴史資料	鶴岡八幡宮指図	つるがおかはちまんぐうさしず	1鋪	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）		天正十九年五月十四日	H24.8.6名称変更	室町時代。鶴岡八幡宮の修理のために作られた指図書。豊臣秀吉が徳川家康に命じて修営させた際作られた。
国	歴史資料	円覚寺仏殿造営図	えんがくじぶつでんぞうえいず	2鋪	H23.6.27	鎌倉市	鎌倉国宝館（雪ノ下2-1-1）	鎌倉市		建地割図 元亀四年三月二十三日 1鋪、指図 元亀四年三月□日 1鋪		円覚寺の仏殿再興のため元亀4年（1573）に作成された建地割図（断面図）と指図（平面図）の清書本。中世五山仏殿の構造形式を伝える安土桃山時代の精緻な建築設計図として、建築史上、禅宗文化史上に史料価値が高い。
県	有形民俗文化財	獅子型墨壺	ししがたすみつぼ	1個	S30.8.30	鎌倉市	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）	鶴岡八幡宮				鎌倉～室町時代。全体に丹漆を塗り鎌倉彫形式の珍しいもの。現在あるなかで最優良作の一つである。
県	有形民俗文化財	神輿	みこし	7基	S30.8.30	鎌倉市	鶴岡八幡宮（雪ノ下2-1-31）	鶴岡八幡宮				桃山～江戸時代初期。三基は本宮用、四基は若宮用で、後者はわずかに形体が小柄で手法もやや簡略になっている。
県	無形民俗文化財	御霊神社の面掛行列	ごりょうじんじゃのめんかけぎょうれつ		S51.10.19	鎌倉市		鎌倉市坂ノ下御霊会		9月18日	S46.3.30県無形文化財指定	同社の祭典で氏子達が明治五年銘の十種類の異様な仮面を掛けて行道する。明治維新前まで鶴岡八幡宮の祭礼に加わっていた。
国	史跡	日野俊基墓	ひのとしもとはか		S2.4.8	鎌倉市	梶原字六本松		鎌倉市			後醍醐天皇につかえた公家で鎌倉幕府打倒計画に加わり、元弘二年に討たれた日野俊基の墓とされる。
国	史跡	浄光明寺境内・冷泉為相墓	じょうこうみょうじけいだい・れいぜいためすけはか		S2.4.8	鎌倉市	扇ガ谷				H19.2.6追加指定及び名称変更 H21.7.23追加指定及び一部解除	浄光明寺は鎌倉中期創建の北条氏、足利氏ゆかりの寺院で、その境内は14世紀作成の重要文化財「浄光明寺敷地絵図」に描かれた鎌倉時代の景観を良くとどめている。冷泉為相墓は同境内に位置し、鎌倉歌壇を隆盛に導いた、歌道の由緒の地である。平成19年2月6日に既指定の冷泉為相墓に浄光明寺の境内域を追加指定し、名称を変更した。
国	史跡	極楽寺境内・忍性墓	ごくらくじけいだい・にんしょうのはか		S2.4.8	鎌倉市	極楽寺				H20.3.28追加指定及び名称変更、H20.7.28追加指定	極楽寺は中世鎌倉を代表する寺院の一つで、京鎌倉往還の鎌倉側の入り口に位置し、交通路の支配と防御の拠点となった寺院。貧民救済で名高い忍性が活動の拠点とした。忍性墓は安山岩製総高357.3センチメートルの大五輪塔。地輪から忍性と慈済の銘文のある納骨器が出土した。
国	史跡	伝上杉憲方墓	でんうえすぎのりかたのはか		S2.4.8	鎌倉市	極楽寺		鎌倉市			極楽寺支院西方寺跡にある。墳墓堂跡かと思われる石囲の構造物のまわりに七層塔他が並ぶ。
国	史跡	稲村ヶ崎（新田義貞徒渉伝説地）	いなむらがさき(にったよしさだとしょうでんせつち)		S9.3.13	鎌倉市	稲村ガ崎		鎌倉市			元弘三年、新田義貞が鎌倉攻めの際、汐の引くことを祈って太刀を海中に投じたという伝説の地。
国	史跡	若宮大路	わかみやおおじ		S10.6.7	鎌倉市	小町、御成町、由比ガ浜		鎌倉市		H18.1.26追加指定	寿永元年源頼朝が造らせた鶴岡八幡宮の参道。社前から由比ヶ浜へ一直線に走る道路である。海岸橋交差点から三の鳥居までの道路敷、歩道敷が追加指定された。
国	史跡	浄智寺境内	じょうちじけいだい		S41.2.28	鎌倉市	山ノ内					鎌倉五山第四位。境内はもと、谷全体だったと思われるが、現在伽藍は総門、鐘楼門、仏殿、庫裡のみ。
国	史跡	寿福寺境内	じゅふくじけいだい		S41.3.22	鎌倉市	扇ガ谷				H20.7.28追加指定	鎌倉五山第三位。源義朝の邸跡といわれる。境内のやぐらには、源実朝、政子の墓と伝えられる五輪塔がある。
国	史跡	永福寺跡	ようふくじあと		S41.6.14	鎌倉市	二階堂				H20.7.28追加指定	建久三年（1192）、源頼朝が平泉の中尊寺、毛越寺をまねて造った寺。平泉的仏堂が広い池に東面していたと思われる。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	史跡	建長寺境内	けんちょうじけいだい		S41.9.12	鎌倉市	山ノ内				H19.7.26追加指定	13世紀中期に創建された我が国最初の禅宗専門道場で、鎌倉五山の第一位。禅宗式伽藍配置を鎌倉でもっともよく残している。仏殿前の柏槇（びゃくしん）は古図にもある。
国	史跡	浄妙寺境内	じょうみょうじけいだい		S41.11.2	鎌倉市	浄明寺					鎌倉五山第五位。文治四年足利義兼創建の極楽寺を改称したと伝える。塔頭20を数えたがすべて廃絶した。
国	史跡	円覚寺境内	えんがくじけいだい		S42.4.24	鎌倉市	山ノ内、大船					鎌倉五山の第二位。中国の径山の伽藍配置を学び、三門、仏殿が一直線上にならぶ禅宗様伽藍配置を残す。
国	史跡	鶴岡八幡宮境内	つるがおかはちまんぐうけいだい		S42.4.24	鎌倉市	雪ノ下、小町、材木座				H17.8.29追加指定	源頼義が由比の郷に石清水八幡宮を勧請し、頼朝が現在地に移した。武家の尊崇厚く、院房も25を数えた。三方堀及び源氏池部分が追加指定されている。
国	史跡	覚園寺境内	かくおんじけいだい		S42.6.22	鎌倉市	二階堂					北条義時が建立した薬師堂を前身とする。開基は北条貞時。足利尊氏が再興した。
国	史跡	亀ヶ谷坂	かめがやつざか		S44.6.5	鎌倉市	山ノ内、扇ガ谷					鎌倉七口の一つ。長寿寺の谷からくの字に折れて急な下り坂になり亀ヶ谷に入る道である。
国	史跡	巨福呂坂	こぶくろざか		S44.11.29	鎌倉市	雪ノ下					鶴岡八幡宮石段下を北西に一直線に進む道で、聖天社を左にみて山裾を進む坂路になっている。
国	史跡	仮粧坂	けはいざか		S44.11.29	鎌倉市	扇ガ谷、山ノ内、梶原、佐助				H19.7.26追加指定 H21.7.23追加指定及び一部解除	鎌倉七口の一つ。鎌倉と武蔵、上野を結んだ街道の切通道で、坂上の平場は繁華な商業地区でもあり、刑場、葬送の場でもあった。 葛原が岡神社のある尾根から梅ヶ谷へ下るS字形に山腹を切りわった坂路になっている。
国	史跡	瑞泉寺境内	ずいせんじけいだい		S46.11.8	鎌倉市	二階堂				H20.3.28追加指定	夢窓疎石が開山の中世鎌倉を代表する寺院の一つで、関東十刹の一つでもある。仏殿背後の庭園は夢窓疎石が築いたと伝えられる。
国	史跡	大仏切通	だいぶつきりどおし		S52.8.10	鎌倉市	長谷、常盤、笛田		鎌倉市		H2.3.29追加指定及び一部解除	鎌倉七口の一つ。鎌倉防衛を考慮した当時の名残と思われる切通路のくりかえしがよく旧状を残している。
国	史跡	北条氏常盤亭跡	ほうじょうしときわのていあと		S53.12.19	鎌倉市	常盤					大仏切通附近の常磐の地は、北条一族の邸宅の跡と云われてきたが、発掘で遺構が確認された。
国	史跡	明月院境内	めいげついんけいだい		S59.2.9	鎌倉市	山ノ内					明月院は鎌倉十刹の一つ禅興寺の塔頭で、その境内は旧規をよく今に伝える。
国	史跡	東勝寺跡	とうしょうじあと		H10.7.31	鎌倉市	小町		鎌倉市			北条一族が自刃した鎌倉幕府滅亡の地として、歴史上重要である。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	史跡	法華堂跡（源頼朝墓・北条義時墓）	ほっけどうあと（みなもとのよりとものはか・ほうじょうよしときのはか）		S2.4.8（法華堂跡）S2.6.14（源頼朝墓）	鎌倉市	西御門二丁目・雪ノ下		鎌倉市		H12.1.31源頼朝墓と法華堂跡を統合し新たに指定H18.7.28北条義時墓を追加指定し、名称変更	鎌倉大倉幕府跡の背後の山稜部に営まれた、幕府の創始者の源頼朝と2代執権北条義時の墳墓堂・墓所の跡で、幕府を守護する、精神的な拠り所となった宗教施設として重要。
国	史跡	鎌倉大仏殿跡	かまくらだいぶつでんあと		H16.2.27	鎌倉市	長谷四丁目、五丁目					鎌倉時代中頃に鎌倉幕府が関東鎮護の寺院として造営した中世寺院跡であり、大仏の鋳造過程を示す遺構及び大仏殿建物跡の遺構などが良好に遺存しており、幕府の宗教政策を示す遺跡としても重要。
国	史跡	荏柄天神社境内	えがらてんじんしゃけいだい		H17.7.14	鎌倉市	二階堂字荏柄					武家政権の守護神として、鶴岡八幡宮とともに信仰された詩歌信仰の中心であった神社である。
国	史跡	仏法寺跡	ぶっぽうじあと		H18.7.28	鎌倉市	極楽寺一丁目、坂ノ下		鎌倉市			鎌倉幕府、北条氏の支援のもとで陸上・海上交通を支配した極楽寺の有力末寺の寺院跡で、元弘の鎌倉攻めの激戦地の一つでもあり、都市周縁部の葬送、供養関係の遺構も良好に残されている。
国	史跡	一升桝遺跡	いっしょうますいせき		H19.2.6	鎌倉市	極楽寺二丁目、同四丁目		鎌倉市			鎌倉の西側山稜部の交通路を守る、方形の土塁で囲まれた、鎌倉時代の防衛施設の跡で、遺存状態も良好。北条氏の交通路支配、寺院と交通路管理の関連性等、中世都市鎌倉の特徴を考える上で重要。
国	史跡	大町釈迦堂口遺跡	おおまちしゃかどうぐちいせき		H22.8.5	鎌倉市	大町					総数64基のやぐらと、13～14世紀に造成された平場の建物等の遺構が、一体で遺存している数少ない貴重な場所であり、鎌倉において宗教的な目的で行われたと考えられる谷戸の開発と祭祀信仰のあり方を知る上で重要。
国	史跡	名越切通	なごえきりどおし		S41.4.11	逗子市・鎌倉市	逗子市小坪、同久木、鎌倉市大町				S56.10.13、S58.11.26、H20.7.28、H21.7.23追加指定	鎌倉七口の一つ。山腹路と切通路を組み合せ、800メートルにおよぶ切岸を伴い、一大要塞をなす。
国	史跡	和賀江嶋	わかえのしま		S43.10.14	鎌倉市・逗子市	鎌倉市材木座、逗子市小坪及び海面		鎌倉市・逗子市		H18.1.26追加指定	貞永元年、往阿弥陀仏の言を入れ北条泰時以下が協力し、一ヶ月を費やして造った築港の跡である。既指定地西側及び北側の海面部分が追加指定された。
国	史跡	朝夷奈切通	あさいなきりどおし		S44.6.5	横浜市・鎌倉市	横浜市金沢区朝比奈町、鎌倉市十二所				H15.8.27、H19.7.26、H20.7.28追加指定	13世紀中期に執権北条泰時によって開削された。鎌倉七口の一つで最も高く峻険である。鎌倉と外港・六浦津を結ぶ重要交通路であり、防禦施設の名残も残されている。
県	史跡	段葛	だんかづら		S30.8.30	鎌倉市	雪ノ下					若宮大路の中央に一段高く土盛りをしてある参詣道。現在は二の鳥居までで終わっている。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	史跡	百八やぐら（覚園寺）	ひゃくはちやぐら（かくおんじ）		S36.7.4	鎌倉市	二階堂					鎌倉時代後半から室町時代にかけて山腹に営造された中世墳墓窟。150穴を数える。
国	名勝及び史跡	建長寺庭園	けんちょうじていえん		S7.7.23	鎌倉市	山ノ内				史跡建長寺境内の内	鎌倉五山の第一。禅宗式伽藍配置を鎌倉でもっともよく残している。仏殿前の柏槇は古図にもある。当該物件を含む建長寺境内は、史跡としても国の指定を受けている。
国	名勝及び史跡	円覚寺庭園	えんがくじていえん		S7.7.23	鎌倉市	山ノ内				史跡円覚寺境内の内	鎌倉五山の第二。中国の径山の伽藍配置を学び、三門、仏殿が一直線上にならぶ禅宗様伽藍配置を残す。当該物件を含む円覚寺境内は、史跡としても国の指定を受けている。
国	名勝	瑞泉寺庭園	ずいせんじていえん		S46.11.8	鎌倉市	二階堂			H20.3.28 追加指定	史跡瑞泉寺境内の内	関東十刹の一つ。仏殿背後の庭園は夢窓疎石が築いたと伝えられ、発掘整備された。当該物件を含む瑞泉寺境内は、史跡としても国の指定を受けている。
国	登録有形	鎌倉国宝館本館	かまくらこくほうかんほんかん		H12.4.28	鎌倉市	鎌倉市雪ノ下2-1051-2	鎌倉市		昭和3年	RC2	鉄筋コンクリートによる高床式校倉風建築で、中世の禅宗様の建築様式がコンクリートで再現されるなど近代的な技法により和風表現がされている。
国	登録有形	鎌倉文学館本館	かまくらぶんがくかんほんかん		H12.4.28	鎌倉市	鎌倉市長谷1-215	鎌倉市		昭和11年	RC・木造3	もと加賀藩主の家系、前田利為侯爵・陸軍大将の別荘として建てられた、鎌倉に現存する戦前に建てられた最大の洋風邸宅建築。
国	登録有形	鎌倉市長谷子ども会館洋館	かまくらしはせこどもかいかんようかん		H18.10.18	鎌倉市	鎌倉市長谷1-227-32	鎌倉市		明治41年	木造二階建	洋館は、随所に技巧を凝らした華麗な造形意匠を見せる。蔵は洋館との統一感を意識した洋風の外観である。
国	登録有形	鎌倉市長谷子ども会館蔵	かまくらしはせこどもかいかんくら		H18.10.18	鎌倉市	鎌倉市長谷1-227-32	鎌倉市		明治41年	木造平屋建	
国	登録有形	旧華頂家住宅主屋	きゅうかちょうけじゅうたくしゅおく		H18.10.18	鎌倉市	鎌倉市浄明寺2-486-1他	鎌倉市		昭和4年	木造地上三階地下一階建	端正なつくりのハーフ・ティンバー風の洋風住宅建築。
国	登録有形	三河屋本店店舗兼住宅	みかわやほんてんてんぽけんじゅうたく		H18.10.18	鎌倉市	鎌倉市雪ノ下1-270-1他	個人		昭和2年	木造二階建	若宮大路に面する。店舗兼住宅は正面に長大な差鴨居を渡す重厚なつくりで、北側後方に木造の蔵を配する。
国	登録有形	三河屋本店蔵	みかわやほんてんくら		H18.10.18	鎌倉市	鎌倉市雪ノ下1-270-1他	個人		昭和2年	木造平屋建	
国	登録有形	寸松堂主屋	すんしょうどうしゅおく		H18.10.18	鎌倉市	鎌倉市笹目町292-1他	個人		昭和11年	木造二階建	主屋は、寺院風意匠と城郭風意匠とを巧みに採り入れた商店建築で、北東隅には土蔵造2階建の蔵を配する。
国	登録有形	寸松堂蔵	すんしょうどうくら		H18.10.18	鎌倉市	鎌倉市笹目町292-1他	個人		昭和11年	土蔵造二階建	
国	登録有形	かいひん荘鎌倉洋館（旧村田家住宅洋館）	かいひんそうかまくらようかん（きゅうむらたけじゅうたくようかん）		H21.8.7	鎌倉市	鎌倉市由比ガ浜4-1185-2	鎌倉興業株式会社		大正13年/昭和49年頃・昭和57年改修	木造2階建/スレート葺一部銅板葺	富士製紙の社長村田一郎の住宅として建てられ、昭和27年から旅館となっている。腰折屋根やベイウインドウが特徴の瀟洒な建物で、室内意匠も優れている。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	田丸家住宅主屋	たまるけじゅうたくしゅおく		H23.1.26	鎌倉市	鎌倉市扇ガ谷2-254-1	個人		大正7年／昭和3年・昭和35年・昭和45年改修	木造平屋一部二階建、スレート葺	木造平屋の簡素で軽快な洋風建築。屋根は南北棟を中心に東西棟を十字に架ける複雑な外観の切妻屋根となっている。また、外壁を下見板張としている点や開口部枠周りの強調、漆喰が塗られた妻面とその下部の板張部分の対比など、細部において洋館らしさを強調する意匠が用いられている。
国	登録有形	髙﨑家住宅主屋	たかさきけじゅうたくしゅおく		H23.1.26	鎌倉市	鎌倉市山ノ内字藤源治942-1	個人		昭和5年／平成19年改修	木造二階建、瓦葺	木造二階建て切妻造、洋室付属型の和風住宅。昭和初期においては洋間部分の外壁にも洋風のデザインを施すのが通例な中で、左右対称形の大屋根を架け、妻面に下屋と庇を2段に付けることで、住宅の外観を和風としている点に特徴がある。一方で、間取りは昭和初期における中流住宅の典型となっている。
国	登録有形	櫺亭本館	らいていほんかん		H25.12.24	鎌倉市	鎌倉市鎌倉山3-1815-5他	個人		昭和4年／昭和5年増築／昭和44年改修	木造及び鉄筋コンクリート造平屋建一部地階付／瓦葺	櫺亭は、現在、和風レストランとして活用されている。もとは、事業家の別荘として建築されたもので、民家の古材を用い、洋間にステンドグラスを飾って、和洋の意匠を混交させている。山門は、禅宗様意匠を取り入れた四脚門である。
国	登録有形	櫺亭山門	らいていさんもん		H25.12.24	鎌倉市	鎌倉市鎌倉山3-1815-5	個人		明和7年（1770）／昭和6年移築	木造／瓦葺／間口3.2メートル	
国	登録有形	坂井家住宅和館	さかいけじゅうたくわかん		H26.10.7	鎌倉市	鎌倉市扇ガ谷	公益財団法人鎌倉風致保存会		昭和2年／昭和16年頃改修	木造2階建／瓦葺	扇ガ谷の奥寄りに坂井英太郎の鎌倉別邸として建築された。木造二階建で、南に面して建ち、正面東寄りに玄関を構え、背面東寄りに家政部を張出す。南面の開口を広めて採光するほか、玄関や取次の間、背面廊下を広めに作り、家政部分にも配慮がみられる別邸建築。
国	登録有形	坂井家住宅洋館	さかいけじゅうたくようかん		H26.10.7	鎌倉市	鎌倉市扇ガ谷	公益財団法人鎌倉風致保存会		昭和2年	木造2階建／スレート葺	和館の南東隅に接続して建つ木造二階建の建物。敷地の高低差を利用し、洋館の二階に和館の一階を接続する。外壁はモルタル塗リシン吹付とし、二階出窓の上下に見切を入れるなど、和館と対照的に見せる。二階を洋風の応接室として、洋館併設住宅の特徴を伝える。
国	登録有形	日高家住宅主屋	ひだかけじゅうたくしゅおく		H28.2.25	鎌倉市	鎌倉市腰越五丁目	個人		昭和6年	木造2階建、銅板葺	日高家住宅は、建築家・日高胖（ゆたか）の自邸である。主屋は、通風や採光など住環境への工夫がみられ、和洋の多様な意匠を取り入れた設計となる。大谷石を積んだ門及び塀とともに登録する。
国	登録有形	日高家住宅門及び塀	ひだかけじゅうたくもんおよびへい		H28.2.25	鎌倉市	鎌倉市腰越五丁目	個人		昭和7年頃	門　石造、間口3.3m　塀　石造、延長21m	
国	登録有形	神霊教鎌倉錬成場霊源閣	しんれいきょうかまくられんせいじょうれいげんかく		H28.11.29	鎌倉市	鎌倉市長谷三丁目	宗教法人神霊教		大正7年/昭和31年増築	木造平屋建/瓦葺一部銅板葺	実業家で衆議院議員も務めた山本条太郎の別荘として建てられた。霊源閣は、表千家残月亭を意識した意匠を随所に備えるなど、上質な近代数寄屋建築。待合等は所有者が変わって後に建てられたものであるが、侘びた風情を見せ、一連の景観を見せている。
国	登録有形	神霊教鎌倉錬成場待合	しんれいきょうかまくられんせいじょうまちあい		H28.11.29	鎌倉市	鎌倉市長谷三丁目	宗教法人神霊教		昭和31年頃	木造平屋建/銅板葺	
国	登録有形	神霊教鎌倉錬成場練塀	しんれいきょうかまくられんせいじょうねりべい		H28.11.29	鎌倉市	鎌倉市長谷三丁目	宗教法人神霊教		昭和31年頃	土塀/瓦葺/延長16m	
国	登録有形	神霊教鎌倉錬成場門	しんれいきょうかまくられんせいじょうもん		H28.11.29	鎌倉市	鎌倉市長谷三丁目	宗教法人神霊教		昭和31年頃	木造/銅板葺/間口1.8m	

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	鎌倉市立御成小学校旧講堂	かまくらしりつおなりしょうがっこうきゅうこうどう		H29.6.28	鎌倉市	鎌倉市御成町	鎌倉市		昭和8年	木造平屋建／鋼板葺	校舎とともに鎌倉御用邸跡地に建設された木造平屋建の建物で、戦前の鎌倉における小学校建築の唯一の遺構である。入母屋造の屋根に２箇所の塔屋を設け、内外に和洋の要素を併せ持つ希少な大規模講堂である。
国	登録有形	鎌倉市吉屋信子記念館主屋	かまくらしよしやのぶこきねんかんしゅおく		H29.6.28	鎌倉市	鎌倉市長谷一丁	鎌倉市		昭和37年	木造一部コンクリートブロック造平屋建、スレート葺	建築家　吉田五十八（いそや）が設計した吉屋信子の三軒目の自邸である。主屋は平屋建で、平面計画、内法材を減らし床レベルに工夫を凝らす点など、和風要素を巧みに取り入れた、当該建築家の数寄屋住宅の特徴をよく示す。特色ある意匠の門及び塀ともに保存を図る。
国	登録有形	鎌倉市吉屋信子記念館門及び塀	かまくらしよしやのぶこきねんかんもんおよびへい		H29.6.28	鎌倉市	鎌倉市長谷一丁	鎌倉市		昭和37年頃	木造、瓦葺	
国	登録有形	吉岡家住宅主屋	よしおかけじゅうたくしゅおく		H29.6.28	鎌倉市	鎌倉市由比ガ浜一丁目	個人		昭和5年	木造2階建、スレート葺	ラジオ商店舗のショールームのための別館として建築された木造二階建の建物である。一階のステンドグラス、二階の床廻りや天井に様々な意匠を織り交ぜた特徴的な住宅建築である。
国	登録有形	旧吉原家別邸主屋	きゅうよしわらけべっていしゅおく		R1.12.5	鎌倉市	鎌倉市佐助	個人		昭和８年頃／平成５年改修	鉄筋コンクリート造及び木造地上二階地下一階建、スレート葺	木造二階建て、寄棟造スレート葺で、庭側に半円半面のサンルームを張出し、外壁はプラスター塗とスクラッチタイルで仕上げる。和洋折衷の形式を持つ別荘建築。
国	登録有形	旧田島屋材木店（古民家スタジオ・イシワタリ）主屋	きゅうたじまやざいもくてん（こみんかすたじお・いしわたり）しゅおく		R1.12.5	鎌倉市	鎌倉市長谷	個人		昭和２年／昭和30年代増築	木造二階建、瓦葺一部銅板葺	元材木店の店舗兼住宅。通りの北側敷地に建つ木造２階建てで、木材商の建築らしく軸部堅牢で良材を多用する。変容著しい長谷周辺において昭和初期の様相を伝える希少な遺構。
国	登録有形	旧田島屋材木店（古民家スタジオ・イシワタリ）門及び塀	きゅうたじまやざいもくてん（こみんかすたじお・いしわたり）もんおよびへい		R1.12.5	鎌倉市	鎌倉市長谷	個人		昭和２年	（門）木造（塀）木造、瓦葺	門は約20センチメートル角の門柱一対に板戸引違とし、袖塀は竪板張で笠木を載せる。塀は腰高のコンクリート基礎に竪板張の板塀をたてて銅板葺とする、瀟洒な屋敷構えを創る門塀。
国	登録有形	田中・大野邸主屋	たなか・おおのていおもや		R2.4.3	鎌倉市	鎌倉市扇ガ谷	個人		昭和７年	木造平屋建、瓦葺	扇ガ谷の谷筋奥の敷地に建つ瀟洒な住宅。外壁は下見板張で上下窓を並べ、フランス瓦を葺くなど洋風でまとめる。平面は16坪の広い居間を中心としたＨ字形で、東に書斎や寝室、西に応接間、食堂、水回りを配する。戦前の鎌倉市における閑静な住環境を伝える。
国	登録有形	旧太田家住宅主屋（宝善院三摩耶庵）	きゅうおおたけじゅうたくおもや（ほうぜんいんさんまやあん）		R2.8.17	鎌倉市	鎌倉市腰越	宗教法人宝善院		昭和11年、昭和16年増築	木造平屋一部二階建、瓦葺	宝善院境内地に建つ木造の和洋折衷住宅。木造平屋一部二階建、寄棟造瓦葺で、中廊下の南を和室とし、南側の庭園に面して広縁を設ける。南西隅に洋風の外観で玄関ポーチや洋室を配し、和洋の意匠を巧みに配合する。
国	登録有形	材木座公会堂	ざいもくざこうかいどう		R2.8.17	鎌倉市	鎌倉市材木座	一般社団法人材木座自治連合会		大正７年、平成９年頃改修	木造平屋一部二階建、金属板葺	町民や別荘地の住民の寄付で建設した集会所兼防災施設。通り沿いの敷地に西面して建ち、敷地の南西隅に防火水槽を設置する。木造平屋一部二階建、入母屋造金属板葺である。内部は広い一室の集会所で東面に床を構える。地域の集会所として現在も利用されている。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	旧川喜多家別邸（石島家住宅）主屋	きゅうかわきたけべってい（いしじまけじゅうたく）おもや		R3.2.4	鎌倉市	鎌倉市雪ノ下	株式会社石島企画		昭和17年頃／平成６年改修	木造二階一部平屋建、石綿セメント板葺一部鉄板葺	実業家川喜多長政の別邸。木造二階建の洋館で、玄関は北東隅に半円アーチの開口をつくりポーチとする。内部は南側を主要居室にあてる。モルタル仕上の壁面と白の窓枠に特徴付けられた瀟洒な外観は、戦前の鎌倉の住宅のたたずまいを伝える。
国	登録有形	湯浅物産館	ゆあさぶっさんかん		R3.2.4	鎌倉市	鎌倉市雪ノ下	個人		昭和11年	木造二階建、鉄板葺	若宮大路に東面して建つ二階建の看板建築。間口六間、奥行十一間半で、店の奥にトップライト付きの吹抜けを設けた近代的なつくりとする。正面はスクラッチタイル貼とし、二階に六連の額縁飾付半円アーチ窓を配して意匠を凝らし、街路景観に彩りを添える。
国	登録有形	本覚寺本堂	ほんがくじほんどう		R4.10.31	鎌倉市	鎌倉市小町	宗教法人本覚寺		大正12年	木造平屋建、瓦葺	若宮大路の東に位置する日蓮宗寺院。本堂は、境内中央西寄りに東面し、桁行七間、梁間七間、入母屋造桟瓦葺で、正面に軒唐破風の向拝を付す。日蓮宗の伝統的平面ながら、小屋組はトラスとして軽量化を図る。関東大震災を乗り越えた十代伊藤平左衛門による本堂。
国	登録有形	本覚寺客殿	ほんがくじきゃくでん		R4.10.31	鎌倉市	鎌倉市小町	宗教法人本覚寺		昭和５年	木造平屋建、瓦葺	本堂の南東に北面する。入母屋造桟瓦葺の東西棟で、北面東寄りに入母屋造妻入の式台玄関を付し、銅板葺の庇を三方に巡らす。内部は十畳の座敷を三室並べ、西側を上座敷として床構えを設ける。関東大震災後の再建で、伽藍中枢の景観をつくる広壮な客殿。
国	登録有形	本覚寺庫裏	ほんがくじくり		R4.10.31	鎌倉市	鎌倉市小町	宗教法人本覚寺		昭和前期	木造平屋建、瓦葺	客殿の東に北面する。切妻造桟瓦葺の東西棟で、北面西寄りに入母屋造妻入の玄関を付す。内部は四室を田の字に配し、南西間を床付き座敷とし、南西面に矩折に廊下が廻る。関東大震災後の再建で、床下や軸部に古材を転用し、伽藍復興の様相を伝える。
国	登録有形	本覚寺分骨堂	ほんがくじぶんこつどう		R4.10.31	鎌倉市	鎌倉市小町	宗教法人本覚寺		昭和５年	木造平屋建、瓦葺	本堂の北に東面し、日蓮上人の分骨を納める廟堂。桁行一間、梁間一間の身舎に裳階を付し、屋根は宝形造桟瓦葺。内部は身舎内の須弥壇は彩色塗装で荘厳し、後方壇に分骨を納める多宝小塔を安置。関東大震災後の再建で、伽藍中枢に雄大な景観を形成する。
国	登録有形	本覚寺鐘楼	ほんがくじしょうろう		R4.10.31	鎌倉市	鎌倉市小町	宗教法人本覚寺		昭和６年	木造、瓦葺	本堂の北東に位置する。桁行一間、梁間一間、入母屋造桟瓦葺で石積基壇上に建つ。四隅の円柱を腰貫、飛貫、虹梁型頭貫で固め、上部は干支透彫欄間で飾る。組物は出組で軒は二軒繁垂木。関東大震災後の再建で、寺院の歴史的景観をつくる装飾豊富な鐘楼。
国	登録有形	本覚寺手水舎	ほんがくじてみずや		R4.10.31	鎌倉市	鎌倉市小町	宗教法人本覚寺		昭和前期	木造、銅板葺	本堂の東に位置する。桁行一間、梁間一間、切妻造銅板葺。四隅に几帳面取角柱を建て虹梁型頭貫を渡し、獏、唐獅子彫刻の木鼻を架ける。柱上は枠肘木を載せて虹梁を架け、欄間を龍や鳳凰の彫刻で飾る。小規模ながら質の高い彫刻で華やかに飾る手水舎。
国	登録有形	本覚寺楼門	ほんがくじろうもん		R4.10.31	鎌倉市	鎌倉市小町	宗教法人本覚寺		安政２年（1855）／明治９年移築・平成25年改修	木造二階建、瓦葺	夷堂橋西詰にある伽藍東辺の門。桁行三間、梁間二間、入母屋造桟瓦葺で二軒繁垂木、組物は出三斗、中備は間斗束とする。下層両脇間に金剛力士像を安置する。上層は一室の板敷、鏡天井とする。寺院の主要な表構えをつくり、滑川沿いの歴史的景観を形成する。

鎌倉市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	本覚寺大門	ほんがくじおおもん		R4.10.31	鎌倉市	鎌倉市小町	宗教法人本覚寺		昭和前期	木造、瓦葺	本堂北の小路に開く門。一間一戸の高麗門で門扉を省略する。切妻造桟瓦葺、両側面に袖壁を付す。軸部は円柱の親柱を立てて内法に梁を渡し、二段の絵様肘木で丸桁を支持する。袖壁は腰を板壁、腰貫上を縦格子窓。境内北辺を画し、寺院の風格を示す木太い門。
国	登録有形	本多家住宅（旧中上川家住宅）主屋	ほんだけじゅうたく（きゅうなかみがわけじゅうたく）おもや		R5.2.27	鎌倉市	鎌倉市小町	個人		昭和４年／同前期・同29年頃改修	木造二階建、瓦葺	鎌倉市小町の滑川西岸に位置する近代和風住宅。二階建入母屋造桟瓦葺、南西に平屋建の離れを付して全体にL字を呈する。北面中央を玄関とし、内部は中廊下を通して和洋室を配し、二階南面にガラス屋根のサンルームを付す。鎌倉の旧別荘地に残る良質な住宅。
国	登録有形	本多家住宅（旧山本家住宅）門及び塀	ほんだけじゅうたく（きゅうやまもとけじゅうたく）もんおよびへい		R5.2.27	鎌倉市	鎌倉市小町	個人		昭和29年／平成10年改修	木造、瓦葺	敷地北面に位置する門及び塀。設計は狩野春一。門は親柱の前後に控え柱を建てて棟木と母屋を受け、屋根は切妻造桟瓦葺。間口は西寄りに二分し、東を両開戸、西を潜戸とする。塀は真壁造とし壁は漆喰仕上げで腰は縦板張。屋敷の表を整える洗練された門と塀。
国	登録有形	旧神奈川県営湘南水道鎌倉加圧ポンプ所	きゅうかながわけんえいしょうなんすいどうかまくらかあつぽんぷじょ		R6.8.15	鎌倉市	鎌倉市長谷	熊沢酒造株式会社		昭和11年／昭和40年、令和４年改修	鉄筋コンクリート造平屋一部二階建	大仏隧道鎌倉口に建ち、上水を加圧送水したポンプ所。鉄筋コンクリート造平屋建、外壁スクラッチタイル貼、腰を人造石とし縦長窓と単窓を並べる。内部は矩形平面で北寄りを二層とし、階段廻りを幾何学的意匠で飾る。簡明な構成で入口等要所の意匠を凝らす。
国	登録有形	旧鎌倉図書館	きゅうかまくらとしょかん		R6.8.15	鎌倉市	鎌倉市御成町	鎌倉市		昭和11年／令和５年改修	木造二階建、瓦葺	市役所東側の敷地に南面して建つ。木造二階建の外観は一、二階通しの柱形を付し縦長窓を多用。腰は緑青釉薬スクラッチタイル貼、懸魚を付した大きな切妻屋根を架ける。階段柱にはアールデコ調意匠をあしらう。シンプルな和洋折衷意匠が特徴的な図書館建築。

藤沢市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国宝	絵画	絹本著色　一遍上人絵伝　法眼圓伊筆	けんぽんちゃくしょく　いっぺんしょうにんえでん　ほうげんえんいひつ	12巻	S27.3.29	藤沢市	清浄光寺（西富1-8-1）	清浄光寺		正安元年聖戒の奥書がある		鎌倉時代。生涯の大半を諸国の遊行に費やし踊念仏をするなど、布教につとめた時宗の開祖の一遍上人の行状を詳しく図絵したものである。
国	絵画	絹本著色　後醍醐天皇御像	けんぽんちゃくしょく　ごだいごてんのうおんぞう	1幅	M33.4.7	藤沢市	清浄光寺（西富1-8-1）	清浄光寺				室町時代。画面上部に三社明神号を記し、冠をつけ、礼服上に袈裟をまとって、五鈷鈴を手に持つ異形の画。
国	絵画	絹本著色　一向上人像	けんぽんちゃくしょく　いっこうしょうにんぞう	1幅	S34.6.27	藤沢市	清浄光寺（西富1-8-1）	清浄光寺			S29.7.27県指定	南北朝時代。粗衣をまとって遊行念仏している姿を、いきいきとした描線で写実的に描いた優品。
県	絵画	絹本著色　二河白道図	けんぽんちゃくしょく　にかびゃくどうず	1幅	S28.12.22	藤沢市	清浄光寺（西富1-8-1）	清浄光寺				室町時代。善導大師が願往生心をすすめる二河白道の喩えを描いた浄土教の比喩画。
県	絵画	紙本著色　遊行上人縁起絵巻	しほんちゃくしょく　ゆぎょうしょうにんえんぎえまき	10巻	S57.2.9	藤沢市	清浄光寺（西富1-8-1）	清浄光寺				室町時代。宗俊によって編集された十巻本の系統に属する。1～4巻に一遍、5～10巻に他阿の事跡を描く。
県	絵画	絹本著色　一遍上人像	けんぽんちゃくしょく　いっぺんしょうにんぞう	1幅	H7.2.14	藤沢市	清浄光寺（西富1-8-1）	清浄光寺				鎌倉時代の作。数多い一遍上人像の中で最も有名な作品。
県	絵画	紙本墨画淡彩　一遍上人像	しほんぼくがたんさい　いっぺんしょうにんぞう	1幅	H7.2.14	藤沢市	清浄光寺（西富1-8-1）	清浄光寺				室町時代の作。阿弥衣に横線を重ねて描き、衣の質感をだす工夫がされている。
国	彫刻	木造　薬師如来坐像	もくぞう　やくしにょらいざぞう	1躯	S2.4.25	藤沢市	養命寺（城南4-10-35）	養命寺				鎌倉時代（胎内に建久8年の墨書銘）。この地方でつくられたものと思われ、粗放かつ素朴な像である。
国	彫刻	木造　弁才天坐像	もくぞうさいしき　べんざいてんざぞう	1躯	R1.7.23	藤沢市	江島神社（江の島2-3-8）	江島神社			S28.12.22県指定	鎌倉時代。寄木造。宋風彫刻の影響を受け複雑な衣文を巧みにまとめている。八臂弁才天坐像としては、もっとも古い例に属する。
県	工芸	太刀　銘　肥前国佐賀住河内大掾藤原正広作	たち　めい　ひぜんのくにさがじゅうかわちだいじょうふじわらまさひろさく	1口	S33.1.14	藤沢市	江島神社（江の島2-3-8）	江島神社		裏　正保四年八月吉日　施主　鍋島大（以下不明）		江戸時代。雄大（刃長93.9センチメートル）な姿に思い切った皆焼刃を焼く。社伝では鍋島甲斐守の奉納という。
県	工芸	わきざし　銘　相州住秋広	わきざし　めい　そうしゅうじゅうあきひろ	1口	S34.3.6	藤沢市	木村美術館（湯河原町鍛冶屋651）	個人		裏　貞治三年十二月日		南北朝時代。平造身幅広く真の棟、先反りの寸延姿のわきざしで、棒樋が彫られている。
県	工芸	銅鐘（清浄光寺）	どうしょう（しょうじょうこうじ）	1口	H2.2.13	藤沢市	清浄光寺（西富1-8-1）	清浄光寺				南北朝時代（銘に延文六年）。物部光連の作品。
国	書跡・典籍・古文書	時衆過去帳　僧衆・尼衆	じしゅうかこちょう　そうしゅう・にしゅう	2帖	S29.3.20	藤沢市	清浄光寺（西富1-8-1）	清浄光寺				鎌倉時代～江戸時代。僧衆、尼衆の二冊からなり別名「往古之過去帳」といわれる時宗に特有の過去帳である。
国	書跡・典籍・古文書	六時居讃 安食問答	ろくじいさん　あんじきもんどう	1帖 1帖	S29.3.20	藤沢市	清浄光寺（西富1-8-1）	清浄光寺			指定は2帖で1件	鎌倉時代。六時居讃は一日を六時に分け、簡潔な和讃、安食問答、逐条問答体で書いた時宗の聖典である。
県	書跡・典籍・古文書	紙本墨書　岩本院文書	しほんぼくしょ　いわもといんもんじょ	1帖 50巻	S50.2.7	藤沢市		個人				鎌倉時代～江戸時代。岩本院は江ノ島の本宮をあずかる一山の総別当であった。ここに主に後北条関係を中心とした中世文書三十六通、近世文書三七〇通の各古文書である。
国	考古資料	壺形土器	つぼがたどき	1箇	S41.6.11	藤沢市		個人		東京都大田区久ケ原町出土	S49.6.8名変更	弥生時代。均斉がよくとれ固く焼きあげ、縄文文様と赤色の彩色が見事で東日本弥生式土器の代表である。

藤沢市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	有形民俗文化財	藤沢の信仰用具コレクション	ふじさわのしんこうようぐこれくしょん	1件（81点）	S46.9.7	藤沢市	朝日町1-1	藤沢市				藁製の正月の「おかざり」を中心としたコレクションで、他に「虫おくりの竹筒」などもある。
県	有形民俗文化財	御嶽大神の庚申塔	みたけおおかみのこうしんとう	1基	H18.2.14	藤沢市	御嶽大神（遠藤2539）	御嶽大神				刻像は四臂青面金剛と二猿。光背正面に村名と明暦二年霜月の紀年銘があり、台部には施主九人の名を刻む。石塔研究や民間信仰史を明らかにする上で貴重な石塔。
県	無形民俗文化財	江の島囃子	えのしまばやし		H13.2.13	藤沢市		江の島囃子連合会		7月14日前後の土・日		江の島八坂神社天王祭囃子。江戸後期までに伝播したものと推定。チャルメラ・三味線・柄太鼓・鼓・銅鑼等の楽器と、しんみりとした曲調は全国的にも珍しく、底抜け屋台も今日では稀少。
県	無形民俗文化財	相模のささら踊り	さがみのささらおどり		H20.2.5	藤沢市・秦野市・厚木市・海老名市・綾瀬市		葛原芸能保存会・遠藤民俗芸能保存会・秦野ささら踊り保存会・愛甲ささら踊り盆唄保存会・長谷ささら踊り盆唄保存会・海老名ささら踊り保存会・綾瀬ささら踊り保存会		7月下旬に連合会大会		旧相模国で江戸時代に流行した七夕踊り・小町踊りの流れをくむ女性だけによる盆踊り。大正末期には廃絶してしまったが、戦後、旧相模国域各地で復活した。揃いの浴衣に帯を締めた襷掛けの女性が、長詞型または短詞型の独特な唄に合わせてビンザサラを突き、小太鼓を打ちながら踊る。
国	史跡	藤沢敵御方供養塔	ふじさわてきみかたくようとう		T15.10.20	藤沢市	西富					禅秀の乱平定の後、応永二十五年、戦死者の供養の為に建立したもの。角塔婆である。
県	史跡・名勝	江ノ島	えのしま		S35.10.4	藤沢市	江の島					第三紀の凝灰質砂岩からなり、洞窟や岩嘴が奇異な形をなして、古くからその名勝をうたわれている。当該物件は史跡としても県の指定を受けている。
国	登録有形	岩本楼ローマ風呂	いわもとろうろーまぶろ		H13.11.20	藤沢市	藤沢市江の島2-2-7	有限会社岩本楼本館		昭和5年頃	木造1	老舗旅館の洋風浴室。ガラスドームを架け、壁面には壁泉やベネチア窓風飾りをタイルやテラコッタで造る。
国	登録有形	旧近藤邸	きゅうこんどうてい		H14.8.21	藤沢市	藤沢市鵠沼東8-1	藤沢市		大正14年／昭和56年移築	木造2	設計は、遠藤新。木造で平面はT字形。外見は下見板張や軒板などで水平線を強調した造形や、庭側のテラス、建具などにライト風の意匠が顕著にみられる。
国	登録有形	旧後藤医院鵠沼分院	きゅうごとういいんくげぬまぶんいん		H22.9.10	藤沢市	藤沢市鵠沼橘1-1850-40	藤沢市		昭和8年/平成4年・平成19年改修	木造平屋建、銅板葺	木造平屋建ての医院建築。東半部は医院、西半部は住居とした。通風のために床高を高く、出窓を付け二重窓とし、屋根に換気口を三ヶ所設置するなど環境改良の工夫が見られる。
国	登録有形	桔梗屋店蔵	ききょうやみせぐら		H25.12.24	藤沢市	藤沢市藤沢1-751-1他	藤沢市		明治44年	土蔵造2階建／瓦葺	桔梗屋は、旧東海道藤沢宿で茶や紙の問屋を営んだ旧家である。店蔵は、土蔵造り、外壁は黒漆喰仕上げであり、店蔵の北側に建つ主屋との1階境には千人扉と呼ぶ重厚な観音開の土戸を設けるなど、優秀な左官技術が窺える。文庫蔵は、旧藤沢宿における近世に遡る希少な遺例で、店蔵とともに東海道の旧宿場的雰囲気を伝える。
国	登録有形	桔梗屋主屋	ききょうやしゅおく		H25.12.24	藤沢市	藤沢市藤沢1-750-1	藤沢市		明治44年頃／昭和初期増築	木造2階建／鉄板葺	
国	登録有形	桔梗屋文庫蔵	ききょうやぶんこぐら		H25.12.24	藤沢市	藤沢市藤沢1-752-1他	藤沢市		文久元年(1861)／大正14年改修	土蔵造3階建／瓦葺	

藤沢市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	旧三觜八郎右衛門家住宅主屋	きゅうみつはしはちろうえもんけじゅうたくしゅおく		H25.12.24	藤沢市	藤沢市羽鳥3-1039-1他	個人		明治11年／昭和前期改修	木造2階建／瓦葺	三觜家は、源流が室町前期まで遡る旧家で、代々、八郎右衛門を襲名しており、江戸期には羽鳥村の名主を務めた。主屋の土間や板の間では、良材で柱や差物を堅牢に組んでいる。また襖や透彫欄間、釘隠金具等の造作も入念で、格調高い室内意匠をもっている。
国	登録有形	旧三觜八郎右衛門家住宅門	きゅうみつはしはちろうえもんけじゅうたくもん		H25.12.24	藤沢市	藤沢市羽鳥3-1039-1他	個人		明治後期	木造／瓦葺／間口2.7メートル／左右袖塀及び潜戸付	
国	登録有形	林家住宅主屋	はやしけじゅうたくしゅおく		H26.10.7	藤沢市	藤沢市鵠沼桜が岡	個人		昭和12年／昭和33年改修	木造平屋一部2階建／銅板葺一部瓦葺／門付	急勾配の切妻屋根で、外壁をハーフティンバーとする。内部は、母体となっている古民家の木太い軸部や梁組を現しつつ、間仕切りにテューダーアーチを用い、ステンドグラスを飾るなど巧みに和洋を折衷する。上質な意匠の住宅で、戦前の郊外型住宅の好例を示す。
国	登録有形	旧稲元屋呉服店内蔵	きゅういなもとやごふくてんうちぐら		H27.8.4	藤沢市	藤沢市藤沢	個人		昭和10年	土蔵造2階建／銅板葺	旧稲元屋呉服店内蔵は、東海道藤沢宿で呉服商を営んだ稲元屋の土蔵である。外壁を人造石洗出し及び研出し仕上げとして石造風に目地を切り、蔵前を付ける。宿場の面影を伝える土蔵である。
国	登録有形	旧稲元屋呉服店一番蔵	きゅういなもとやごふくてんいちばんぐら		H27.8.4	藤沢市	藤沢市藤沢	個人		明治中期	土蔵造2階建／鉄板葺	旧稲元屋呉服店一番蔵は、東海道藤沢宿で呉服商を営んだ稲元屋の土蔵で内蔵の南に東面して並び建つ。外壁を漆喰塗りとし、内部には関東大震災後に多数の筋違や金物が付加される。震災復旧の様子を窺うことができ、藤沢宿の土蔵の古例としても価値がある。
国	登録有形	月山堂滴水庵主屋	つきやまどうてきすいあんしゅおく		H28.2.25	藤沢市	藤沢市辻堂太平台一丁目	個人		明治後期／昭和35年移築	木造平屋建、瓦葺一部銅板葺	月山堂滴水庵主屋は、茶人の益田鈍翁の元別荘建築である。茶室を備え、自然起伏や湧水を利用した庭に対して開放的な構成の上質な数寄屋建築である。待合は自然の曲り材を前面柱や梁に用いて奇想に富み、大門は栗ナグリ材を用いるなど、草庵の正門としての風情を醸している。
国	登録有形	月山堂滴水庵待合	つきやまどうてきすいあんまちあい		H28.2.25	藤沢市	藤沢市辻堂太平台一丁目	個人		昭和35年頃	木造平屋建、銅板葺	
国	登録有形	月山堂滴水庵大門	つきやまどうてきすいあんおおもん		H28.2.25	藤沢市	藤沢市辻堂太平台一丁目	個人		昭和35年頃	木造、瓦葺一部銅板葺、間口4.6m	
国	登録有形	清浄光寺本堂	しょうじょうこうじほんどう		H28.2.25	藤沢市	藤沢市西富一丁目	清浄光寺		昭和12年	木造平屋建、銅板葺	清浄光寺は、遊行寺と通称される時宗総本山寺院である。関東大震災後に多くの建物が旧材を用いて再建されている。本堂は桁行梁間とも30m規模の大堂で、総本山寺院らしい荘厳と華麗さを備える。御番方は、正面に軒唐破風付の大振りな入母屋玄関を張り出し、遊行上人の出立などに用いる。小書院は法務や接待に使用される書院建築で、対面所風の平面を持つ。回向堂は方一間裳階付の堂で、仏壇上に中世風意匠の蟇股を飾る。宇賀神社は向拝廻りを彫刻で濃密に飾る境内社。正面を飾る大型冠木門の惣門をはじめ、境内の主要な建造物を一連で登録する。
国	登録有形	清浄光寺御番方	しょうじょうこうじごばんかた		H28.2.25	藤沢市	藤沢市西富一丁目	清浄光寺		大正２年／昭和前期改修	木造平屋建、銅板葺	
国	登録有形	清浄光寺小書院	しょうじょうこうじこじょいん		H28.2.25	藤沢市	藤沢市西富一丁目	清浄光寺		明治前期／昭和前期改修	木造平屋建、銅板葺	
国	登録有形	清浄光寺百間廊下	しょうじょうこうじひゃっけんろうか		H28.2.25	藤沢市	藤沢市西富一丁目	清浄光寺		昭和12年	木造平屋建、瓦葺	
国	登録有形	清浄光寺回向堂	しょうじょうこうじえこうどう		H28.2.25	藤沢市	藤沢市西富一丁目	清浄光寺		昭和前期	木造平屋建、銅板葺	
国	登録有形	清浄光寺宇賀神社	しょうじょうこうじうがじんじゃ		H28.2.25	藤沢市	藤沢市西富一丁目	清浄光寺		明治前期	木造平屋建、銅板葺	

藤沢市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	清浄光寺鐘楼	しょうじょうこうじしょうろう		H28.2.25	藤沢市	藤沢市西富一丁目	清浄光寺		昭和9年	木造、銅板葺	
国	登録有形	清浄光寺手水舎	しょうじょうこうじちょうずや		H28.2.25	藤沢市	藤沢市西富一丁目	清浄光寺		明治前期	木造、瓦葺	
国	登録有形	清浄光寺惣門	しょうじょうこうじそうもん		H28.2.25	藤沢市	藤沢市西富一丁目	清浄光寺		明治前期	木造、銅板葺、間口5.0m	
国	登録有形	清浄光寺石垣及び築地塀	しょうじょうこうじいしがきおよびついじべい		H28.2.25	藤沢市	藤沢市西富一丁目	清浄光寺		江戸末期／大正15年頃改修	石垣　石造、総延長53m 築地塀　土塀、瓦葺、総延長22m	
国	登録有形	関次商店穀物蔵	せきじしょうてんこくもつぐら		H28.2.25	藤沢市	藤沢市本町四丁目	個人		明治19年／大正後期増築	土蔵造平屋建、鉄板葺	関次商店は、旧東海道藤沢宿に所在する商店である。穀物蔵・肥料蔵とも内部では半割丸太を各柱間に横方向に入れ込んで荷摺木とし、壁に板張りも上塗りもせず木舞をそのまま見せる特異な技法を持つ。
国	登録有形	関次商店肥料蔵	せきじしょうてんひりょうぐら		H28.2.25	藤沢市	藤沢市本町四丁目	個人		明治40年／大正後期増築	木骨石造平屋建、瓦葺	
国	登録有形	旧越前屋雨谷商店店舗兼主屋	きゅうえちぜんやあまやしょうてんてんぽけんしゅおく		H29.5.2	藤沢市	藤沢市打戻	宗教法人盛岩寺		大正13年／昭和13年・平成26年移築	木造平屋建／鋼板葺	もと薬問屋の建物で二度の移築を経て、現在は寺院境内の薬師堂として使用されている。出桁や庇の太い桁など震災復興期らしい重厚さが見られ、藤沢の往時の風情を今に伝えている。
国	登録有形	旧石曽根商店店舗兼主屋	きゅういしそねしょうてんてんぽけんしゅおく		H29.10.27	藤沢市	藤沢市藤沢	個人		大正13年／昭和42年改修	木造二階建、鉄板葺	旧石曽根商店は、旧東海道藤沢宿に位置する履物屋。その店舗兼主屋は木造二階建鉄板葺で、二階は出桁造とする。
国	登録有形	尾日向家住宅洋館・和館	おびなたけじゅうたくようかん・わかん		H30.3.27	藤沢市	藤沢市鵠沼松が岡	個人		昭和３年頃／昭和40年・昭和60年増築	木造平屋一部２階建、瓦葺	南北棟平屋建の洋館と和館の間を２階建の洋館でつなぐ。洋館外壁は腰スクラッチタイル貼、上部モルタル塗とし、屋根は赤褐色の洋瓦を葺く。和館は銅板葺下屋庇を巡らす入母屋造とし、意匠的にも意を凝らした大規模住宅である。
国	登録有形	旧鈴木薬店店舗兼主屋	きゅうすずきやくてんてんぽけんしゅおく		H30.3.27	藤沢市	藤沢市大鋸	個人		昭和10年	木造２階建、瓦葺	藤沢宿近くの境川東岸に位置する商家。２階建、切妻造、桟瓦葺で、２階天井高を高く取り、ガラス戸を用いて明るい空間を実現している。近代商家の好例である。
国	登録有形	有田家住宅主屋	ありたけじゅうたくしゅおく		H31.3.29	藤沢市	藤沢市大鋸	藤沢市		昭和６年	木造平屋建、瓦葺	有田家住宅主屋は、旧東海道遊行寺坂東側の丘上に南面して建つ。寄棟造桟瓦葺の周囲に下屋を廻し、正面東半の玄関回りに太い柱を用いる。近代の藤沢宿周縁の様相を伝える民家である。
国	登録有形	有田家住宅土蔵	ありたけじゅうたくどぞう		H31.3.29	藤沢市	藤沢市大鋸	藤沢市		大正12年／昭和２年増築	土蔵造２階建、金属板葺	有田家住宅主屋は、旧東海道遊行寺坂東側の丘上に南面して建つ。土蔵は、主屋の南側に南北棟で建つ家財蔵。置屋根式の土蔵造二階建で、西面に下屋を出して戸口を設け、東面に味噌蔵を張出す。二階南面と西面に設けた土戸付の窓に繰形付の側板を飾る庇を付す等丁寧な造作をもつ。
国	登録有形	玉屋本店店舗兼主屋	たまやほんてんてんぽけんおもや		R2.4.3	藤沢市	藤沢市片瀬海岸	個人		昭和10年	木造二階建、銅板葺一部金属板葺	江ノ島参詣道沿いの老舗羊羹店。木造２階建ての町屋で、１階正面を下屋、上下階ともに正面を出桁造とする。前寄りの土間のミセは大断面のケヤキで重厚な軸部としつつ、屋号を表すステンドグラスを飾り瀟洒な意匠も備える。後方はコウバ等を配する。戦前の参詣道の様相を伝える。

藤沢市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	旧藤澤カントリー倶楽部クラブハウス（グリーンハウス）	きゅうふじさわカントリーくらぶクラブハウス（グリーンハウス）		R3.2.26	藤沢市	藤沢市善行	神奈川県		昭和７年／令和２年改修	鉄筋コンクリート三階建、瓦葺	アントニン・レーモンド設計。県立スポーツセンター内に所在。切妻造三階建の正面に車寄を張り出し、背面に二階建をのばす。車寄などの開口部の半円アーチによる構成、青緑色のスパニッシュ瓦葺屋根など、全体をスパニッシュでまとめる。戦前のゴルフクラブハウスとして希少。
国	登録有形	福岡家住宅棗駝庵	ふくおかけじゅうたくたくだあん		R3.2.26	藤沢市	藤沢市辻堂	個人		大正５年頃	木造平屋建、茅葺一部鉄板葺	土佐藩出身の政治家福岡孝弟の茅葺き別荘。板間と和室からなり、豪壮な梁組とともに竹や丸太材を用いる等、民家風に数寄屋趣味を加味した風趣ある造りで、戦前の別荘の様相を伝える。
国	登録有形	龍口寺妙見堂	りゅうこうじみょうけんどう		R3.2.26	藤沢市	藤沢市片瀬	宗教法人龍口寺		享保５年（1720年）／明治後期改修	木造平屋建、銅板葺	日蓮が遭遇した「龍の口の法難」由緒地所在の日蓮宗寺院。妙見堂は本堂に向かう参道の西側に東面して建つ。桁行四間梁間三間、入母屋造銅板葺、向拝付で正面と北側面に縁を廻らす。内部は一室で格天井を張り、後方一間を仏壇として塗装などで荘厳し、妙見菩薩像を安置する。
国	登録有形	龍口寺大書院	りゅうこうじだいしょいん		R3.2.26	藤沢市	藤沢市片瀬	宗教法人龍口寺		昭和７年	木造二階建、瓦葺	日蓮が遭遇した「龍の口の法難」由緒地所在の日蓮宗寺院。大書院は境内南東に建つ。入母屋造妻入の正面に切妻造の平屋と入母屋造庇付の式台を張り出すなど巧みに屋根を重層させた豪壮な外観とする。一階に大小六室を配し、二階は大広間二室で折上格天井の広闊な空間とし、室ごとに異なる意匠の座敷飾を備えた大規模な接客施設。
国	登録有形	龍口寺鐘楼	りゅうこうじしょうろう		R3.2.26	藤沢市	藤沢市片瀬	宗教法人龍口寺		明治14年／昭和44年移築	木造、瓦葺	日蓮が遭遇した「龍の口の法難」由緒地所在の日蓮宗寺院。鐘楼は本堂南東の基壇に南北棟で建つ。入母屋造本瓦葺、吹放し形式の鐘楼。長方形平面で規模が大きく、軸部は禅宗様を基調とし、四本の丸柱を内転びに立て、組物は三斗詰組とする。虹梁形内法貫と頭貫の間に蟇股を飾り格天井を張る。意匠簡明ながら力感のある鐘楼。
国	登録有形	龍口寺手水舎	りゅうこうじちょうずしゃ		R3.2.26	藤沢市	藤沢市片瀬	宗教法人龍口寺		慶応３年（1867年）	木造、瓦葺	日蓮が遭遇した「龍の口の法難」由緒地所在の日蓮宗寺院。手水舎は妙見堂の向いに南北棟で建つ。桁行八尺梁間七尺、起り付きの切妻造桟瓦葺。禅宗様を基調とし組物は出組詰組。内転びの四本の角柱や頭貫に地紋彫を施し、木鼻に波に亀、妻飾に丸彫で雲龍の彫刻を飾る等、幕末らしい技巧性が随所にみられる手水舎。
国	登録有形	齋藤家住宅主屋	さいとうけじゅうたくおもや		R3.6.24	藤沢市	藤沢市本鵠沼	個人		明治20年／大正３年増築	木造平屋建、茅葺(鉄板仮葺)	代々鵠沼の名主を務めた旧家の主屋。敷地中央に西面して建つ。桁行九間梁間四間半、整形六間取の大型民家で一部に中二階を設ける。入母屋造茅葺（鉄板仮葺）で軒は出桁造。二重梁の上に扠首組を架ける小屋組は、県下幕末期の大型上層民家の特徴を伝える。
国	登録有形	齋藤家住宅石蔵	さいとうけじゅうたくいしぐら		R3.6.24	藤沢市	藤沢市本鵠沼	個人		大正３年	木造2階建、鉄板葺	主屋の背面に南面して建つ二階建の石蔵。桁行三間半、梁間二間半の規模で、木造軸組の外面に大谷石を積み、要所を柱から鎹で引付ける。屋根は切妻造波形鉄板葺とし、二階の東妻壁に窓を設ける。当地において大谷石積を化粧で現した石蔵の遺例として貴重。
国	登録有形	齋藤家住宅長屋門	さいとうけじゅうたくながやもん		R3.6.24	藤沢市	藤沢市本鵠沼	個人		明治23年／昭和前期増築	木造平屋建、茅葺（鉄板仮葺）	街路に面して建つ。桁行七間半梁間二間、中央二間に門口、両脇に部屋を配し、部屋前方に下屋を付す。屋根は寄棟造茅葺（鉄板仮葺）で軒を出桁造とし疎垂木を配る。門口回りは欅材を用い、本柱を立て冠木で繋ぎ、板戸両開きを吊る。屋敷の表構えを構成する。

小田原市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	建造物	勝福寺本堂	しょうふくじほんどう	1棟	S32.2.19	小田原市	勝福寺（飯泉1161）	勝福寺				江戸時代（棟札に宝永3年）。桁行5間梁間5間一重宝形造。基本的に中世密教本堂の継承であるが、彫刻欄間や手挟、絵様の豊富さに時代の特色を示している。
県	建造物	小田原城天守模型　木造三重	おだわらじょうてんしゅもけいもくぞうさんじゅう	1個	S38.3.5	小田原市	小田原城天守閣（城内6-1）	大久保神社（城山3-27-7）				江戸時代。三重4階の天守で、おそらく安政大地震後再建を企てて造られたものと考えられる模型。
県	建造物	小田原城天守模型　木造三重	おだわらじょうてんしゅもけいもくぞうさんじゅう	1個	S38.3.5	小田原市	小田原城天守閣（城内6-1）	小田原市				江戸時代。明治3年の取毀中の天守写真に最も近い模型で、20分の1の縮尺で作られたものである。
県	建造物	二宮尊徳生家　茅葺寄棟造(旧二宮家住宅)	にのみやそんとくせいか　かやぶきよせむねづくり（きゅうにのみやけじゅうたく）	1棟	S38.3.5	小田原市	小田原市尊徳記念館（栢山2065-1）	小田原市				江戸時代。寄棟造。ヒロマ型民家の代表例であるともに、二宮尊徳の生家として有名である。
県	建造物	宗福院地蔵堂	そうふくいんじぞうどう	1棟	H8.2.13	小田原市	宗福院（板橋566）	宗福院				江戸時代中期。正面中央間が著しく大きい。県下唯一の黄檗仏殿遺構である。
国	絵画	絹本著色　阿弥陀如来像	けんぽんちゃくしょく　あみだにょらいぞう	1幅	M32.8.1	小田原市	東京国立博物館（東京都台東区上野公園13-9）	報身寺（南町3-11-3）				鎌倉時代。独尊の阿弥陀如来が雲にのって来迎するさまを表した来迎図である。
県	絵画	絹本著色　日蓮上人像	けんぽんちゃくしょく　にちれんしょうにんぞう	1幅	S33.6.17	小田原市	鎌倉国宝館（鎌倉市雪ノ下2-1-1）	浄永寺（城山2-24-20）				桃山時代。女人成仏を説く日蓮上人の説法画像である。
県	絵画	絹本著色　真言八祖像	けんぽんちゃくしょくしんごんはっそぞう	8幅	H19.2.9	小田原市	宝金剛寺（国府津2038）	宝金剛寺				鎌倉～南北朝時代の祖師像の優品と認められる。また県内に希少な真言八祖像の遺品としても貴重である。
国	彫刻	銅造　大日如来坐像	どうぞう　だいにちにょらいざぞう	1躯	S46.6.22	小田原市	宝金剛寺（国府津2038）	宝金剛寺			S34.3.6 県指定	鎌倉時代。銅造。鋳技はなかなか優秀で体躯は均衡が良く、面貌は整っており、鎌倉前半の金銅仏の代表作である。
国	彫刻	木造　真教坐像	もくぞう　しんきょうざぞう	1躯	H17.6.9	小田原市	県立博物館（横浜市中区南仲通5-60）	蓮台寺（国府津1789）				病気のため歪んだ面相を誇張に走ることなく忠実に表現し、厳しい人柄を感じさせる。いくつか残る真教肖像の中で寿像が確認されたことはとりわけ意義深い。
県	彫刻	木造　十一面観音立像	もくぞう　じゅういちめんかんのんりゅうぞう	1躯	S32.2.19	小田原市	勝福寺（飯泉1161）	勝福寺				平安時代。一木造。素地像で髭、眉などを墨で描く。面相部では両頬がゆたかで下ぶくれの藤原朝風の像である。
県	彫刻	木造　不動明王及両童子立像	もくぞう　ふどうみょうおうおよびりょうどうじりゅうぞう	3躯	S34.3.6	小田原市	宝金剛寺（国府津2038）	宝金剛寺		附）不動像内納入品［経巻（大日経7巻、金剛頂経3巻、蘇悉地経3巻、略法華経1巻、般若心経1巻、般若理趣経1巻、宝篋印陀羅尼経1巻、尊勝陀羅尼経1巻）、永仁二年六月十九日定聖写経目録1通（裏面に延慶二年奉納の記がある）、延慶二年陀闍梨能宴願文1通、天文六年仏舎利奉納文書1通、水晶五輪塔形舎利容器1通、享保寛延修理文書2紙］		鎌倉時代（胎内納入文書に延慶2年）。裳の複雑なひだに鎌倉後半の特色が見られる。通例の不動三尊像である。
県	彫刻	木造　地蔵菩薩立像	もくぞう　じぞうぼさつりゅうぞう	1躯	S34.3.6	小田原市	宝金剛寺（国府津2038）	宝金剛寺			H17.2.8 附）木造如意輪観音像1躯を分割	平安時代。一木造。穏やかな表情をもつ像で小像である。

小田原市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	彫刻	木造　釈迦如来立像	もくぞう　しゃかにょらいりゅうぞう	1躯	H4.2.14	小田原市	東学寺（別堀74）	東学寺				南北朝時代。寄木造、彫眼。京都の清涼寺式釈迦像の一つである。
県	彫刻	木造　阿弥陀如来立像(その一)	もくぞう　あみだにょらいりゅうぞう（そのいち）	1躯	H4.2.14	小田原市	本誓寺（城山2-1-24）	本誓寺				鎌倉時代。寄木造、玉眼嵌入。本尊。歯吹き阿弥陀の別名を持ち、両足を穴に差し込む技法。
県	彫刻	木造　阿弥陀如来立像(その二)	もくぞう　あみだにょらいりゅうぞう（そのに）	1躯	H4.2.14	小田原市	本誓寺（城山2-1-24）	本誓寺				鎌倉時代。寄木造、玉眼嵌入。脇仏。本尊と同系統作家の作品。歯吹き像の条件を満たし貴重。
県	彫刻	銅造　如意輪観音菩薩坐像	どうぞう　にょいりんかんのんぼさつざぞう	1躯	H17.2.8	小田原市	宝金剛寺（国府津2038）	宝金剛寺			木造地蔵菩薩立像の附）木造如意輪観音像1躯としてS34.3.6に県指定したものを分割	平安時代。小像であるが、儀軌に忠実な像容、太く高い髻や横に丸く張った顔など平安時代初期の密教彫刻の系譜に連なることを示す金銅仏。
県	工芸	銅鐘（総世寺）	どうしょう（そうせいじ）	1口	H2.2.13	小田原市	総世寺（久野3670）	総世寺				室町時代（銘文に応永十五年）。再追銘文には羽柴中納言秀次が総世寺に寄進したとあり、天正十八年小田原攻めに使用したという。
国	書跡・典籍・古文書	仏法大明録〈巻第十、第十一、第十八／第十九〉	ぶっぽうだいみんろく　まきだいじゅう　だいじゅういち、だいじゅうはち、だいじゅうきゅう	2冊	S14.5.27	不明（小田原市）	不明					鎌倉時代。
県	考古資料	小田原市羽根尾貝塚の縄文時代前期出土品	おだわらしはねおかいづかのじょうもんじだいぜんきしゅつどひん	458点	H16.2.10	小田原市	小田原市小船収蔵庫（小船260-1）ほか	小田原市				低地に埋没した縄文時代前期の貝塚で、土器・石器・骨角器のほか、台地上の遺跡では通常残らない木製品・漆製品・繊維類が豊富に出土。縄文時代の生活や文化を知る上で貴重な資料。
県	考古資料	小田原市中里遺跡の弥生時代中期出土品	おだわらしなかざといせきのやよいじだいちゅうきしゅつどひん	141点	R1.9.17	小田原市	小田原市城内1-22ほか	小田原市				弥生時代中期中葉。在地の土器に混じって他地域の土器が複数認められているほか、鍬などの木製農耕具や伐採用・加工用の磨製石斧、それらの製作道具類等が出土。水田耕作など新来の技術・文化を取り入れる上で、他地域との交流・往来があったことを示す良好な資料であり、南関東地方における稲作農耕社会への転換期の様相を解き明かす上で重要。
県	歴史資料	二宮尊徳関係資料	にのみやそんとくかんけいしりょう	3,872点	S56.2.10	小田原市		報徳博物館・尊徳記念館・報徳二宮神社・個人			S62.2.20 1,359点、H7.2.14　2,109点追加指定	尊徳自筆のものや、尊徳の日常生活の記述などがある。また2代目尊行や3代目尊親時代の日記がほぼ完全な形で保存されている等、いずれも貴重な資料である。
国	無形民俗文化財	相模人形芝居	さがみにんぎょうしばい		S55.1.28	小田原市・厚木市		下中座・長谷座・林座		不定期	S28.12.22県無形文化財指定 S46.4.21国選択 S51.10.19県指定	県内には、江戸時代から明治にかけて十五か所の三人遣いの人形芝居があったが、現在でも五座で続けられている。そのうち国指定は3座である。カシラが文楽よりもやや小ぶりで「鉄砲ざし」という操法を伝える江戸系人形芝居の遺産である。
県	無形民俗文化財	小田原囃子	おだわらばやし		S51.10.19	小田原市		小田原囃子多古保存会		不定期	S44.5.20県無形文化財指定	江戸中期に伝来したという江戸葛西囃子の系統に属する祭囃子。篠笛1、すり鉦1，大太鼓1，締太鼓2で構成する。五人囃子ともいう。
県	無形民俗文化財	寺山神社の鹿島踊	てらやまじんじゃのかしまおどり		S51.10.19	小田原市		根府川鹿島踊保存会		7月中旬の土・日曜日	S46.3.30県無形文化財指定	鹿島踊は、小田原から伊豆賀茂郡までの22の神社で行われているが、中でも根府川、吉浜の鹿島踊は古型を保っている。白丁を着、烏帽子をつけ白足袋、白緒の草履を付け、舞態は円舞と方舞とがある。太鼓、鉦、日月黄金柄杓の三役を中心に踊る。

小田原市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	史跡	小田原城跡	おだわらじょうあと		S13.8.8	小田原市	城内、本町、幸、栄町、浜町、緑、城山、十字、谷津、南町		小田原市		S34.5.29、S52.5.4、H18.1.26、H19.7.26、H20.7.28、H22.2.22、H23.2.7、H24.9.19、H26.10.6、H28.10.3、H30.10.15、R4.3.15、R6.10.11追加指定	鎌倉時代から山城、館などがあったが、後北条氏が本拠として整備を重ね、大規模な総曲輪が築かれた。後北条氏滅亡後は、徳川譜代大名等の持城となり、近世城郭として整備された。八幡山古郭の中枢部に隣接した東曲輪の一部等が追加指定された。
国	史跡	石垣山	いしがきやま		S34.5.13	小田原市	早川				H18.1.26、R5.9.28追加指定	天正十八年、豊臣秀吉の小田原攻めの陣城。通称一夜城。崩れた石垣が累々とし、古城の雰囲気がある。本城曲輪跡の西側斜面の一部が追加指定された。
国	史跡	江戸城石垣石丁場跡	えどじょういしがきいしちょうばあと		H28.3.1	小田原市	早川		小田原市			江戸城石垣石丁場跡は、神奈川県から静岡県にかけて、伊豆半島とその周辺に分布する江戸城改修に伴う石垣の石材を採石、加工した石丁場の跡である。神奈川県では、小田原市西部の丘陵部から以南の沿岸部に分布している。小田原市の早川石丁場群関白沢（かんぱくざわ）支群は、江戸城石垣石丁場跡を構成する遺跡のひとつであり、早川の支流関白沢の南東側斜面一帯に立地する。江戸時代前半の採石・加工・運搬技術やそれに伴う労働力の編成のみでなく、その背景にある社会的・政治的動向を知る上で重要である。
県	史跡	石橋山古戦場のうち与一塚及び文三堂	いしばしやまこせんじょうのうちよいちづかおよびぶんぞうどう		S29.3.30	小田原市	米神、石橋					治承四年八月、石橋山における源頼朝挙兵の先陣で討死した佐那田与一義忠と家臣豊三家康の墓である。
国	天然記念物	早川のビランジュ	はやかわのびらんじゅ		T13.12.9	小田原市	早川飛乱地1374-1	小田原市	小田原市			ハダカノキともいわれるサクラ科の常緑広葉樹。分布の北限にあたる。根廻り6メートル、高さ20メートル。
県	天然記念物	勝福寺の大イチョウ	しょうふくじのおおいちょう		S32.2.19	小田原市	飯泉1161	勝福寺				目通し7.5メートル、高さ25メートルある雄株の大イチョウ。
県	天然記念物	神奈川県立小田原高等学校の樹叢	かながわけんりつおだわらこうとうがっこうのじゅそう		S46.3.30	小田原市	城山3-963-20及び城山3-1112-1	神奈川県				学校の南面に残された、数少ない残存照葉樹林。
県	天然記念物	勝福寺と八幡神社境内の樹叢	しょうふくじとはちまんじんじゃけいだいのじゅそう		S47.7.21	小田原市	飯泉1158他、1162-1 他	勝福寺・八幡神社				ケヤキ、ムクノキ、イチョウなどの落葉高木を主としてクスノキ、カヤなどの常緑の高木が生育している社寺林。
県	天然記念物	中津層群神沢層産出の脊椎動物化石	なかつそうぐんかんざわそうさんしゅつのせきついどうぶつかせき		H6.2.15	小田原市	入生田499　神奈川県立生命の星・地球博物館	神奈川県				新生代第三紀鮮新世後期から産出した脊椎動物化石標本で、古環境、生物相を解明するうえで学術的価値が高い。
国	登録有形	小田原文学館（旧田中光顕別邸）本館	おだわらぶんがくかん（きゅうたなかみつあきべってい）ほんかん		H12.9.26	小田原市	小田原市南町2-3-4	小田原市		昭和12年	RC3	宮内大臣などを務めた田中光顕の別邸で、展示施設として活用。モダニズムの特徴を示し、近代別荘地の景観を伝えている。
国	登録有形	小田原文学館（旧田中光顕別邸）別館	おだわらぶんがくかん（きゅうたなかみつあきべってい）べっかん		H12.9.26	小田原市	小田原市南町2-3-18	小田原市土地開発公社		大正13年	木造2	田中光顕の別邸で、白秋童謡館として活用。屋根は入母屋造、瓦棒銅板葺。内部は数寄屋風の意匠で、玄関奥には洋室をもつ。
国	登録有形	松永記念館老欅荘（旧松永安左ヱ門邸）	まつながきねんかんろうきょそう（きゅうまつながやすざえもんてい）		H12.9.26	小田原市	小田原市板橋513-7	小田原市		昭和21年/昭和28年増築	木造1	中部電力の設立者である松永安左ヱ門が晩年を過ごした居宅。数寄屋風の意匠を凝らした質の高いつくりになる和風建築。
国	登録有形	松永記念館葉雨庵	まつながきねんかんようううあん		H12.9.26	小田原市	小田原市板橋941-1	小田原市		大正13年頃/昭和61年移築	木造1	実業家の野崎広太（幻庵）が別邸・自怡荘内に営んだ茶室で設計は幻庵自身。洗練された意匠を持ち、床の間・中板及び中柱による室内構成が優れている。

小田原市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	だるま料理店主屋	だるまりょうりてんしゅおく		H14.8.21	小田原市	小田原市本町2-1-30	有限会社エスティケイ		大正15年	木造2	正面中央に唐破風玄関を設け、比翼入母屋造風屋根とするなど、楼閣風の際だった存在である。
国	登録有形	済生堂薬局小西本店店舗	さいせいどうやっきょくこにしほんてんてんぽ		H14.8.21	小田原市	小田原市本町4-2-48	株式会社済生堂薬局小西本店		大正14年頃	木造1	寄棟造、桟瓦葺、平入り。柱など主要部に欅材を用い、店部分は天井も高く、薬棚等の内部意匠もよく残る。
国	登録有形	山月（旧共寿亭）	さんげつ（きゅうきょうじゅてい）		H14.8.21	小田原市	小田原市板橋870-1	株式会社不二ビルライフ		大正9年	木造2	入母屋造を基本とした複雑な銅板瓦葺を架け、2階部分は楼閣風になる。室内は数寄屋風で伝統的な造形を巧みに用い丁寧に仕上げる。
国	登録有形	千世倭樓主屋	ちよわろうしゅおく		H14.8.21	小田原市	小田原市風祭50	株式会社鈴廣蒲鉾本店		明治中期／平成12年移築	木造2	秋田県中南部で江戸末期から明治初期頃に広まった曲屋形式を継承した住宅。入母屋造の屋根を架け豪快な外見。
国	登録有形	千世倭樓土蔵	ちよわろうどぞう		H14.8.21	小田原市	小田原市風祭50	株式会社鈴廣蒲鉾本店		明治中期／平成12年移築	土蔵2	切妻造、桟瓦葺，妻入で戸口に重厚な造りの観音扉を設ける。内部木部は漆喰を用いる。
国	登録有形	長谷川家住宅店舗及び主屋	はせがわけじゅうたくてんぽおよびしゅおく		H16.6.9	小田原市	小田原市国府津3-13-4	個人		昭和2年	木造2	国府津地区の東海道沿いにあって、関東大震災後の復興期に建てられた店舗兼住居。木造2階建、平入、入母屋造、桟瓦葺で、棟木銘より昭和2年の上棟が知られる。正面軒は出桁造で支え、屋根には緩やかなむくりをつける。国府津における震災復興町家の好例。
国	登録有形	長谷川家住宅石蔵	はせがわけじゅうたくいしぐら		H16.6.9	小田原市	小田原市国府津3-2-25	個人		大正5年	木骨石造2	国府津地区の東海道近傍に建つ木骨石造2階建の蔵。古写真より大正5年の建築であることが知られる。1階は西面に戸口2箇所を開き、内部は2室構成とする。屋根は切妻造、桟瓦葺で、関東大震災後に設けられた補強帯鉄が外観のアクセントとなっている。
国	登録有形	神戸屋ふるや店店舗及び主屋	こうべやふるやてんてんぽおよびしゅおく		H16.6.9	小田原市	小田原市国府津4-2-18	個人		昭和10年頃	木造2	国府津駅前に位置し、国道1号線に面した角地に建つ。タクシー会社の車庫兼社屋として建てられたもので、現在では店舗として利用されている。木造であるが、外壁はモルタルで洋風石造建築を模しており、隅の円柱、窓周り、軒部等に特徴的な意匠を備えている。
国	登録有形	清閑亭	せいかんてい		H17.7.12	小田原市	小田原市南町1-5-73	小田原市		大正初期	木造平屋一部二階建	全体として雁行状平面で数奇屋風の丁寧なつくり。
国	登録有形	岩瀬家住宅主屋	いわせけじゅうたくしゅおく		H21.1.8	小田原市	小田原市鴨宮字宝町692	個人		安政5年頃/昭和40年頃・平成19年改修	木造平屋建/茅葺	もと名主の家で、軒先を出桁造りとして深い軒の出を作っている。足柄地方の上層農家建築の一例。
国	登録有形	寶金剛寺庫裏	ほうこんごうじくり		H23.1.26	小田原市	小田原市国府津字八幡上2038他	宗教法人寶金剛寺		寛政12年（1800年）／昭和33年改修	木造平屋建、瓦葺	旧東海道に近い山裾に位置し、庫裏は境内奥で西側に面している。南側の玄関後方に座敷を一列に配し、北側の大広間（改修前は土間）では豪壮な軸組が見える。真言宗寺院庫裏として県下で類例の少ない平面形式を有している。
国	登録有形	旧内野醤油店店舗兼主屋	きゅううちのしょうゆてんてんぽけんしゅおく		H29.10.27	小田原市	小田原市板橋	小田原市		明治36年	木造二階建、鉄板葺及び瓦葺	旧内野醤油店は旧東海道に面し、醤油醸造業を営んでいた。店舗部は土蔵造で、外壁は腰を石張、上方を海鼠壁とし、東端の店舗入口にアーチをつくる。内部は二階を中心に上質な座敷をもつ。正面窓廻りに銅板を張り、袖壁を設けるなど防火対策も講じている。
国	登録有形	旧内野醤油店新座敷	きゅううちのしょうゆてんしんざしき		H29.10.27	小田原市	小田原市板橋	小田原市		大正12年	木造平屋建、瓦葺	旧内野醤油店は旧東海道に面し、醤油醸造業を営んでいた。新座敷は店舗兼主屋の西に張出す角屋で、通りから前庭を介して建つ。木造平屋建、入母屋造桟瓦葺で、正背面に下屋を設ける。内部は八畳一室で丸太柱を使い、西面に甕形の墨跡窓を開けた床を設け、東面に茶道具を納める洞庫を造り付ける。

小田原市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	旧内野醤油店店蔵	きゅううちのしょうゆてんみせぐら		H29.10.27	小田原市	小田原市板橋	小田原市		大正前期	木造二階建、鉄板葺	旧内野醤油店は旧東海道に面し、醤油醸造業を営んでいた。店蔵は土蔵造で、店舗兼主屋の東に東西棟で建つ。外壁モルタル塗で正面の腰を洗出し仕上げとする。北面の戸口に庇を付し、南面二階の縦長窓に掛子塗戸を両開とする。
国	登録有形	旧内野醤油店文庫蔵	きゅううちのしょうゆてんぶんこぐら		H29.10.27	小田原市	小田原市板橋	小田原市		大正前期	木造二階建、鉄板葺	旧内野醤油店は旧東海道に面し、醤油醸造業を営んでいた。文庫蔵は店舗兼主屋の北側に南北棟で建つ。土蔵造二階建、切妻造鉄板葺で、外壁モルタル塗で鉢巻を廻らし、二階東面に窓を設ける。一階南妻面の戸口に重厚な土戸を開き、主屋廊下と連絡する。内蔵形式の土蔵。
国	登録有形	旧内野醤油店穀蔵	きゅううちのしょうゆてんこくぐら		H29.10.27	小田原市	小田原市板橋	小田原市		大正前期	木造平屋建、鉄板葺	旧内野醤油店は旧東海道に面し、醤油醸造業を営んでいた。穀蔵は敷地東面に南北棟で建ち、切妻造鉄板葺である。西面に戸口を開き広い下屋を設け、窓二所を穿つ。外壁モルタル塗で鉢巻を廻らし、腰を石張とする。内部は一室でキングポストトラスを組む。
国	登録有形	旧内野醤油店工場	きゅううちのしょうゆてんこうじょう		H29.10.27	小田原市	小田原市板橋	小田原市		大正期	木造平屋建、鉄板葺	旧内野醤油店は旧東海道に面し、醤油醸造業を営んでいた。工場は敷地の北西側に位置し、東西棟で南面に広い下屋を持つ主体部と、南北棟で敷地西辺を画す建物を矩折れに繋ぐ。いずれも木造で小屋はキングポストトラスを組む。外壁モルタル塗で要所に窓を配する。
国	登録有形	旧内野醤油店稲荷社	きゅううちのしょうゆてんいなりしゃ		H29.10.27	小田原市	小田原市板橋	小田原市		明治後期	木造平屋建、銅板葺	旧内野醤油店は旧東海道に面し、醤油醸造業を営んでいた。稲荷社は主屋北面の庭に石積基壇上に建つ一間社。正面入母屋造、軒唐破風付で背面寄棟造とする。正面の庇の虹梁形頭貫に華やかな絵様を彫り、獅子鼻を付す。組物は出組だが正面では枠肘木を重ねて複雑に組み上げ、軒は二軒繋垂木とする。
国	登録有形	旧内野醤油店表塀	きゅううちのしょうゆてんおもてべい		H29.10.27	小田原市	小田原市板橋	小田原市		大正12年頃	木造、鉄板葺	旧内野醤油店は旧東海道に面し、醤油醸造業を営んでいた。表塀は店舗兼主屋の西にのびて新座敷前庭を画し、店舗寄りに潜戸を開く。布石積基礎上の土台に柱を立て、腕木で鉄板葺の板軒を受ける。壁は漆喰塗で各間に竪格子の欄間をあけ、腰は表側は竪板を大和張とし、庭側は竪板張目板打とする。
国	登録有形	旧豊島家住宅主屋	きゅうとしまけじゅうたくおもや		R3.2.4		小田原市栄町	小田原市		昭和16年	木造平屋建、瓦葺	小田原中心部の旧武家地に位置する。主屋は通りから広い前庭を介して建ち、平屋建入母屋造桟瓦葺で庭に面して入母屋の妻を両端に掲げ格式を高める。端正な座敷を有する上質な近代和風住宅。
国	登録有形	旧豊島家住宅門及び塀	きゅうとしまけじゅうたくもんおよびへい		R3.2.4		小田原市栄町	小田原市		昭和16年	（門）木造、瓦葺（塀）木造、瓦葺	小田原中心部の旧武家地に位置する。通りに面して塀を巡らし表門を開ける。門は腕木門形式で切妻造桟瓦葺とし、冠木等に丸太を使う数寄屋風意匠をとる。左右塀は基礎を大谷石、腰を板張、上部を漆喰塗として桟瓦を葺く。主屋とともに城下町の旧武家地の様相を伝える。
国	登録有形	小田原宿なりわい交流館（旧角吉店舗）	おだわらじゅくなりわいこうりゅうかん（きゅうかどきちてんぽ）		R4.10.31	小田原市	小田原市本町	小田原市		昭和７年／平成13年改修	木造二階建、瓦葺一部銅板葺	小田原宿中心部にある旧漁網店の店舗。かつては魚市場が隣接。二階建、切妻造桟瓦葺、外壁下見板張、正面ガラス戸の下屋を設け、二階正面は出格子とし、二段の出桁造とする。一階は土間と十五畳のミセ、二階は漁具の作業場とした。水産業の歴史的景観を伝える。

小田原市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	松永記念館無住庵	まつながきねんかんむじゅうあん		R5.2.27	小田原市	小田原市板橋	小田原市		昭和30年頃／同50年頃・令和２年移築	木造平屋建、銅板葺	小田原城西方の松永記念館内に移築した実業家松永安左ｴ門（耳庵）の茶室。入母屋造桟瓦葺で、間取りは東半に土間と板間、西半に茶席と水屋を配し、上部は小屋裏を表す。茶席北東隅に長炉を設け、西南に躙口を開ける。民家古材を用いた数寄者の茶室。
国	登録有形	旧石田家国府津別邸主屋	きゅういしだけこうづべっていおもや		R6.3.6	小田原市	小田原市国府津	個人		大正13年／昭和50年頃改修	木造平屋建、鉄板葺	相模湾を南に望む丘陵西麓に南面して建つ別荘。 主屋は、東西棟の座敷棟と厨房棟を雁行させた平屋建で、東に洋館が接続する。座敷棟は西妻を玄関として入母屋屋根を重ね、内部は東西三室で、東西を数寄屋風の座敷とし、床など自由な造形をみせる上質な近代和風建築。
国	登録有形	旧石田家国府津別邸洋館	きゅういしだけこうづべっていようかん		R6.3.6	小田原市	小田原市国府津	個人		昭和16年	木造平屋建、スレート葺	主屋の座敷棟の東側に接続する切妻造スレート葺の建物。外壁は腰を鉄平石貼、内法壁を横板張、妻壁を円弧基調のハーフティンバーとする。内部は一室の板敷とし、北東隅に暖炉を築き、背後に石貼の煙突を立てる。瀟洒な山小屋風の建物で戦前の別荘建築の好例。

茅ヶ崎市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	彫刻	銅造　阿弥陀如来及両脇侍立像	どうぞう　あみだにょらいおよびりょうきょうじりゅうぞう	３躯	S34.6.27	茅ヶ崎市	宝生寺（西久保546）	宝生寺				鎌倉時代。銅造。善光寺式阿弥陀三尊。頭頂から足枘までを、両手首を除いて一鋳する。
県	彫刻	銅造　弁才天坐像	どうぞう　べんざいてんざぞう	１躯	S41.10.25	茅ヶ崎市	浄見寺（堤4317）	浄見寺				室町時代。金銅仏。像高11.5センチメートル。江の島弁天信仰につながる遺品と思われる。
県	有形民俗文化財	八幡大神の庚申塔	はちまんおおかみのこうしんとう	１基	H18.2.14	茅ヶ崎市	八幡大神（甘沼292）	八幡大神				承応三年正月の紀年銘をもち、刻像は四臂青面金剛と二猿。台部に十一人の名と「天沼村」の村名を刻む。石塔研究や民間信仰史を明らかにする上で貴重な石塔。
県	有形民俗文化財	金山神社の庚申塔	かなやまじんじゃのこうしんとう	１基	H18.2.14	茅ヶ崎市	金山神社（行谷766-2）	金山神社				刻像は四臂青面金剛と二猿。光背上部に青面金剛の種字を刻み、承応四年正月の紀年銘と「庚申惣供養之所也」、願主名の刻銘がある。石塔研究や民間信仰史を明らかにする上で貴重な石塔。
県	有形民俗文化財	神明宮の庚申塔	しんめいぐうのこうしんとう	１基	H18.2.14	茅ヶ崎市	神明宮（十間坂3-9-47）	神明宮				刻像は四臂青面金剛と二猿。光背正面に村名と明暦四年の紀年銘があり、台部に「同行口（十）六人」とある。石塔研究や民間信仰史を明らかにする上で貴重な石塔。
県	無形民俗文化財	茅ケ崎海岸浜降祭	ちがさきかいがんはまおりさい		S53.6.23	茅ヶ崎市		茅ヶ崎海岸浜降祭保存会		７月２０日	S52.2.9県選択	湘南地方随一の壮大な祭典。海上で30余基の神輿が早朝茅ヶ崎市南湖海岸で潮でみそぎする。
国	史跡 天然記念物	旧相模川橋脚	きゅうさがみがわきょうきゃく		T15.10.20	茅ヶ崎市	下町屋字中河原		茅ヶ崎市		H19.2.6追加指定 H25.3.27天然記念物指定	関東大震災（大正12年）の液状化現象により水田から出現した中世前半代の橋脚跡。発掘調査によって、建設当時の護岸を目的としたと考えられる土留め遺構の一部や、指定当時（大正１５年）の保存工事跡が指定地外で確認されたため、これらの部分を追加指定。
国	史跡	下寺尾官衙遺跡群	しもてらおかんがいせきぐん		H27.3.10	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市下寺尾		茅ヶ崎市		H30.2.13、 H31.2.26、 R5.3.20、 R6.2.21、 R7.3.10追加指定	下寺尾官衙遺跡群は、郡庁、正倉、郡寺といった地方官衙を構成する諸施設が比較的狭い範囲に密集しており、官衙遺跡群の全体像が把握できるとともに、その成立から廃絶に至るまでの過程が確認できる遺跡である。 地方官衙の構造や立地を知る上でも重要である。
国	史跡	下寺尾西方遺跡	しもてらおにしかたいせき		H31.2.26	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市下寺尾		茅ヶ崎市		R3.3.26、 R5.3.20、 R6.2.21、 R7.3.10追加指定	神奈川県の西部、相模川から東に2.5キロメートル、標高13メートルの相模野台地の西端部分に所在する弥生時代の集落跡。遺跡の北から西への比高差は7メートル前後で非常に良い眺望となっている。 本遺跡は弥生時代中期後半における南関東最大級の環濠集落で、その成立から解体までの過程を知ることができる点で重要であり、集落がほぼ完存する稀有な事例でもある。石器と鉄器が出土し、南関東における鉄器化の実態を知ることができる。南関東における弥生時代中期後半の社会を知るうえで重要な遺跡である。
県	史跡	堤貝塚	つつみかいづか		H4.2.14	茅ヶ崎市	堤字南谷			茅ヶ崎市管理		縄文時代後期前半の貝塚で、貝層及びその下に竪穴住居跡、石囲い炉が確認された。
県	天然記念物	浄見寺のオハツキイチョウ	じょうけんじのおはつきいちょう		S36.3.14	茅ヶ崎市	堤4317	浄見寺				５～10センチメートルの葉柄に不整形の葉をつけるが、その葉片の基部に多少変形ぎみの果実をつけるイチョウの大木。
県	天然記念物	鶴嶺八幡のイチョウ	つるみねはちまんのいちょう		S37.10.2	茅ヶ崎市	浜之郷462	鶴嶺八幡宮				勢いのよい木が4、5本癒着して生長をつづけ現在の幹を形づくったと見られる。目通し8メートル、高さは27メートル。

茅ヶ崎市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	天然記念物	浄見寺の寺林	じょうけんじのじりん		S42.7.21	茅ヶ崎市	堤4318、4329～30	浄見寺				かつてのこの付近の自然林の面影を残した貴重な寺林。
国	登録有形	茅ヶ崎館広間棟	ちがさきかんひろまとう		H21.1.8	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市中海岸3-11595-1他	個人		大正15年頃	木造平屋一部二階建/鉄板葺・スレート葺及び瓦葺	湘南海岸を望む高台に建つ明治32年創業の老舗旅館で、映画監督・小津安二郎が定宿としていたことでも知られる。広間棟の広間は30畳大で軽快な意匠の座敷飾りを備え、南西側に中二階棟を配す。広間棟後方の浴室棟は数寄屋風意匠でまとめている。
国	登録有形	茅ヶ崎館中二階棟	ちがさきかんちゅうにかいとう		H21.1.8	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市中海岸3-11595-1他	個人		大正14年	木造平屋建/スレート葺	
国	登録有形	藤間家住宅主屋	とうまけじゅうたくしゅおく		H27.3.26	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市柳島	茅ヶ崎市		昭和7年	木造平屋建／鉄板葺	藤間家住宅主屋は、設計者西村伊作の作風の一端を示す近代住宅である。洋間部分を含めた東立面全体を洋風意匠とし、その他の部分を和風意匠とする。和洋の意匠を対比的に採用した、落ち着いたたたずまいの住宅である。
国	登録有形	旧南湖院第一病舎	きゅうなんこいんだいいちびょうしゃ		H30.3.27	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市南湖	茅ヶ崎市		明治32年／昭和54年・昭和58年・平成15年改修	木造２階建、スレート葺	南湖院は明治32年に設立された結核療養施設。第一病舎は、敷地北寄りに建つ木造２階建、外壁下見板張で２階窓上部にはペディメントを飾る。療養地として著名な湘南で希少な明治期の結核病棟である。
国	登録有形	旧氷室家住宅主屋	きゅうひむろけじゅうたくしゅおく		H30.11.2	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市東海岸南	茅ヶ崎市		昭和10年／昭和35年・平成12年増築	木造２階一部平屋建、瓦葺	実業家の元別荘で、前庭を控え敷地北西に建つ。西半は板敷の居間中心に開放的につくり、東半は緩やかな傾斜の軒や直線的構成等モダンな和風意匠とする。昭和初期の近代住宅の思潮及び茅ヶ崎の別荘地開発の様相を伝えている。

逗子市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	建造物	五輪塔	ごりんとう	1基	S28.8.29	逗子市	東昌寺 （池子2-8-33）	東昌寺				高さ141cm程度。水輪には金剛界大日如来をあらわす梵字の「バン」、地輪には「沙弥行心帰寂、乾元二年(1303)癸卯七月八日」の銘が刻まれている。鎌倉時代末期の中型五輪塔として、地域の基準となる貴重な文化財。
県	建造物	神武寺薬師堂	じんむじやくしどう	1棟	S60.11.29	逗子市	神武寺（沼間2-1402）	神武寺		附）棟札3枚		慶長3年造立上葺棟札がある。桁行3間梁間3間寄棟造、近世初期の年代判明遺構である。
県	絵画	絹本著色　大威徳明王像	けんぽんちゃくしょく　だいいとくみょうおうぞう	1幅	S29.3.30	逗子市	神武寺（沼間2-1402）	神武寺				鎌倉時代末期。水上を突進する水牛の背上で忿怒の大威徳明王を描き、「怨敵調伏」の祈願の本尊と思われる。
県	絵画	絹本著色　千手観音像	けんぽんちゃくしょく　せんじゅかんのんぞう	1幅	S29.3.30	逗子市	神武寺（沼間2-1402）	神武寺				鎌倉時代末期。十一面四十二臂の立像を画面中央に描き、衣部には切金文様を施し描かれている。
県	彫刻	木造　阿弥陀如来立像	もくぞう　あみだにょらいりゅうぞう	1躯	S56.7.17	逗子市	光照寺 （沼間2-20-17）	光照寺				鎌倉時代。寄木造。光触寺の重文阿弥陀如来立像の系統に属する作風だが、総体に穏やかな表現である。
県	工芸	銅鐘（海宝院）	どうしょう（かいほういん）	1口	S44.12.2	逗子市	海宝院（沼間2-12-15）	海宝院				室町時代（銘に応永十年）。全体は細く丈高で、極めてスマートな感じの鐘である。
県	考古資料	逗子市池子遺跡群出土品	ずししいけごいせきぐんしゅつどひん	241点	H14.2.12	逗子市	逗子市池子遺跡群資料館（池子）	逗子市				弥生時代中期。初期水田耕作の農耕具をはじめとする多様な木製品と骨角牙製品。特に木製品は製作過程の各段階を示す未製品も多く見られ、製作技術を明らかにできる貴重な資料。
国	史跡	名越切通	なごえきりどおし		S41.4.11	逗子市・鎌倉市	逗子市小坪、同久木、鎌倉市大町				S56.10.13、S58.11.26、H20.7.28、H21.7.23追加指定	鎌倉七口の一つ。山腹路と切通路を組み合せ、800メートルにおよぶ切岸を伴い、一大要塞をなす。
国	史跡	和賀江嶋	わかえのしま		S43.10.14	鎌倉市・逗子市	鎌倉市材木座、逗子市小坪及び海面		鎌倉市・逗子市		H18.1.26追加指定	貞永元年、往阿弥陀仏の言を入れ北条泰時以下が協力し、一ヶ月を費やして造った築港の跡である。既指定地西側及び北側の海面部分が追加指定された。
国	史跡	長柄桜山古墳群	ながえさくらやまこふんぐん		H14.12.19	逗子市・葉山町	逗子市桜山、葉山町長柄			逗子市・葉山町所有		現存する県内最大級の二基(第1号墳全長90m、第2号墳全長88m)の前方後円墳からなる古墳群で、出土した埴輪片の年代観から四世紀半ばから後半に築造された前期古墳。東海地方から連続して畿内政権の勢力拡大を示唆する古墳として注目される。
県	天然記念物	五霊神社の大イチョウとその周辺の樹木	ごりょうじんじゃのおおいちょうとそのしゅうへんのじゅもく		S42.7.21	逗子市	沼間3-10-34	五霊神社				樹高25メートルのイチョウの大木を中心に、暖帯性の広葉樹林の代表的な種により組成されている。
県	天然記念物	鎧摺の不整合を示す露頭	あぶずりのふせいごうをしめすろとう		S52.5.20	逗子市	桜山9-2405-21	逗子市				三浦半島でもっとも古い地層である葉山層とその上部の三浦層とがなす典型的な不整合を示すもの。
国	登録有形	長島孝一家住宅主屋	ながしまこういちけじゅうたくしゅおく		H13.8.28	逗子市	逗子市新宿1-5-14	個人		明治33年頃	木造1	木造平屋建の和風別荘で、南面に玄関、東面に座敷と広縁、北に離れを配するが、震災後90度振って復旧したと伝えられる。海浜別荘の遺構。
国	登録有形	旧脇村家住宅主屋	きゅうわきむらけじゅうたくしゅおく		H22.4.28	逗子市	逗子市桜山8-2241	逗子市		昭和9年	木造2階建、瓦葺	南西方向に海を臨む丘陵地に立地する昭和初期の和風別荘建築。採光に配慮した部屋配置をとり、南西に窓を連ねた開放感のある居室を持つ。

逗子市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	旧正力家別邸主屋	きゅうしょうりきけべっていおもや		R4.2.17	逗子市	逗子市新宿	個人		昭和前期／昭和14年改修、昭和36年増築、平成28年改修	木造2階建、瓦葺	逗子海岸の北に位置する別邸。東の玄関から南庭に面して、部屋を雁行して並べ、南東に書院造の座敷を配す。座敷上部に設けた洋室は、庭を臨む三面にガラス窓を入れ、開放的な造りとする。洋室の外部には欄干付の縁を巡らし、外観を和風にまとめた良質な住宅。
国	登録有形	旧正力家別邸蔵	きゅうしょうりきけべっていくら		R4.2.17	逗子市	逗子市新宿	個人		昭和34年／平成28年改修	鉄筋コンクリート造2階建、瓦葺	主屋西側に位置する蔵。鉄筋コンクリート造二階建、切妻造妻入の東西棟で、東面に戸口を設け、各階南北面中央に窓を開けて鉄扉を備える。外壁はリシン吹付仕上で、腰は刷毛引仕上。内部は各階とも一室で南東隅に階段を設ける。主屋西側の景観をつくる。
国	登録有形	旧正力家別邸表門	きゅうしょうりきけべっていおもてもん		R4.2.17	逗子市	逗子市新宿	個人		昭和中期	木造、銅板葺、間口1.8m、左右袖塀付	主屋の東に位置し、通りに東面する腕木門。主柱と冠木は皮付丸太で、主柱は角柱の控柱と貫で固める。主柱で棟木を直接受け、軒桁を腕木で支持する。門口に板戸を吊り、屋根は銅板葺で棟は熨斗積とする。両脇に袖塀を付して屋敷表構えを整える数寄屋風の表門。
国	登録有形	須藤家住宅主屋	すどうけじゅうたくおもや		R4.2.17	逗子市	逗子市新宿	個人		昭和7年/昭和41年、平成12年改修	木造2階建、スレート葺	逗子海岸近くに位置する住宅。東を玄関とし、内部は中廊下平面で、玄関脇に洋室の応接、南面中央に続き座敷と広縁、南西に洋室の書斎を配し、庭を臨む。二階は洋室と和室を東西に並べる。軒の出を押さえ、窓庇を水平に連続させて意匠平明な昭和前期の住宅。
国	登録有形	須藤家住宅旧ボイラー室	すどうけじゅうたくきゅうぼいらーしつ		R4.2.17	逗子市	逗子市新宿	個人		昭和21年頃／昭和27年改修	木造平屋建、鉄板葺	主屋北側に位置するGHQが建築した旧ボイラー室。切妻造鉄板葺平入の平屋建東西棟で、南に戸口、三面に高窓を開け、外壁下見板張とする。内部はかつて西にボイラー、貯湯槽、東に石炭庫を配した。現在は一室の倉庫として利用する。昭和戦後の歴史を伝える。
国	登録有形	旧本多家住宅主屋	きゅうほんだけじゅうたくおもや		R4.10.31	逗子市	逗子市山の根	株式会社久米設計		昭和13年	木造二階建、スレート葺	逗子駅近くの山裾に建つ洋風住宅。外観はモルタル仕上大壁で、開口部廻りに擬石をあしらい、バルコニー腰壁にメダリオンを飾る。正面西にポーチと玄関、東に吹抜の居間を配す。久米権九郎の設計で、束ね式の小柱と横架材を用いた独自の耐震木骨構造による。

三浦市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	建造物	海南神社本殿、幣殿及び拝殿	かいなんじんじゃほんでん、へいでんおよびはいでん	1棟	H23.3.22	三浦市	海南神社（三崎4-12-11）	海南神社		附）棟札2枚		棟札から本殿は寛保3年（1743）、幣殿及び拝殿は寛政10年（1798）の建立。本殿は元は二間社流造で、地方の社殿としては規模が大きく、控えめながら装飾の質も高く、県内の江戸時代中期を代表する社殿である。拝殿及び幣殿は、細部が時代に比して古様であり、本殿との調和を強く意図したと思われる。
県	彫刻	木造　薬師如来及び両脇侍立像	もくぞう　やくしにょらいおよびりょうきょうじりゅうぞう	3躯	S53.11.17	三浦市	天養院（初声町和田1669）	天養院				平安時代。一木造。平安中期11世紀頃の製作と考えられ、県下の仏像の中でも古い作例である。
県	工芸	刀　銘　津田越前守助広	かたな　めい　つだえちぜんのかみすけひろ	1口	S32.2.19	三浦市		個人				江戸時代。銘津田越前守助広延宝三年八月日。中切先反りの少ない新刀姿で、生中心である。
県	工芸	銅鐘（本瑞寺）	どうしょう（ほんずいじ）	1口	S44.12.2	三浦市	本瑞寺（三崎1-19-1）	本瑞寺				室町時代（銘文に康永三年）。駒の爪も低く、鎌倉鐘としての姿を残すものである。
県	工芸	刀　銘　一竿子粟田口忠綱	かたな　めい　いっかんしあわたぐちただつな	1口	S32.2.19	不明（三浦市）	不明					江戸時代。反りの少ない小切先厚い新刀姿で、表に真の昇り龍、裏に独鈷付素剣に梵字を彫るものである。
県	有形民俗文化財	城ヶ島漁撈用具コレクション	じょうがしまぎょろうようぐこれくしょん	1件（657点）	S57.2.9	三浦市	旧城ヶ島分校海の資料館（三崎町城ヶ島411）	三浦市				舫ちょう用具と各種漁網など、城ヶ島の漁撈技術と習俗を端的に示すコレクション。
県	有形民俗文化財	三番叟面	さんばそうめん	1面	H7.2.14	三浦市	海南神社（三崎4-12-11）	海南神社				室町時代初期。狂言面だが、定形化する以前の自由な造形がみられ、全国的にも珍しい。
国	無形民俗文化財	チャッキラコ	ちゃっきらこ		S51.5.4	三浦市		ちゃっきらこ保存会		1月15日	S40.5.14県無形文化財指定S45.6.8国選択	七、八歳から十四、五歳までの少女が十人ないし二十人くらいでコキリコ、扇等をもって、主婦の歌にあわせて踊る。曲は「ハツイセ」「チャッキラコ」「二本踊」「ヨササ節」「鎌倉節」「お伊勢参り」の六種。
国	無形民俗文化財	三戸のオショロ流し	みとのおしょろながし		H23.3.9	三浦市		三戸お精霊流し保存会		8月16日	S52.2.9県選択S53.6.23県指定無形民俗文化財	三浦市初声町三戸で毎年8月16日に行われる盆の精霊送り行事。先祖の霊を船に託して送る、船流しの形態をとる盆行事の典型例。セイトッコと呼ばれる少年の年齢集団によって行事が伝承されてきたことが地域的な特色で、少子化が進む中でも伝統的な要素をよく残している。
県	無形民俗文化財	菊名の飴屋踊り	きくなのあめやおどり		S51.10.19	三浦市		あめや踊保存会		10月23日	S30.11.1県無形文化財指定	女性は一切加わらず踊りは青年、歌と囃子は長老によって行われる農村芝居。手踊と段物が伝えられる。他県では粉屋踊、万作芝居などという。
国	史跡	赤坂遺跡	あかさかいせき		H23.3.8	三浦市	初声町			三浦市所有		三浦半島の拠点的集落で、南関東でも屈指の大規模集落。弥生時代中期後半から後期に継続して営まれていた県内では数少ない集落として重要。周囲を海に囲まれた立地から、遠隔地との海路での交流や漁撈活動がうかがわれる点でも学術的価値が高い。
県	史跡	毘沙門洞窟弥生時代住居阯群	びしゃもんどうくつやよいじだいじゅうきょしぐん		S35.11.4	三浦市	南下浦町毘沙門字八浦原					四つの海蝕洞窟中に、下層から弥生式後期土器片などが、上層から古墳時代の埋葬例が発見された。
国	天然記念物	諸磯の隆起海岸	もろいそのりゅうきかいがん		S3.3.24	三浦市	三崎町諸磯字石打789	三浦市	三浦市			穿孔貝の巣穴によって過去の汀線の位置や高度をみいだすとともに、過去の大地震の間隔や隆起量を推定しうる場所。
県	天然記念物	漣痕（波調層）	れんこん（はちょうそう）		S32.2.19	三浦市	海外町3958地先岩礁	三浦市				新生代第三紀中新世の中頃堆積した三崎累層に、当時の波状の漣痕がよく保存されている。
県	天然記念物	城ケ島のウミウ、ヒメウ及びクロサギの生息地	じょうがしまのうみう、ひめうおよびくろさぎのせいそくち		S35.5.31	三浦市	城ヶ島	三浦市				城ヶ島南端の高さ約30メートルの懸崖で、冬期この岩棚に約2千羽のウミウ、それにヒメウ、クロサギが共同生息している。

三浦市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	天然記念物	三浦市海外町のスランプ構造	みうらしかいとちょうのすらんぷこうぞう		S53.9.1	三浦市	海外町4228-6の内	三浦市				岩が未固結のコロイド状態の時、海底地すべりによって転位変形した結果生じたものと思われる。典型的な褶曲型スランプ構造。
国	登録有形	旧長谷川家住宅主屋	きゅうはせがわけじゅうたくしゅおく		R1.12.5	三浦市	三浦市初声町三戸	個人		昭和５年	木造平屋建、瓦葺一部銅板葺	敷地北寄りに南面して建ち、周囲に下屋を廻らし正面中央に入母屋造の玄関を張り出す。東に連なる離れは瀟洒な数寄屋として趣を変える。三浦半島沿岸部の良質な昭和初期住宅。
国	登録有形	旧長谷川家住宅主屋石蔵	きゅうはせがわけじゅうたくいしぐら		R1.12.5	三浦市	三浦市初声町三戸	個人		明治中期／昭和前期改修	木骨石造二階建、瓦葺	二階建て、切妻造、置屋根形式の桟瓦葺で、西面中央に戸口を開き、吹放し下屋を付す。当初は土蔵造だが、後の改修で柱の外側に切り石を積み、石造風に仕上げる。地域の技術的な特徴を備える旧家の蔵。
国	登録有形	旧長谷川家住宅庭門及び内塀	きゅうはせがわけじゅうたくにわもんおよびうちべい		R1.12.5	三浦市	三浦市初声町三戸	個人		昭和５年	（門）（塀）木造、銅板葺	主屋玄関の南東隅柱と石蔵の下屋柱の間に建つ。庭門は丸太材を使用した数寄屋風のつくりで、内塀は腰高に竪板張を細竹の押縁で押さえ、軒を薄くつくり、庭門と調和した繊細な意匠でまとめる。

秦野市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	彫刻	木造　大日如来坐像	もくぞう　だいにちにょらいざぞう	1躯	S49.4.19	秦野市	宝蓮寺 （蓑毛674）	宝蓮寺				平安時代。県内最大級の大日如来で、他に四如来を具す五知如来の本尊で後補部も多いが県内ではめずらしい遺作である。
県	彫刻	木造薬師如来立像	もくぞうやくしにょらいりゅうぞう	1躯	R2.3.17	秦野市	東光寺（秦野市南矢名366）	東光寺				鎌倉時代。寄木造。全体の造りが簡素なものとなっていることが特徴。頭髪は螺髪とせず、渦巻状の線刻によって表現し、目鼻、袖、衣文等も簡略な彫刻となっている。これらの特徴は、一日で造って供養した「一日造立仏」と共通する点が多い。本像は「一日造立仏」の確実な作例と断定はできないものの、「建長八年三月八日」の墨書から、この日一日で造った可能性が強い。
国	工芸	象図鐔　銘　安親	ぞうずつば　めい　やすちか	1枚	S28.11.14	不明 （秦野市）	不明					江戸時代。鉄地。表中央に大きく象を鋤出彫し、裏に林整字の詩を刻む。
県	考古資料	秦野市平沢同明遺跡出土の弥生前期壺形土器	はだのしひらさわどうめいいせきしゅつどのやよいぜんきつぼがたどき	1点	H15.2.10	秦野市	秦野市立桜土手古墳展示館（堀山下380-3）	個人				弥生時代前期後半。大型の壺形土器で、特徴から伊勢地方（三重県）で作られた可能性が強く、農耕文化の伝播に伴って持ち込まれたと考えられる。南関東唯一の完形の遠賀川式系統の土器として貴重な資料である。
県	無形民俗文化財	相模のささら踊り	さがみのささらおどり		H20.2.5	藤沢市・秦野市・厚木市・海老名市・綾瀬市		葛原芸能保存会・遠藤民俗芸能保存会・秦野ささら踊り保存会・愛甲ささら踊り盆唄保存会・長谷ささら踊り盆唄保存会・海老名ささら踊り保存会・綾瀬ささら踊り保存会		7月下旬に連合会大会		旧相模国で江戸時代に流行した七夕踊り・小町踊りの流れをくむ女性だけによる盆踊り。大正末期には廃絶してしまったが、戦後、旧相模国域各地で復活した。揃いの浴衣に帯を締めた襷掛けの女性が、長詞型または短詞型の独特な唄に合わせてビンザサラを突き、小太鼓を打ちながら踊る。
国	無形文化財	芸能　義太夫節浄瑠璃	げいのう　ぎだゆうぶしじょうるり		H11.6.21	秦野市		上田悦子 （芸名・雅号等：竹本駒之助）				義太夫節浄瑠璃は、場面の情景や雰囲気、登場人物の言葉や心情を表現する重要な技法である。氏は、竹本春駒、十世豊竹若大夫、八世竹本綱大夫、竹本越路大夫に師事し、長年義太夫節浄瑠璃の研鑽に励み、現在では義太夫節浄瑠璃の第一人者として高く評価されている。
県	史跡	二子塚古墳	ふたごづかこふん		S58.8.30	秦野市	下大槻字二タ子					六世紀後半の全長46メートルの前方後円墳。確認調査の結果、横穴式石室が発見された。
県	天然記念物	鶴巻の大欅	つるまきのおおけやき		S28.12.22	秦野市	鶴巻南4-23	地神社				根回り12.25メートル、目通し10メートル、樹高30メートルの大ケヤキ。
国	登録有形	猿渡堰堤	さるわたりえんてい		H15.3.18	秦野市	秦野市堀山下・戸川	神奈川県		昭和7年	重力式コンクリート	重力式練積堰堤。湾曲する旧河道を矯正するために堤体左岸側を締切り、岩盤形状に合わせ左岸側に水通しを全面に張り出す特異な構造を有す。
国	登録有形	山ノ神堰堤	やまのかみえんてい		H15.3.18	秦野市	秦野市堀山下・戸川	神奈川県		昭和7年	重力式コンクリート	重力式練積堰堤。水通しの右岸側端部に灌漑用水の水路を設け、提体全面に導水するために既存の岩盤を利用して提体右側を筒状に張り出す。
国	登録有形	戸川堰堤	とがわえんてい		H15.3.18	秦野市	秦野市堀山下・戸川	神奈川県		昭和16年／ 昭和25年嵩上げ	重力式コンクリート	提体表面を谷積、隅部を五角形に切り取った切石で丁寧に造る。嵩上げ部分は、コンクリート造りとしつつも提体表面を下部と同様の谷積石張とする。

秦野市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	宇山商事店舗兼主屋	うやましょうじてんぽけんしゅおく		H29.6.28	秦野市	秦野市寿町	個人		昭和3年／昭和40年頃改修	木造2階建、瓦葺	旧矢倉沢往還沿いに建てられた木造二階建の商家である。一階下屋は一段、二階は二段の出桁造で奥行の深い庇（ひさし）を構成している。内部は壁を磨き漆喰にするなど丁寧な仕上げであり、また、良材が用いられている座敷部が、当地の歴史的景観を伝えている。
国	登録有形	五十嵐商店店舗兼主屋	いがらししょうてんてんぽけんしゅおく		H29.10.27	秦野市	秦野市本町	個人		昭和３年／昭和11年頃増築	木造三階建、門柱付	五十嵐商店は、秦野市中心部に建つ商店。店舗兼主屋は木造三階建で外壁は正面をモルタル洗出し。一階は店舗部で広い土間と畳敷のミセ・帳場を配し、二及び三階は居室部で応接間を設ける。
国	登録有形	五十嵐商店第一号倉庫	いがらししょうてんだいいちごうそうこ		H29.10.27	秦野市	秦野市本町	個人		昭和初期	木造二階建	五十嵐商店は、秦野市中心部に建つ商店。第一号倉庫は敷地後方中央に南面する。木造二階建で、小屋組は登梁形式。モルタル仕上げの外壁に目地を刻み石造風に仕上げる。
国	登録有形	五十嵐商店第二号倉庫	いがらししょうてんだいにごうそうこ		H29.10.27	秦野市	秦野市本町	個人		昭和初期	木造二階建	五十嵐商店は、秦野市中心部に建つ商店。第二号倉庫は店舗兼主屋と第一号倉庫との間に南面する。木造二階建で、小屋組はキングポストトラスを組む。
国	登録有形	五十嵐商店第三号倉庫	いがらししょうてんだいさんごうそうこ		H29.10.27	秦野市	秦野市本町	個人		昭和初期	木造平屋建	五十嵐商店は、秦野市中心部に建つ商店。第三号倉庫は第一号倉庫の南に建つ。木造平屋建、切妻造とするが、軒の出は造らず、壁から屋根までモルタルで塗込め、正面のみ水切のため、妻壁を迫出す。小屋組は梁を架け、棟木を受ける簡素な構造。
国	登録有形	五十嵐商店第四号倉庫及び第五号倉庫	いがらししょうてんだいよんごうそうこおよびだいごごうそうこ		H29.10.27	秦野市	秦野市本町	個人		昭和12年頃	木造平屋建	五十嵐商店は、秦野市中心部に建つ商店。第四号倉庫及び第五号倉庫は敷地北西にあり南面する。木造平屋建で、桁行四間、梁間三間の二棟に切妻造の屋根を架け、正面に下屋庇を付ける。外壁は四隅の柱や鉢巻にモルタル仕上げを見せる。小屋組はキングポストトラスを組む大型倉庫。
国	登録有形	蓑毛大日堂	みのげだいにちどう		H29.10.27	秦野市	秦野市蓑毛	宗教法人宝蓮寺		享保14年	木造平屋建、瓦葺	大山の登山口にあり山岳信仰の拠点として信仰を集めた。大日堂は敷地の中央に南面して建つ。近世寺院建築で、組物は尾垂木付二手先とし、向拝廻りの彫刻は牡丹の手挟など華やかに飾る。
国	登録有形	蓑毛不動堂	みのげふどうどう		H29.10.27	秦野市	秦野市蓑毛	宗教法人宝蓮寺		17世紀末／昭和50年頃改修	木造平屋建、銅板葺	大山の登山口にあり山岳信仰の拠点として信仰を集めた。不動堂は大日堂北東の小高い場所に建つ。桁行四間、梁間三間、入母屋造、妻入で、一間向拝を付ける。近年の改造を受けるが境内で最も古い建築。
国	登録有形	蓑毛地蔵堂	みのげじぞうどう		H29.10.27	秦野市	秦野市蓑毛	宗教法人宝蓮寺		18世紀前半／昭和50年頃改修	木造平屋建、鉄板葺	大山の登山口にあり山岳信仰の拠点として信仰を集めた。地蔵堂は不動堂の北東に東面する三間堂。寄棟造、平入で、一間向拝を付ける。向拝の水引虹梁や木鼻、蟇股、手挟の細部意匠に18世紀前半の特徴を見せる。
国	登録有形	蓑毛大日堂仁王門	みのげだいにちどうにおうもん		H29.10.27	秦野市	秦野市蓑毛	宗教法人宝蓮寺		19世紀前半	木造平屋建、鉄板葺	大山の登山口にあり山岳信仰の拠点として信仰を集めた。仁王門は大日堂の南面に建つ。三間一戸八脚門、入母屋造で、両脇間前方に二王像を安置する。
国	登録有形	旧芦川家住宅主屋（緑水庵）	きゅうあしかわけじゅうたくおもや（りょくすいあん）		R2.4.3	秦野市	秦野市蓑毛	秦野市		昭和５年頃／平成３年移築	木造平屋建、茅葺（金属板仮葺）	市街南部から移築した民家で、桁行八間規模の寄棟造茅葺金属板仮葺である。良質な竹を産した当地らしく外壁を割竹張とする手法等に、地域的特色をよく示す。現在は市立蓑毛自然観察の森のガイダンス施設。

秦野市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	旧澤良本店店舗兼主屋	きゅうさわりょうしょうてんてんぽけんおもや		R6.3.6	秦野市	秦野市本町	個人		大正15年	木造二階建、銅板葺	龍門寺参道入口に建つ元乾物青果商の店舗兼主屋。通りに西面する木造二階建切妻造平入銅板葺の店舗で、背面に平屋建寄棟造鉄板葺の主屋を接続する。店舗一階は全体を土間床、北西に事務所を附属。二階は主座敷八畳と次の間を配す。秦野の賑わいを伝える商家遺構。
国	登録有形	旧澤良本店土蔵	きゅうさわりょうしょうてんどぞう		R6.3.6	秦野市	秦野市本町	個人		明治前期／明治中期移築、大正後期改修	木造二階建、鉄板葺	店舗兼主屋の北に建つ旧商品蔵兼家財蔵。土蔵造二階建切妻造平入の置屋根で鉄板葺とし、片町通に妻を見せる。南面一箇所の戸口を店舗蔵前に開く。内部は一、二階とも一室で、窓は二階東妻のみとする。小屋組は登梁を牛梁で受ける。街路景観の要となる土蔵。
国	登録有形	立花屋茶舗店舗兼主屋	たちばなやちゃほてんぽけんおもや		R6.3.6	秦野市	秦野市本町	個人		慶応元年頃／明治後期改修、昭和２年移築、同10年・45年頃増築	木造二階建、鉄板葺	台町交差点北に位置する茶商の店舗兼主屋。つし二階建切妻造平入鉄板葺の店舗北に寄棟造二階建の主屋を接続する。店舗は銅板葺下屋にガラス戸を建込む。主屋二階には東久邇宮宿所とした座敷を配す。通りに面した軒の低い町家が、秦野の歴史的な景観を形成する。
国	登録有形	立花屋茶舗左の蔵	たちばなやちゃほひだりのくら		R6.3.6	秦野市	秦野市本町	個人		江戸末期	木造二階建、鉄板葺	店舗の東背後に建つ商品蔵兼家財蔵。土蔵造二階建の東西棟で、切妻造の置屋根を鉄板葺とし、西妻下屋に戸口を設け、両開の掛子塗戸を吊る。外壁は白漆喰塗で腰は下見板張。二階床に格子付の荷上口を備える。
国	登録有形	立花屋茶舗右の蔵	たちばなやちゃほみぎのくら		R6.3.6	秦野市	秦野市本町	個人		明治41年／大正後期改修	木造二階建、鉄板葺	店舗兼主屋の背後、左の蔵の南に並ぶ商品蔵兼家財蔵。土蔵造二階建切妻造妻入の置屋根鉄板葺とし、左の蔵と一連で下屋を付す。外壁はモルタル塗で腰は洗出仕上。戸口は両開掛子塗戸。二階床に格子口付荷上口を備える。左の蔵とともに龍門寺参道の景観をつくる。
国	登録有形	保全堂薬局店舗兼主屋	ほぜんどうやっきょくてんぽけんおもや		R6.3.6	秦野市	秦野市本町	個人		昭和３年／昭和40年代改修	木造二階建、鉄板葺一部銅板葺	秦野の本町四ツ角交差点の南に位置する薬局の店舗兼主屋。二階建洋風店舗の西に二階建和風主屋を接続する。店舗は正面中央を薄く張り出し三連の上下窓を開け、出隅の柱頭飾のレリーフなどセセッション風意匠を用いた外観が、通りの歴史的な景観を形成する。
国	登録記念物	曽屋水道	そやすいどう		H29.10.13	秦野市	秦野市水神町	秦野市 宗教法人曽屋神社		遺跡関係		曽屋水道は、秦野市水神(すいじん)町(ちょう)1587番１外に所在し、明治23年に竣工した、県内では横浜に次ぐ、全国的にも極めて早い時期に建設された水道施設です。 現存の遺構としては、水源から掘られた隧道の開口部２基（明治21年・大正３年）、隧道を通った水が集められた明治時代の円形沈殿池跡の一部、水源を周囲に配水するための大正期と昭和期の配水池、消火用に設置された大正期のポンプ室があります。これらの遺構は、近代水道の草創期まで時代を遡ることができる貴重な文化財です。
国	登録記念物	震生湖	しんせいこ		R3.3.26	秦野市	秦野市今泉、足柄上郡中井町境別所ほか	秦野市ほか	秦野市 中井町	動物、植物及び地質鉱物関係		大正12年に発生した関東地震で生じた堰き止め湖である。当時、地震による崩壊地が多数生じたが現存するものは希有。震生湖では現在も「湖面」「崩落地」「堰止地」を一体として確認できる。地震にともない、地塊運動が生じることを現在に伝える貴重な資料である。

厚木市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	建造物	本禅寺本堂	ほんぜんじほんどう	1棟	H7.2.14	厚木市	本禅寺（飯山3515）	本禅寺		附）本禅寺本堂棟札1枚		江戸時代。桁行5間、梁間6間寄棟造、鉄板葺。日蓮宗本堂の典型的建物。
県	建造物	荻野神社本殿及び拝殿	おぎのじんじゃほんでんおよびはいでん	2棟（1枚）	H26.3.28	厚木市	荻野神社（上荻野1番地イ）	荻野神社		附）貞享四年木札（奉造立石神大明神社惣旦那寄進之覚）		本殿は貞享4年（1687）という年代の割には、細部の手法は先進的であり、また装飾も大変豊かで質も高いもので、当時の江戸の作風を見事に消化しきった建築として高く評価されている。 　また、拝殿は延享2年(1745)と造立時期は、本殿より遅れるが、細部に複雑な細工がほどこされており、華やかな本殿の雰囲気によく調和した端正な社殿として評価されている。
国	彫刻	木造　阿弥陀如来坐像	もくぞう　あみだにょらいざぞう	1躯	S36.6.30	厚木市	金剛寺（飯山5456）	金剛寺			S33.6.17県指定	平安時代。寄木造。定朝様をうけ、全体に洗練された趣がみられる半丈六の像である。
県	彫刻	木造　地蔵菩薩坐像	もくぞう　じぞうぼさつざぞう	1躯	S33.6.17	厚木市	金剛寺（飯山5456）	金剛寺		正安元年九月作者□慶の銘がある		鎌倉時代。寄木造（一木割り矧ぎ）。安定感に富んだ姿などを総じて堅実な作風。鎌倉末の関東彫刻の基準作である。
県	彫刻	木造　不動明王立像	もくぞう　ふどうみょうおうりゅうぞう	1躯	H3.2.8	厚木市	法雲寺（酒井2471）	法雲寺				平安時代。寄木造。繊細な趣、流麗な衣文表現、浅い彫り口など典型的な藤原期の様式である。
県	工芸	銅鐘（浅間神社）	どうしょう（せんげんじんじゃ）	1口	S44.12.2	厚木市	浅間神社（中依知488）	浅間神社				室町時代（銘文に貞和六年）。全体として胴がややふくらみを帯び、ずんぐりとした感じの鐘で、元鎌倉大楽寺の鐘である。
県	工芸	鰐口（本照寺）	わにぐち（ほんしょうじ）	1口	S44.12.2	厚木市	本照寺（下古沢130）	本照寺				室町時代（銘文に永禄九年）。戦国争乱のさなかの作だけに作風はあまりよくないが、同時代の文化を知るためには重要な作例である。
県	工芸	銅鐘（長谷寺）	どうしょう（はせでら）	1口	H2.2.13	厚木市	長谷寺（飯山5605）	長谷寺				室町時代（銘文に嘉吉二年）。清原国光の作で清原様式をよくあらわした作例である。
県	考古資料	厚木市登山一号墳出土埴輪	あつぎしどうやまいちごうふんしゅつどはにわ	98点ほか	H4.2.14	厚木市	あつぎ郷土博物館（下川入1366-4） 文化財調査室（下川入1365-8）	厚木市			H24.2.14追加指定	6世紀中葉から後半のもの。形象埴輪と円筒埴輪に大別され、古墳時代を知る上で価値が高い。
国	無形民俗文化財	相模人形芝居	さがみにんぎょうしばい		S55.1.28	小田原市・厚木市		下中座・長谷座・林座		不定期	S28.12.22県無形文化財指定 S46.4.21国選択 S51.10.19県指定	県内には、江戸時代から明治にかけて十五か所の三人遣いの人形芝居があったが、現在でも五座で続けられている。そのうち国指定は3座である。カシラが文楽よりもやや小ぶりで「鉄砲ざし」という操法を伝える江戸系人形芝居の遺産である。
県	無形民俗文化財	相模のささら踊り	さがみのささらおどり		H20.2.5	藤沢市・秦野市・厚木市・海老名市・綾瀬市		葛原芸能保存会・遠藤民俗芸能保存会・秦野ささら踊り保存会・愛甲ささら踊り盆唄保存会・長谷ささら踊り盆唄保存会・海老名ささら踊り保存会・綾瀬ささら踊り保存会		7月下旬に連合会大会		旧相模国で江戸時代に流行した七夕踊り・小町踊りの流れをくむ女性だけによる盆踊り。大正末期には廃絶してしまったが、戦後、旧相模国域各地で復活した。揃いの浴衣に帯を締めた襷掛けの女性が、長詞型または短詞型の独特な唄に合わせてビンザサラを突き、小太鼓を打ちながら踊る。

厚木市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県選択	無形民俗文化財	厚木大神楽	あつぎだいかぐら		S55.9.12	厚木市		伊勢十二座神楽		伊勢十二座神楽		伊勢大神楽十二組のひとつ。正月から二月にかけて、大神楽長持を二輪車に乗せて厚木周辺の檀那場の祓いをしてまわる。
県	天然記念物	妻田の楠	つまだのくすのき		S29.3.30	厚木市	妻田653	妻田神社保存会				常緑広葉樹。樹高約22メートル、目通し約11メートル、根回り約17.5メートル。内陸部には珍しい大きなクスノキ。
県	天然記念物	松石寺の寺林	しょうせきじのじりん		H3.2.8	厚木市	上荻野字真弓4227 他	松石寺		H20.2.5追加指定		内陸に残されたヤブコウジースダジイ群集の数少ない郷土森として重要。
国	登録有形	小島家住宅主屋	こじまけじゅうたくしゅおく		H27.11.17	厚木市	厚木市飯山	個人		明治18年頃／昭和48年頃・平成5年頃改修	木造2階建／茅葺（銅板仮葺）	小島家住宅は、養蚕農家の特徴を備えた住宅である。主屋の屋根は正面、側面ともに切り上げて兜造とする。表門はケヤキの良材を用いた薬医門で、屋敷構えを引き立てる。敷地内の置屋根式の蔵とともに登録する。
国	登録有形	小島家住宅蔵	こじまけじゅうたくくら		H27.11.17	厚木市	厚木市飯山	個人		明治18年頃	土蔵造平屋一部2階建／銅版葺	
国	登録有形	小島家住宅門	こじまけじゅうたくもん		H27.11.17	厚木市	厚木市飯山	個人		明治20年頃／昭和44年移築	木造／瓦葺	

大和市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	考古資料	大和市上野遺跡出土品	やまとしかみのいせきしゅつどひん	1,058点	S62.2.20	大和市	大和市つるの舞の里歴史資料館（つきみ野7-3-2）ほか	大和市		附）第1・第2地点出土　土器破片、　第1・第2地点出土　他の剥片		縄文土器の発生期の文化を知ることのできる先土器時代から縄文時代草創期の出土品。
県	考古資料	大和市上和田城山遺跡出土品	やまとしかみわだじょうやまいせきしゅつどひん	244点	S62.2.20	大和市	鶴間1-19-8	大和市		附）出土　他の剥片		先土器時代の細石刃の製作方法が復元でき、併せて、その時期の文化も知ることのできる出土品。
県	天然記念物	大和のシラカシ林	やまとのしらかしりん		S42.7.21	大和市	上草柳1712、1713、1722、1723	個人				相模原台地の傾面景観を残している貴重な林。

伊勢原市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	建造物	宝城坊旧本堂内厨子	ほうじょうぼうきゅうほんどうないずし	1基	S43.4.25	伊勢原市	宝城坊（日向1644）	宝城坊			S40.8.10県指定	室町時代初期。一間厨子。入母屋造。柿葺。禅宗様を摂取した厨子のもっとも古い例の一つである。
国	建造物	宝城坊本堂	ほうじょうぼうほんどう	1棟	H7.12.26	伊勢原市	宝城坊（日向1644）	宝城坊				江戸時代。茅葺。広大な内陣と華やかな外陣が特徴。
県	絵画	板絵著色　歌川国経筆美人図絵馬	いたえちゃくしょく　うたがわくにつねひつびじんずえま	1面	S35.11.4	伊勢原市	上粕屋比々多神社（上粕屋1764）	上粕屋比々多神社				江戸時代（享和2歳12月吉日の年記がある。）。描線は流暢でデッサンは正確ですぐれた手腕で描かれている。
国	彫刻	木造　薬師如来両脇士像	もくぞう　やくしにょらいりょうきょうじぞう	3躯	M33.4.7	伊勢原市	宝城坊（日向1644）	宝城坊				平安時代。一木造。すべて丸のみで彫り出した規則的な縞模様を見せるいわゆる鉈彫りである。
国	彫刻	木造　阿弥陀如来坐像	もくぞう　あみだにょらいざぞう	1躯	T6.4.5	伊勢原市	宝城坊（日向1644）	宝城坊				鎌倉時代。寄木造。丈六の像。面相部は中世補修のためかするどさに欠けるが、鎌倉彫刻の新様式を示す。
国	彫刻	木造　薬師如来坐像	もくぞう　やくしにょらいざぞう	1躯	T6.4.5	伊勢原市	宝城坊（日向1644）	宝城坊				鎌倉時代。寄木造。木寄せはやや古式であるが、面相は男性的で鎌倉初頭の作風を示している。
国	彫刻	木造　日光・月光菩薩立像	もくぞう　にっこう・がっこうぼさつりゅうぞう	2躯	T14.4.24	伊勢原市	宝城坊（日向1644）	宝城坊				鎌倉時代。寄木造。丈六の三尊像の脇侍と思われる像。彫技は巧みで関東の菩薩像の中では注目される作例である。
国	彫刻	木造　四天王立像	もくぞう　してんのうりゅうぞう	4躯	T14.4.24	伊勢原市	宝城坊（日向1644）	宝城坊				鎌倉時代。寄木造。6尺を超す大きな像。作風は慶派に近く、激しい動きを示しながら破綻がない。
国	彫刻	木造　十二神将立像	もくぞう　じゅうにしんしょうりゅうぞう	12躯	T14.4.24	伊勢原市	宝城坊（日向1644）	宝城坊				鎌倉時代。寄木造。等身よりやや大きな像。動きがかたく、全体にぎこちない感じが強い。
国	彫刻	鉄造　不動明王及二童子像	てつぞう　ふどうみょうおうおよびにどうじぞう	3躯	S3.8.17	伊勢原市	大山寺（大山724）	大山寺				鎌倉時代。鉄造。関東地方に散在する鉄仏の一つ。両眼に水晶片を嵌入して玉眼の効果をねらった像である。
国	彫刻	木造獅子頭	もくぞうししがしら	2面	H28.8.17	伊勢原市	宝城坊（日向1644）	宝城坊			「獅子頭」の名称で県指定有形民俗文化財にも指定されている。（S30.11.1）	古くは霊山寺と言い、現在は日向薬師の名で知られる相模地方の古刹に伝わった獅子頭である。丈の高い形や穏やかな表現に平安風の古様をとどめ、遅くとも13世紀後半までには造られていたと思われる。霊山寺は鎌倉時代を通じて寺勢が栄えたことが現存する仏像群よりうかがえ、本面もその中で法会のために製作されたとみられる。獅子頭の古例であり、また、左右一対がともに残り、表面仕上げまで当初のものを留めており貴重である。
県	彫刻	木造　不動明王坐像	もくぞう　ふどうみょうおうざぞう	1躯	S59.11.22	伊勢原市	大山寺（大山724）	大山寺				平安時代。寄木造、彫眼。大山寺二世の光増の作と伝え、護摩所の本尊であったと伝えられている。平安時代後期の特色を示し、全体の繊細な表現は12世紀中葉の作と思われる。
県	彫刻	木造　十二神将立像	もくぞう　じゅうにしんしょうりゅうぞう	12躯	H18.2.14	伊勢原市	宝城坊（日向1644）	宝城坊				本堂の内陣に、江戸時代の薬師如来坐像とともに安置されている像高70cm弱の十二神将像で、平安時代後期の卓抜な表現を持つ重要な作品である。
国	工芸	銅鐘	どうしょう	1口	T14.4.24	伊勢原市	宝城坊（日向1644）	宝城坊		暦応三年十二月十五日の銘がある		室町時代。鐘銘は陽鋳で、寺の来歴が記されている。
県	工芸	みか	みか	1個	S31.8.17	伊勢原市	三之宮比々多神社（三ノ宮1472）	三之宮比々多神社		うずらみか		平安時代。須恵器の系統に属するもので、焼きは比較的よく灰色を呈する。伝世器であることがめずらしい。
県	工芸	銅鐘（高部屋神社）	どうしょう（たかべやじんじゃ）	1口	S44.12.2	伊勢原市	高部屋神社（下粕屋2202）	高部屋神社				室町時代（銘文に至徳三年）。全体としてよく整った作のいい鐘で特に竜頭の出来が優れている。

伊勢原市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	工芸	宝城坊の錦幡・唐櫃	ほうじょうぼうのきんばん・からびつ	1具	S55.2.15	伊勢原市	宝城坊（日向1644）	宝城坊		大幡　赤地牡丹唐草文錦1流 小幡　赤地牡丹唐草文錦2流 木造　黒漆唐櫃1合 延文二年在銘		南北朝時代。大小三流からなるもので、大きさはわが国最大のもので、日向薬師の信仰を知る上で重要である。
県	工芸	銅鐘（八坂神社）	どうしょう（やさかじんじゃ）	1口	H2.2.13	伊勢原市	八坂神社（沼目2-3-30）	八坂神社				室町時代（銘文には応永十年）。史料性が高く、銘文に当地方の同時代の地名や豪族名が記されている。
県	有形民俗文化財	獅子頭	ししがしら	2個	S30.11.1	伊勢原市	宝城坊（日向1644）	宝城坊				鎌倉～室町時代初期。伎楽獅子舞の獅子頭で大きく、雄勁なる表情を豪快に彫刻する。本県最古に属する獅子頭である。 なお、この文化財は「木造獅子頭」の名称で国指定重要文化財（彫刻）にも指定されている。（H28.8.17）
県	有形民俗文化財	大太鼓	おおだいこ	1個	S30.11.1	伊勢原市	宝城坊（日向1644）	宝城坊				室町時代。現在皮革が破れ、胴の中に書かれた墨書が判読され、天文九年以来数回張り替えられたことがわかる。
国選択	無形民俗文化財	大山こまの製作技術	おおやまこまのせいさくぎじゅつ		R5.3.22	伊勢原市		伊勢原市大山こま製作技術保存会				本件は、神奈川県伊勢原市の大山に伝承される、木製玩具の「こま」を製作する技術である。大山こまは、近世中期から盛んとなる大山詣りの土産物として知られ、家内安全や商売繁盛の縁起物として参詣者に買い求められてきた。ミズキを原材料として作られ、芯棒が太く、全体に丸みを帯びた重厚な形が特徴である。その製作技術は、轆轤の回転を利用して部材の成形や彩色をする木地師の技術を伝えていて重要である。
県	無形民俗文化財	大山阿夫利神社の倭舞及び巫子舞	おおやまあふりじんじゃのやまとまいおよびみこまい		S51.10.19	伊勢原市		倭舞・巫子舞保存会		8月28日	S28.12.22県無形文化財指定	明治初期奈良春日大社の富田家により伝授され、現在倭舞八曲、巫子舞七曲他が中学生を中心に舞わられる。楽器は和琴、大和笛、ひちりき、笏拍子。
国	史跡	伊勢原八幡台石器時代住居跡	いせはらはちまんだいせっきじだいじゅうきょあと		S9.12.28	伊勢原市	東大竹、八幡台		伊勢原市			縄文時代後期の敷石住居跡。大小の河原石を敷きつめた2つの住居跡が保存されている。
県	天然記念物	大福寺の大楠	だいふくじのおおくすのき		S30.5.10	伊勢原市	伊勢原262	大福寺				根回り18メートル、樹高30メートル、5本の太い枝が約30メートルも四方に枝張りを広げる大クスノキ。
県	天然記念物	宝城坊の二本杉	ほうじょうぼうのにほんすぎ		S30.11.1	伊勢原市	日向1644	宝城坊				約4メートルを隔てて二本並ぶスギの大木。南のものは目通し7.2メートル、樹高50メートル。北のものは目通し5.5メートル、樹高45メートル。
県	天然記念物	大山の原生林	おおやまのげんせいりん		S41.10.25	伊勢原市	大山阿夫利山6-1及び43-6	大山阿夫利神社				傾面に残るモミを主体とした原生林。
県	天然記念物	日向薬師の寺林	ひなたやくしのじりん		H3.2.8	伊勢原市	日向字日向山1639 他	宝城坊				自然植生種と植栽樹種で構成されているとともに景観的に優れている。
国	登録有形	山口家住宅主屋	やまぐちけじゅうたくおもや		H10.9.2	伊勢原市	伊勢原市上粕屋862	個人		江戸末期/明治元年移築	木造2	当地域の自由民権運動の中心的役割を担った旧家で、六間取りの民家であるが、二階に二間続きの数寄屋風座敷を明治初期に増築している。
国	登録有形	山口家住宅離れ	やまぐちけじゅうたくはなれ		H10.9.2	伊勢原市	伊勢原市上粕屋862	個人		江戸末期/明治元年移築	木造2	主屋の北端から雁行形に増築され、奥に二階建ての土蔵を付ける。八帖と六帖の二間からなり、三方に縁側を回す。
国	登録有形	八段堰堤	はちだんえんてい		H16.7.23	伊勢原市	伊勢原市大山	神奈川県		昭和3年	重力式コンクリート	金目川水系南沢に築かれる。凝灰岩質の岩盤を基礎として築かれた堤長37m、堤高11m、下流法勾配2分、上流法勾配5分の大規模重力式練積堰堤。堤体表面に谷積を施し、正面立面をほぼ左右対称とする。金目川の水源近くに配された、渓流砂防の基幹的施設。

伊勢原市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	元滝堰堤	もとたきえんてい		H16.7.23	伊勢原市	伊勢原市大山	神奈川県		昭和5年	重力式コンクリート	八段堰堤の下流に築かれる。堤長25m、堤高4.3mで、下流法勾配4分、上流法を垂直とした重力式練積堰堤で、堤体表面は谷積とする。同時期に花水川流域に築かれた他の堰堤と同様に、水通しの角に丸みをつけるのが特徴的。
国	登録有形	袋町堰堤	ふくろまちえんてい		H16.7.23	伊勢原市	伊勢原市大山	神奈川県		昭和4年	重力式コンクリート	金目川水系の不動沢に築かれる。堤長24m、堤高6.0mで上下流とも法勾配を3分とした重力式練積堰堤で、水通しを岩盤に近い左岸側に設ける。霊山大山への登拝路に近接し、集落への水害を防ぐのみならず、信仰道を保護する役割も果たす砂防施設。
国	登録有形	小澤家住宅主屋	おざわけじゅうたくしゅおく		H19.5.15	伊勢原市	伊勢原市西富岡370	個人		明治初期	木造平屋建/茅葺(鉄板仮葺)	主屋は20畳座敷を備え、桁行11間、梁間7間の規模を誇る。特に柱や梁は太く、建具や床の間まわりの造作は優秀である。表門は旧平塚宿本陣の表門という由緒を持ち、平塚宿における唯一の建築遺構である。また敷地隅には瓦を積んだ練塀で、瓦小口を並べて見せた重厚なつくりの庭塀を残す。
国	登録有形	小澤家住宅表門	おざわけじゅうたくおもてもん		H19.5.15	伊勢原市	伊勢原市西富岡370	個人		江戸末期/明治20年頃移築	木造/瓦葺	
国	登録有形	小澤家住宅庭塀	おざわけじゅうたくにわべい		H19.5.15	伊勢原市	伊勢原市西富岡370	個人		大正末期	練塀/瓦葺/延長11メートル	
国	登録有形	高部屋神社本殿	たかべやじんじゃほんでん		H28.2.25	伊勢原市	伊勢原市下糟屋	高部屋神社		昭和4年	木造平屋建、銅板葺	高部屋神社は、延喜式内社のひとつと伝えられる神社である。本殿は五間社流造の大規模なもので、江戸前期の部材を用いて関東大震災後に再建されており、震災復興造営の一例を示す。茅葺の拝殿及び幣殿は躍動的で濃密な彫刻で向拝を飾る。
国	登録有形	高部屋神社拝殿及び幣殿	たかべやじんじゃはいでんおよびへいでん		H28.2.25	伊勢原市	伊勢原市下糟屋	高部屋神社		慶応元(1865)年	木造平屋建、茅葺一部銅板葺	
国	登録有形	大山寺本堂	おおやまでらほんどう		R6.3.6	伊勢原市	伊勢原市大山	大山寺		明治18年／昭和42年改修	木造平屋建、銅板葺	大山の中腹に東面して建つ真言宗寺院本堂。桁行五間梁間五間、入母屋造瓦型銅板葺。前二間を外陣、後三間を内陣と脇陣に画す密教系本堂で、太い柱が林立し雄大。正面の軒唐破風付向拝は木鼻の龍を始め彫刻が横溢し圧巻。大山詣の隆盛を伝える大型の近代仏堂。

海老名市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	彫刻	木造　千手観音立像	もくぞう　せんじゅかんのんりゅうぞう	1躯	T14.4.24	海老名市	龍峰寺（国分北2-13-40）	龍峰寺				鎌倉時代。一木造。いわゆる清水寺式千手観音像で、一木造にもかかわらず玉眼を嵌入している。
国	工芸	銅鐘	どうしょう	1口	T12.8.4	海老名市	国分寺（国分南1-25-38）	国分寺		正応五年十月特六日の銘がある		鎌倉時代。全体にすっきりした感じの鐘。銘文に「国分尼寺槌鐘」とある。
県	無形民俗文化財	相模のささら踊り	さがみのささらおどり		H20.2.5	藤沢市・秦野市・厚木市・海老名市・綾瀬市		葛原芸能保存会・遠藤民俗芸能保存会・秦野ささら踊り保存会・愛甲ささら踊り盆唄保存会・長谷ささら踊り盆唄保存会・海老名ささら踊り保存会・綾瀬ささら踊り保存会		7月下旬に連合会大会		旧相模国で江戸時代に流行した七夕踊り・小町踊りの流れをくむ女性だけによる盆踊り。大正末期には廃絶してしまったが、戦後、旧相模国域各地で復活した。揃いの浴衣に帯を締めた襷掛けの女性が、長詞型または短詞型の独特な唄に合わせてビンザサラを突き、小太鼓を打ちながら踊る。
国	史跡	相模国分寺跡	さがみこくぶんじあと		T10.3.3	海老名市	国分南		海老名市			法隆寺式伽藍配置をもつ日本有数の大規模な国分寺跡、礎石は、比較的よく残されている。
国	史跡	相模国分尼寺跡	さがみこくぶんにじあと		H9.4.3	海老名市	国分北		（公有地化した範囲を海老名市が管理）		H14.3.19、H20.3.28追加指定	金堂は全国の国分尼寺の中で最大規模の柱間をもつ。律令制下における仏教体制の在り方を象徴する遺構として重要である。
国	史跡	秋葉山古墳群	あきばやまこふんぐん		H17.7.14	海老名市	上今泉		海老名市			弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけて営まれた古墳群である。
県	史跡	上浜田中世建築遺構群	かみはまだちゅうせいけんちくいこうぐん		S56.2.10	海老名市	浜田町			海老名市管理		南北朝～室町時代。掘立柱建物址8棟を中心とする主屋、付属屋の存在や中国産青磁等の出土によって上層階級の住居遺構と推定される。
県	天然記念物	海老名の大欅	えびなのおおけやき		S29.3.30	海老名市	国分南1-1150	海老名市				樹高約20メートル、目通し約7.5メートル、根回り15.3メートルの大ケヤキ。
県	天然記念物	有馬のはるにれ（通称なんじゃもんじゃ）	ありまのはるにれ（つうしょうなんじゃもんじゃ）		S29.7.27	海老名市	本郷3881	海老名市				落葉高木で寛永年間にこの地に移植されたと伝えられる。樹高20メートル、目通し6.58メートル、幹には空洞がある。
国	登録有形	旧今福家住宅文庫蔵	きゅういまふくけじゅうたくぶんこぐら		H30.11.2	海老名市	海老名市中新田	海老名市		弘化４年／明治22年・昭和前期・平成19年改修	土蔵造３階建、瓦葺	今福家は江戸時代には名主も務めた旧家。文庫蔵は、敷地西側の北寄りに建つ。南北棟の切妻造桟瓦葺で、鉢巻を二段に廻し、東面北寄りの戸口を設けて下屋を付す。外観は二階建てにみせるが内部は三層で、妻側の窓の内戸を斜めに取付ける特異な形式をもつ。上層農家の屋敷構えの構成を伝えている。
国	登録有形	旧今福家住宅表門及び塀	きゅういまふくけじゅうたくおもてもんおよびへい		H30.11.2	海老名市	海老名市中新田	海老名市		嘉永６年／明治27年・大正期改修	表門：木造、瓦葺 塀：木造、金属板葺	今福家は江戸時代には名主も務めた旧家。表門は、敷地西面南寄りに通りから後退して開く。桟瓦葺の一間薬医門で両脇に縦板張目板打の袖塀を延ばし、北側に潜戸を付す。旧家の表構えの格式を備える門塀。
国	登録有形	旧今福家住宅裏門	きゅういまふくけじゅたくうらもん		H30.11.2	海老名市	海老名市中新田	海老名市		大正期	石造	今福家は江戸時代には名主も務めた旧家。裏門は敷地東面を流れる水路に面して建つ。石製の冠木を渡し、冠木上に「今」をアールヌーヴォー風に図案化した鉄製飾を載せる。旧家の近代の暮らしの一端を伝えている。

海老名市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	嶋﨑家住宅主屋	しまざきけじゅうたくおもや		R3.10.14	海老名市	海老名市上郷	個人		明治後期／大正15年・昭和50年・昭和57年改修	木造平屋建、銅板葺	相模川左岸の集落の敷地に東面して建つ。入母屋造銅板葺の周囲に下屋(げや)を廻らす。軸部重厚で施工も洗練された、近代の上質な民家建築。
国	登録有形	嶋﨑家住宅離れ	しまざきけじゅうたくはなれ		R3.10.14	海老名市	海老名市上郷	個人		昭和３年	木造平屋建、銅板葺	主屋の北東側に廊下を介して東西棟で建つ。平屋建、入母屋造銅板葺で下屋を廻らす。四方柾(しほうまさ)の杉材など材料を吟味し、意匠を凝らした離れ。
国	登録有形	海老名市温故館（旧海老名村役場）	えびなしおんこかん（きゅうえびなむらやくば）		R5.8.7	海老名市	海老名市国分南	海老名市		大正７年／昭和26年頃増築、同57年改修、平成22年移築	木造二階建、瓦葺	相模国分寺跡に近接する木造洋風の庁舎建築。二階建寄棟造桟瓦葺で、東に切妻造の玄関ポーチを付し、北に寄棟造を増築する。外壁は下見板張で、内部一階は三室で北に階段を配し、二階は一室とする。玄関ポーチの柱頭や破風板の装飾が特徴的な村役場の建物。

座間市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	工芸	梵鐘	ぼんしょう	1口	S42.6.15	座間市	星谷寺（入谷3-3583）	星谷寺		嘉禄三年丁亥正月廿一日、大勧進秀亳、大檀那源信綱、大工源吉国の鋳出銘がある	S33.6.17県指定	鎌倉時代。すらりとした姿の鎌倉時代の鐘。撞座が一個だけしかないという特徴をもっている。
国選択	無形民俗文化財	関東の大凧揚げ習俗	かんとうのおおだこあげしゅうぞく		H3.2.2	相模原市・座間市		相模の大凧文化保存会・座間市大凧保存会		5月4日～5日	所在地は神奈川県、埼玉県、千葉県の三県にわたる	端午の節句に行われ、子どもの成長祈願と凧合戦と呼ばれる競技の2要素をもつ大凧揚げ習俗。埼玉県東北部の江戸川流域、千葉県上総地方、神奈川県相模川流域の3地域で現在も盛んに行われている。

南足柄市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	建造物	地蔵堂内厨子	じぞうどうないずし	1基	S54.2.16	南足柄市	地蔵堂（矢倉沢2391）	地蔵堂自治会				室町時代末。三間厨子入母屋造。軸部に唐様、軒を和様とした折衷様厨子である。
県	彫刻	木造　薬師如来坐像	もくぞう　やくしにょらいざぞう	1躯	S31.8.17	南足柄市	保福寺（内山1959）	保福寺				鎌倉時代。一木造。彫り口は荒っぽく、単純、明快で地方仏師の手になる像と思われる。
県	彫刻	木造　十一面観音立像	もくぞう　じゅういちめんかんのんりゅうぞう	1躯	S31.8.17	南足柄市	保福寺（内山1959）	保福寺				平安時代。一木造。素朴だが伏目がちな眼や小さな口もとなど穏やかな表情を刻む藤原時代の像である。
県	彫刻	木造　兜跋毘沙門天立像	もくぞう　とばつびしゃもんてんりゅうぞう	3躯	S39.12.15	南足柄市	朝日観音堂（怒田2179）	朝日観音堂（上怒田自治会）		附）小仏像群13躯		平安時代、室町時代。一木造。面相やひきしまった体躯から平安時代と思われる2躯が残されている。
県	彫刻	木造　聖観音立像	もくぞう　しょうかんのんりゅうぞう	1躯	S39.12.15	南足柄市	朝日観音堂（怒田2179）	朝日観音堂（上怒田自治会）				平安時代。一木造。がっしりとした体躯で、強い顔立ちは平安時代も早い頃の名残を残している。
県	彫刻	木造　地蔵菩薩立像	もくぞう　じぞうぼさつりゅうぞう	1躯	S54.2.16	南足柄市	矢倉沢地蔵堂（矢倉沢2391）	矢倉沢地蔵堂（地蔵堂自治会）				鎌倉時代。寄木造。通例の姿をとる地蔵像で、張りのある頬、鋭い複雑な衣文線などに鎌倉様式が認められている。
県	無形民俗文化財	足柄ささら踊	あしがらささらおどり		S51.10.19	南足柄市		足柄ささら踊保存会		不定期	S42.7.21県無形文化財指定S50.12.8国選択	江戸時代から明治にかけて少女達の盆踊として盛んに行われた。竹のビンザサラを突き小太鼓を打ち、二本の扇をあやなす小町踊、七夕踊の系統の踊である。
県	無形民俗文化財	相模人形芝居	さがみにんぎょうしばい		S57.2.9	平塚市・南足柄市		前鳥座・足柄座		不定期		国指定の相模人形芝居三座と同じく三人遣い。鉄砲差し操法による古い伝統を持つ人形芝居である。
県選択	無形民俗文化財	内山の「忠臣蔵踊り」及び「曽我の夜討ち踊り」	うちやまの「ちゅうしんぐらおどり」および「そがのやうちおどり」		H3.2.8	南足柄市		内山剣舞おどり保存会		不定期		江戸末期頃から伝わる風流踊。語りものに合わせて二人一組になって踊る。
県	天然記念物	大雄山杉林	だいゆうざんすぎばやし		S28.12.22	南足柄市	関本字浦山大雄山最乗寺参道両側5間以内と寺院境内	大雄山最乗寺				応永以来植林、保護育成され、現在樹齢約350～450年、約二万本の杉林となっている。
県	天然記念物	御嶽神社の社叢林	みたけじんじゃのしゃそうりん		H6.2.15	南足柄市	三竹343-1他	御嶽神社				スダジイ、カシを主体とした常緑広葉樹で、貴重な自然林。

綾瀬市

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	考古資料	綾瀬市神崎遺跡出土品	あやせしかんざきいせきしゅつどひん	25点	H14.2.12	綾瀬市	綾瀬市吉岡3425-5	綾瀬市				弥生時代後期。土器の大半が愛知県東部～静岡県西部に特徴的に見られる技法で製作されていることから、東海地方からの集団移住を示す貴重な資料。
県	無形民俗文化財	相模のささら踊り	さがみのささらおどり		H20.2.5	藤沢市・秦野市・厚木市・海老名市・綾瀬市		葛原芸能保存会・遠藤民俗芸能保存会・秦野ささら踊り保存会・愛甲ささら踊り盆唄保存会・長谷ささら踊り盆唄保存会・海老名ささら踊り保存会・綾瀬ささら踊り保存会		7月下旬に連合会大会		旧相模国で江戸時代に流行した七夕踊り・小町踊りの流れをくむ女性だけによる盆踊り。大正末期には廃絶してしまったが、戦後、旧相模国域各地で復活した。揃いの浴衣に帯を締めた襷掛けの女性が、長詞型または短詞型の独特な唄に合わせてビンザサラを突き、小太鼓を打ちながら踊る。
国	史跡	神崎遺跡	かんざきいせき		H23.2.7	綾瀬市	吉岡		綾瀬市			弥生時代後期前半という短期間に営まれた環濠集落で、東海西部からの移住があったことを明らかにしており、弥生時代後期の東海から南関東の社会のあり方を知る上で重要。また、こうした集落が完全な形で遺存している希有な例。
県	史跡	早川城跡	はやかわじょうあと		H20.2.5	綾瀬市	早川城山三丁目			綾瀬市管理		早川城跡は、古くから城山（じょうやま）と呼ばれ、鎌倉時代の御家人で当地の領主であった渋谷氏の居城と伝えられる中世の城跡。 城跡は、往時の姿を現在までよくとどめており、遺存状態が良好な中世城郭として貴重。

葉山町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	建造物	新善光寺四脚門	しんぜんこうじしきゃくもん	1棟	S39.12.15	葉山町	新善光寺（上山口1368）	新善光寺				江戸時代初期。四脚門切妻造。当時鎌倉地方で宗派をこえて強かった禅宗様式で作られたものである。
県	建造物	新善光寺本堂	しんぜんこうじほんどう	1棟	S47.11.24	葉山町	新善光寺（上山口1368）	新善光寺		附）厨子1基		江戸時代初期。桁行7間寄棟造。四脚門同様禅宗様式により、厨子は棟札によると寛政9年の建造である。
県	有形民俗文化財	翁面	おきなめん	1面	H7.2.14	葉山町	森戸大明神（堀内1025）	森戸大明神				室町時代初期。猿楽に用いられた面。様式化される以前の作として貴重なもの。
国	史跡	長柄桜山古墳群	ながえさくらやまこふんぐん		H14.12.19	逗子市・葉山町	逗子市桜山、葉山町長柄			逗子市・葉山町所有		現存する県内最大級の二基(第1号墳全長90m、第2号墳全長88m)の前方後円墳からなる古墳群で、出土した埴輪片の年代観から四世紀半ばから後半に築造された前期古墳。東海地方から連続して畿内政権の勢力拡大を示唆する古墳として注目される。
国	登録有形	日影茶屋本店客室棟	ひかげちゃやほんてんきゃくしつとう		H23.1.26	葉山町	葉山町堀内字五ツ合16-1他	株式会社日影茶屋		大正12年／昭和9年・昭和40年頃改修	木造二階建、瓦葺	通りに西面して車寄せを構えた南北棟と北側で直行する東西棟とがL字型に連なる。南北棟は二階を広間とし、東西棟は各階とも小部屋に分け、老舗旅館の面影を残す。
国	登録有形	日影茶屋本店石蔵	ひかげちゃやほんてんいしくら		H23.1.26	葉山町	葉山町堀内字五ツ合16-1	株式会社日影茶屋		大正10年頃	石造二階建、瓦葺	石蔵は客室棟の南方に所在し、房州石で積み上げた重厚な外壁や道路側の二階開口両側の半円柱の柱型が特徴である。
国	登録有形	イエズス孝女会修道院旧館（旧東伏見宮葉山別邸）	いえずすこうじょかいしゅうどういんきゅうかん（きゅうひがしふしみのみやはやまべってい）		H29.5.2	葉山町	三浦郡葉山町堀内	宗教法人イエズス孝女会		大正3年／昭和51年・同62年改修	木造2階建／銅板葺	宮内省内匠寮の木子幸三郎（きごこうさぶろう）が設計した、もと東伏見宮葉山別邸で、洋館部分が現存している。木造2階建で、玄関ポーチと塔屋を設け洋風に仕上げている。富士山や江の島を望む西側には広いサンルームを設け、2階には上質な和室も備えている。内外とも気品を備えた意匠で海浜の別邸らしく開放的な構成となっている。
国	登録有形	旧加地邸	きゅうかちてい		H29.10.27	葉山町	三浦郡葉山町一	株式会社ヨネヤマ		昭和３年	木造一部鉄筋コンクリート造二階一部地下一階建、銅板葺	建築家遠藤新による設計の住宅。大谷石を多用し、水平に大きく伸びる軒などプレーリースタイルでまとめるライト風住宅の秀作。
国	登録有形	旧金子堅太郎葉山別邸恩賜松荘	きゅうかねこけんたろうはやまべっていおんしまつそう		R3.2.4	葉山町	三浦郡葉山町一色	個人		大正11年頃／昭和30年増改築／平成19年改修	木造平屋建、瓦葺	政治家や学者として活躍した金子堅太郎の別邸。葉山御用邸に近く、海に面した景勝地に位置する。南北棟にわかれ、南棟は平屋建切妻造桟瓦葺、北棟は平屋建寄棟造桟瓦葺で、銘木を用い欄間など細部まで意匠を凝らした上質な別邸。
国	登録有形	旧金子堅太郎葉山別邸 米寿荘	きゅうかねこけんたろうはやまべっていべいじゅそう		R3.2.4	葉山町	三浦郡葉山町一	有限会社上田義彦写真事務所		昭和15年頃／昭和25年頃増築／平成18年改修	木造二階建、瓦葺	政治家や学者として活躍した金子堅太郎の別邸。恩賜松荘の東に建つ。二階建入母屋造桟瓦葺で、一階は民家を移築したと伝え農家風意匠とし、二階は銘木を用いた数寄屋風意匠とする。恩賜松荘とともに葉山の別邸の歴史を物語る上で重要。
国	登録有形	旧足立家別邸主屋	きゅうあだちけべっていおもや		R4. 10. 31	葉山町	三浦郡葉山町堀内	個人		昭和８年／令和２年改修	木造二階建、瓦葺	葉山町西部の山裾に位置する実業家の別邸で、設計は佐藤功一。二階建、切妻造桟瓦葺で南面し、外壁はハーフティンバー。内部は中廊下を通して和洋の部屋を巧みに配し、内外装材には王子製紙製繊維板のトマテックスを多用する。佐藤功一の作品としても貴重な住宅。
国	登録有形	山口蓬春記念館（旧山口蓬春邸）主屋	やまぐちほうしゅんきねんかん（きゅうやまぐちほうしゅんてい）おもや		R5. 2. 27	葉山町	三浦郡葉山町一色	公益財団法人JR東海生涯学習財団		大正前期／昭和32年・同40年増築、平成３年・同25年改修	木造平屋一部二階建、瓦葺	一色海岸北の丘陵に位置する日本画家の自邸。寄棟造桟瓦葺の東西棟平屋建、南東隅を二階建とし、南と東に張り出す増築の茶の間棟・風呂棟は吉田五十八の設計。繊細な建具や床の納まりで和室とベランダの連続性を実現する近代和風住宅。

葉山町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	山口蓬春記念館（旧山口蓬春邸）画室	やまぐちほうしゅんきねんかん（きゅうやまぐちほうしゅんてい）がしつ		R5.2.27	葉山町	三浦郡葉山町一色	公益財団法人JR東海生涯学習財団		昭和28年	木造平屋建、瓦葺	主屋西に位置する画室。設計は吉田五十八。切妻造桟瓦葺の起屋根で周囲に銅板庇を付す。室内は大壁で細かな線を排除し、床を一段下げた南のベランダ境には天井高いっぱいの引込み障子戸を建てる。
国	登録有形	旧平野家住宅主屋	きゅうひらのけじゅうたくおもや		R6.3.6	葉山町	三浦郡葉山町堀内	個人		昭和11年／昭和13年頃増築、令和２年改修	木造平屋建、瓦葺	ＪＲ逗子駅と葉山御用邸を結ぶ国道の近傍に建つ。木造平屋建、桟瓦葺で、庭に面して濡縁・榑縁付の座敷を雁行状に配し、背面には随所に銘木を用いた中二階の座敷を接続する。材木商による上質な近代和風住宅で、昭和前期に葉山に築かれた郊外住宅の好例。

寒川町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	工芸	六十二間筋兜鉢	ろくじゅうにけんすじかぶとばち	1頭	H11.11.26	寒川町	寒川神社 （宮山3916）	寒川神社		附）金具残闕3種		室町時代62枚の細長い鉄板を鋲止めで矧ぎ合わせた筋兜鉢。武田信玄の小田原攻めに際して奉納されたと伝えられる。
県	有形民俗文化財	下大曲神社の庚申塔	しもおおまがりじんじゃのこうしんとう	1基	H18.2.14	寒川町	寒川神社 （宮山3916）	大曲神社				刻像は四臂青面金剛像と二猿。台部に雌雄の二鶏像を刻み、塔身正面に承応二年九月の紀年銘と「大曲村」の村名を刻む。石塔研究や民間信仰史を明らかにする上で貴重な石塔。
国	登録有形	旧広田医院主屋	きゅうひろたいいんおもや		R5.8.7	寒川町	高座郡寒川町一之宮	個人		大正15年／昭和4年増築、同21年改修、同30年代増築	木造二階建、鉄板葺	大山街道沿いの旧家の洋館付和風住宅。平屋建和館部は田の字型間取りで伝統的。二階建洋館は外壁を下見板張、一階に医院諸室を配し、X線室は大壁漆喰仕上。二階は床構え付10畳座敷に巡らした縁廊下に上下窓を開く。地域の医院として親しまれた佇まい。
国	登録有形	旧広田医院門柱及び塀	きゅうひろたいいんもんちゅうおよびへい		R5.8.7	寒川町	高座郡寒川町一之宮	個人		昭和4年／平成30年改修	門柱：コンクリート造、袖塀付 塀：コンクリート造	大山街道に開くコンクリート造門柱と塀基礎部分。門柱は太い角柱で、上部兜巾型で江戸切仕上の元は門扉付。袖柱を塀端部に立てて袖塀で塞ぎ、潜戸口を設ける。塀基礎は切石風モルタル仕上、元は板塀を載せた。医院表構えに相応しく重厚で歴史的景観を形成。

大磯町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	彫刻	木造　薬師如来坐像	もくぞう　やくしにょらいざぞう	1躯	S2.4.25	大磯町	王福寺（寺坂639）	王福寺				平安時代。一木造。全体として、古風なつくりの像で、その彫り口からこの地方で制作されたものと思われる。
国	彫刻	木造　伝了源坐像	もくぞう　でんりょうげんざぞう	1躯	H4.6.22	大磯町	善福寺（高麗1-7-7）	善福寺			S57.8.31県指定	鎌倉時代。寄木造、玉眼、彩色の技法になる。浄土系僧侶肖像彫刻の優れた古例として注目。
県	彫刻	木造　地蔵菩薩坐像	もくぞう　じぞうぼさつざぞう	1躯	S49.7.12	大磯町	慶覚院（高麗2-9-48）	慶覚院		像内に建治四年三月十一日の銘がある		鎌倉時代（胎内墨書に建治4年）。寄木造。やや粗豪ながら、慶派により造られたと思われる地蔵菩薩の大作である。
県	彫刻	木造　阿弥陀如来立像	もくぞう　あみだにょらいりゅうぞう	1躯	S57.8.31	大磯町	善福寺（高麗1-7-7）	善福寺				鎌倉時代。寄木造。Y字型の衣文構成の流麗な線などから、快慶に近い関係にある作家の作と思われる。
県	彫刻	木造　武装神形立像 木造　女神形立像	もくぞう　ぶそうしんぎょうりゅうぞう もくぞう　じょしんぎょうりゅうぞう	1躯 1躯	H21.2.3	大磯町	六所神社(国府本郷935)	六所神社				平安時代後期（12世紀頃）、一木造。天部の仏像と同形だが、特異な表情を持つため当初から神像として造られた可能性がある。平安時代後期の優れた作品であり、神社に伝来した異色ある彫刻として貴重である。
県	彫刻	木造男神立像 木造女神立像 木造僧形神立像 木造男神立像　弘安五年の銘がある 木造女神像頭部残欠　弘安五年の銘がある 木造僧形神立像（頭部欠） 木造随身立像（頭部欠） 附　左右袖部	もくぞうだんしんりゅうぞう もくぞうじょしんりゅうぞう もくぞうそうぎょうしんりゅうぞう もくぞうだんしんりゅうぞう　こうあんごねんのめいがある もくぞうじょしんぞうとうぶざんけつこうあんごねんのめいがある もくぞうそうぎょうしんりゅうぞう（とうぶけつ） もくぞうずいじんりゅうぞう（とうぶけつ） つけたり　さゆうそでぶ	10軀1箇 附2箇	R4.3.18	大磯町	大磯町西小磯446番地の1　大磯町郷土資料館	宗教法人高来神社				大磯町東北部、高麗山の麓に所在する高来神社神輿堂に安置されていた、男神、女神、僧形神、随身の神像群であり、一部に弘安5年（1282）の銘がある。平成12年11月の調査で見出され、同16年に大磯町指定文化財となる。同年から令和2年にかけて保存修理が実施され、現在は大磯町郷土資料館に寄託されている。 鎌倉時代の神像がこれほどまとまって伝来する例は全国的にも珍しく価値が高い。また、製作年の判明する点も貴重である。さらに銘記に登場する勧進聖玄西の名は、高来神社が神仏分離令以前に高麗権現と称していた時の別当寺である高麗寺にあった地蔵菩薩坐像（現在慶覚院に安置、県指定重要文化財）の銘記にも見え、13世紀後半、この周辺で活動していた僧侶とわかる。高麗寺は北条政子の安産祈願をするなど鎌倉幕府との関係も知られる。 朽損が進行する前に見出され、修理が施されたことは非常に喜ばしい。鎌倉時代の高麗権現で造像されたことは明らかで、鎌倉幕府の関与も考えられる作例として、本県にとって貴重な文化財である。
国	無形民俗文化財	大磯の左義長	おおいそのさぎちょう		H9.12.15	大磯町		大磯町左義長保存会		1月14日	S52.2.9県選択「大磯町の道祖神祭」 S53.6.23県指定	1月14日夜に大磯海岸で行われる火祭りを中心とする行事。一番息子やオカリコ、ヤンナゴッコなど、さまざまな行事を含み、関東地方における大規模で代表的な小正月の火祭り。
県	無形民俗文化財	国府祭	こうのまち		S53.6.23	大磯町		国府祭保存会		5月5日	S52.2.9県選択	神婚儀礼の性格をもつ古式祭事。相模国一ノ宮から五ノ宮と六所神社による合祭で県下最大の広域性がある。
県	無形民俗文化財	西小磯の七夕行事	にしこいそのたなばたぎょうじ		H20.2.5	大磯町		西小磯東七夕保存会 西小磯西子ども育成会		東地区：8月6日7日 西地区：8月6日7日に近い土日	S53.9.1県選択「大磯町の七夕祭」 H14..2.12国選択「大磯の七夕行事」	大磯町西小磯の東西両地区で八月上旬に行われる七夕行事。子どもたちが竹飾りを振りながら地区内各地でお祓いした後、竹飾りを束ねて竹ミコシを作り再び地区内を回る。翌日早朝、竹ミコシを浜まで担ぎ、泳いで海に流す。全国的にも珍しい西小磯独自の七夕行事である。
国	無形文化財	竹工芸	ちくこうげい		R5.10.18	大磯町		藤塚洋史（芸名・雅号等：藤塚松星）				わが国の竹工芸は豊富な素材に恵まれて早くから発達した。氏は、会社勤務を経て竹工芸作家の馬場助治（雅号：馬場松堂）に師事して基本的な技法を学んだ後、製作を重ねながら研鑽を積み、伝統的な竹工芸の技法を高度に体得した。異なる色に染め分けた竹ひごを効果的に用い、明快な組みもしくは編みによって斬新な造形の作品を製作し、日本伝統工芸展等で受賞を重ねるなど高く評価されている。また、後進の指導・育成にも尽力している。
県	史跡	釜口古墳	かまぐちこふん		S29.3.30	大磯町	大磯字前谷原			大磯町管理		奈良時代初。傾斜のゆるい山腹にあり、横穴式石室をもつ古墳。散蓮華形銅製小匙などが発見された。

大磯町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	史跡	たれこ谷戸西横穴群	たれこやとにしおうけつぐん		S41.7.19	大磯町	虫窪字たれこ谷戸					22穴からなり、すでに前壁を失った最末期型のもの。21号穴には蓮の座に座す如来像が浮彫されている。
県	史跡	庄ケ久保横穴群	しょうがくぼおうけつぐん		S41.7.19	大磯町	国府本郷字庄ヶ久保					八世紀後半。丸穴からなる群で玄室と羨道との境を失った最末期型のもの。線刻画のあるものがある。
県	史跡	楊谷寺谷戸横穴群	ようこくじやとおうけつぐん		S41.7.19	大磯町	楊谷寺谷戸					山腹に四段にわたって分布し、27穴からなる。造築時期により、形が簡略化されていった様子がわかる。
県	天然記念物	大磯高麗山の自然林	おおいそこまやまのしぜんりん		S47.3.31	大磯町	高麗580-1、577-2、579、580-2～5	神奈川県、高来神社				東海道線沿線で常緑広葉樹からなる自然林の残存している唯一のもの。
県	天然記念物	鷹取神社の社叢林	たかとりじんじゃのしゃそうりん		H4.2.14	大磯町	生沢字鷹取1401他	鷹取神社				スダジイ、タブノキによる深山の郷土林。
県	天然記念物	大磯照ヶ崎のアオバト集団飛来地	おおいそてるがさきのあおばとしゅうだんひらいち		H8.2.13	大磯町	大磯字南下町1398-2地先岩礁	大磯町				海水を飲むという興味深い習性を持つアオバトが多数飛来する岩礁海岸。
国	登録有形	旧木下家別邸	きゅうきのしたけべってい		H24.2.23	大磯町	大磯町大磯字北本町1007イ号2	大磯町		大正元年	木造二階一部地下一階建、スレート葺	切妻造スレート葺で左右の屋根上にドーマー窓を開け、各室にベイウィンドウを設ける。別荘地大磯に残る数少ない洋風の別荘建築である。
国	登録有形	日本基督教団大磯教会礼拝堂	にほんきりすときょうだんおおいそきょうかいれいはいどう		H28.2.25	大磯町	中郡大磯町大磯	日本基督教団大磯教会		昭和12年／昭和25年改修	木造平屋一部2階建、鉄板葺	日本基督教団大磯教会は、旧東海道大磯宿に所在する木造教会である。正面に尖塔アーチの玄関を構え、内部にもゴシック風のアーチを架ける。門柱及び塀はアール・デコ風に仕上げられ、門柱には三筋の溝が表されている。
国	登録有形	日本基督教団大磯教会門柱及び塀	にほんきりすときょうだんおおいそきょうかいもんちゅうおよびへい		H28.2.25	大磯町	中郡大磯町大磯	日本基督教団大磯教会		昭和12年頃	門柱　コンクリート造、間口2.0m、塀　コンクリート造、総延長5.0m	
国	登録有形	旧吉田茂邸サンルーム	きゅうよしだしげるていさんるーむ		H31.3.29	大磯町	中郡大磯町国府本郷	神奈川県		昭和38年	鉄骨造	大磯海岸沿いにある政治家・吉田茂の旧邸。サンルームは、主屋西北隅に建つ。吉田五十八の設計で、細身の鉄骨材による骨組や軒を曲面としたポリカーボネイト屋根等、現代的な材料を繊細な意匠でまとめる。
国	登録有形	旧吉田茂邸七賢堂	きゅうよしだしげるていしちけんどう		H31.3.29	大磯町	中郡大磯町国府本郷	神奈川県		明治36年頃／昭和35年移築	木造平屋建、銅板葺	大磯海岸沿いにある政治家・吉田茂の旧邸。七賢堂は、内庭の一角に西面して建つ。伊藤博文旧邸から移築し、当時は近代の元勲を祀っていた祠堂。二間四方の入母屋造銅板葺で、正面は虹梁を通して桟唐戸風の引戸を入れる。良材を用いた丁寧なつくりの小堂。
国	登録有形	旧吉田茂邸兜門	きゅうよしだしげるていかぶともん		H31.3.29	大磯町	中郡大磯町国府本郷	神奈川県		昭和29年	木造、檜皮葺	大磯海岸沿いにある政治家・吉田茂の旧邸。兜門は、前庭の内庭を画し、北面して建つ。寄棟造檜皮葺で、裏千家今日庵の兜門に倣った上質な意匠をもつ数寄屋建築。

二宮町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	天然記念物	ナシ、モモ原木群	なし、ももげんぼくぐん		S47.7.21	二宮町	二宮1217	神奈川県				ナシ11本、モモ1本の品種改良上、各品種に遺伝的に固定した原木である。

中井町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	天然記念物	中井のエンジュ	なかいのえんじゅ		S33.6.17	中井町	雑色郷中226	中井町				マメ科の落葉高木。この木は落雷によって損傷を受けているが、根回り9.8メートル、高さ16.2メートルある。
国	登録記念物	震生湖	しんせいこ		R3.3.26	中井町	秦野市今泉、足柄上郡中井町境別所ほか	秦野市ほか	秦野市 中井町	動物、植物及び地質鉱物関係		大正12年に発生した関東地震で生じた堰き止め湖である。当時、地震による崩壊地が多数生じたが現存するものは希有。震生湖では現在も「湖面」「崩落地」「堰止地」を一体として確認できる。地震にともない、地塊運動が生じることを現在に伝える貴重な資料である。

大井町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	彫刻	木造　薬師如来坐像	もくぞう　やくしにょらいざぞう	1躯	S62.11.20	大井町	三嶋神社（上大井331）	三嶋神社				鎌倉時代中期。寄木造、玉眼嵌入、肉身部漆箔。関東では数少ない中央風の作品で、後補もごく少なく、当初の状態を良く保っている。
国	書跡・典籍・古文書	往生要集　上中下	おうじょうようしゅう　じょうちゅうげ	3幅	H1.6.12	大井町	最明寺（金子3315）	最明寺				書写奥書はないが平安時代後期の書写になり「往生要集」の完存する写本としては現存最古のものである。
県	工芸	太刀　銘　吉房	たち　めい　よしふさ	1口	S32.2.19	不明（大井町）	不明					鎌倉時代。踏張りある腰反りの太刀姿で中心は少し磨りあげている。
国	考古資料	土偶	どぐう	1箇	S36.2.17	大井町		個人		附）骨片一括（足柄上郡大井町大字山田字中屋敷出土）	S29.12.3 県指定	縄文時代。内部が中空になったいわゆる容器形土偶。発見当時内部に粉末状の小児の骨片が入っていた。

松田町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	概要

山北町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	工芸	鰐口（薬師堂）	わにぐち（やくしどう）	１口	S44.12.2	山北町	山北町生涯学習センター(山北1301-4)	薬師堂				室町時代（銘文に文安元年）。比較的小さい鰐口で作はかなりよいが、銘文には誤字や不明字が多い。
国	無形民俗文化財	山北のお峯入り	やまきたのおみねいり		S56.1.21	山北町		お峯入り保存会		不定期	S28.12.22県無形文化財指定 S48.11.5国選択 S51.10.19県指定	修験道の儀式が芸能化される課程を示すものとして貴重。足柄上郡山北町の共和地区に古くから伝わる、八十人の男が十種の芸能を演ずる県下最大の芸能風流である。
県	無形民俗文化財	世附の百万遍念仏	よづくのひゃくまんべんねんぶつ		S53.6.23	山北町		世附百万遍念仏保存会		２月中旬の土・日曜日	S52.2.9県選択	念仏と同時に、大数珠を車輪にかけ、手繰っては投げるようグルグル廻す全国的にも珍しい形式の百万遍念仏と大神楽獅子舞、鳥刺し等がつく。
県	無形民俗文化財	室生神社の流鏑馬	むろうじんじゃのやぶさめ		H7.2.14	山北町		室生神社流鏑馬保存会		附　鞍三背 １１月３日		地元の人々が伝える流鏑馬として県内唯一。口伝えによる作法に従い最も古いかたちを保つ。
県	史跡	河村城跡	かわむらじょうあと		H8.2.13	山北町	字山北他			H15.2.10 追加指定 山北町管理		河村氏の居城と伝えられる中世の山城。畝堀（障子堀）が良好な状態で確認された。
県	名勝	洒水の滝	しゃすいのたき		S30.5.10	山北町	平山字向山、字上野山、字滝	個人				礫岩層にかかる三段の滝。最大の一の滝は69.3メートル。修験道の滝行場として有名。
国	天然記念物	箒スギ	ほうきすぎ		S9.3.26	山北町	大字中川702	山北町	山北町			中川ぞいの県道わきの傾斜地に直立する杉の大木。目通り10メートル樹高４５メートル、県下一の大スギ。
県	天然記念物	頼政神社のトチノキ	よりまさじんじゃのとちのき		S39.12.15	山北町	神縄477	頼政神社				落葉高木。主幹がまっすぐに伸び、樹高約25メートルに達する。
県	天然記念物	シダ類植物群落とその生育地	しだるいしょくぶつぐんらくとそのせいそくち		S44.12.2	山北町	皆瀬川字蛇石1238-1及び2、大字山北長岩3869	個人、山北町		S53.6.23追加指定		イワダレヒトツバ、ハコネシダ、マメヅタ、イワヒバなどのシダ植物による特徴的な断崖植物群落。
県	天然記念物	山北町岸のヒキガエル集合地	やまきたまちきしのひきがえるしゅうごうち		S47.2.25	山北町	岸1640、1714	般若院、個人				新篇相模風土記稿に「蛙合戦あり」と記載のある場所。繁殖のため、三月中旬産卵のため集まる。
県	天然記念物	西丹沢の菫青石、ベスブ石及び大理石	にしたんざわのきんせいせき、べすぶせきおよびだいりせき		S50.2.7	山北町	中川927-2の内	神奈川県				白石沢を中心とした斜面は、接触変成帯として知られ、珍しい変成鉱物を産出する。
県	天然記念物	山北町高杉のウラジロガシ	やまきたまちたかすぎのうらじろがし		S53.11.17	山北町	皆瀬川字南平1409-ｲ1 他	個人				ウラジロガシの大木。樹高約21メートル、根廻り約5メートルで、四方に分枝が広がり約340平方メートルの樹冠を形成する。
県	天然記念物	山北町人遠のネフロレピディナを含む石灰岩	やまきたまちひとどうのねふろれぴでぃなをふくむせっかいがん		S55.2.15	山北町	皆瀬川字アコヤ1771、1772-ｲ～ﾛ	個人				新生代第三紀中新世の下部の示準化石であるネフロレピディナを含む石灰岩。

開成町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要

箱根町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	建造物	五輪塔	ごりんとう	３基	S28.8.29	箱根町	元箱根	箱根町				鎌倉時代。二基は同一基壇上に相接して立ち龕を造って地蔵菩薩を浮彫し、他の一基に銘文を刻む。
国	建造物	宝篋印塔	ほうきょういんとう	１基	S36.3.23	箱根町	元箱根	箱根町				鎌倉時代。台石四面に格狭間を彫る関西形宝篋印塔の優作である。
国	建造物	福住旅館萬翠楼・金泉楼	ふくずみりょかんばんすいろう・きんせんろう	２棟	H14.12.26	箱根町	湯本643	有限会社湯本福住				明治11年（萬翠楼）、同10年（金泉楼）竣工。1、2階は木骨石造で3階は土蔵造。数少ない擬洋風建築物。
国	建造物	国道一号箱根湯本道路施設　函嶺洞門、千歳橋、旭橋	こくどういちごうはこねゆもとどうろしせつ　かんれいどうもん、ちとせばし、あさひばし	３基	H27.7.8	箱根町	箱根町湯本、塔之澤	神奈川県		附）箱根塔ノ澤架設千歳橋計算書　1冊、国道第一号線足柄下郡湯本町地内旭橋設計計算書　1冊、国道一号線旭橋改築工事設計書　1冊		国道一号箱根湯本道路施設は、箱根山の東麓に位置する近代の道路施設で、函嶺洞門（昭和6年竣工）、千歳橋（昭和5年竣工）、旭橋（昭和8年竣工）から構成されている。 これらは、自動車交通に対応した我が国初期の幹線道路施設で、国道一号の険路であった箱根路の近代化を象徴する施設として、近代道路史上、価値が高い。また、高度な鉄筋コンクリート技術を駆使して建設され、昭和初期における道路構造物の技術的達成度
国	絵画	絹本淡彩　北条早雲像	けんぽんたんさい　ほうじょうそううんぞう	１幅	M41.4.23	箱根町	早雲寺（湯本405）	早雲寺				室町時代。上畳に坐し向かって右斜向き僧形の北条早雲を描いたものである。
国	絵画	紙本著色　箱根権現縁起	しほんちゃくしょく　はこねごんげんえんぎ	１巻	S11.5.6	箱根町	箱根神社（元箱根80-1）	箱根神社				鎌倉時代。箱根権現の縁起をかきつづったもの。永仁の再興時の作といわれる。
県	絵画	紙本著色　北條氏綱像	しほんちゃくしょく　ほうじょううじつなぞう	１幅	S42.2.3	箱根町	早雲寺（湯本405）	早雲寺				桃山時代。早雲の長子で本像は藍色の衣をつけ、上げ畳の上は座る姿を描き、顔は細かく入念に描写されている。
県	絵画	紙本著色　北條氏康像	しほんちゃくしょく　ほうじょううじやすぞう	１幅	S42.2.3	箱根町	早雲寺（湯本405）	早雲寺				江戸時代。氏綱の長子で小田原に城を築いた。この像も氏綱同様の構図で描かれている。
県	絵画	紙本著色　枇杷小禽図	しほんちゃくしょく　びわしょうきんず	１幅	S42.2.3	箱根町	早雲寺（湯本405）	早雲寺				室町時代。中国の花鳥図の影響を受けて、細かく描かれている写生的な花鳥図である。
県	絵画	紙本墨画　早雲寺本堂襖絵	しほんぼくが　そううんじほんどうふすまえ	38面	S42.2.3	箱根町	早雲寺（湯本405）	早雲寺				江戸時代。本堂襖絵で、竜虎図と山水人物の二種類に分けることが出来る。
県	絵画	紙本墨画　羅漢図	しほんぼくが　らかんず	３幅	S42.2.3	箱根町	早雲寺（湯本405）	早雲寺				江戸時代。寺伝では雪村筆と伝えるが不明である。羅漢の衣や岩坐など処々に鋭い筆法や表現が認められる。
県	絵画	紙本墨画淡彩　機婦図	しほんぼくがたんさい　きふず	２幅	S59.11.22	箱根町	早雲寺（湯本405）	早雲寺				室町末期～桃山時代。室内で三人の人物が糸を紡いでいる図と、機を織る夫人と糸車を回す人物が描かれた図の二幅からなる。
国	彫刻	木造　万巻上人坐像	もくぞう　まんがんしょうにんざぞう	１躯	S3.4.4	箱根町	箱根神社（元箱根80-1）	箱根神社				平安時代。一木造。翻波式の衣文が巧みに量感のある像身を引きしめている。同神社の創祀、僧万巻の像である。
国	彫刻	元箱根磨崖仏	もとはこねまがいぶつ	計29躯	S49.6.8	箱根町	元箱根	箱根町		地蔵菩薩坐像（正安二年庚子八月八日の刻銘がある） 地蔵菩薩立像24躯、阿弥陀如来立像1躯、供養菩薩立像1躯（永仁元年八月、同三年九月等の刻銘がある）、地蔵菩薩立像3躯（応長元年七月八日の刻銘がある）		鎌倉時代。かつて箱根のこの地は、地蔵菩薩の霊場で「六道地蔵」「火焚き地蔵」「廿菩薩」など通称される三か所に大きくわかれて所在する。半肉彫の磨崖仏には「永仁元年」「永仁三年」などの造像銘がある。

箱根町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	彫刻	木造神像 男神坐像 女神坐像	もくぞう　しんぞう （だんしんざぞう、じょしんざぞう）	２躯	H24.9.6	箱根町	箱根神社（元箱根80-1）	箱根神社				平安時代。一対の男女神像で、目鼻立ちの彫りが共通することなどから同じ作者の手になると見られる。作風および女神像の足部（亡失）の接合方法などに11世紀の特徴を示し、男神の鼻の高い相貌に外来神としての特色が認められるなどの点が注目される。
県	彫刻	木造　地蔵菩薩立像	もくぞう　じぞうぼさつりゅうぞう	１躯	S38.9.20	箱根町	正眼寺 （湯本562）	正眼寺				鎌倉時代（胎内の紙片に康元6年）。寄木造。彫り口はなかなか鋭いが、やや装飾的である。
県	彫刻	木造　普賢菩薩坐像	もくぞう　ふげんぼさつざぞう	１躯	S41.7.19	箱根町	興福院（元箱根26）	興福院				鎌倉時代（永仁5年の朱銘）。寄木造。箱根権現の別社能善権現の本地仏。彩色、截金文様もよく残る像である。
県	彫刻	木造　菩薩頭	もくぞう　ぼさつとう	１個	S41.7.19	箱根町	興福院（元箱根26）	興福院				平安時代。等身像の頭部だけが残ったもので、整った目鼻だち、巧みな彫技より中央の作と思われる。
県	彫刻	木造神立像 神立像 男神立像 女神立像	もくぞうしんりゅうぞう（しんりゅうぞう、だんしんりゅうぞう、じょしんりゅうぞう）	３躯	H25.3.29	箱根町	箱根神社（元箱根80-1）	箱根神社				鎌倉時代後期。一木造。表現および技法の共通性から同時に作られた一揃の作と認められる。神奈川県内でも他に例の少ない鎌倉時代の木造神像として価値が高い。
県	彫刻	木造女神立像	もくぞうじょしんりゅうぞう	１躯	H25.3.29	箱根町	箱根神社（元箱根80-1）	箱根神社				鎌倉時代後期。一木造。唐衣を着け、左手を袖に隠し頭にあてるように上げ、袖を後ろに垂らし舞うような姿である。 若々しい相貌と動きのある肢体が巧みに表現されている。
県	彫刻	木造男神立像	もくぞうだんしんりゅうぞう	１躯	H25.3.29	箱根町	箱根神社（元箱根80-1）	箱根神社				鎌倉時代後期。割矧ぎ造。頭部は他像からの転用とみられるが、当初のものである体部は的確な技術によって公卿の束帯姿があらわされている。頭部の制作時期も鎌倉時代のものとみられる。
県	彫刻	銅造男神坐像	どうぞうだんしんざぞう	１躯	H25.3.29	箱根町	箱根神社（元箱根80-1）	箱根神社				鎌倉時代後期。銅造。若々しく穏やかな相貌がみられる作風である。鎌倉時代の本格的な銅造神像として価値が高い。
国	工芸	織物張文台及硯箱（伝北条氏政所用）	おりものばりぶんだいおよびすずりばこ（でんほうじょううじまさしょよう）	１組	T8.4.12	箱根町	早雲寺 （湯本405）	早雲寺				室町時代。裂の下の素地は寄木細工のように桐の小板を接ぎあわせて一枚の板にした珍しい作である。
国	工芸	赤木柄短刀	あかぎづかたんとう	１口	T11.4.13	箱根町	箱根神社（元箱根80-1）	箱根神社				鎌倉時代。熱帯産の赤色を帯びた堅木を用い、柄と鞘に赤銅製の筒金を入れた合口造りの短刀である。
国	工芸	鉄湯釜	てつゆがま	２口	S59.6.6	箱根町	箱根神社（元箱根80-1）	箱根神社			S37.10.2 県指定	鎌倉時代（銘文に文永5年）。鋳鉄製。破損が甚だしく、鍔は全部欠損しているが、古釜の資料として価値の高いものである。 鎌倉時代（銘文に弘安口年）。大きさは先の文永釜に近いがかなり分厚く作られ、形の損壊は少ない。
国	工芸	色絵竜田川文透彫反鉢　尾形乾山作	いろえたつたがわもんすかしぼりそりばち　おがたけんざんさく	１口	H27.9.4	箱根町	岡田美術館（足柄下郡箱根町小涌谷493-1）	個人				尾形乾山（1663～1743年）が創作した陶器。内外面に描かれた文様が相呼応する反鉢は乾山が得意とした器形であり、内面に水流が描かれていることから、歌枕の竜田川を表した意匠であることが知られている。乾山の色絵の代表作であり貴重である。
県	工芸	銅鐘（早雲寺）	どうしょう（そううんじ）	１口	S44.12.2	箱根町	早雲寺 （湯本405）	早雲寺				鎌倉時代（銘文は削られているが、元徳弐年と見える）。胴がふくれてどっしりした感じの鐘である。
国	無形民俗文化財	箱根の湯立獅子舞	はこねのゆたてししまい		R4.3.23	箱根町		箱根湯立獅子舞保存会（宮城野獅子舞保存会、仙石原神楽保存会）		宮城野…7月15日ほか 仙石原…3月27日及び 5月5日ほか	S29.12.3県無形文化財指定 S49.12.4国選択 S51.10.19県指定	本件は、全国的に分布する湯立神楽のなかでも、獅子頭を被った者が、幣束や笹を用いて釜の湯をかき混ぜ、集まった人々などへ湯を振りかけて祓い清める湯立を行う類例の少ない芸能である。 また、湯立の前日や別日には、悪疫祓いを目的とした辻締めを行う特色も有している。湯立神楽と太神楽系の獅子舞が組み合わされた希少な事例であり、神楽の変遷の過程や地域的特色を示して重要である。

箱根町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	史跡	箱根関跡	はこねのせきあと		T11.3.8	箱根町	大字箱根字小田原町他		箱根町			芦ノ湖湖畔にあり、東海道をはさんで湖側に御番所が、山側に牢屋などが建っていた。現在復元整備されている。
国	史跡	元箱根石仏群	もとはこねせきぶつぐん		S16.10.3	箱根町	大字元箱根字提灯山		箱根町		附）永仁三年在銘石造五輪塔、石造五輪塔、永仁四年在銘石造宝篋印塔	鎌倉時代、精進池畔の露岩に合計27体の地蔵等を彫った通称二十五菩薩、巨大な六道地蔵などがある。
国	史跡	箱根旧街道	はこねきゅうかいどう		S35.9.22	箱根町	箱根・畑宿・湯本茶屋				H16.10.18、H21.7.23追加指定	江戸時代に整備された石畳路を数か所断続的に残し、元箱根には老杉の並木路がある。畑宿一里塚及び近辺の石畳が追加指定されている。なお、本史跡は静岡県部分を含めて指定されている。
国	名勝	神仙郷	しんせんきょう		R3.3.26	箱根町	足柄下郡箱根町強羅	宗教法人世界救世教			H25.8.1国登録	昭和10年代から20年代にかけて、宗教家が強羅地区の地形と地質を活かして理想郷として整備した庭園。斜面に造られた様々な建物の周囲に園池や滝、石組を築き、また一部は現地の岩石をそのまま景観の要素としている。タケ類やコケ類等の植栽も特徴的である。
国	天然記念物	箱根仙石原湿原植物群落	はこねせんごくはらしつげんしょくぶつぐんらく		S9.1.22	箱根町	仙石原字大原817-66	箱根町				箱根火山の火口原に発達したもので、ミズゴケ類の湿地からヨシ、ハンノキ群落までみられる代表的な湿原。
県	天然記念物	ひめしゃらの純林	ひめしゃらのじゅんりん		S28.12.22	箱根町	元箱根90-2	箱根神社				ツバキ科の落葉高木で純林を形成することは珍しい。また群落分布の北限域にあたる。
県	天然記念物	箱根二子山の風衝低木植物群落	はこねふたごやまのふうしょうていぼくしょくぶつぐんらく		S48.5.18	箱根町	畑宿字二子山395-26、同字二会平334-12	神奈川県				単独峰のため年間を通して強風が続くため、特有の風衝植物群落が生育している。
県	天然記念物	早雲寺林	そううんじりん		S53.6.23	箱根町	湯本398 他	早雲寺				スダジイを中心とする寺林で、ヒメハルゼミ（町指定天然記念物）も生息する。
国	登録有形	富士屋ホテル本館	ふじやほてるほんかん		H9.12.12	箱根町	箱根町宮ノ下359	富士屋ホテル株式会社		明治24年	木造2	本館、一・二号館，アイリーは、外国人の宿泊を意識してつくられた洋風を基調に和風の意匠を加味した建物。昭和期につくられた食堂、花御殿は和風を基調に豪華な室内装飾をもつ建物。
国	登録有形	富士屋ホテル一号館	ふじやほてるいちごうかん		H9.12.12	箱根町	箱根町宮ノ下359	富士屋ホテル株式会社		明治39年	木造2	
国	登録有形	富士屋ホテル二号館	ふじやほてるにごうかん		H9.12.12	箱根町	箱根町宮ノ下359	富士屋ホテル株式会社		明治39年	木造2	
国	登録有形	富士屋ホテルアイリー	ふじやほてるあいりー		H9.12.12	箱根町	箱根町宮ノ下359	富士屋ホテル株式会社		明治17年	木造2	
国	登録有形	富士屋ホテル花御殿	ふじやほてるはなごてん		H9.12.12	箱根町	箱根町宮ノ下359	富士屋ホテル株式会社		昭和11年	RC5	
国	登録有形	富士屋ホテル食堂	ふじやほてるしょくどう		H9.12.12	箱根町	箱根町宮ノ下359	富士屋ホテル株式会社		昭和5年	RC・木造2	
国	登録有形	富士屋ホテル菊華荘	ふじやほてるきっかそう		H9.12.12	箱根町	箱根町宮ノ下359	富士屋ホテル株式会社		明治28年	木造1	
国	登録有形	吉池旅館別荘（旧岩崎弥之助別邸和館）	よしいけりょかんべっそう（きゅういわさきやのすけべっていわかん）		H10.12.11	箱根町	箱根町湯本597-1	株式会社吉池旅館		明治37年頃	木造1	明治期箱根の和風別荘建築を代表する遺構のひとつ。入母屋桟瓦葺、銅板葺四方下屋付きの数寄屋を雁行させる。
国	登録有形	箱根登山鉄道早川橋梁	はこねとざんてつどうはやかわきょうりょう		H11.6.7	箱根町	箱根町塔之澤字臺ヶ嶽192-7～大平台字吹付道下10-3	株式会社小田急箱根		明治21年製作、大正6年移設	土木	明治中期を代表する鉄道遺構であるイギリス制ピン結合200ftダブルワーレントラス。東海道線開通時（明治22年）天竜橋梁の1連で、イギリス制練鋼混合桁と伝えられる。

箱根町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	三井翠松園（旧三井高達別荘）本館	みついすいしょうえん（きゅうみついたかみちべっそう）ほんかん		H12.12.4	箱根町	箱根町小涌谷519-9	ヒューリック株式会社		大正14年	木造二階建、瓦葺	広大な和風別荘で、意匠は質実簡明、施工は富士屋ホテルを手がけた河原徳治郎と伝える。
国	登録有形	環翠楼本館北棟	かんすいろうほんかんきたとう		H13.8.28	箱根町	箱根町塔之澤88	株式会社環翠楼		大正8年	木造一部RC4	国道側からは3階建地下1階で、3階に72畳の大広間を設ける。
国	登録有形	環翠楼本館南棟	かんすいろうほんかんみなみとう		H13.8.28	箱根町	箱根町塔之澤88	株式会社環翠楼		大正13年	木造4	平面形状がおおむねL型の木造4階建。最上階に100畳大の「神代閣」と60畳大の「万象閣」の大広間を持つ。
国	登録有形	環翠楼別館	かんすいろうべっかん		H13.8.28	箱根町	箱根町塔之澤88	株式会社環翠楼		大正期	木造3	木造3階建、2・3階は本館の3・4階とそれぞれ同レベルで、廊下でつながる。真鶴町から移築したものといわれる。
国	登録有形	神山荘（旧藤山雷太別荘）	しんざんそう（きゅうふじやまらいたべっそう）		H13.10.12	箱根町	箱根町強羅1300-92	宗教法人世界救世教		昭和10年頃	木造1	軽快な玄関の右手に緑色瓦、洋館仕立ての食堂・応接室棟、左手に茅葺きの「中の間」棟と「上の間」棟を配する。
国	登録有形	箱根小涌園貴賓館（旧藤田平太郎別荘）	はこねこわきえんきひんかん（きゅうふじたへいたろうべっそう）		H13.11.20	箱根町	箱根町二ノ平1297	藤田観光株式会社		大正7年	木造1	北端の玄関から南に座敷を並べ、西に中庭を挟んでサービス部分を配する。各室を廊下で繋ぐ巧みな配置に近代的な特徴がある。
国	登録有形	箱根小涌園迎賓館	はこねこわきえんげいひんかん		H13.11.20	箱根町	箱根町二ノ平1297	藤田観光株式会社		明治8年／昭和28年移築	木造2	階上を養蚕のための空間とした2階建、入母屋造で屋根の一部を切り下げた養蚕農家独自の外見。
国	登録有形	白雲洞茶苑白雲洞	はくうんどうちゃえんはくうんどう		H13.11.20	箱根町	箱根町強羅1300-69	株式会社小田急箱根		大正5年頃	木造1	三井物産総帥益田孝が営んだ山荘の茶室の一つ。寄棟造、茅葺で田舎屋風外観を呈し、室内には古在を数多く用い、内外とも野趣のあふれる独自の意匠。
国	登録有形	白雲洞茶苑不染庵	はくうんどうちゃえんふせんあん		H13.11.20	箱根町	箱根町強羅1300-69	株式会社小田急箱根		大正5年頃	木造1	白雲洞の西に独立して建つ寄棟造、茅葺の茶室。草庵風の侘びた意匠。
国	登録有形	白雲洞茶苑寄付	はくうんどうちゃえんよりつき		H13.11.20	箱根町	箱根町強羅1300-69	株式会社小田急箱根		大正初期	木造1	白雲洞などに至る苑路の手前にあり、これらの茶室の寄付となる建物
国	登録有形	白雲洞茶苑白鹿湯	はくうんどうちゃえんはくろくとう		H13.11.20	箱根町	箱根町強羅1300-69	株式会社小田急箱根		大正5年頃	木造1	寄付東の一段低い位置に築かれた浴室。大岩を巧みに利用し上屋をかけて造られた建物。
国	登録有形	白雲洞茶苑対字斎	はくうんどうちゃえんついじさい		H13.11.20	箱根町	箱根町強羅1300-69	株式会社小田急箱根		大正11年	木造1	白雲洞の東に建つ。寄付を介して渡廊下で連結し、東寄り傾斜地の部分は掛造りとし変化に富んだ外観を造る。
国	登録有形	正眼寺本堂（旧今村繁三別荘）	しょうげんじほんどう（きゅういまむらしげぞうべっそう）		H14.2.14	箱根町	箱根町湯本562	宗教法人正眼寺		明治37年頃／昭和7年移築	木造1	正方形平面の入母屋造とし、外装を真壁・一部押縁下見、三方に一見幅の畳廊下と半間幅の縁を設ける開放的な造りとし、内部の欄干に意匠を凝らしている。
国	登録有形	正眼寺庫裏	しょうげんじくり		H14.2.14	箱根町	箱根町湯本562	宗教法人正眼寺		昭和6年	木造1	銅板瓦棒葺、入母屋造、平入りとし、全面に縁を回し、真壁造とする。本堂と並列し、境内の景観に欠かせない存在。
国	登録有形	福住旅館別荘主屋	ふくずみりょかんべっそうしゅおく		H15.3.18	箱根町	箱根町湯本613	個人		大正7年	木造1	南を正面としたコ字型平面を持つ、桟瓦葺、寄棟造。北側の1間幅廊下の南方に和室7室と台所、北方に便所と浴室を配する。
国	登録有形	福住旅館別荘石蔵	ふくずみりょかんべっそういしぐら		H15.3.18	箱根町	箱根町湯本613	個人		明治初期／昭和8年移築	木骨石造2	桁行2間半梁間2間、桟瓦葺、切妻造。外部に白石あるいは湯本石と呼ばれる地元産の凝灰岩を積む。
国	登録有形	福住樓主屋	ふくずみろうしゅおく		H15.3.18	箱根町	箱根町塔之澤74	個人		明治20年頃～昭和初期	木造3B1	玄関棟とその奥の棟は前身の「玉之湯旅館」時代の木骨石造建築を改造したもの。西方に浴室棟や部屋ごとに意匠を変えた客室棟、質の高い書院造りの広間などを連ねる。

箱根町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	福住樓茶室	ふくずみろうちゃしつ		H15.3.18	箱根町	箱根町塔之澤74	個人		昭和8年頃	木造1	「洗小亭」と名付けられ、中央に位置する五畳間の北西方に小間、南西方に風呂場を配する。小間は中板付3畳台目の茶室で、野崎幻庵の設計と伝える。
国	登録有形	出山堰堤	でやまえんてい		H16.7.23	箱根町	箱根町大平台	神奈川県		昭和4年	重力式コンクリート	芦ノ湖を水源とする早川の中流域に国道1号と近接して築かれる。堤長52m、堤高20mの大規模な重力式練積堰堤で、下流法勾配2分、上流法勾配6分とする。2基の副堰堤を一体的につくり、幹線道路の下方に切立つ河岸の脚部と河床の安定効果を高める。
国	登録有形	観音坂堰堤	かんのんざかえんてい		H16.7.23	箱根町	箱根町湯本茶屋	神奈川県		昭和5年	重力式コンクリート	旧東海道沿いを流れる早川支川須雲川に築かれる。岩盤を基礎に利用した堤長51m、堤高10m、下流法勾配2分、上流法勾配5分の重力式練積堰堤で、本堰堤の約15m下流に副堰堤を設ける。石積の堤体を流れる水流が、湯治場の自然景観に彩りを与えている。
国	登録有形	箱根湯本ホテル暁亭	はこねゆもとほてるあかつきてい		H17.7.12	箱根町	箱根町湯本茶屋182-7	箱根暁庵株式会社		大正末期／昭和62年移築	木造平屋建	須雲川右岸にある端正なつくりの平屋建別荘建築。
国	登録有形	箱根太陽山荘本館	はこねたいようさんそうほんかん		H18.11.29	箱根町	箱根町強羅1320-374	個人		昭和15年/昭和25・26年増改築	木造二階一部三階建	傾斜地に建つ本館と別館を、道路をまたぐ廊下でつなぐ独特な構成。湯治場の風情を残す近代和風建築である。
国	登録有形	箱根太陽山荘別館	はこねたいそうさんそうべっかん		H18.11.29	箱根町	箱根町強羅1320-375	個人		大正後期/昭和28年増改築	木造二階一部三階建	
国	登録有形	塔之澤一の湯本館	とうのさわいちのゆほんかん		H21.8.7	箱根町	箱根町塔之澤字湯ノ沢90-1他	株式会社一の湯		明治後期/大正6年・大正11年増築/昭和中期、昭和後期改修	木造4階一部地下1階建/銅板葺及び鉄板葺	一の湯は寛永年間創業と伝わる老舗温泉旅館で、塔之澤温泉の入口に位置する。複雑な屋根構成を持ち、室内意匠にも様々なものを採用している建物である。
国	登録有形	三河屋旅館本館	みかわやりょかんほんかん		H23.10.28	箱根町	箱根町小涌谷字小涌谷503-1	藤田観光株式会社		大正13年頃	木造二階一部平屋建／鉄板葺一部スレート葺	明治16年創業の老舗旅館の本館。唐破風玄関を構える社寺建築風の主屋や、洋風の内装を持つラウンジ棟等を複合させた旅館建築である。
国	登録有形	山口家住宅主屋	やまぐちけじゅうたくしゅおく		H27.11.17	箱根町	箱根町大平台	個人		昭和5年／昭和中期改修	木造2階建／瓦葺	山口家住宅は、富士屋ホテル創業者一族の自邸で、洋風外観を基本としつつ、屋根や軒を和風として温泉地の景観との調和が図られる。内部は階段ホールを中心として洋間を配置し、南側に和室を附属する。往時の洋風生活の様相を伝える瀟洒な住宅である。
国	登録有形	松の茶屋田舎家	まつのちゃやいなかや		H25.3.29	箱根町	箱根町湯本字上町518-1他	公益財団法人三井文庫		大正3年頃	木造平屋一部二階建、茅葺一部瓦葺	箱根湯本で営まれた別荘を拡張整備した元旅館。茅葺屋根をもつ田舎家は、残月の間や霞の間などを配し、書院風や草庵風など、多彩な室内空間を併せ持っている。中央棟は複雑な平面構成になり、各室はいずれも上質な造作である。中央棟の谷側には八角形平面の浴室棟を接続するなど、起伏のある敷地を巧みに利用して各棟を配し、旅情を醸し出している。
国	登録有形	松の茶屋中央棟	まつのちゃやちゅうおうとう		H25.3.29	箱根町	箱根町湯本字上町518-1他	公益財団法人三井文庫		昭和27年／昭和後期改修	木造平屋一部二階建、こけら葺一部瓦葺	
国	登録有形	松の茶屋浴室棟	まつのちゃやよくしつとう		H25.3.29	箱根町	箱根町湯本字上町518-1他	公益財団法人三井文庫		昭和28年	木造平屋建、銅板葺	
国	登録有形	松の茶屋松月	まつのちゃやしょうげつ		H25.3.29	箱根町	箱根町湯本字上町518-1他	公益財団法人三井文庫		昭和前期／昭和34年移築・昭和後期改修	木造平屋建、銅板葺	
国	登録有形	環山	かんざん		H27.3.26	箱根町	箱根町木賀	個人		昭和初期／昭和56年・平成24年改修	木造平屋建／茅葺一部瓦葺	環山は、多様な数寄屋意匠でまとめられた田舎家風山荘で、入母屋造茅葺の広間棟と寄棟造茅葺の茶室棟を繋げた独特な構成を持つ。箱根に残る戦前の財界人の数寄屋別荘としても価値がある。

箱根町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	龍宮殿本館	りゅうぐうでんほんかん		H29.6.28	箱根町	足柄下郡箱根町元箱根字蛸川	株式会社プリンスホテル		昭和13年／昭和31年移築／平成28年改修	木造2階一部3階建、銅板葺	浜名湖弁天島に建てられたホテルを昭和31年に芦ノ湖（あしのこ）東岸に移築した、木造二階建一部三階建の建物である。平等院鳳凰堂を模した外観で、二階建の中央建物の両翼に三階建の望楼風建物を配置している。太い円柱と二手先組物で支えられた階段ホールは秀逸であり、外国人向けホテルの希少な例である。
国	登録有形	山月庵	さんげつあん		R6.3.6	箱根町	足柄下郡箱根町強羅	宗教法人世界救世教		昭和25年	木造平屋建、檜皮葺一部こけら葺及び茅葺	強羅公園西の庭園神仙郷内に所在する茶室で、敷地中央北寄りに建つ。西面南に玄関を設け、中央の広間席八畳には畳床、琵琶床、香炉棚を飾る。東の茅葺屋根は三畳中板の小間で、蒲と煤竹の竿縁天井に吹寄丸太格天井を組合わせる。変化に富む近代数寄屋の佳品。
国	登録有形	日光殿（旧早雲寮）	にっこうでん（きゅうそううんりょう）		R6.3.6	箱根町	足柄下郡箱根町強羅	宗教法人世界救世教		昭和24年／昭和26年増築、平成11年・令和3年改修	木造平屋建一部地階付、こけら葺一部鉄板葺	神仙郷の南東に建つ、吉田五十八設計の芸術鑑賞用の大広間棟。南面中央の玄関は地階に通じる。一階大広間は西寄りの小壁が廻る一郭と畳縁が当初の早雲寮に遡り、西に畳床を飾る。ここから南庭の芸能を観る。北東増築部は東寄りの床が一段高く舞台にもなる。
国	登録有形	箱根美術館本館	はこねびじゅつかんほんかん		R6.3.6	箱根町	足柄下郡箱根町強羅	公益財団岡田茂吉美術文化財団		昭和27年／昭和56年・平成7年改修	鉄筋コンクリート造及びコンクリートブロック造三階建、瓦葺	神仙郷の北西に位置し東面して建つ。鉄筋コンクリート造で床スラブに中空コンクリートブロックを用いる。中央に玄関、階段室を設け、南北に二階建の展示室を延ばす。三階塔屋は棟反りある寄棟屋根青瓦葺とし、貴賓室を設けて景観と共に名品を鑑賞する。
国	登録有形	箱根美術館別館	はこねびじゅつかんべっかん		R6.3.6	箱根町	足柄下郡箱根町強羅	宗教法人世界救世教		昭和28年／昭和中期・同56年頃改修	鉄筋コンクリート造二階建及びコンクリートブロック造平屋建、瓦葺	神仙郷の北辺中央に位置する。補強コンクリートブロック造の平屋建の西に鉄筋コンクリート造二階建を増築。平屋は棟反りをつけた寄棟造、増築部は宝形造で青瓦葺とする。南面東寄りの玄関から展示室に入る。所蔵品に合わせて東洋趣味を加えた建物。
国	登録有形	箱根美術館休憩所	はこねびじゅつかんきゅうけいじょ		R6.3.6	箱根町	足柄下郡箱根町強羅	公益財団岡田茂吉美術文化財団		昭和27年／昭和56年改修	コンクリートブロック造平屋建、陸屋根	神仙郷の北辺東端に北側道路に面して建つ補強コンクリートブロック造の平屋建の建物。外壁は大壁風につくり、陸屋根は庇を延ばし、わずかに高さを違えて三段につくる。西面北に券売口、南側を休憩室と売店とする。南面に大きく窓を開け、庭園観賞用の休憩所。
国	登録有形民俗	箱根細工の製作用具及び製品	はこねざいくのせいさくようぐおよびせいひん	1,677点	H30.3.8	箱根町	箱根町湯本256	箱根町				県西部の箱根・小田原地方において、箱根細工の製作に使用された用具と製品である（製作用具660点、製品1,017点）。ロクロを用いて作る挽物細工と、色合いの異なる樹種の板材を組み合わせて作る指物細工に大別され、指物細工は、表面の装飾技法から、さらに寄木細工と象嵌細工に分類される。
国	登録記念物	恩賜箱根公園	おんしはこねこうえん		H25.8.1	箱根町	足柄下郡箱根町元箱根	神奈川県				明治時代に芦ノ湖東岸の塔ヶ島に新築された箱根離宮の跡地が、戦後、神奈川県に下賜され、恩賜箱根公園として公開された。箱根外輪山、富士山を望む良好な立地で、離宮当時の地形・植生、施設の痕跡を生かした公園整備が行われている。
国	登録記念物	強羅公園	ごうらこうえん		H25.8.1	箱根町	足柄下郡箱根町強羅	株式会社小田急箱根				高級避暑地・別荘地である箱根の強羅地区では、大正３年（１９１４年）に小田原電気鉄道株式会社が上流階級の親睦･保養のために強羅公園を開園した。ヨーロッパ風の明確な軸線に基づく意匠・構成及び強羅の地質を生かした多数の巨岩を用いる点は、独特である。

真鶴町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	無形民俗文化財	貴船神社の船祭り	きふねじんじゃのふなまつり		H8.12.20	真鶴町		貴船祭保存会		7月の最終土曜日及びその前日	S33.11.28県無形文化財指定 S51.10.19県指定	二艘の櫂伝馬に曳航される御座船の巡航に御舟歌や船競漕を伴う海上の祭り。陸上でも鹿島踊りなどの行事が行われる。関東地方の典型的な船祭り。
県	天然記念物	真鶴半島の照葉樹林	まなづるはんとうのしょうようじゅりん		H21.2.3	真鶴町	真鶴字岬1171-1他	真鶴町				昔から漁師の間で「魚を育てる森」すなわち「魚付き保安林」として大切に保護され、地元では「御林（おはやし）」として親しまれている。相観的にはクスノキ林やスダジイ林などの照葉樹林と、マツ林からなっている。神奈川県海岸部を代表する照葉樹林であり、半島としてまとまった面積で残されていることは貴重である。
県	天然記念物	真鶴半島沿岸に生息するウメボシイソギンチャクとサンゴイソギンチャク	まなづるはんとうえんがんにせいそくするうめぼしいそぎんちゃくとさんごいそぎんちゃく		S54.2.16	真鶴町・湯河原町	真鶴岬三ツ石周辺海域（ウメボシイソギンチャク）、福浦カツラゴ地先海域（サンゴイソギンチャク）					ウメボシイソギンチャクは三崎以南の暖海の岩礁に分布し、色は濃紅色で非常に美しい種類。一方サンゴイソギンチャクはすこぶる大形の熱帯性のイソギンチャク。

湯河原町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	建造物	五所神社本殿	ごしょじんじゃほんでん	1棟	H7.2.14	湯河原町	五所神社（宮下359-1）	五所神社		附）五所神社元和七年棟札1枚		室町時代後期。三間社流造で、瓦棒鉄板葺。昭和57年再建の拝殿後部の幣殿と接続しているが、元々は独立した本殿。
国	工芸	刀　無銘　伝行光	かたな　むめい　でんゆきみつ	1口	S36.6.30	湯河原町	木村美術館（鍛冶屋651）	財団法人相州刀美術博物館			S63.12.1　変更	鎌倉時代。鎬造、板目地沸強くさえる。のたれに小互の目、金筋、二重刃あり、匂口冴える。五郎正宗の師。
県	無形民俗文化財	吉浜の鹿島踊り	よしはまのかしまおどり		S51.10.19	湯河原町		鹿島踊り保存会		8月1日	S29.7.27県無形文化財指定S46.11.11国選択	鹿島踊は、小田原から伊豆賀茂郡までの22の神社で行われているが、中でも根府川、吉浜の鹿島踊は古型を保っている。白丁を着、烏帽子をつけ白足袋、白緒の草履を付け、舞態は円舞と方舞とがある。太鼓、鉦、日月黄金柄杓の三役を中心に踊る。
県	無形民俗文化財	鍛冶屋鹿島踊り	かじやかしまおどり		R5.3.20	湯河原町		鍛冶屋鹿島踊り保存会		4月の第3土・日曜日		鹿島踊は神奈川県西部から伊豆半島にかけての相模湾西岸に伝承されており、一説には鹿島神宮由来の疫病退散等の踊りが起源であるとされる。白張、白袴、白足袋、白緒の衣装を付け、舞態は円舞と方舞とがある。太鼓と鉦を持つ三役と、黄金柄杓、三日月を持つ者を中心に踊る。
県	史跡	土肥椙山巌窟（伝源頼朝隠潜地）	どひすぎやまがんくつ(でんみなもとのよりともいんせんち)		S30.11.1	湯河原町	吉浜字鍛冶屋					石橋山合戦で敗れた源頼朝主従が逃げこんだと伝えられる岩穴である。真鶴にも同じ伝説が残っている。
県	史跡	土肥一族の墓所	どひいちぞくのぼしょ		S30.11.1	湯河原町	城堀字御庭平					鎌倉時代の層塔、宝塔や大小五輪塔四十基などが城願寺境内に集まって一族の墓と伝えられている。
国	天然記念物	城願寺のビャクシン	じょうがんじのびゃくしん		S14.9.7	湯河原町	城堀字御庭平252	城願寺				目通5.9メートル、樹高18メートル、推定樹齢750年のビャクシンの大木。源頼朝の家臣により植えられたとの伝説をもっている。
国	天然記念物	山神の樹叢	やまのかみのじゅそう		S14.9.7	湯河原町	城堀字山神331～3	湯河原町	湯河原町			暖帯性の常緑広葉樹林。ホルトノキを中心にヤブニッケイ、タブノキ、ヒメユズリハなどからなる。
県	天然記念物	真鶴半島沿岸に生息するウメボシイソギンチャクとサンゴイソギンチャク	まなづるはんとうえんがんにせいそくするうめぼしいそぎんちゃくとさんごいそぎんちゃく		S54.2.16	真鶴町・湯河原町	真鶴岬三ツ石周辺海域（ウメボシイソギンチャク）、福浦カツラゴ地先海域（サンゴイソギンチャク）					ウメボシイソギンチャクは三崎以南の暖海の岩礁に分布し、色は濃紅色で非常に美しい種類。一方サンゴイソギンチャクはすこぶる大形の熱帯性のイソギンチャク。
国	登録有形	愛光商会吉浜寮	あいこうしょうかいよしはまりょう		H18.3.2	湯河原町	湯河原町吉浜字柏坂1	個人		昭和初期	木造三階建	外壁をモルタル塗の大壁とするが、2階、3階正面は持ち送りで柱形を前に出し、上げ下げ窓を連続して配する。
国	登録有形	尾崎家住宅主屋	おざきけじゅうたくしゅおく		H22.1.15	湯河原町	湯河原町宮上字入谷261-38	個人		昭和16年/昭和25年・昭和27年増築	木造平屋一部2階建/桟瓦葺	温泉地の別荘として南向きの傾斜地に建築。主屋には客間や茶室などがあり、建具や欄間などに凝った意匠がみられ、地下通路で浴室と繋がっている。四阿は庭園の中に建ち、網代張りの天井など瀟洒な意匠を取り入れている。門は皮付丸太を柱に用いるなど、全体として重々しさを排除した数奇屋風の軽快な造りとなっている。
国	登録有形	尾崎家住宅浴室	おざきけじゅうたくよくしつ		H22.1.15	湯河原町	湯河原町宮上字入谷261-38	個人		昭和16年/昭和25年増築	木造平屋建/銅及び鉄板葺	
国	登録有形	尾崎家住宅四阿	おざきけじゅうたくあづまや		H22.1.15	湯河原町	湯河原町宮上字入谷261-38	個人		昭和16年	木造平屋建/銅板葺	
国	登録有形	尾崎家住宅門	おざきけじゅうたくもん		H22.1.15	湯河原町	湯河原町宮上字入谷261-38	個人		昭和16年	銅板葺	

湯河原町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
国	登録有形	上野屋本館	うえのやほんかん		H22.1.15	湯河原町	湯河原町宮上字丸山616-1他	有限会社上野屋		昭和5年/昭和前期・昭和25年増築/平成2年・平成4年改修	木造4階建/鉄板葺	江戸時代創業の温泉旅館。背後の山の傾斜に沿って建てられた楼閣風の外観をもつ本館に接続して玄関棟、別館が並ぶ。入り組んだ屋根が複雑な外観を構成し、老舗旅館の風格を漂わせる。
国	登録有形	上野屋玄関棟	うえのやげんかんとう		H22.1.15	湯河原町	湯河原町宮上字丸山616-1他	有限会社上野屋		昭和11年頃/昭和25年頃・昭和35年頃・昭和50年頃改修	木造2階建/鉄板及び銅板葺	
国	登録有形	上野屋別館	うえのやべっかん		H22.1.15	湯河原町	湯河原町宮上字丸山616-1他	有限会社上野屋		大正12年/昭和25年頃・昭和35年頃・平成元年頃改修	木造2階建/鉄板葺	
国	登録有形	伊藤屋旅館本館	いとうやりょかんほんかん		H26.4.25	湯河原町	湯河原町宮上字橋下484-1他	個人		大正15年	木造2階建／瓦葺	伊藤屋は政府の高官を宿泊させる目的で明治21年に創業した旅館である。南面して建つ本館とその後方に建つ奥棟ともに、客室の内部造作は座敷飾など繊細な意匠で、通風採光に配慮したものになっている。丸面取を施した門柱、切石を積み蒲鉾型の笠石を載せた石垣とともに登録する。
国	登録有形	伊藤屋旅館奥棟	いとうやりょかんおくとう		H26.4.25	湯河原町	湯河原町宮上字橋下484-2他	個人		大正前期	木造2階建／瓦葺	
国	登録有形	伊藤屋旅館門柱及び石垣	いとうやりょかんもんちゅうおよびいしがき		H26.4.25	湯河原町	湯河原町宮上字橋下484-3他	個人		昭和初期／平成20年頃移築	門柱 石造/間口7.1メートル、石垣　石造/総延長47メートル	
国	登録有形	藤田屋旅館本館	ふじたやりょかんほんかん		H26.12.19	湯河原町	湯河原町宮上	個人		大正12年／昭和4年・昭和26年改修	木造2階建／瓦葺一部銅板葺	藤田屋旅館は、東棟・西棟ともに、室内のトコや欄間に繊細な意匠の組子細工や透彫が見られ、東棟では各室の戸口に多様な数奇屋意匠の小庇が付されている。温泉街の旅情を醸す老舗旅館建築である。
国	登録有形	富士屋旅館旧三号館	ふじやりょかんきゅうさんごうかん		R2.4.3	湯河原町	湯河原町宮上	藤田観光株式会社		大正12年頃	木造二階建、瓦葺	湯河原温泉の川沿いに建つ２階建ての木造旅館。入母屋造の主体部の両端から川側に入母屋の張出しを設け、大屋根の中央に千鳥破風を飾り、上階は刎高欄付の縁を廻らす等、風格ある立面を構成している。往時の温泉街の風情を伝える。

愛川町

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	登録基準
県	無形民俗文化財	三増の獅子舞	みませのししまい		S51.10.19	愛川町		三増獅子舞保存会		7月20日前後の日曜日	S36.7.4県無形文化財指定	一人立ち三頭獅子舞。バンバ面の刻銘から十八世紀初期に始まったものと推定される。
県	天然記念物	八菅神社の社叢林	はすげじんじゃのしゃそうりん		H3.2.8	愛川町	八菅山字宮村139-1他	八菅神社				スダジイ林が広範囲にまとまっており、貴重である。
国	登録有形	平山橋	ひらやまばし		H16.11.8	愛川町	愛川町田代字下河内～平山	愛川町		大正2年／大正15年	鋼製トラス	相模川水系中津川に架かる3連の鋼製下路式曲弦プラットトラス橋で、橋脚には布積の石張を施し橋長112m、支間長は37m。大正2年に左岸1連の鋼製トラスと右岸2連の木造トラスで開橋し、大正15年に木造トラスを鋼製トラスに架け替える。現在は歩道橋として利用されている。
国	登録有形	古民家山十邸主屋	こみんかやまじゅうていしゅおく		H21.1.8	愛川町	愛川町中津字松台485-5他	愛川町		明治16年/平成元年改修	木造平屋建/瓦葺	山十の屋号をもつ豪農の旧宅。主屋は大規模で、座敷飾りを備える広間をもつなど豪壮な農家建築。門も大型の薬医門で力感にあふれる。
国	登録有形	古民家山十邸門	こみんかやまじゅうていもん		H21.1.8	愛川町	愛川町中津字松台485-5	愛川町		明治中期	木造/瓦葺/間口2.8メートル/左右袖塀付	

清川村

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	工芸	宮ケ瀬小学校鰐口	みやがせしょうがっこうわにぐち	1口	S44.12.2	清川村	宮ケ瀬湖畔園地内（宮ケ瀬951-3）	清川村				室町時代（銘文に応永三年）。地方作と思われる素朴な作風を示す作例である。
県	天然記念物	丹沢札掛のモミ林	たんざわふだかけのもみりん		S48.12.21	清川村	煤ケ谷字丹沢山5172の内	神奈川県				ツガを混えて相観的にも、また自然相生としても珍しいモミ林。
県	天然記念物	八幡神社の社叢林	はちまんじんじゃのしゃそうりん		S51.3.23	清川村	煤ケ谷字八幡1554-1～2、1555	八幡神社				安定立地本来の自然植生として残存する貴重な郷土林。

県外

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	管理団体	備考1	備考2	概要
県	工芸	刀　銘　肥前国忠吉	かたな　めい　ひぜんのくにただよし	1口	S31.8.17	東京都		個人				江戸時代。反りの少ない小切先鎬造り新刀姿の刀。肥前国初代忠吉の傑作である。
県	工芸	刀　無銘　伝備前長義	かたな　むめい　でんびぜんながよし	1口	S31.8.17	東京都		株式会社ニトロプラス				大磨上無銘であるが、備前長船長義作だと認められる。
県	工芸	太刀　銘　備州長船住元重	たち　めい　びしゅうおさふねじゅうもとしげ	1口	S33.1.14	東京都		個人				鎌倉時代。小切先やや延び心の太刀。表裏に棒樋を彫刻する。中心少磨上である。
県	工芸	刀　無銘　伝正宗	かたな　むめい　でんまさむね	1口	S41.7.19	千葉県		個人				鎌倉時代末。棒樋と添樋を彫刻する大磨上無銘である。
県	工芸	太刀　銘　康次	たち　めい　やすつぐ	1口	S35.5.17	静岡県		個人				鎌倉時代。鎬造り太刀。小切先やや延心で身幅狭く、元身中広張り腰反り高き優美な太刀姿で古青江鍛治である。

神奈川県文化財目録（市町村別）

発行日　令和７年５月

発　行　横浜市中区日本大通１番地

編　集　神奈川県教育委員会教育局生涯学習部文化遺産課